

社会福祉学科 1年

1. 教養・基礎教育科目

区分	授 業 科 目	授業 形態	単位数		配当学年				資格	備考	頁
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉		
導入科目	1年次セミナー	演習	2		○						7
共通 教養 科目	現代生活論	講義		2	○						8
	国際社会と日本	講義		2	○						9
	地球環境論	講義		2	○						10
	人権教育	講義		2	○						11
	日本国憲法	講義		2	○				◎		12
	調査と統計	講義		2		○					
	心理学概論	講義	2		○						13
	日本語リテラシー	講義		2	○						14
キ ャ リ ア 科 目	キャリアデザイン論	講義		1	○						15
	ボランティア論（教育系）	講義		1	不開講						
	ボランティア論（福祉系）	講義		1	○	○	○	○			16
	インターンシップ実習	実習		1	○	○	○	○			17
	ボランティア実習	実習		1	○	○	○	○			18
シ ー リ 科 目 テ ラ	情報リテラシーⅠ	演習		2	○					この3科目の中から、2科目4単位 以上選択必修	19
	情報リテラシーⅡ	演習		2	○				◎		20
	情報リテラシーⅢ	演習		2				○			
外 国 語 科 目	英語Ⅰ	演習	1		○						21・22・23
	英語Ⅱ	演習	1		○						24・25・26
	英語Ⅲ	演習		1		○			◎		
	英語Ⅳ	演習		1		○			◎		
	英語資格認定Ⅰ	実習		1	○	○	○	○			27
	英語資格認定Ⅱ	実習		2	○	○	○	○			28
	ドイツ語Ⅰ	演習		1	○						29
	ドイツ語Ⅱ	演習		1	○						30
	韓国語Ⅰ	演習		1	○						31
	韓国語Ⅱ	演習		1	○						32
	中国語Ⅰ	演習		1	○						33
中国語Ⅱ	演習		1	○						34	
ス ポ ー ツ 科 目	レクリエーション概論	講義		2	○						35
	レクリエーション実技・実習	実習		2	○						36
	スポーツ健康講義	講義		1	○				◎	この4科目の中から、2科目2単位 以上選択必修	37
	スポーツ健康実習	実習		1	○				◎		38
単 位 互 換 科 目	放送大学科目Ⅰ	—	—	—	○	○	○	○			39
	放送大学科目Ⅱ	—	—	—	○	○	○	○		通算して4単位まで卒業要件に含める ことができる	39
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅰ	—	—	—	○	○	○	○			40
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅱ	—	—	—	○	○	○	○			40
学 科 基 礎 科 目	生活福祉論	講義		2	○						
	住まいと福祉	講義		2		○					
	福祉情報コミュニケーション	演習		2		○					
	社会の変化と社会福祉Ⅰ	講義		2	○						42
	数学の基礎	講義		2		○					

【卒業要件】必修科目6単位、選択必修科目8単位以上を含めた計30単位以上を修得のこと。

【備考1】教員免許欄の◎印科目=必修科目。

2. 専門教育科目

区分	授 業 科 目	授業 形態	単位数		配当学年				資格		備 考	頁
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉	福祉士		
専門 基幹 科目	現代社会と福祉Ⅰ	講義	2			○				◎	◎	
	現代社会と福祉Ⅱ	講義		2		○				◎	◎	
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ	講義	2		○					◎	◎	43
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ	講義		2	○					▲	◎	44
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義	2				○			▲	◎	
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義	2		○					◎	◎	45
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義		2	○					▲	◎	46
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ	講義	2			○				◎	◎	
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ	講義		2		○				▲	◎	
	介護概論	講義		2	○					◎		47
	加齢の理解	講義		2		○				◎		
	障害の理解	講義		2		○				◎		
	中山間地福祉のまちづくり	講義		2				○				
	NPO・ボランティア活動論	講義		2		○						
	安全・安心のまちづくり	講義		2			○					
	地域づくりと環境デザイン(演習)	演習		2		○						
地域づくりと住民参加(演習)	演習		2		○							
地域経済・地域財政からみたまちづくり	講義		2				○					
専門 展 開 科 目	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義		2	○					◎	◎	48
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義		2			○			▲	◎	
	社会福祉事業史	講義		2			○					
	社会保障Ⅰ	講義		2		○				◎	◎	
	社会保障Ⅱ	講義		2		○				◎	◎	
	福祉行財政と福祉計画	講義		2				○		◎	◎	
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○					◎	◎	49
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○					◎	◎	50
	相談援助の理論と方法Ⅰ	講義		4		○				▲	◎	
	相談援助の理論と方法Ⅱ	講義		4			○			▲	◎	
	社会調査の基礎	講義		2			○			▲	◎	
	社会の変化と社会福祉Ⅱ	講義		2	○							51
	福祉サービスの組織と経営	講義		2			○			▲	◎	
	権利擁護と成年後見制度	講義		2			○				◎	
	就労支援サービス	講義		1			○			▲	◎	
	更生保護制度	講義		1			○				◎	
	相談援助演習Ⅰ	演習		1		○				◎	◎	
	相談援助演習Ⅱ	演習		1			○			◎	◎	
	相談援助演習Ⅲ	演習		1			○			◎	◎	
	相談援助演習Ⅳ	演習		1				○		◎	◎	
	相談援助演習Ⅴ	演習		1				○		◎	◎	
	社会福祉体験実習指導	演習		1			○					
	社会福祉体験実習	実習		1			○					
	相談援助実習指導	演習		3				○		◎	◎	
	相談援助実習	実習		4				○		◎	◎	
	介護実習	実習		1			○			◎		
	人体の構造と機能及び疾病	講義		2		○					◎	
	人体構造及び日常生活行動に関する理解	講義		2		○				◎		
	リハビリテーション論	講義		2		○				▲		
	心理学理論と心理的支援	講義		2	○						◎	52
	社会理論と社会システム	講義		2		○					◎	
	医療ソーシャルワーク論	講義		2			○					
保健医療サービス	講義		2			○				◎		
精神保健	講義		2			○						
家庭支援論	講義		2			○						
福祉情報論及び同演習	演習		2		○				▲			
ウェブリテラシー演習	演習		2									
福祉のまちづくり基礎演習	演習		2			○						
福祉のまちづくり論	講義		2				○					

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年				資格		備考	頁
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉	福祉士		
その他の専門科目	衣生活論	講義		2	未開講							
	食生活論	講義		2	未開講							
	家庭経営学概論	講義		2	未開講						含 家庭経済学	
	保育及び家庭看護学	講義		2	未開講						含 保育実習	
	教育心理学	講義		2		○			◎			
	福祉デザイン(衣)論	講義		2		○						
	福祉デザイン(衣)演習	演習		2		○						
	情報のユニバーサルデザイン論	講義		2			○					
	パソコン基礎演習	演習		2		○						
	パソコン演習Ⅰ	演習		2		○						
	パソコン演習Ⅱ	演習		2	未開講							
	パソコン実践演習	演習		2			○					
	簿記会計学	講義		2			○					
	卒業研究系	特別演習Ⅰ	演習	2			○					
特別演習Ⅱ		演習		2			○					
特別演習Ⅲ		演習	1				○					
卒業研究		演習		4				○				

【卒業要件】専門基幹科目24単位以上（必修科目10単位含む）、専門展開科目40単位以上（必修科目4単位含む）、卒業研究系3単位以上（必修科目3単位を含む）及びその他の専門科目を含め、94単位以上修得すること。

【備考】教員免許欄及び福祉士欄の◎印の科目は、必修科目。同じく△印の科目は選択必修科目、▲印は選択科目。

3. 教職に関する科目

授業科目	授業形態	単位数	配当学年				備考	頁
			1年	2年	3年	4年		
教職論	講義	2		○				
教育原理	講義	2		○				
教育経営論	講義	2			○			
教育課程論	講義	2			○			
福祉科教育法	演習	4			○			
特別活動の指導法	講義	2			○			
教育方法・技術論	講義	2				○		
生徒・進路指導論	講義	2				○		
教育相談	講義	2				○		
教職実践演習(高)	演習	2				○		
事前事後指導	実習	1				○		
教育実習	実習	2				○		

【備考】教員免許取得希望者は、この欄の全科目を修得すること。

【授業科目】 1年次セミナー

【単 位】 2

【学 期】 通 年

【担当教員】 担当教員 他

【対象学生】 社会福祉学科1年

【授業の目標及び到達目標】

この授業の目標は、学生生活への円滑な適応ならびに大学における学修の仕方を学び、基礎学力の形成と充実を目指すものである。学生は、この授業を通して本学が示す教育目標と教育内容を理解し、それらと関連づけて在学期間全体を通して主体的に学びうるよう、1年次において「大学での学び」に関わる基礎的知識や技術などを習得する。

【授業の内容及び方法】

- 全学必修の通年科目である。(本学の専任教員全員がこの科目を分け持って担当する。)
- 全学科合同で行う合同セミナー(6回)と、各学科での10人程度のグループによる個別セミナー(ゼミ形式の授業)からなる。個別セミナーの授業内容および回数は、内規に基づき、各グループの担当教員によって決定される。グループによっては、学外での授業も計画されている。
- 授業の内容は次の通りである。
 - ①学生の日常生活における心身の健康と安全への備え
 - ②学科の教育目的・教育目標等の認知
 - ③「読むこと」「書くこと」「発表すること」「議論すること」の力の養成
 - ④学科に即した内容での基礎学力の向上

【授業の計画】

- 合同セミナーは、次の6回である。このうち②～⑤の4回の授業は、外部講師による講演を企画している。
 - ①ガイダンス
 - ②学生の食生活について
 - ③自分の身を守る(心と身体)
 - ④自分の身を守る(防犯面)
 - ⑤悪徳商法等への対処
 - ⑥特別講演

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

- 各グループの担当教員から指示された予習・復習の課題については積極的に取り組むこと。授業外の学修時間については各グループでの取り組みによるが、演習科目として0～15時間程度を目安とする。

【履修上の注意・要望等】

全授業回数は、各グループによって異なるので、担当の教員に確認すること。

【評価方法・基準】

1年次セミナーは、他の科目と異なり、認定単位の科目である。セミナー内で課される課題をこなし、かつ、必要な出席時間数が足りている場合に限り、所定の単位が認められる。

【教 材】

1年次セミナー -学びのために- (美作大学・美作大学短期大学部)

【キーワード】

大学生としてのマナー 大学での学び キャリアデザイン タイムマネジメント

【授業の目標及び到達目標】

副題は「持続可能な地域社会を目指して」。都市と地方の格差拡大や地球温暖化など深刻さを増す難題にほぼ共通する根底的なテーマとして、持続可能性が挙げられます。食や子ども、福祉を中心に「持続していける未来」をどうすれば築けるのか、を考察していきます。これによって常に問題意識を持ち、主体的に判断できる力を養うことを目指します。

【授業の内容及び方法】

概念的な理論だけでなく、具体的な取り組みや多様な考え方を紹介していきます。新聞記者時代の取材経験を生かし、関連ニュースを中心に私の体験談なども交えながら、簡単に正解が見つからないような課題に皆さんとともに挑戦していきます。

【授業の計画】

- 1、オリエンテーション
- 2、地方消滅論 その衝撃と妥当性について考察する。
- 3、限界集落 かつて、そう呼ばれた地域は今、どうなっているのか学ぶ。
- 4、増加する社会保障費 誰が、どうやってそれを賄うのか。さまざまな主張から考える。
- 5、子どもの貧困 その背景と対策について概説する。
- 6、里山資本主義 スモール・ビジネスを目指す真庭市と西栗倉村の挑戦を分析する。
- 7、買い物弱者対策 各地の取り組みと課題を検証する。
- 8、再生可能エネルギー 太陽光、風力発電などの動向と可能性について考える
- 9、地球温暖化 温暖化対策に背を向けるトランプ政権の主張を交えて概説する。
- 10、東京一極集中 都会の幸せと地方の幸せについて考える。
- 11、番外編 100年、200年と続く会社や組織の共通性を探る。
- 12、外部講師による集中講義（1）<予定>
- 13、外部講師による集中講義（1）<予定>
- 14、外部講師による集中講義（2）<予定>
- 15、外部講師による集中講義（2）<予定>

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

新聞やテレビ、ネット、書物などを通じ、日ごろからテーマに関係がありそうな情報に接すること。参考文献にも目を通すなど、自主学修については概ね30時間程度が必要。

【履修上の注意・要望等】

授業計画のほかに、各自が学びたい、あるいは議論したいテーマを随時募ります。そのつもりで普段からアンテナを広く張っていただきたいと思います。

【評価方法・基準】

期末試験（60%）、小テスト（20%）、受講態度・意欲（20%）

【教材】

教材：配布資料。 参考文献：未来の年表（河合雅司著、講談社現代新書）。

【キーワード】

地方消滅、里山資本主義、再生可能エネルギー、地球温暖化、田園回帰

【授業の目標及び到達目標】

副題は「ニュースから読み解く現代社会」。新聞、テレビ、ネットなど多様なメディアから発信されるニュースを通じて広く社会の動きを知り、常に疑問を持って諸問題に対する考えを深めます。これによって、幅広い角度から冷静に情勢判断できる能力を身に付けることを目指します。

【授業の内容及び方法】

長年、新聞記者として報道の現場に身を置いてきた経験をもとに、社会、経済、福祉、教育、文化などさまざまなニュースを題材にして美作地方、日本、世界の動向を読み解いていきます。突発的な出来事や重大ニュースもタイムリーに取り上げながら、表面的な動きだけではなく、歴史的な意味や多角的な見方を紹介し、社会のあるべき姿や課題を皆さんとともに考えていきます。

【授業の計画】

1、メディアの特徴	新聞、テレビ、ネットなどの長所や弱点、各新聞社の違いを考える。
2、少子化	日本では人口減少、全世界では増加が進む。その光と影を考察する。
3、消費税増税	社会保障費をどう賄うのか。その議論について概説する。
4、人手不足は本当か	介護分野での外国人労働者受け入れの是非も含めて概説する。
5、格差問題	子どもの貧困、都市と地方、正規と非正規の格差などについて考える。
6、働き方改革	残業時間、過労死、成果主義などの成り行きを考察する。
7、ふるさと納税	導入された背景と功罪について考察する。
8、18歳成人年齢	結婚や契約など民法改正の必要性と課題を探る。
9、自給率	食糧、エネルギー、木材などの各種自給率を通して日本の現状を学ぶ。
10、日本農業の弱体化	歴史的な流れを踏まえ、将来展望を探る。
11、貿易の自由化	TPP、FTA、EPA、WTOなど各種の枠組みの特徴を学ぶ。
12、グローバル化	英国のEU離脱、トランプ政権誕生の経緯から今後の動向を占う。
13、核なき世界	北朝鮮の核問題を軸に、世界の取り組みを考察する。
14、憲法改正	憲法の何が、どう問われているのかを学ぶ。
15、集団的自衛権	私たちの暮らしにどんな影響があるのかを考える。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

日ごろから新聞やネットなどのニュースに接し、社会の動きを知る習慣をつける。復習は配布資料や授業でのノートを整理する。参考文献にも目を通すなど、自主学修については概ね30時間程度が必要。

【履修上の注意・要望等】

授業計画のほかに、各自が学びたい、あるいは議論したいテーマを随時募ります。そのつもりで普段からアンテナを広く張ってほしい。

【評価方法・基準】

期末試験（60%）、小テスト（20%）、受講態度・意欲（20%）

【教 材】

教材は配布資料。参考文献は「池上彰の新聞勉強術」（文春文庫）など随時紹介する。

【キーワード】

外国人労働者、ふるさと納税、自給率、核なき世界、憲法改正

【授業の目標及び到達目標】

20世紀に入り、人類は輝かしい技術進歩、経済発展に成功し豊かな物質文明を実現した。その代償として、資源の枯渇、および環境破壊を引き起こしている。本授業では、地球環境の現状を科学的視点から把握することをめざす。本科目を履修することにより、地球環境諸問題の解決には、国際社会の協調と市民レベルの自覚と行動が必要であることが理解できる。

【授業の内容及び方法】

最初に地球の誕生と生命の起源について触れ、後半ではわれわれが直面している地球環境諸問題の発生原因、メカニズム、対策について具体的に概説する。

【授業の計画】

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 地球環境総論 | 地球環境問題の概略 |
| 2. 地球環境の歴史 | 地球の誕生と生命の進化 |
| 3. 大気汚染 | 汚染物質の発生源と対策、PM2.5の越境汚染 |
| 4. 地球温暖化① | 温室効果ガスと温暖化のメカニズム |
| 5. 地球温暖化② | 温暖化対策と将来の予測、京都議定書、パリ協定 |
| 6. 酸性雨 | 酸性雨の発生機構、現状と対策 |
| 7. オゾン層の破壊① | オゾンホールが発見とその発生メカニズム |
| 8. オゾン層の破壊② | オゾン層保護と対策 |
| 9. 水の汚染 | 汚染要因と対策、赤潮と富栄養化 |
| 10. 土壌の汚染 | 汚染要因と対策、近年の日本の状況 |
| 11. 有害化学物質による汚染 | 有害化学物質の特徴と汚染の現状 |
| 12. エネルギー資源と環境問題① | 世界のエネルギー消費の現状、地域の特徴 |
| 13. エネルギー資源と環境問題② | 再生可能エネルギーの利点と問題点 |
| 14. 廃棄物とリサイクル | 廃棄物の定義と処理方法、リサイクルの種類 |
| 15. 環境保全に向けた活動 | リスク評価と環境 |

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

特に予習の必要はないが、新聞、ニュース等の時事問題には注目しておくこと。毎回授業内容に関連した問題を出すので、復習を中心におおむね30時間の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

環境問題を科学的に理解するためには、高校程度の理科（基礎）の知識が必要不可欠です。復習も兼ねてわかりやすく説明するが、不明な点は積極的に質問すること。

【評価方法・基準】

試験(80%)、提出課題(20%)

【教 材】

教科書：なし。適宜プリントを配布

参考文献：環境科学入門（化学同人）、私たちと環境（東京教学社）

【キーワード】

地球温暖化 酸性雨 オゾン層破壊 エネルギー政策 廃棄物

【授業科目】 人権教育

【単 位】 2

【学 期】 前期集中

【担当教員】 笹倉千佳弘

(自室番号)

【対象学生】 社会福祉学科1年

【授業の目標及び到達目標】 本授業の目的は、教育と人権に関する基本的な事項を学んだ後、具体的な場面の検討をとおして人権の理解を深めることである。普段の生活で人権をめぐる諸課題について敏感になり、自分の考えに基づいた行動がとれるようになる。

【授業の内容及び方法】

人権と教育に関する基本的な事項を概説した後、具体的な場面を取り上げて検討を加える。講義を主とするが、レジュメやテキストへの書き込み、グループワーク等、できる限り参加型の授業を目指す。

【授業の計画】

1. 開講にあたって
2. 子どもとおとなのかかわり① 教育と影響の違い
3. 子どもとおとなのかかわり② 教育の強制性
4. 子どもの育つ場① 労働力の配分機能
5. 子どもの育つ場② 学歴社会
6. 女性の人権について考える① 性別役割分業意識
7. 女性の人権について考える② 男女平等からジェンダーフリーへ
8. 中間のまとめ
9. 子どもの人権について考える① 子どもイメージ
10. 子どもの人権について考える② 「小さなおとな」から「子ども」へ
11. 子どもの人権について考える③ 「子ども-おとな」関係からみた子どもの人権
12. 子どもは誰の下で育つべきか① 実親の下で育つ子ども
13. 子どもは誰の下で育つべきか② 社会的擁護の下で育つ子ども
14. 子どもは誰の下で育つべきか③ 親の第一次的養育責任
15. 閉講にあたって

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

毎回の授業で次回授業までの課題を出す（30分程度）。毎回の授業内容を自分の体験に関連づけながら復習する（30分程度）。この授業を履修するにあたっては、概ね30時間の自主学修を必要とする。

【履修上の注意・要望等】

授業中の発言やグループワーク等に積極的な態度で講義に臨むこと。

【評価方法・基準】

授業態度（10%）とレポート・小テスト（90%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：『育つ・育てる・育ちあうー子どもとおとなの関係を問い直す』（井上寿美・笹倉千佳弘、明石書店）

参考文献：『子どもを育てない親、親が育てない子どもー妊婦健診を受けなかった母親と子どもへの支援』（井上寿美・笹倉千佳弘 編著、生活書院）

【キーワード】

人権・教育・学校・子ども・女性・社会的擁護

【授業科目】 日本国憲法

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 俣野 英二 (自室番号)

【対象学生】 社会福祉学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

- ・(授業の目標) 憲法の基本原理を理解させ、各自の問題として憲法問題を考えさせることを目的とする。
- ・(到達目標) 身近な憲法問題について、必要な情報を取捨選択し、憲法の基本原理から問題点の本質を理解し、自分の結論を論理的に説明できる。

【授業の内容及び方法】

- ・身近な事例を素材にソクラテス・メソッド及び小テストを活用して、憲法の基本原理から各自で考えさせる。

【授業の計画】

1. ガイダンス、法律を学ぼう
2. 憲法とは何か、憲法の特質
3. 立憲主義と現代国家、法の支配
4. 基本的事件の原理、憲法総論まとめ1 (第1回小テスト)
5. 憲法総論まとめ2 (講評)、基本的人権の限界1 (公共の福祉)
6. 基本的人権の限界2 (私人間効力等)、包括的基本権と法の下での平等
7. 校則と生徒の自己決定権、精神的自由権1 (思想良心の自由、学問の自由)
8. 精神的自由権2 (表現の自由)、経済的自由権
9. 受益権、参政権、社会権、人権まとめ1 (第2回小テスト)
10. 人権まとめ2 (講評)、権力分立
11. 国会、内閣
12. 裁判所、憲法訴訟
13. 地方自治、統治機構まとめ1 (第3回小テスト)
14. 統治機構まとめ2 (講評)、いじめと人権1 (いじめの定義)
15. いじめと人権2 (人権侵害と関係者の法律関係)

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

- ・受講前にテキストを読み、専門用語の定義を覚えておく。また、わからない言葉を調べておく。
- ・講義終了後、論点を文章で整理しておく。(概ね30時間程度の自宅学習が必要である。)

【履修上の注意・要望等】

- ・予習していなければ、講義中の説明が理解できない。論点を文章化する復習をしていなければ、問題点を理解できない。予習、復習は、単位習得に不可欠である。
- ・暗記のみの勉強方法では思考力がつかないので、理解し、論述する勉強に重点をおくこと。
- ・毎回の授業には配布した講義資料を全て携行すること。

【評価の方法・基準】

- ・期末試験 (50%)、小テスト (30%)、各回のレポート (20%)。課題図書 (提出任意、20%の範囲内で素点に加算) により評価する。

【教 材】

教科書：伊藤真『伊藤真の憲法入門 第6版』(日本評論社、2017年)、現代憲法教育研究会編『憲法とそれぞれの人権 第3版』(法律文化社、2017年)

参考書：西原博史、斎藤一久『教職課程のための憲法入門』(弘文堂、2016年)

【キーワード】

憲法 人権 統治

【授業の目標及び到達目標】個人や家族、地域社会の様々な問題に関心と問題意識を持ち、また人格の形成と教養を身につけることの1つの側面として、心理学一般の基礎的内容習得が目標。基礎知識の習得と、様々な人間関係に一部でも応用できることを目指す。また社会福祉専門職（ソーシャルワーカー）に関連する心理学面の基礎知識を説明できるようになること。

【授業の内容及び方法】心理学系専門科目の関連書籍・文献を読むのに必要な用語や理論的概念を解説する。応用のために具体例での説明も行う。ただし性格その他の研究分野は後期の心理学理論と心理的支援で扱う（ただし発達は以下の各テーマの中で各々触れる場合がある）。授業方法は、講義を主とするが、小テストによる理解度確認なども行う。

【授業の計画】

1. 感情1 [基礎理論, 原因帰属, 複合感情, 日常的事例 (恋愛, 痛み, 罪悪感など)]
2. 感情2 [実験的研究と事例の続き]
3. 感情3 [情動の発生と維持 (情動が強く維持される条件, 失恋後の感情など)]
4. 感情4 [情動の強化と2者関係 (恋愛と夫婦間の感情の違い, 家族同士が持つ感情と家族心理療法)]
5. 感情5 [情動とストレスの理論]
6. 感情6 [ストレスへの対処]
7. 原因帰属1 [学習性無気力など]
8. 原因帰属2 [楽観的・悲観的原因帰属 (学力, 人間関係などへの影響)]
9. 原因帰属3 [自尊心, 自己愛と帰属スタイル]
10. 感覚・知覚 [感覚様相・形や色と空間など]
11. 認知の歪み1 [不適応を導く認知の歪みと認知・行動療法: 過度の一般化・2分割思考など]
12. 認知の歪み2 [続き: べきである思考・情緒的理由づけなど]
13. 言語と思考 [言語の構造と発達・問題解決と創造的思考]
14. 思考と信念1 [信じ込みを引き起こす要因: ランダム性の認知・代表性など]
15. 思考と信念2 [続き: 少ない事実からの推論など]

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】 日々の予習・復習、試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間程度の自主学修が必要。単元が数回に渡るときは、各回の復習をしておかないと、次回の内容が理解しにくくなる。

【履修上の注意・要望等】大学の講義に慣れるという意図もあって、黒板を写すだけでなく、話を聞きながら適宜要約しつつ、ノートを取る練習もして欲しい。

【評価方法・基準】

定期試験 (90%) と受講態度 (10%)

【教 材】

板書と配布資料。

また〈参考図書〉は、新・社会福祉士養成講座 (2) 心理学理論と心理的支援 社会福祉士養成講座編集委員会編, 中央法規出版

【キーワード】

心理学基礎, 感情, 知覚・認知, 言語・思考, 信念, ストレス, 無気力感, 不適応

【授業科目】 日本語リテラシー

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 岸 道康

(自室番号 ***)

【対象学生】 社会福祉学科1年

【授業の目標及び到達目標】

この授業では、生活の中で言葉が果たす役割を正しく理解し、的確に使っていく能力を培っていきます。これによってレポートや報告書、論文、プレゼンテーションなどの文章を書いたり、人前で発表したりする「伝える力」を高め、社会人になっても通用する自己表現力が身に付くようにします。

【授業の内容及び方法】

講義と演習によって、テーマや種類に沿った日本語の活用方法を学びます。「分かりやすく、面白く、そして深い文章」が書けるよう、特にミニレポートや小論文など実際に書くことに力を入れます。新聞記者だった経験も生かし、実践的な表現力養成講座にしていきます

【授業の計画】

1、言葉の力	文章表現の意義や基礎、表記のルール
2、自己紹介	材料集め、紹介の組み立て
3、好きな食べ物	題材と構成、着想力
4、新聞記事から学ぶ①	不特定多数の読者に対する工夫と知恵、新聞活用術、読み方
5、新聞記事から学ぶ②	簡潔で分かりやすい文章、逆三角形の文章、見出し
6、新聞記事から学ぶ③	「書き出し5行、止め3行」の重要性
7、推敲	文章の整え方、誤字・誤用の修正
8、要約文	要点のまとめ方
9、報告書	出来事の報告書を作成
10、公文書	書式・形式、書き方
11、意見文	新聞記事を利用して、意見文を作成
12、手紙	伝統的な手紙の形式
13、依頼文、礼状	手紙やメールでの書き方
14、随想	柔らかくて、印象に残る文章の書き方
15、座右の銘	自分を支える座右の銘を作る

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

日頃から新聞やネットニュース、書物、雑誌などに触れ、活字に親しむ習慣をつける。復習は配布したプリントや授業でのノートを整理する。概ね30時間程度の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

主としてミニレポートや作品を評価対象にするので、未提出がないようにする。文章を書くことは決して楽ではないが、表現する楽しさとともに、社会人になっても通用する文章力を学んでほしい。

【評価方法・基準】

作品・ミニレポート（60%）、発表（20%）、受講態度・意欲（20%）

【教 材】

「書き込み式 日本語リテラシー」横川知之著（大学教育出版）、配布資料

【キーワード】

文章力、伝える力、新聞活用

【授業科目】 キャリアデザイン論

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 黒瀬 大亮

(自室番号 ***)

【対象学生】 社会福祉学科1年

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、広い視野・コミュニケーション能力や論理的思考力、自立と協調・協働により、社会の発展に寄与できる力を持った専門的職業人となることができるよう、みずからの職業人生を、みずからの手で主体的に構想・設計ができる力を今後の人生において、養い続けることができる知識や技能を習得することを目指す。

そのなかで、みずからの人生はみずからの手で構想・設計することができるということを理解し、それを実行するためのコミュニケーション能力や論理的思考力、協調・協働することができるようになる。

【授業の内容及び方法】

講義による知識・技術の獲得。

対話による多様な考えや体験の学び。

協働することによる知識・技術の獲得と、その活用による学びの進化。

【授業の計画】

- 1 課題テストによる知識の確認。協働による課題内容の再認識。
- 2 ワークショップ形式による自らのキャリアの確認。レポートの書き方の習得。
- 3 ワークショップ形式による今後のキャリアの構想。
- 4 レポート作成による、キャリアデザインへの課題や内容の探究や深化を図る。
- 5 外部協力者へのインタビュー① 他者の人生観・職業観を知る。
- 6 外部協力者へのインタビュー② ①を参考に自らの人生観・職業観を考える。
- 7 インタビューのまとめ。グループワークで人生観や職業観についての考えを深める。
- 8 自分自身の「キャリアデザイン論」作成。レポート作成。まとめ試験。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

この授業を履修するにあたって、概ね15時間程度の自主学修が必要となる。授業前の予習として、教材テキストの理解は最低限必要とする。復習としては、授業で学んだ知識や技術の習得はもちろんのこと、それらを活用して認識を深めたり、教材テキストのさらなる熟読や課題を行う、といった自主学習が必要である。

【履修上の注意・要望等】

「キャリアデザイン」という言葉の意味を理解し、教材として提示したテキストを理解して受講のこと。レポート作成を3回程度予定していますが、1回でも未提出の場合は単位認定しません。

【評価方法・基準】

レポート（50%） 提出課題（20%） 課題テスト（20%） 授業態度（10%）

【教 材】

キャリアデザイン入門 [I] 基礎力編第2版（日経文庫）大久保幸夫 著

10年後、君に仕事はあるのか？ 藤原和博 著

【キーワード】

キャリアデザイン ライフデザイン 主体性 論理的 思考 編集 知識 課題 発見 解決 協働

【授業科目】 ボランティア論（福祉系）

【単 位】 1

【学 期】 前期集中

【担当教員】 松尾 彰

（自室番号 ）

【対象学生】 全学科

【授業の目標及び到達目標】

本講義では、ボランティアの性格や意義等について理解を深めるとともに、ボランティア活動が個人の生活にもたらす意味、地域福祉の推進におけるボランティアの役割を知り、実際のボランティア活動への参加につなげることを目標とする。

学生は、ボランティアの性格である自主性、社会性、無償性の意味や役割、活動の意義を理解し、相手の立場になってボランティアを考えることができる。また、自分なりにボランティア活動に参画する意欲を持つ、あるいは活動のきっかけを掴むことができる。

【授業の内容及び方法】

ボランティアとして自ら考え、活動するための知識と実践力を学ぶ。

ボランティアの自己満足にならないためにも、相手の立場で考えるための視点を学ぶ。

地域でボランティア活動や NPO 法人で仕事している方などを招き、講義を展開する。さらに、グループワークにより「今の自分に何が（ボランティア活動）できるのか」を考える。

【授業の計画】

第1回 ボランティアとは① ボランティアの性格や役割について

第2回 ボランティアとは② 実践者に学ぶボランティアの意義について

第3回 認知症サポーターとは 認知症の理解とボランティア活動への期待について

第4回 擬似体験から学ぶ 車いす・アイマスク体験による構内点検をとおして、相手の立場を知る。

第5回 ボランティアとは③ 実践者に学ぶボランティアから NPO 活動への展開について

第6回 NPO 活動の紹介 実践者に学ぶ地域と大学等との連携から生まれた市内の活動について

第7回 ボランティアとは④ グループワークにより「今の自分に何が（ボランティア活動）できるのか」を考える。

第8回 まとめ グループワークにより、講義をふりかえりながら、“気づき”を大切に、もう一度「ボランティアとは？」という問について考える。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業前に、自分なりに「ボランティア」について調べておくこと。配布された資料を再読しておくこと。以上に示す予習・復習などの自主学修については概ね 10 時間程度が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

授業は、グループで行う事が多く、自分の意見の発表や討論の機会が多いので、積極的な参加を心がけてください。実践者の方の話は、実際のボランティア活動の経験にたった貴重な内容であり、心構え、特に相手を尊重し、共感するボランティア精神とは何かなどを理解できるよう心がけてください。

【評価方法・基準】

提出課題（60%）、授業態度（40%）

【教 材】

適宜、資料を配布します。

<参考図書>学生のためのボランティア論（大阪ボランティア協会）

編著：岡本 栄一、菅井 直也、妻鹿 ふみ子 他

【キーワード】

自主性 社会性 無償性 NPO 共感 地域福祉

【授業科目】 インターンシップ実習

【単 位】 1

【学 期】 集 中

【担当教員】 担当スタッフ (窓口：薬師寺 520)

【対象学生】 社会福祉学科

【授業の目標及び到達目標】

学科の教育目標に照らし、将来の進路を考える上で有益な経験になると判断される活動を、学生自身が自主的かつ積極的に取り組む。そして、その資質や可能性を高めることを目標とする。

【授業の内容及び方法】

社会福祉学科の専門性と関連する学外での体験を、大学での単位として認めるものである。

【授業の計画】

単位認定を受けるための体験の基準

- ① 授業目標に合致する内容であること
- ② 通算して40時間程度の活動を1単位の目安とするが、活動内容に応じて期間の長短は弾力的に扱うことができる。
- ③ 継続性のある内容に限り、年度をまたがってもよい。

単位取得までの手順

- ① 福祉分野・一般分野それぞれの指導教員に事前の相談と申請書を提出する。
- ② 申請によって学科審査を行い、内容的にこの科目に適合すると認められた場合、以降その分野の担当教員を指導教員とし、指導を受ける。
- ③ 活動終了時に、活動証明書に活動先の担当者の署名、捺印を受ける。
- ④ 活動終了後、活動報告書、まとめのレポート、活動証明書等を揃え、当該年度の1月に指導教員まで提出する。

活動結果に対して学科審査を行い、単位相当と判断された場合、単位が認められる。

【授業外の学修（予習・復習の指示・学修時間など）について】

インターンシップ実習先の事前学習を担当教員の指導のもと行うこと。

日誌・まとめのレポート等について担当教員の指導のもと行うこと。

【履修上の注意・要望等】

単位の認定を希望する者は、必ず事前に窓口教員へ相談をすること。

【評価方法・基準】

上記による単位認定

【教 材】

必要に応じて指示する

【キーワード】

インターンシップ実習・社会的活動・体験学習

【授業科目】 ボランティア実習

【単 位】 1

【学 期】 集 中

【担当教員】 担当スタッフ (窓口：薬師寺 520)

【対象学生】 社会福祉学科

【授業の目標及び到達目標】

学科の教育目標に照らし、将来の進路を考える上で、有益な経験になると判断される活動を学生自身が自主的かつ積極的に取り組む。そして、その資質や可能性を高めることを目標とする。

【授業の内容及び方法】

社会福祉学科の専門性と関連する学外での体験を、大学での単位として認めるものである。

【授業の計画】

単位認定を受けるための体験の基準

- ① 授業目標に合致する内容であること
- ② 通算して40時間程度の活動を1単位の目安とするが、活動内容に応じて期間の長短は弾力的に扱うことができる。
- ③ 継続性のある内容に限り、年度をまたがってもよい。

単位取得までの手順

- ① 福祉分野・一般分野それぞれの指導教員に事前の相談と申請書を提出する。
- ② 申請によって学科審査を行い、内容的にこの科目に適合すると認められた場合、以降その分野の担当教員を指導教員とし、指導を受ける。
- ③ 活動終了時に、活動証明書に活動先の担当者の署名、捺印を受ける。
- ④ 活動終了後、活動報告書、まとめのレポート、活動証明書等を揃え、当該年度の1月に指導教員まで提出する。

活動結果に対して学科審査を行い、単位相当と判断された場合、単位が認められる。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

ボランティア実習先の事前学習を担当教員の指導のもと行うこと。

日誌・まとめのレポート等について担当教員の指導のもと行うこと。

【履修上の注意・要望等】

単位の認定を希望する者は、必ず事前に窓口教員へ相談をすること。

【評価方法・基準】

上記による単位認定

【教 材】

必要に応じて指示する

【キーワード】

ボランティア実習・社会的活動・体験学習

【授業科目】 情報リテラシー I

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 長谷川 勝一

(自室番号 341)

【対象学生】 社会福祉学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

この授業では、福祉分野の実務を支える様々な ICT (情報通信技術) 活用能力の修得を重視し、ICT リテラシーの涵養を図ることを目標とする。到達目標として、大学が提供している各種情報サービスを活用できる。大学教育および福祉現場に必要な情報リテラシーと情報倫理を身に付け、日本語 (ローマ字入力) を 180 文字/分 (正誤率 90%以上) の速度で入力できることを目指す。

【授業の内容及び方法】

この授業では、インターネット・リテラシー、タイピングおよびオフィスツールの基本的機能の習熟に重点をおき、4年間の学生生活において必要な情報収集/活用能力の基礎を演習形式で学ぶ。同時に、本学での情報処理教育施設を利用するにあたっての基本的な活用方法を学修する。

【授業の計画】

- (1) ガイダンスおよびタッチ・タイピングと文字入力：ホーム・ポジション、漢字変換
- (2) パソコン操作の基本：パソコン操作上の注意、基本ソフト(OS)の扱い方など
- (3) 情報検索：インターネットを用いて情報を集める
- (4) 基礎編：Word チラシ作成：書式、表の作成、ワードアート、図の挿入、印刷
- (5) メールの使い方：マナー、送受信
- (6) メールの使い方：署名、CC と BCC
- (7) メールの使い方：添付ファイル付きメール、転送、アドレス帳、メールの管理
- (8) 基礎編：Word レポート作成：ページ設定、ヘッダー・フッター、脚注、参考文献、スタイル
- (9) 活用編：Word アンケート結果のレポート作成 段組、図表の挿入、図表番号、文末脚注
- (10) 活用編：Word アウトライン作成
- (11) 基礎編：PowerPoint スライド作成：箇条書き、表の編集
- (12) 活用編：PowerPoint：アンケート結果のスライド作成、効果、ノート作成、スライド印刷
- (13) 情報モラル：情報社会の問題点
- (14) 情報モラル：著作権、個人情報保護
- (15) 情報モラル：セキュリティ、コンピュータウイルス、パスワード管理、不正アクセス防止

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

この講義外の時間にも、予習・復習としてタイピングの練習や各種ソフトの操作、課題の作成を積極的に行い、日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね 30 時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

継続的な課題作成があるため、欠席をしないこと。

【評価方法・基準】

定期試験 30%、演習問題・文書作成レポートの提出 30%、タイピング練習評価 20%、学習態度 20%

【教 材】

「Office 基礎と情報モラル Office 2016 対応」「情報倫理ハンドブック 2018 年版」noa 出版

【キーワード】

情報リテラシー 情報検索 著作権 個人情報 ファイル管理 文書表現 セキュリティ対策
インターネットコミュニケーション ソーシャルネットワーク 情報社会の光と影 情報モラル

【授業の目標及び到達目標】

パワーポイントによるプレゼンテーションを学ぶ。レポート・研究・製品紹介などの内容をパワーポイントの画面(文章・イラスト・写真を含む)にまとめ、多人数を相手にわかりやすく発表(プレゼンテーション)できるようになるのが目標。

【授業の内容及び方法】

パワーポイントの基本操作を簡単な例題を作りながら学ぶ。次にやや高度な操作を、具体例(以下の計画を参照)を作成する中で学ぶ。最後に、自分でテーマを決め、それに関する情報をネットや文献などから収集・編集して作った作品を3分間で発表する。

【授業の計画】

<基本編>

- ①プレゼンテーション＝スライドショーの紹介(先輩の作品のデモ)
- ②基本操作：パワーポイントの起動・画面の説明・新しいスライドの作り方
- ③基本操作：スライドへの文字の入力、イラスト・写真・表の挿入
- ④基本操作：スライド背景の選択、表の挿入・編集など
- ⑤基本操作：スライドショーの保存・削除・挿入・コピー・移動など
- ⑥基本操作：アウトライン、テキストのレベル、テキストボックス

<応用編>

- ⑦具体例1)：アロマテラピー製品の紹介
タイトルスライド、全体像の作成(アウトライン)、商品の仕様、全スライド一覧表示、キャッチコピーの入力、まとめのスライドなど
- ⑧具体例2)：具体例1)の改良
図を描く(オートシェイプ)、背景に写真を挿入、アニメーションの活用など
- ⑨グラフ・組織図の挿入、写真・イラスト・ビデオなどの挿入
- ⑩インターネットからの画像・グラフ・表などのダウンロードする方法、著作権についての注意

<オリジナル作品の作成>

- ⑪オリジナルプレゼンテーションの作成(テーマを決める)
- ⑫オリジナルプレゼンテーションの作成(ネットなどから情報・資料・データを集める)
- ⑬オリジナルプレゼンテーションの作成(まず自力で作っていく)
- ⑭オリジナルプレゼンテーションの作成(教員のアドバイスによって改良する)
- ⑮オリジナルプレゼンテーションの発表

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

授業中に習った操作方法は、反復練習しないと身につかないので、必ず自分のノートパソコンなどで復習すること。授業全体で、概ね30時間程度の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

パワーポイントによるプレゼンテーションは、将来、必ず必要となるスキルなので全員履修すること。

【評価方法・基準】

規定課題・自由課題の達成度。オリジナルのプレゼンテーションの発表のレベル。
オリジナルプレゼンテーション発表(定期試験の代わり)：80%・課題：10%・受講態度：10%

【教 材】

教科書：自作プリント

参考文献：「できるパワーポイント」など

【キーワード】

パワーポイント、プレゼンテーション、スライドショー、卒業研究、研究発表

【授業科目】 英語 I

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 桐生 和幸

(自室番号 136)

【対象学生】 社会福祉学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

この授業では、高校までの英語力をさらに確実なものとし、実用的な場面での英語運用能力を高めることを目標とする。この授業では、①英語の到達レベルを TOEIC で 300 点から 350 点、②実用的な表現を使ってコミュニケーションができる、③英文の構造を正しく理解して読める、という到達目標を設定する。

【授業の内容及び方法】

各課は 2 つのサイクルから構成され、サイクル 1 では、英文法を基礎から復習を行い、語彙演習、英作文を通じて定着を図る。サイクル 2 では、リスニング演習、読解演習を行いながら、総合的な英語力を高めていく。

【授業の計画】

1. この授業についてのオリエンテーションと英語ブラッシュアップ演習
2. Unit 1 サイクル 1 : From My Heart To Yours (代名詞) の文法、語彙、英作文演習
3. Unit 1 サイクル 2 : From My Heart To Yours (代名詞) のリスニング、読解演習
4. Unit 2 サイクル 1 : To Be Or Not To Be (be 動詞) の文法、語彙、英作文演習
5. Unit 2 サイクル 2 : To Be Or Not To Be (be 動詞) のリスニング、読解演習
6. Unit 3 サイクル 1 : Too Many Calorie? (名詞) の文法、語彙、英作文演習
7. Unit 3 サイクル 2 : Too Many Calorie? (名詞) のリスニング、読解演習
8. Unit 4 サイクル 1 : Life With A Roommate (冠詞と限定詞) の文法、語彙、英作文演習
9. Unit 4 サイクル 2 : Life With A Roommate (冠詞と限定詞) のリスニング、読解演習
10. Unit 5 サイクル 1 : I'll Take A Vacation! (一般動詞) の文法、語彙、英作文演習
11. Unit 5 サイクル 2 : I'll Take A Vacation! (一般動詞) のリスニング、読解演習
12. Unit 6 サイクル 1 : How Is The Weather? (疑問文) の文法、語彙、英作文演習
13. Unit 6 サイクル 2 : How Is The Weather? (疑問文) のリスニング、読解演習
14. Unit 7 サイクル 1 : Did You Do the Dishes? (過去形) の文法、語彙、英作文演習
15. Unit 7 サイクル 2 : Did You Do the Dishes? (過去形) のリスニング、読解演習

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

この授業を履修するにあたって、概ね 3 0 時間程度の自主学修が必要となる。具体的には以下の通り。

サイクル 1 では、最初に Quizlet で提示する単語の小テストを行うので、Quizlet での学習を行っておくこと。また、文法問題は事前に行っておき、授業において答えを確認する。以上の準備に 1 時間程度の課外学習が必要である。サイクル 2 では、Webclass の教材を参照しながら、読解問題の全文訳を作成し、内容把握問題を解答しておくこと。授業内での確認を行う。課外学習に 1 時間程度の時間が必要である。

【履修上の注意・要望等】

予習は必ず行うこと。また、電子辞書や高校のときに使用した文法の解説書などを授業に持参すること。

【評価方法・基準】

小テスト (30%)、オンライン学習 (10%)、授業内活動 (20%)、定期試験 (40%)

【教 材】

- ・ English Insight: An Integrated Approach to Language Learning, CENGAGE Learning, 2000 円+税
- ・ オンライン単語学習アプリ Quizlet
- ・ Webclass 上の学習教材

【キーワード】

英文法、英会話、英文読解、リスニング、英作文

【授業科目】 英語 I

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 多田 昌美

(自室番号 342)

【対象学生】 社会福祉学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

文章全体の構造を意識しながら英文を読み、内容を読みとることができるようになることを目的とする。英語の基本的な表現や文法の知識に基づいて、平易な英語を理解することができる。

【授業の内容及び方法】

基本的な読解スキルに焦点を当てたテキストを用い、文章構造を確認しながら読解と問題演習を行い、英語力の向上を目指す。

【授業の計画】

1. 開講にあたって/ Unit 1: To Drive or to Ride? Pre-reading tasks/Reading
2. Unit 1: To Drive or to Ride? Reading/Post-reading Tasks
3. Unit 2: Help Yourselfs Pre-reading tasks/Reading
4. Unit 2: Help Yourselfs Reading/Post-reading Tasks
5. Unit 3: What I Learned from Fay Pre-reading tasks/Reading
6. Unit 3: What I Learned from Fay Reading/Post-reading Tasks
7. ここまでのまとめ
8. Unit 4: Ways to Help Others Pre-reading tasks/Reading
9. Unit 4: Ways to Help Others r Reading/Post-reading Tasks
10. Unit 5: Can Fish Fall from the Sky?! Pre-reading tasks/Reading
11. Unit 5: Can Fish Fall from the Sky?! Reading/Post-reading Tasks
12. Unit 6: How to Prepare a Presentation Pre-reading tasks/Reading
13. Unit 6: How to Prepare a Presentation Reading/Post-reading Tasks
14. Unit 7: International Date Line Pre-reading tasks/Reading
15. Unit 7: International Date Line Reading/Post-reading Tasks

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

指示された箇所について必ず予習をしてから授業に出席する、復習として Unit の要点を確認しながら文章の音読などを行って定着をはかるなど、概ね 15 時間の自主学修を必要とする。

【履修上の注意・要望等】

授業時には必ず英和辞典を持参すること。なお授業の進行状況によっては、各時間で取り上げる Unit が若干前後する場合や Unit の一部を省略する場合がある。

【評価方法・基準】

2 回の筆記試験の平均 (70%)、毎時間の mini exam (20%)・受講態度 (10%) により総合的に評価する。

【教 材】

竹内理、他『Reading Stream: Elementary』（金星堂）

参考文献は必要に応じて指示する。

【キーワード】

英語、英語コミュニケーション

【授業科目】 英語 I

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 ランボー典子

(自室番号 ***)

【対象学生】 社会福祉学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、基本的な英語の読み、書き、聞き取り、会話ができるようになることを目標とする。基本的な文法を理解し、英文を組み立てることができるようになる。また、基本的な英会話を聞きとることや、100ワード程度の英文を読んで理解することができるようになる。

【授業の内容及び方法】

教科書に沿って行う。単語の発音練習、会話の聞き取り練習、文法のドリル、英文読解、英作文、会話練習などさまざまな活動を行う。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. Unit1 : be 動詞 Listening and Reading
3. Unit1 : be 動詞 Writing and Speaking
4. Unit2 : 名詞 Listening and Reading
5. Unit2 : 名詞 Writing and Speaking
6. Unit3 : 一般動詞 Listening and Reading
7. Unit3 : 一般動詞 Writing and Speaking
8. Unit4 : 代名詞 Listening and Reading
9. Unit4 : 代名詞 Writing and Speaking
10. Unit5 : 一般動詞 (過去時制) Listening and Reading
11. Unit5 : 一般動詞 (過去時制) Writing and Speaking
12. Unit6 : 進行形 Listening and Reading
13. Unit6 : 進行形 Writing and Speaking
14. Unit7 : be going to / will Listening and Reading
15. Unit7 : be going to / will Writing and Speaking

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

授業前に指示されている該当箇所を予習してくる。授業後は、必ず復習をし、小テストに備えること。日々の予習・復習、課題や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学んだ内容を自主学修すること。概ね 15 時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

課題を済ませてから授業に臨むこと。

【評価の方法・基準】

小テストと期末テスト (50%) 提出物と受講態度 (50%) により総合的に評価する。

【教 材】

教科書 : We Love L.A. ! L.A. イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ大学基礎英語～ (金星堂)

【キーワード】

英語、英文法、英会話

【授業科目】 英語Ⅱ

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 桐生 和幸

(自室番号 136)

【対象学生】 社会福祉学科1年

【授業の目標及び到達目標】

この授業では、前期の英語Ⅰに引き続き、高校までの英語力をさらに確実なものとし、実用的な場面での英語運用能力を高めることを目標とする。この授業では、①英語の到達レベルをTOEICで350点から400点、②実用的な表現を使ってコミュニケーションができる、③英文の構造を正しく理解して読める、という到達目標を設定する。

【授業の内容及び方法】

各課は2つのサイクルから構成され、サイクル1では、英文法を基礎から復習を行い、語彙演習、英作文を通じて定着を図る。サイクル2では、リスニング演習、読解演習を行いながら、総合的な英語力を高めていく。

【授業の計画】

1. Unit 8 サイクル1 : I'm Going To College (進行形) の文法、語彙、英作文演習
2. Unit 8 サイクル2 : I'm Going To College (進行形) のリスニング、読解演習
3. Unit 9 サイクル1 : Have You Ever Had A Job? (現在完了形) の文法、語彙、英作文演習
4. Unit 9 サイクル2 : Have You Ever Had A Job? (現在完了形) のリスニング、読解演習
5. Unit 10 サイクル1 : She Had Been Great! (過去完了形) の文法、語彙、英作文演習
6. Unit 10 サイクル2 : She Had Been Great! (過去完了形) のリスニング、読解演習
7. Unit 11 サイクル1 : How Is Christmas Celebrated? (受動態) の文法、語彙、英作文演習
8. Unit 11 サイクル2 : How Is Christmas Celebrated? (受動態) のリスニング、読解演習
9. Unit 12 サイクル1 : Do You Want To Take Some Time Off? (不定詞) の文法、語彙、英作文演習
10. Unit 12 サイクル2 : Do You Want To Take Some Time Off? (不定詞) のリスニング、読解演習
11. Special Activity
12. Unit 13 サイクル1 : I Can Drive! (助動詞 can, will) の文法、語彙、英作文演習
13. Unit 13 サイクル2 : I Can Drive! (助動詞 can, will) のリスニング、読解演習
14. Unit 14 サイクル1 : Where Would You Like To Go? (助動詞 could, would) の文法、語彙、英作文演習
15. Unit 14 サイクル2 : Where Would You Like To Go? (助動詞 could, would) のリスニング、読解演習

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

この授業を履修するにあたって、概ね30時間程度の自主学修が必要となる。具体的には以下の通り。
サイクル1では、最初にQuizletで提示する単語の小テストを行うので、Quizletでの学習を行っておくこと。また、文法問題は事前に行っておき、授業において答えを確認する。以上の準備に1時間程度の課外学習が必要である。サイクル2では、Webclassの教材を参照しながら、読解問題の全文訳を作成し、内容把握問題を解答しておくこと。授業内での確認を行う。課外学習に1時間程度の時間が必要である。

【履修上の注意・要望等】

予習は必ず行うこと。また、電子辞書や高校のときに使用した文法の解説書などを授業に持参すること。

【評価方法・基準】

小テスト(30%)、オンライン学習(10%)、授業内活動(20%)、定期試験(40%)

【教 材】

- ・English Insight: An Integrated Approach to Language Learning, CENGAGE Learning, 2000円+税
- ・オンライン単語学習アプリ Quizlet
- ・Webclass 上の学習教材

【キーワード】

英文法、英会話、英文読解、リスニング、英作文

【授業科目】 英語 II

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 多田 昌美

(自室番号 342)

【対象学生】 社会福祉学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

英語 I に引き続き、文章全体の構造を意識しながら英文を読み、内容を読みとることができるようになることを目的とする。英語の基本的な表現や文法の知識に基づいて、平易な英語を理解することができる。

【授業の内容及び方法】

基本的な読解スキルに焦点を当てたテキストを用い、文章構造を確認しながら読解と問題演習を行い、英語力の向上を目指す。

【授業の計画】

1. Unit 8: What Is Friendship? Pre-reading tasks/Reading
2. Unit 8: What Is Friendship? Reading/Post-reading Tasks
3. Unit 9: Entering a Photo Contest Pre-reading tasks/Reading
4. Unit 9: Entering a Photo Contest Post-reading Tasks Unit 10: Getting Money for a Big Project
Pre-reading tasks/Reading
5. Unit 10: Getting Money for a Big Project Reading/Post-reading Tasks
6. Unit 11: Accepting the “Salesperson of the Year” Award Pre-reading tasks/Reading
7. Unit 11: Accepting the “Salesperson of the Year” Award Reading/Post-reading Tasks
8. ここまでのまとめ
9. Unit 12: Written Art Pre-reading tasks/Reading
10. Unit 12: Written Art Reading/Post-reading Tasks Unit 13: Life Advice Q&A with Dr. Joyce Green
Pre-reading tasks
11. Unit 13: Life Advice Q&A with Dr. Joyce Green Reading/Post-reading Tasks
12. Unit 14: Stronger Yen Threatens Japanese Economy Pre-reading tasks/Reading
13. Unit 14: Stronger Yen Threatens Japanese Economy Reading/Post-reading Tasks
14. Unit 15: Not Hearing a Gorilla Pre-reading tasks/Reading
15. Unit 15: Not Hearing a Gorilla Reading/Post-reading Tasks

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

指示された箇所について必ず予習をしてから授業に出席する、復習として Unit の要点を確認しながら文章の音読などを行って定着をはかるなど、概ね 15 時間の自主学修を必要とする。

【履修上の注意・要望等】

授業時には必ず英和辞典を持参すること。なお授業の進行状況によっては、各時間で取り上げる Unit が若干前後する場合や Unit の一部を省略する場合がある。

【評価方法・基準】

2 回の筆記試験の平均 (70%)、毎時間の mini exam (20%)・受講態度 (10%) により総合的に評価する。

【教 材】

竹内理、他『Reading Stream: Elementary』（金星堂）

参考文献は必要に応じて指示する。

【キーワード】

英語、英語コミュニケーション

【授業科目】 英語Ⅱ

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 ランボー典子

(自室番号 ***)

【対象学生】 社会福祉学科1年

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、基本的な英語の読み、書き、聞き取り、会話ができるようになることを目標とする。基本的な文法を理解し、英文を組み立てることができるようになる。また、基本的な英会話を聞きとることや、100ワード程度の英文を読んで理解することができるようになる。

【授業の内容及び方法】

前期に引き続き、教科書に沿って行う。単語の発音練習、会話の聞き取り練習、文法のドリル、英文読解、英作文、会話練習などさまざまな活動を行う。

【授業の計画】

1. Unit 8 : 助動詞 Listening and Reading
2. Unit 8 : 助動詞 Writing and Speaking
3. Unit 9 : 前置詞 Listening and Reading
4. Unit 9 : 前置詞 Writing and Speaking
5. Unit 10 : 現在完了 Listening and Reading
6. Unit 10 : 現在完了 Writing and Speaking
7. Unit 11 : 比較 Listening and Reading
8. Unit 11 : 比較 Writing and Speaking
9. Unit 12 : WH 疑問文 Listening and Reading
10. Unit 12 : WH 疑問文 Writing and Speaking
11. Unit 13 : 動名詞/不定詞 Listening and Reading
12. Unit 13 : 動名詞/不定詞 Writing and Speaking
13. Unit 14 : 接続詞 Listening and Reading
14. Unit 14 : 接続詞 Writing and Speaking
15. Unit 15 : 受動態

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業前に指示されている該当箇所を予習してくること。授業後は、必ず復習をし、小テストに備えること。

日々の予習・復習、課題や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学んだ内容を自主学修すること。概ね15時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

課題を済ませてから授業に臨むこと。

【評価の方法・基準】

小テストと期末テスト（50%）提出物と受講態度（50%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書： We Love L.A. ! L.A. イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ大学基礎英語～（金星堂）

【キーワード】

英語、英文法、英会話

【授業科目】 英語資格認定 I

【単 位】 1

【学 期】 集 中

【担当教員】 桐生 和幸 (自室番号 131)

【対象学生】 全学科・全学年

【授業の目標及び到達目標】

英語の学習意欲の向上を目的として、英検、TOEIC、TOFEL などの「英語資格」を在学中に取得した場合、または、入学前に取得している場合に、修得単位として認定します。

目標レベルは、高校修了程度の英語力があり、日常生活に必要な英語を理解し、表現できるレベルです。

【授業の内容及び方法】

認定資格のための授業はありません。普段の英語の授業や自主学習により、各資格を取得してください。学内ホームページに学習の参考になるページを解説していますので、利用してください。

資格取得後は、所定の用紙に、認定の条件を示す書類を添付し、教務課に提出してください。英語資格認定 I の認定基準は以下の通りです。

資格名	基準
実用英語技能検定	2 級
TOE I C	430 点以上
TOE F L-P B T	450 点以上
TOE F L-i B T	45 点以上
国連英検	C 級

なお、本科目開講以前に上記の資格を取得済みの場合でも、単位として認定します。ただし、同じ結果を英語資格 II に利用することはできません。

【授業の計画】

資格認定書提出による科目のため、該当せず。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

計画的な自主学習を行い、目標を達成してください。資格取得のためには、まず、目標を定めることが必要です。検定試験の日程を十分に把握して、予定を立てて取り組んでください。実際の学習時間は、各自の事情によって異なりますが、少しの時間でも毎日行うことが効果的です。それに加えて休みの日などに集中して長時間取り組むことも更に効果が高いです。

受験に関して相談がある場合は、オフィスアワーの時間に受け付けます。

【履修上の注意・要望等】

【評価方法・基準】

基準に従って、単位認定を行います。ただし、認定は 1 回のみです。

【教 材】

特になし。参考ウェブページ：<http://ganesh.staff.mimasaka.ac.jp/wordpress/>

(学内のみ閲覧可能。学内ポータルサイトから「授業」を選んでそこからアクセスできます)

【キーワード】 英語資格、TOEIC、TOEFL、英検、国連英検

【授業科目】 英語資格認定Ⅱ

【単 位】 2

【学 期】 集 中

【担当教員】 桐生 和幸 (自室番号 131)

【対象学生】 全学科・全学年

【授業の目標及び到達目標】

英語の学習意欲の向上を目的として、英検、TOEIC、TOFEL などの「英語資格」を在学中に取得した場合、または、入学前に取得している場合に、修得単位として認定します。

目標レベルは、高校修了程度の英語力があり、日常生活に必要な英語を理解し、表現できるレベルです。

【授業の内容及び方法】

認定資格のための授業はありません。普段の英語の授業や自主学習により、各資格を取得してください。学内ホームページに学習の参考になるページを解説していますので、利用してください。

資格取得後は、所定の用紙に、認定の条件を示す書類を添付し、教務課に提出してください。英語資格認定Ⅱの認定基準は以下の通りです。

資格名	基準
実用英語技能検定	準1級以上
TOEIC	650点以上
TOEFL-PBT	550点以上
TOEFL-iBT	79点以上
国連英検	B級

なお、本科目開講以前に上記の資格を取得済みの場合でも、単位として認定します。ただし、同じ結果を英語資格Ⅰに利用することはできません。

【授業の計画】

資格認定書提出による科目のため、該当せず。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

計画的な自主学習を行い、目標を達成してください。資格取得のためには、まず、目標を定めることが必要です。検定試験の日程を十分に把握して、予定を立てて取り組んでください。実際の学習時間は、各自の事情によって異なりますが、少しの時間でも毎日行うことが効果的です。それに加えて休みの日などに集中して長時間取り組むことも更に効果が高いです。

受験に関して相談がある場合は、オフィスアワーの時間に受け付けます。

【履修上の注意・要望等】

【評価方法・基準】

基準に従って、単位認定を行います。ただし、認定は1回のみです。

【教 材】

特になし。参考ウェブページ：<http://ganesh.staff.mimasaka.ac.jp/wordpress/>

(学内のみ閲覧可能。学内ポータルサイトから「授業」を選んでそこからアクセスできます)

【キーワード】 英語資格、TOEIC、TOEFL、英検、国連英検

【授業科目】 ドイツ語 I

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 船盛 茂

(自室番号 小会議室)

【対象学生】 社会福祉学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

◎本授業は、ドイツ語の最も基礎的な事項の修得、合せて異文化への理解を深め、広い視野の涵養を目標とする。◎受講学生がドイツ語の発音のルールの基礎を理解し、平易な文章が読めるようになる、合せて基礎的な文法を理解し、辞書を使い平易な文章の和訳ができるようになることを到達目標とする。また、異文化への理解を深め、広い視野が持てるようになることも到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

テキストには自作の文法読本を用い、初級の学習(発音、基礎的な文法、簡単な読物の読み・和訳、日常会話)を学修する。更にドイツの自然、文化、伝統的な生活についても説明する。学修方法は演習：文法説明、読みや和訳・練習問題は指名して進める。

【授業の計画】

1. ガイダンス 1 (ドイツ語とは? ドイツ語形成の過程、ドイツ語圏)
2. ガイダンス 2 (ドイツ語とは? ドイツ語のスペル、ドイツ語の文法・発音などの特徴)
3. 発音練習 1 ドイツ語の発音の基本の説明 母音(重母音、複母音)
4. 発音練習 2 複母音の特殊な発音、子音(単子音及び複子音で注意すべき発音)
5. 発音練習 3 ドイツ語の挨拶表現により発音練習、ドイツの歴史の説明
6. 第 1 課文法 動詞の規則的な人称変化、定動詞の位置
7. 第 1 課文法 動詞の不規則な人称変化
8. 第 1 課文章の読みと訳、ドイツの地理の説明
9. 第 2 課文法 名詞の性と格
10. 第 2 課文法 定冠詞及び不定冠詞の格変化
11. 第 2 課文法 名詞の複数形の 5 つのパターン、ドイツのワイン・ビールについて
12. 第 2 課文章の読みと訳
13. 第 3 課文法 定冠詞類と不定冠詞類、ドイツの学校制度の説明
14. 第 3 課文法 人称代名詞
15. 第 3 課文章の読みと訳

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

予め次回学修する内容について目を通し、概略を理解して授業にのぞみ、学修後は内容の理解を深めると共に、その定着が図れるよう復習をすること。そのため週当たり 1 時間程、前期半年計 15 時間以上の自学自習をすること。

【履修上の注意・要望等】

基礎の学習であるため、欠席したら次からの学修理解が困難となるので欠席せず、また、不明点は遠慮なく質問すること。ドイツ語 I の履修では不十分であるため、後期のドイツ語 II も履修することを勧める。

【評価方法・基準】

到達目標の達成度の確認のためのテストによる成績を 9 割、学修への取組み姿勢を 1 割による総合評価

【教 材】

テキスト：担当者自作のテキスト(内容：文法読本)

参考文献：授業の中で指示、また、補足資料を授業の中で適時配布する。

【キーワード】 ドイツ語文法 ドイツの文化 ドイツの歴史 ドイツ語日常会話

【授業の目標及び到達目標】

◎本授業は、ドイツ語Ⅰの学修により修得した基礎的技能を下に、発音・文法の一層の広い理解と、それにより若干複雑な文章の和訳の能力の向上を目標とする。

◎受講学生が簡単な読物であれば、辞書を使って自分で読んでいける、また挨拶など簡単な日常会話ができるようになることを到達目標とする。また、異文化への一層の理解・広い視野の更なる涵養も到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

テキストはⅠと同じものを用い、この教材を通じて、前置詞や形容詞等についての文法の学修に加え、文章和訳、練習問題、簡単な会話を学習する。学修方法は演習：文法説明、読みや和訳・練習問題は指名して進める。

【授業の計画】

1. 第4課の文法 2、3、4格支配の前置詞とその使用法
2. 第4課の文法 3・4格支配の前置詞とその使用法
3. 第4課の文法 前置詞と定冠詞の融合形、命令文
4. 第4課の文章の読みと訳、ドイツの主要産業(特に自動車)の説明
5. 第5課の文法 形容詞の格語尾変化
6. 第5課の文法 形容詞の格語尾変化、形容詞の名詞化
7. 第5課の文章の読みと訳、ドイツの交通(特に水運・高速道路)の説明
8. 第6課の文法 形容詞の比較変化1：不規則変化の形容詞の学修と比較級の用法の学修
9. 第6課の文法 形容詞の比較変化2：最高級の用法の学修と練習問題
10. 第6課の文章の読みと訳1：難しい単語等の発音練習、指名して読ませる。
11. 第6課の文章の読みと訳：読み方の習熟学修、複雑な文章の構造解説と指名しての和訳
12. 第7課の文法 再帰動詞・再帰代名詞、グリム童話について
13. 第7課の文法 非人称の es、zu 不定詞
14. 第7課の文章の読みと訳1：難しい単語等の発音練習、指名して読ませる。
15. 第7課の文章の読みと訳2：読み方の習熟学修、複雑な文章の構造解説と指名しての和訳

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

予め次回学修する内容について目を通し、概略を理解して授業にのぞみ、学習後は理解を深めると共に、その定着が図れるよう復習をすること。そのため週当たり1時間程、後期半年計15時間以上の自学自習をすること。

【履修上の注意・要望等】

基礎の学習であるため、欠席したら次からの学習が困難となるので欠席せず、また、不明な点は遠慮なく質問するなど、積極的な姿勢で授業にのぞむこと。

【評価方法】

到達目標の達成度の確認のためのテストによる成績を9割、学修への取組み姿勢を1割による総合評価

【教 材】テキスト：担当者自作のテキスト(内容：文法読本)

参考文献：授業の中で指示、また、補足資料を授業の中で適時配布する。

【キーワード】ドイツ語文法 ドイツの文化 ドイツの歴史、ドイツ語の読み物

【授業科目】 韓国語 I

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 朴 貞淑

(自室番号 ***)

【対象学生】 社会福祉学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

① 授業の目標

アンニョンハセヨ！ 基礎から学ぶ韓国語である。韓国語は、語順及び語彙が日本語と最も近い言語であり、文字と発音さえしっかり身につければ、楽しく話せる外国語である。

本授業では、「聞く・話す・読む・書く」に関する基礎的な能力を養成することを目指す。

② 到達目標

1. 韓国語を正しく発音できる。 2. 簡単な挨拶と自己紹介ができる。 3. 基本的な日常生活のコミュニケーション能力を身に付ける。

【授業の内容及び方法】

本授業は、韓国語の文字・発音・文法などの基礎を理解し、基本表現を身に付け、簡単なコミュニケーションができる能力を学ぶ。ビデオ等の視聴覚教材を用いて、韓国の文化や社会への理解を深める。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 基本母音字(ハングルの構成)
3. 文化学習 (異文化の理解)
4. 基本子音字(ハングルの構成)
5. 合成母音字(母音と子音の構成)
6. パッチム(終声)、発音のルール
7. 文化学習 (異文化の理解)
8. あいさつ、自己紹介、
9. 趣味 (疑問詞)
10. 文化学習 (異文化の理解)
11. 訪問 (場所・位置・方向を表す指示詞)
12. 空港で (固有数詞・時刻・時間の表現)
13. 基本形・丁寧形・会話形
14. 平叙文・肯定文・否定文・疑問文
15. 前期のまとめ

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

教科書の CD を予習・復習に活用すること。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。30 時間自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

韓国語能力試験 (Test of Proficiency in Korean、TOPIK)は大韓民国政府教育省が認定・実施する韓国語試験である。国家資格試験に関する合格に向けて、韓国語受講生の能力に適したレベルに応じて、活躍できる基礎をつくる。

【評価方法・基準】

定期試験、レポート、受講態度により総合的に評価する。

定期試験 60%、レポート 20%、受講態度 20%とする。

【教 材】

教科書：改訂版 実践韓国語、朴 貞淑著、ふくろう出版

参考文献：プリント配布、NHK ハングル講座

【キーワード】

韓国語・ハングル文字・異文化理解

【授業科目】 韓国語Ⅱ

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 朴 貞淑

(自室番号 ***)

【対象学生】 社会福祉学科1年

【授業の目標及び到達目標】

① 授業の目標

本授業では、韓国語Ⅰに引き続き、文字と発音に重点を置きながら、使用頻度の高い語彙 また、基本的な文法や実践的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力を高める。また、ビデオ等の視聴覚教材を用いて、韓国の文化や社会の理解を深めることで、より効果的な学習を目指す。

② 到達目標

1. 日常生活の基本的なコミュニケーションができる。
2. 簡単な文書作成ができる。
3. 韓国の文化や社会への理解を深める。

【授業の内容及び方法】

本授業は、韓国語の文字・発音・文法などを理解し、基本表現を身に付け、コミュニケーションができる能力を学ぶ。視聴覚教材を用いて、韓国の文化の理解を深めることで、より効果的な学習を目指す。

【授業の計画】

1. ガイダンス(前期内容の復習)
2. レストランで(敬語の表現)
3. 意志・推測・依頼の表現
4. 地下鉄で(希望・願望の表現)
5. 文化学習(異文化の理解)
6. 何月何日ですか?(漢数詞、数詞)
7. 今日は何曜日ですか?(否定形、曜日の表現)
8. 文化学習(異文化の理解)
9. 家族(家族・親戚の名称)
10. ソウル旅行(現在進行形、誘い・推量の表現)
11. お正月(過去形、お正月の風習紹介)
12. 書店で(助数詞、通貨の表現)
13. 文化学習(異文化の理解)
14. 規則活用、不規則活用、
15. 後期のまとめ

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

教科書のCDを予習・復習に活用すること。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。30時間自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

韓国語能力試験(Test of Proficiency in Korean、TOPIK)は大韓民国政府教育省が認定・実施する韓国語試験である。国家資格試験に関する合格に向けて、韓国語受講生の能力に適したレベルに応じて、活躍できる基礎をつくる。

【評価方法・基準】

定期試験、レポート、受講態度により総合的に評価する。

定期試験 60%、レポート 20%、受講態度 20%とする。

【教 材】

教科書：改訂版 実践韓国語、朴 貞淑著、ふくろう出版：前期の続きになります。

参考文献：プリント配布、NHK ハングル講座

【キーワード】

韓国語・ハングル文字・異文化理解

【授業科目】 中国語 I

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 杉山明

(非常勤講師室)

【対象学生】 社会福祉学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

基礎的な中国語の単語 200 語程度を理解し、初歩的な中国語会話を実践できる。また日本とは異なる文化を知り、広い視野と柔軟な思考力を身につける。

【授業の内容及び方法】

テキストに従って授業を進める。

【授業の計画】

- 1、ガイダンスおよび発音練習（四声と単母音）
- 2、テキスト発音編第1課 ピンイン 複母音
- 3、発音編第2課 鼻母音 子音 有気音と無気音
- 4、第3課 声調の変化 e r 化 特別な i および発音練習（複母音）
- 5、本文第1課 数字 「有」の用法および
- 6、第2課 日付の言い方 A是Bの構文
- 7、第3課 曜日の言い方 ここまでのまとめと中間考査対策
- 8、中間考査
- 9、中間考査返却と解説および中国映画鑑賞
- 10、第3課 「叫」「姓」および疑問詞の用法
- 11、第4課 SVOの文型こそあど言葉
- 12、第4課 お金の言い方 第5課「在」の用法 重さ永津の言い方
- 13、第5課 反復疑問文 第6課 形容詞の用法 「太」の用法
- 14、第6課 助動詞の用法 第7課 時間の言い方
- 15、第7課 「会」「能」「可以」の用法 介詞の用法 および期末考査対策

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

毎時間小テストをするので必ずその準備をした上で講義に臨む。教材添付のCDをくり返し聞く。

日々の予習復習、あるいは試験準備の為に、概ね15時間程度の自主学習が必要である。

【履修上の注意・要望等】

教材添付のCDをくり返し聞く。自ら声を出して、発音を身につける努力を怠らない。また欠席すると小テストが受けられず0点になってしまうので欠席をしない。

【評価方法・基準】

平常点 50%（学習態度・授業時の応答 30%・小テスト 20%）

中間、期末テスト 50%

【教 材】

「理系のための中国語」好文出版

参考文献：中国語学習&異文化理解ハンドブック（アルク）

【キーワード】

中国語 会話 異文化理解

【科目名】 中国語Ⅱ

【単位】 1

【学期】 後期

【担当教員】 杉山 明

(非常勤講師室)

【対象学生】 社会福祉学科1年

【授業の目標及び到達目標】

基礎的な中国語の単語400語程度を理解し、初級程度の中国語会話を実践できる。また日本とは異なる文化を理解し、広い視野と柔軟な思考力を身につける。

【授業の内容及び方法】

テキストに従って授業を進める

【授業の計画】

- 1、ガイダンス テキスト第7課 復習
- 2、第8課 時間量の言い方 「了」の用法
- 3、第8課 介詞「離」「從」の用法 第9課 進行形
- 4、第9課 主述語文 語気助詞
- 5、第10課 経験文 動詞重ね型と「一下」
- 6、第10課 「是～的」の文 第11課 二重目的語
- 7、第11課 同格文と比較文 使役文
- 8、中間考査
- 9、中間考査返却と解説及び中国映画鑑賞
- 10、新テキスト第1課 様態補語 「越～越～」の用法
- 11、第1課 「先～再～」の用法 第2課 結果補語
- 12、第2課 可能補語 「一点」の用法 「A是A」の構文
- 13、第3課 把構文 仮定法
- 14、第3課 「差点」の用法 第4課 方向補語
- 15、第4課 禁止構文 「不管」の用法

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

毎時間小テストをするので必ずその準備をした上で講義に臨む。教材添付のCDをくり返し聞く。

日々の予習復習、あるいは試験準備の為に、概ね15時間程度の自主学習が必要である。

【履修上の注意・要望等】

教材添付のCDをくり返し聞く。自ら声を出して、発音を身につける努力を怠らない。また欠席すると小テストが受けられず0点になってしまうので欠席をしない。

【評価方法・基準】

平常点 50% (学習態度・授業時の応答 30%・小テスト 20%)

中間、期末テスト 50%

【教材】

「理系のための中国語・実践編」好文出版 参考文献：中国語会話&異文化理解ハンドブック（アルク）

【キーワード】

中国語 会話 異文化理解

【授業科目】 レクリエーション概論 【単 位】 2

【学 期】 前 期 【担当教員】 直原 一美

【対象学生】 社会福祉学科1年

【授業の目標及び到達目標】

少子高齢社会において、21世紀の社会福祉への新たなニーズに対応できる人材が求められています。

本講義では、レクリエーションの基本理念や各種の実践理論を学び、福祉施設（児童、高齢者、障害者）や地域社会等、身近な人々を支援する基礎能力を身につけます。さらに、現代社会の課題（家庭、学校、地域、少子高齢化、自然、心と体の健康など）解決に結びつくレクリエーション支援の展開と方法を学びます。

また、日本レクリエーション協会認定レクリエーション・インストラクター資格取得を目指す。

【授業の内容及び方法】

下記の授業計画にそって、様々な対象者に合わせた方法について学ぶ。

【授業の計画】

- 1、レクリエーションとは？ ～一方通行のコミュニケーションから相互のコミュニケーションへ～
- 2、レクリエーションの意義
- 3、レクリエーション運動を支える制度
- 4、レクリエーション・インストラクターの役割
- 5、ライフスタイルとレクリエーション
- 6、高齢社会の課題とレクリエーション
- 7、少子化の課題とレクリエーション
- 8、地域とレクリエーション
- 9、自然環境とレクリエーション
- 10、レクリエーション事業とは
- 11、事業計画1 個々人のアセスメントに基づいたプログラム
- 12、事業計画2 市民を対象とした事業のつくり方
- 13、事例紹介 感動！！のひととき 美作大学生スタッフも多数参加
『県立誕生寺支援学校・地域との交流会』
- 14、レクリエーション活動の安全管理
- 15、明日へつながるレクリエーション ※授業の計画は都合により前後する場合があります。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

レクリエーション・インストラクター資格取得希望者には、大学の授業以外に対象となる事業参加の指示をします。

日々の予習・復習については、休日や長期休業期間などを利用して授業で学習した内容を自主学習すること。概ね30時間の自主学習が必要。

【履修上の注意・要望等】

- ・遅刻、欠席は厳しくチェックする。また、講義中の私語、携帯電話の使用等、授業態度が悪い学生については厳しく処する。
- ・レクリエーション実技・実習と合せて履修することが望ましい。

【評価方法・基準】

試験（50％）課題提出（30％）授業態度（20％）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：「レクリエーション支援の基礎」（日本レクリエーション協会編）・・・買わなくてよい

参考文献：日本レクリエーション協会月刊誌（必要なときに配布する）

【キーワード】

- ・レクリエーション・福祉レクリエーション・高齢者のレクリエーション

【授業科目】 レクリエーション実技・実習 【単 位】 2

【学 期】 通 年 【担当教員】 直原 一美

【対象学生】 社会福祉学科1年

【授業の目標及び到達目標】

本授業の目的は、心と体の健康づくりに有効な様々なレクリエーション活動を体験し、コミュニケーション能力を高めることを目指し、21世紀の社会福祉の新たなニーズに対応できる人材を養成する。

また、日本レクリエーション協会認定レクリエーション・インストラクター資格取得をめざします。

【授業の内容及び方法】

下記「授業の計画」にそって、進めていく。

【授業の計画】

1. レクリエーションで幸せづくり（オリエンテーション）
2. コミュニケーション・ワーク（笑顔に出会えるレクリエーション）
3. ホスピタリティーとは？（快い関係づくり）
4. ホスピタリティー・トレーニング
5. アイスブレイキングとは？（緊張感をほぐそう）
6. アイスブレイキングの技法（交流しよう）
7. 目的にあわせたレクリエーション支援
8. 親子の絆を深めるレクリエーション
9. 地域の交流を深めるレクリエーション
10. 高齢者、障害を持った方々の生きがいにつながるレクリエーション
11. 自然と人をつなぐレクリエーション（自然と遊ぶネイチャーゲーム）
12. 体力に合わせたニュースポーツ①（ディスコン）
13. 体力に合わせたニュースポーツ②（キンボール）
14. 体力に合わせたニュースポーツ③（ソフトバレー）
15. 体力にあわせたニュースポーツ④（グラウンド・ゴルフ）
16. 脳のトレーニングになる・レクリエーション
17. 季節を演出するクラフト（手作りしよう！クリスマスを演出する折り紙）
18. 高齢者を対象に合せたレクリエーション
19. 幼児を対象に合せたレクリエーション
20. 演習1-1レクリエーションゲーム
21. 演習1-2レクリエーションダンス
22. 演習1-3レクリエーションソング
23. 演習1-4ニュースポーツ
24. 演習1-5クラフト
25. 演習1-6グループ・ワーク・トレーニング他
26. 演習2-指導案作成
27. 演習2-指導体験① 親子
28. 演習2-指導体験② 高齢者
29. 演習2-指導体験③ 障害者
30. 演習2-指導体験④ 一般

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

予習・復習については、休日や長期休業期間などを利用して授業で学習した内容を自主学習すること。概ね30時間の自主学習が必要。

【履修上の注意・要望等】

- ・遅刻、欠席は厳しくチェックする。また、講義中の私語や携帯電話の使用、態度が悪い学生については厳しく処する。
- ・学外授業『誕生寺支援学校と地域との交流会』（6月第2土曜日か第3土曜日のどちらかの予定）
- ・レクリエーション実技・実習の単位を取得するためには、現場実習（スタッフ参加）として相談援助演習Ⅰ・介護実習・教育実習等のいずれかの単位を取得する必要があります。
- ・レクリエーション・インストラクター資格取得希望者には大学の授業以外に事業参加・現場実習（前述）の指示をします。

【評価方法・基準】

試験（50%）提出課題（30%）授業態度（20%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：「レクリエーション支援の基礎」（日本レクリエーション協会編）・・・買わなくてよい
参考文献：日本レクリエーション協会の月刊誌など、必要なときに配布する。

【キーワード】

- ・レクリエーション・福祉レク・高齢者のレク・遊びでリハビリ・コミュニケーションゲーム・交流遊び

【授業科目】 スポーツ健康講義

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 谷口 陽子

(自室番号 G2)

【対象学生】 社会福祉学科1年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は「個人による健康の実現」のために行う。
健康の実現のために主体的に取り組むことができるようになる。

【授業の内容及び方法】

健康の概念、運動処方について概説する。

【授業の計画】

- 1 健康の概念
- 2 体力測定と評価
- 3 生活習慣病
- 4 肥満
- 5 運動処方
- 6 トレーニング法
- 7 運動と心の健康
- 8 ストレスマネジメント

【授業外の学修（予習・復習の指示、学習時間など）について】

授業後、大学生活での健康管理に役立てること。この授業を履修するにあたり概ね8時間程度の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

科目の性質上「スポーツ健康実習」と両方を受講することが望ましい。

【評価方法・基準】

筆記試験90%、授業態度10%

【教 材】

必要に応じてプリントを配布する。『大学生の健康・スポーツ科学』道と書院

【キーワード】

健康 体力 運動 ストレス

【授業科目】 スポーツ健康実習

【単 位】 1

【学 期】 通年

【担当教員】 谷口 陽子

(自室番号 G2)

【対象学生】 社会福祉学科1年

【授業の目標及び到達目標】

本授業の目的は、各種目の魅力を知り、運動後の爽快感を体感することである。
様々なスポーツ体験を通して、自分に合った生涯スポーツの発見を心がけるようになる。

【授業の内容及び方法】

球技3種目と野外活動の実技を行う。

【授業の計画】

1	オリエンテーション	13	バレーボール・フォーメーション練習A・試合
2	バドミントン・基本	14	バレーボール・フォーメーション練習B・試合
3	バドミントン・ダブルスのルール・サーブ	15	バレーボール・試合
4	バドミントン・スマッシュ・試合	16	スキー・ボード実習ガイダンス
5	バドミントン・ヘアピン・試合	17	スキー・ボード 基本 立ち方起き上がり方
6	バドミントン・ドロップショット・試合	18	スキー・ボード 基本 止まり方
7	バドミントン・サーブ・試合	19	スキー・ボード 基本 滑り方
8	バドミントン・試合	20	スキー・ボード 基本 リフトの乗り降り
9	バスケットボール・試合1回戦	21	スキー・ボード リフトを利用する
10	バスケットボール・試合2回戦	22	スキー・ボード フリー滑走 グレンデ1
11	バレーボール・基本・チーム分け	23	スキー・ボード フリー滑走 グレンデ2
12	バレーボール・スパイク・試合		

【授業外の学修（予習・復習の指示、学習時間など）について】

授業後の大学生活で運動の機会に積極的に参加すること、運動を習慣化していくこと。空き時間などを利用して概ね毎週1時間の自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

科目の性質上「スポーツ健康講義」の両方を受講することが望ましい。

【評価方法・基準】

受講態度60%、実技テスト20%、チーム等への貢献度20%

【教 材】

必要に応じてプリントを配布する。参考文献：『バレーボールの授業づくり』大修館書店 他

【キーワード】

スポーツ バドミントン バスケットボール バレーボール スキー スノーボード

【授業科目】 放送大学科目Ⅰ・Ⅱ

【単 位】

【学 期】 集 中

【担当教員】 長谷川 勝一

(自室番号 341)

【対象学生】 全学年 全学科

【授業の目標及び到達目標】

この授業では、放送大学との協定により本学の学生が受講可能な科目を通じて、多様な今日的課題に対する関心に答えることを目標とします。学生は、放送大学で提供されている授業科目から大学人として必要な教養を身につけることを到達目標とします。

【授業の内容及び方法】

放送大学の授業科目は、“生活と福祉”、“発達と教育”、“社会と経済”、“産業と技術”、“人間の探究”、“自然の理解”の6専攻に分かれており、人文・社会・自然・産業などの幅広い分野の科目が開設されています。自分の興味に応じて受講してください。

放送大学の授業は、テレビ又はラジオ、インターネットで行われる放送授業と印刷教材で進められます。再視聴することができるので、自分の生活リズムにあわせて学習することができます。

【授業の計画】

出願方法や開講科目など詳しいことは、教務課窓口へ相談してください。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

放送大学の科目で指示された課題に積極的に取り組む必要があります。概ね授業時間と同程度の時間（2単位科目であれば30時間程度を目安とします）の自主学修が必要となります。

【履修上の注意・要望等】

放送大学の「科目履修生」として、20名程度を受け入れます。

【評価方法・基準】

所定の単位数を認定します。

なお、この科目の単位認定は、放送大学で開講されている科目の単位を、本学の修得単位として組み入れる単位互換制度を利用するものです。

【教 材】

履修科目による

【キーワード】

なし

【授業科目】 大学コンソーシアム岡山科目Ⅰ・Ⅱ 【単 位】

【学 期】 集 中

【担当教員】 長谷川 勝一 （自室番号 341 ）

【対象学生】 全学科 全学年

【授業の目標及び到達目標】

この科目は、異なる専門分野をもつ大学間において、制度的・恒常的な交流を行うことにより、視野が広く行動力のある人間を養成することを目標として開講するものです。学生は、それぞれの大学の特徴を活かした学修活動を通じて、大学人としての教養を深めることができます。

【授業の内容及び方法】

「大学コンソーシアム岡山」は、岡山県内の高等教育機関が相互に連帯・協力し、持てる知的資源を積極的に活用し、また、地域社会及び産業界との緊密な連携推進によって、活力ある人づくり・街づくりへの貢献を目指し、その実現に取り組むことを目的に、平成18年4月1日に設置されました。協定大学は、以下の16大学です。

『大学コンソーシアム岡山』協定大学一覧

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| (1) 岡山大学 | (2) 岡山県立大学 |
| (3) 岡山学院大学 | (4) 岡山商科大学 |
| (5) 岡山理科大学 | (6) 川崎医科大学 |
| (7) 川崎医療福祉大学 | (8) 吉備国際大学 |
| (9) 倉敷芸術科学大学 | (10) くらしき作陽大学 |
| (11) 山陽学園大学(女子のみ) | (12) 就実大学 |
| (13) 中国学園大学 | (14) ノートルダム清心女子大学(女子のみ) |
| (15) 美作大学 | (16) 環太平洋大学 |

【授業の計画】

出願方法や開講科目など詳しいことは、教務課窓口へ相談してください。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

協定大学で実施される履修科目で指示された課題に積極的に取り組む必要があります。講義科目であれば、概ね授業時間と同程度の時間（2単位科目であれば30時間程度を目安とします）の自主学修が必要となります。

【履修上の注意・要望等】

「単位互換履修生」として、受入大学の規定を守ってください。

【評価方法・基準】

所定の単位数を認定します。

なお、この科目の単位認定は、大学コンソーシアム岡山に参加する岡山県内16大学間において、互いに学生の受け入れを行い、それぞれの受け入れ大学において修得した単位を、所属大学の正規の単位として組み入れる単位互換制度を利用するものです。

【教 材】

履修科目による。

【キーワード】

なし

【授業科目】 生活福祉論

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 小坂田 稔 (自室番号:521)

【対象学生】 社会福祉学科1年

【授業の目標及び到達目標】

現在のわが国の生活問題や地域課題、さらにそれら解決していくために果たす社会福祉制度・サービス及びソーシャルワーカーの役割・活動について、具体的な事例を通して理解を深めていくことをめざす。

個人や家族、地域社会の様々な生活課題について関心を深め、その解決に取り組むソーシャルワーカーの役割や仕事内容についてしっかりと理解する。

【授業の内容及び方法】

社会福祉の主要な領域の問題や活動について、具体的な実践事例により学んでいく。講義を主とするが、DVDや新聞資料などを活用していく。毎回、授業内容に沿った資料を配布する。

【授業の計画】

1. 「社会福祉」とは何かー社会福祉の概論
2. 児童の生活状況と福祉課題
3. 児童福祉とは何か
4. 高齢者の生活状況と福祉課題
5. 高齢者福祉とは何か
6. 障がい者の生活状況と課題
7. 障害者福祉とは何か
8. ソーシャルワーカーと権利擁護(1)・・・ 長島愛生園視察事前学習
9. 同 上 (2)・・・ ハンセン病問題について
10. 低所得者の生活状況と福祉課題
11. 生活保護とは何か
12. 児童問題の具体事例を基にソーシャルワークを考える(グループワーク)
13. 高齢者問題の具体事例を基にソーシャルワークを考える(グループワーク)
14. ホームレスの具体事例を基にソーシャルワークを考える(グループワーク)
15. 社会福祉専門職の役割と職業倫理を考える

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

自主的に授業に関係した文献を読んでいくこと。必要な文献は紹介及び貸し出しをする。

授業後に配布した資料を必ず再読し、疑問点をなくすこと。自主学習時間としては、概ね30時間程度を目安として確保すること。

【履修上の注意・要望等】

毎回確認テストを配布する。確認テストは、次回の授業までに必ず提出すること。授業での不明点は、このテストの質問欄に記入すること。

【評価方法・基準】

確認テスト(10%)、レポート(10%)、受講態度・グループワーク参加状況・発表内容(20%)、本試験(60%)との総合評価。

但し、本試験の点数が60点以上ない場合は不可とする。

【教 材】

教科書：指定なし

参考文献：社会福祉小六法・毎回の授業時に配布するレジメ資料・新聞記事・DVDなど

【キーワード】

ソーシャルワーカー 児童福祉 高齢者福祉 障害者福祉 生活保護 権利擁護 倫理綱領
ハンセン病 共感的理解

【授業科目】 社会の変化と社会福祉Ⅰ 【単 位】 2

【学 期】 前 期 【担当教員】 石飛 猛 石塚直人 (自室番号 526)

【対象学生】 社会福祉学科1年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、社会保障、社会福祉の歴史・考え方・制度としての概要などの基礎を理解することをめざす。学生は、社会政策・社会福祉・社会福祉士等について自ら説明できるようになる。

【授業の内容及び方法】

社会保障、社会福祉の基礎に関する内容を概説し、図表を多用して、学生との対話を重視しながら理解を深める。

【授業の計画】

1. 病気になったら関係する制度・組織（病院・医師・看護師、医療費、保険証、窓口負担）
2. 健康保険、年金保険、労働保険、介護保険法、民間保険
3. 医療供給 医療法、医療計画、診療報酬、支払い基金、国保連合会
4. 社会福祉法と福祉6法
5. 少子化・高齢化 法律、条例、社会支出統計、財政統計
6. 社会福祉士とは 社会福祉士法、社会福祉士会、専門職
7. 福祉国家思想①スミス、グリーン、ウェッブ、エンゲルス、マルクス
8. 福祉国家思想②ドイツにおける社会国家
9. 福祉国家思想③二十世紀イギリスにおける展開
10. 第二次大戦後の社会の変化と社会保険・社会福祉制度の変化 戦後復興期から高度成長期（～1973）
11. 第二次大戦後の社会の変化と社会保険・社会福祉制度の変化 高度成長期から安定成長期（1974～90）
12. 第二次大戦後の社会の変化と社会保険・社会福祉制度の変化 低成長期から現在（1991～）
13. 福祉国家再編の方向①コミュニティケアの動向
14. 福祉国家再編の方向②福祉多元主義の動向
15. 福祉国家再編の方向③ワークフェアの動向

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

新聞記事を毎日見るとともに、予習・復習（30分以上）を怠らないこと。この授業を履修するにあたり、概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

厚生労働省からの新着情報配信サービスの情報をパソコンに保存し活用できるようにすること。

【評価方法・基準】

定期試験（50%）、提出課題（30%）、受講態度（20%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：『社会福祉政策』坂田周一 2014年 有斐閣

参考文献：『はじめての社会保障』椋野・田中 2016年 有斐閣

【キーワード】

高齢化、少子化、社会保険、社会福祉、社会福祉士、社会福祉法、専門職、社会科学、社会政策、福祉多元主義、コミュニティケア、ワークフェア

【授業科目】 児童や家庭に対する支援と
児童・家庭福祉制度 I

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 有岡 道博 (自室番号 529)

【対象学生】 社会福祉学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

現在、我が国では、少子・高齢化が急速に進み、児童を取り巻く環境は大きく変化してきている。本授業ではこうした中、今子ども達が置かれている生活実態や問題について理解していくとともに、現在取り組まれている児童福祉施策についての理解を深めることを目的とする。学生はこれらの施策についての知識修得をめざす。

【授業の内容及び方法】

教科書を中心として、子ども達の生活を支える支援と制度を学んでいく。そして、新聞、テレビ、インターネットなどの様々な分野から題材を選び、グループ討議を利用して学習をより深めていく。

【授業の計画】

- 1 少子高齢社会と次世代育成支援
- 2 現代社会と子ども家庭の問題
- 3 子どもの育ちと子育てのニーズ
- 4 子どものための福祉の原理
- 5 子ども家庭福祉の理念
- 6 子どもと家庭の権利保障
- 7 子ども福祉の発展
- 8 子ども家庭福祉の法律体系
- 9 子ども家庭福祉の実施体制
- 10 子ども家庭福祉の財政
- 11 子ども家庭福祉の専門職
- 12 苦情解決と権利擁護
- 13 子どもの権利条約
- 14 事例を基に援助対策を考える I (グループ討議)
- 15 事例を基に援助対策を考える II (グループ討議)

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

毎回必ず確認テスト (60 分程度) で予習を行うのでしっかりと履修しておくこと。確認テストは、次回の授業日に必ず提出すること。授業で不明の点は、このテストの質問欄に記入すること。復習については、レジメ資料などの確認 (60 分程度) を授業後に行うこと。(計 30 時間程度)

【履修上の注意・要望等】

児童福祉の根底である「子どもの権利条約」を理解し、授業に臨むこと。グループ課題もあるので、各自積極的な姿勢で協力していくこと。

【評価方法・基準】

確認テスト (20%) および受講態度 (20%)、定期試験 (60%) 等との総合評価とする。

【教 材】

「新・社会福祉士養成講座『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』(中央法規出版)。新聞記事やビデオ教材などを使用するとともに、具体的な事例を紹介し、考えていくこととする。

毎回要点を整理したプリント (レジメ) を配付する。

【参考文献】「歴史の中の子どもたち」森良和 学文社

【キーワード】

少子高齢社会 子どもの権利条約 児童相談所 虐待 児童福祉施設 ソーシャルワーカー

【授業科目】 児童や家庭に対する支援と
児童・家庭福祉制度Ⅱ

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 有岡 道博 (自室番号 529)

【対象学生】 社会福祉学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

現在、我が国では、少子・高齢化が急速に進み、児童を取り巻く環境は大きく変化してきている。本授業ではこうした中、今子ども達が置かれている生活実態や問題について理解していくとともに、現在取り組まれている児童福祉施策についての理解を深めることを目的とする。学生はこれらの施策についての知識修得をめざす。

【授業の内容及び方法】

教科書を中心として、子ども達の生活を支える支援と制度を学んでいく。そして、新聞、テレビ、インターネットなどの様々な分野から題材を選び、グループ討議を利用して学習をより深めていく。

【授業の計画】

- 1 母子保健
- 2 障害・難病のある子どもと家族への支援
- 3 児童健全育成
- 4 保育
- 5 子育て支援
- 6 ひとり親家庭の福祉
- 7 児童の社会的養護サービス
- 8 非行児童・情緒障害児への支援
- 9 児童虐待対策
- 10 子どもと家庭にかかわる女性福祉
- 11 子ども家庭への相談援助
- 12 施設ケアと子ども家庭福祉援助活動
- 13 地域援助活動とネットワーク
- 14 事例を基に援助対策を考えるⅠ (グループ討議)
- 15 事例を基に援助対策を考えるⅡ (グループ討議)

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

毎回必ず確認テスト (60 分程度) で予習を行うのでしっかりと履修しておくこと。確認テストは、次の授業日に必ず提出すること。授業で不明の点は、このテストの質問欄に記入すること。復習については、レジメ資料などの確認 (60 分程度) を授業後に行うこと。(計 30 時間程度)

【履修上の注意・要望等】

児童福祉の根底である「子どもの権利条約」を理解し、授業に臨むこと。グループ課題もあるので、各自積極的な姿勢で協力していくこと。

【評価方法・基準】

確認テスト (20%) および受講態度 (20%)、定期試験 (60%) 等との総合評価とする。

【教 材】

「新・社会福祉士養成講座『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』(中央法規出版)。新聞記事やビデオ教材などを使用するとともに、具体的な事例を紹介し、考えていくこととする。

毎回要点を整理したプリント (レジメ) を配付する。

【参考文献】「歴史の中の子どもたち」森良和 学文社

【キーワード】

少子高齢社会 子ども権利条約 児童相談所 虐待 児童福祉施設 ソーシャルワーカー

【授業科目】 高齢者に対する支援と
介護保険制度Ⅰ

【単 位】 2

【学 期】 前期

【担当教員】 ○堀川涼子・若林美佐子 (自室番号：527)

【対象学生】 社会福祉学科1年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、社会的課題となっている少子高齢社会における高齢者福祉の諸問題を理解し、高齢者福祉に関する制度やサービスを学ぶことを目標とする。これにより学生が、高齢者福祉に関心を持ち、将来高齢者支援に活かすことができるようになることを目標とする。

【授業の内容及び方法】

高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉制度・介護方法について学ぶ。高齢者の福祉・介護に係る法制度の概要について、特に介護保険制度を中心に理解を深める。授業方法は、講義を主とするが、途中、DVD等の視聴覚教材を使用したり、グループワークを取り入れたりして授業を行う。

【授業の計画】

1. 少子高齢社会の現状
2. 高齢者の特性① 社会的理解
3. 高齢者の特性② 身体的理解
4. 高齢者の特性③ 精神的理解
5. 高齢者の介護 認知症ケア・終末期ケア等
6. 少子高齢社会と高齢者
7. 高齢者福祉制度の歴史① ゴールドプランまで
8. 高齢者福祉制度の歴史② ゴールドプラン以降
9. 高齢者保健福祉の発展と法体系
10. 高齢者支援の関係法規① 老人福祉法 在宅サービス
11. 高齢者支援の関係法規② 老人福祉法 施設サービス
12. 高齢者支援の関係法規③ その他の関係法規
13. 介護保険法の概要① 介護保険法の目的・理念
14. 介護保険法の概要② 介護保険制度の概要
15. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業前にテキストの該当の個所を読み予習をすること、授業後に疑問点等を配布資料やテキストで確認しておくこと。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間程度の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

「高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ」を履修しないと「高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ」を履修できないため注意すること。後期開講の「介護概論」も併せて受講すること。

卒業必修科目であるため全員履修すること。

【評価方法・基準】

試験（80%）・レポート（10%）・受講態度（10%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：社会福祉士養成講座「高齢者に対する支援と介護保険制度」（中央法規出版）

その他：社会福祉小六法・授業中に配布する資料

【キーワード】

少子高齢社会 高齢者支援 老人福祉 介護保険制度（介護保険法）

【授業科目】 高齢者に対する支援と
介護保険制度Ⅱ

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 堀川 涼子

(自室番号 527)

【対象学生】 社会福祉学科1年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、社会的課題となっている少子高齢社会における高齢者福祉の諸問題を理解し、高齢者福祉に関する制度やサービスを学ぶことを目標とする。これにより学生が、高齢者支援に活かすことができるようになることを目的とする。

【授業の内容及び方法】

高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について学ぶ。特に介護保険制度を中心に、制度の概要とサービス体系、高齢者支援の実際として高齢者虐待の現状と課題等について理解する。授業方法は、講義を主とするが、途中、DVD等の視聴覚教材を使用したり、事例演習を取り入れたりして授業を行う。

【授業の計画】

1. 介護保険法の概要① 要介護認定の仕組みとプロセス
2. 介護保険法の概要② 保険給付
3. 介護保険法の概要③ 介護予防と地域支援事業
4. 介護保険のサービス体系① 介護支援専門員
5. 介護保険のサービス体系② 居宅サービス
6. 介護保険のサービス体系③ 施設サービス
7. 介護保険のサービス体系④ 介護予防サービス
8. 介護保険のサービス体系⑤ 地域密着型サービス
9. 介護保険のサービス体系⑥ その他のサービス
10. 高齢者虐待防止・養護者支援について
11. 高齢者支援の方法と実際
12. 高齢者を支援する組織と役割① 行政機関の役割
13. 高齢者を支援する組織と役割② 地域包括支援センターの役割
14. 高齢者を支援する組織と役割③ 居宅介護支援事業者・指定サービス事業者
15. 高齢者を支援する組織と役割④ 社会福祉協議会・ボランティア等

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業前にテキストの該当の個所を読み予習をすること、授業後に疑問点等を配布資料やテキストで確認しておくこと。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間程度の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

「高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ」を履修しないと「高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ」を履修できないため注意すること。相談援助実習必修科目。「介護概論」も併せて受講すること。

【評価方法・基準】

試験（80％）・小テスト（5％）・レポート（5％）・受講態度（10％）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：社会福祉士養成講座「高齢者に対する支援と介護保険制度」（中央法規出版）

その他：社会福祉小六法・授業中に配布する資料

【キーワード】

少子高齢社会 高齢者支援 老人福祉 介護保険制度（介護保険法）

【授業の目標及び到達目標】 本授業では、さまざまな生活課題や問題を抱え介護を必要としている高齢者や障害者、その家族に深い関心と問題意識を持ち理解するために必要な知識や介護の基本的な技術の習得をめざす。介護について説明ができ、介護職や介護問題への理解が深まることで介護ニーズや介護過程、多職種との連携についても説明できる。また基本的な介護技術を習得することができる。

【授業の内容及び方法】 授業計画に沿って教科書や資料を中心とし授業を進めていく。新聞記事やインターネットからの情報を参考にするなどし、またグループ討議などでさらに理解を深めていくこととする。介護技術の基本的な知識と技術を習得するために、講義とグループやペアになり技術演習を行う。また介護用品や福祉機器を実際に使用しての演習も行う。

【授業の計画】

1. 介護（ケア）とは何か 1) 介護の概念と歴史 2) 今日の介護問題とその背景
2. 介護を必要としている人の理解と介護の役割①（生活の概念 自立支援に向けた介護）
3. 介護を必要としている人の理解と介護の役割②（高齢者の心身の特徴と介護の役割）
4. 介護を必要としている人の理解と介護の役割③（障害のある人への理解と介護の役割）
5. 介護を必要としている人の理解と介護の役割④（認知症のある人への理解と介護の役割）
6. 介護を必要としている人の理解と介護の役割⑤（終末期にある人への理解と介護の役割）
7. 介護技法の基本①（住環境の整備と安全管理、福祉用具の活用）
8. 介護技法の基本②（衣服の着脱介助）
9. 介護技法の基本③（移動・移乗の介助）
10. 介護技法の基本④（杖歩行と車いすの介助）
11. 介護技法の基本⑤（身体の清潔と感染予防）
12. 介護技法の基本⑥（食事の介助）
13. 介護技術の基本⑦（介護過程の展開）
14. 介護を担う保健・医療・福祉の専門職との連携
15. さまざまな介護現場における介護活動（介護現場における社会福祉士と介護福祉士の役割）

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】 授業後に講義・演習を振り返り、より理解を深めるために授業で学修した内容について、毎回授業で出されるレポート課題に取り組み自主学修すること。概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】 授業には主体的参加と協働の意識をもって出席してください。介護技法の授業では運動の出来る服装（ジャージ等）を準備してください。

【評価方法・基準】 受講態度（20%） レポート（20%） 定期試験（60%）

【教 材】

教科書：新・社会福祉士養成講座13 「高齢者に対する支援と介護保険制度」 中央法規出版

参考教材：社会福祉学習双書2017 「介護概論」 全社協

新・介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」 4「介護の基本Ⅱ」 中央法規出版

「介護概論」 編著 小池妙子 共著 丸山美智子 他 建帛社

【キーワード】

介護問題 尊厳の保持 自立支援 QOLの向上 介護予防 介護技術 多職種との連携 認知症介護

【授業の目標及び到達目標】

本授業では生活保護制度を柱にしながら、低所得者に対する制度や政策を学んでいくことを目標としている。授業の中では低所得者や生活困窮者のさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、社会福祉政策について理解できるように行う。

学生は下記の項目についての能力を身につけることを目指す。

1. 貧困とは何かについての説明ができる。
2. 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解できる。
3. 相談援助活動において必要となる生活保護制度の仕組みについて説明できる。
4. 生活保護制度以外の低所得者支援に関する制度について説明できる。

【授業の内容及び方法】

貧困に関係する身近な社会問題を取り上げながら、公的扶助の全体像を理解するとともに、相談援助活動における生活保護制度やその他の低所得者対策の具体的な活用方法について、ディスカッションや事例検討を交えながら学んでいきます。適宜、DVD などによる映像教材も活用する。

【授業の計画】

1. 公的扶助とは何か：概念・範囲・意義・役割
2. 貧困問題を取り巻く動向：何が問題で、どんなことが議論されているのか
3. 貧困と社会的排除
4. 公的扶助の歴史：日本と諸外国
5. 生活保護制度の原理・原則
6. 生活保護制度の種類と内容
7. 生活保護制度における保護基準
8. 被保護者の権利と義務
9. 保護施設の種別と目的
10. 生活保護の実施体制
11. 生活保護における自立支援プログラム
12. 低所得者対策：生活福祉資金貸付制度、社会手当ほか
13. 生活困窮者対策：生活困窮者自立支援制度
14. 朝日訴訟を学ぶ
15. 事例検討：ゲストスピーカにより近年の社会問題から事例提供。

テーマ例：ワーキングプア、無縁社会、こどもの貧困

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

講義内で実施する確認テスト範囲の予習（次回講義までに 60 分程度）、講義内での強調した重要項目についての復習（次回講義までに 60 分程度）を行っておいてください。その他休日や長期休業期間などを利用して復習や課題作成をすること。自主学修時間は概ね 30 時間必要。

【履修上の注意・要望等】

授業には主体的参加と協働の意識をもって出席してください。

【評価方法・基準】

期末試験 90% レポート 10%

【教 材】

教科書：新社会福祉士養成講座『低所得者に対する支援と生活保護制度』中央法規出版

参考文献：成清美治ほか編『低所得者に対する支援と生活保護制度』学文社

生活保護制度研究会編『保護のてびき』第一法規

生田武志『釜ヶ崎から…貧困と野宿の日本…』ちくま文庫

【キーワード】

生活保護 貧困 低所得 生存権 自立

【授業科目】 相談援助の基盤と専門職Ⅰ 【単 位】 2

【学 期】 前 期 【担当教員】 薬師寺 明子 (自室番号 520)

【対象学生】 社会福祉学科1年

【授業の目標及び到達目標】

地域生活上の課題は、多様化・深刻化・潜在化の様相を呈している。本授業は、地域における生活課題を地域で解決するための仕組みづくりを学ぶことを目標とする。そして、「総合的かつ包括的な相談援助」の担い手となるよう援助技術の基礎的部分を学び理解する。

【授業の内容及び方法】

相談援助業務を遂行できるようになるため、ソーシャルワークの基礎を学ぶ。ソーシャルワークの概念や意義、理念、価値、倫理等について講義及び演習を通して学ぶ。

【授業の計画】

1. オリエンテーション・社会福祉士とは
2. 社会福祉士の役割と意義
3. 現代社会と地域生活
4. 専門的な援助関係とコミュニケーション
5. ソーシャルワークの定義
6. ソーシャルワークの概念
7. ソーシャルワークの構成要素
8. ソーシャルワークの理念①価値
9. ソーシャルワークの理念②実践と価値
10. ソーシャルワークの構成要素④知識・技術
11. ソーシャルワークの構成要素⑤社会資源
12. クライエントの尊厳と自己決定
13. ノーマライゼーション
14. ソーシャルワーク実践と権利擁護
15. 専門職倫理と倫理的ジレンマ

【授業外の学修（予習・復習の指示・学修時間など）について】

事前にテキストを読んでおくこと。専門用語や制度等については随時確認するとともに受講後30時間程度の自主学修を行うこと。

【履修上の注意・要望等】

卒業必修科目・演習を取り入れた内容もある。積極的に参加すること。

【評価方法・基準】

受講態度（20%）・提出課題（10%）・定期試験（70%）

なお、定期試験の成績が6割未満の場合は不可となる。

【教 材】

相談援助の基盤と専門職 第3版（中央法規出版）・随時配布する資料

【キーワード】

社会福祉士・相談援助・社会福祉援助技術・ソーシャルワークの構成要素

【授業科目】 相談援助の基盤と専門職Ⅱ 【単 位】 2

【学 期】 後 期 【担当教員】 薬師寺 明子 (自室番号 520)

【対象学生】 社会福祉学科1年

【授業の目標及び到達目標】

地域生活上の課題は、多様化・深刻化・潜在化の様相を呈している。本授業は、地域における生活課題を地域で解決するための仕組みづくりを学ぶことを目標とする。そして、「総合的かつ包括的な相談援助」の担い手となるよう援助技術の基礎的部分を学び理解する。

【授業の内容及び方法】

相談援助業務を遂行できるようになるため、ソーシャルワークの基礎を学ぶ。ソーシャルワークの概念や意義、理念、価値、倫理等について講義及び演習を通して学ぶ。

【授業の計画】

1. オリエンテーション・ジェノグラムとエコマップ
2. 演習 (ジェノグラムとエコマップ)・ライフヒストリー
3. 演習 (ライフヒストリー)
4. 社会福祉援助技術の体系と構成内容①直接援助技術
5. 社会福祉援助技術の体系と構成内容②間接援助技術・関連援助技術
6. 相談援助の形成過程①個別援助技術
7. 相談援助の形成過程②集団援助技術・地域援助技術
8. 日本におけるソーシャルワークの展開
9. 個別援助技術の意義・定義
10. 集団援助技術の意義・定義
11. 専門職倫理
12. 社会福祉士の倫理綱領
13. ケースワークの原則① (バーステックの7原則・原則1～原則4)
14. ケースワークの原則② (バーステックの7原則・原則5～原則7)
15. 総合的かつ包括的な相談援助

【授業外の学修 (予習・復習の指示・学修時間など) について】

事前にテキストを読んでおくこと。専門用語や制度等については随時確認するとともに受講後30時間程度の自主学修を行うこと。

【履修上の注意・要望等】

卒業必修科目・演習を取り入れた内容もある。積極的に参加すること。

【評価方法・基準】

受講態度 (20%)・提出課題 (10%)・定期試験 (70%)

なお、定期試験の成績が6割未満の場合は不可となる。

【教 材】

相談援助の基盤と専門職 第3版 (中央法規出版)・随時配布する資料

【キーワード】

社会福祉援助技術・相談援助技術の体系・相談援助技術の構成内容・社会福祉士の倫理綱領

【授業科目】 社会の変化と社会福祉Ⅱ 【単 位】 2

【学 期】 後 期 【担当教員】 石飛 猛 (自室番号 526)

【対象学生】 社会福祉学科1年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、社会の近代化に伴って発生した社会問題とその対策について、哲学、政治学、経済学、社会学等の視点から概要を理解することを目標とする。学生は、福祉国家について自ら説明できるようになる。

【授業の内容及び方法】

社会政策論および福祉国家論への導入を概説し、図表を多用して、学生との対話を重視しながら理解を深める。

【授業の計画】

1. 社会契約説 ホブズ、ロック、ルソー
2. 産業革命
3. 社会契約説批判 スミス (スコットランド啓蒙)
4. 国家と社会 (社会的なもの)
5. 経済学と貧困—スミス、ベンサム、マルサス、リカード、J.S.ミル
6. 社会の発見 (福田徳三「社会の発見」『社会政策と階級闘争』第1章)
7. 社会問題の発見①エンゲルス、マルクス、ブース、ラウントリー
8. 社会問題の発見②デュルケーム、ヴェーバー
9. 福祉国家の形成①ヘーゲル、シュモラー、ブレンターノ、福田徳三、河上肇
10. 福祉国家の形成②グリーン、ウェップ夫妻、ピスマルク、ロイド・ジョージ
11. 福祉国家の形成③ベヴァリッジ、ケインズ、産業化論・権力資源論・国家論アプローチ
12. 福祉国家の再編①マーシャル、ティトマス、ウィレンスキー、エスピン-アンデルセン
13. 福祉国家の再編②福祉多元主義、コミュニティケア、ワークフェア
14. 福祉国家の論点①—目標、必要、供給
15. 福祉国家の論点②—社会的排除、社会的包摂

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

新聞記事を毎日見るとともに予習・復習 (30分以上) を怠らないこと。この授業を履修するにあたり、概ね 30 時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

厚生労働省からの新着情報配信サービスの情報をパソコンに保存し活用できるようにすること。

【評価方法・基準】

定期試験 (50%)、提出課題 (30%)、受講態度 (20%) により総合的に評価する。

【教 材】

教科書 : 『社会福祉政策』第3版 坂田周一 2014年有斐閣

参考文献 : 『社会福祉思想の革新』山脇直司 2005年 かわさき市民アカデミー講座ブックレット

『社会政策の視点』坏洋一ほか編 2011年 法律文化社

『福祉国家』坏洋一 2012年 法律文化社

【キーワード】

社会政策、福祉国家、福祉社会、社会保険、社会福祉、社会的排除、社会的包摂、福祉多元主義、コミュニティケア、ワークフェア

【授業の目標及び到達目標】個人や家族、地域社会の様々な問題に関心と問題意識を持ち、その解決に向けて取り組むことの1つの側面として、心理学概論からさらに進んだ内容の習得が目標。基礎知識の習得と、様々な人間関係や心理的問題の支援に一部でも応用できることを目指す。また社会福祉専門職（ソーシャルワーカー）に必要な心理学面の基礎知識を説明できるようになること。

【授業の内容及び方法】心理的な問題の支援や解決法として実践的に使われる行動変容法の理論的基礎にあたる内容や性格心理学・心理療法に関係する理論や知見を解説する。応用のために具体例での説明も行う。授業方法は、講義を主とするが、小テストによる理解度確認なども行う。

【授業の計画】

1. 学習と記憶 1 [エピソード記憶・意味記憶・習慣とスキル・情動条件付け・骨格筋反射条件付け]
2. 学習と記憶 2 [習慣行動の形成 (オペラント条件付け)]
3. 認知と記憶 [注意機能・ワーキングメモリ・メタ認知, 記憶の変容・虚記憶など]
4. 動機付け [ホメオスタシス性・非ホメオスタシス性動因と, それらの心理的側面など]
5. 個人差 1 [基本的感情・発動性パターン: 乳幼児の気質研究など]
6. 個人差 2 [基本的感情・発動性パターン: 古典的理論]
7. 個人差 3 [クロニンジャーとグレイの気質説・ロスバート&ポスナーの気質説]
8. 個人差 4 [性格の 5 要因説]
9. 個人差 5 [5 要因説続き: 各因子の説明など]
10. 発達 [人の一生の変化]
11. 特定学派 1 [精神分析など]
12. 特定学派 2 [防衛機制・来談者中心療法など]
13. 心理療法 [認知行動療法・回想法・音楽療法]
14. 社会的要因 1 [返報性ルールなど]
15. 社会的要因 2 [認知的不協和 (説得, セールス, マインドコントロール) など]

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】 日々の予習・復習、試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね 30 時間程度の自主学修が必要。単元が数回に渡るときは、各回の復習をしておかないと、次回の内容が理解しにくくなる。

【履修上の注意・要望等】大学の講義に慣れるという意図もあって、黒板を写すだけでなく、話を聞きながら適宜要約しつつ、ノートを取る練習もして欲しい。

【評価方法・基準】

定期試験 (90%) と受講態度 (10%)

【教 材】

板書と配布資料。

また〈参考図書〉は、新・社会福祉士養成講座 (2) 心理学理論と心理的支援 社会福祉士養成講座編集委員会編, 中央法規出版

【キーワード】

学習, 記憶, 動機付け, 性格 (人格), 発達, 気質, 防衛機制, 認知的不協和

社会福祉学科 2年

1. 教養・基礎教育科目

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年				資格	備考	頁
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉		
導入科目	1年次セミナー	演習	2		○						
共通教養科目	現代生活論	講義		2	○						
	国際社会と日本	講義		2	○						
	地球環境論	講義		2	○						
	人権教育	講義		2	○						
	日本国憲法	講義		2	○				◎		
	調査と統計	講義		2		○					59
	心理学概論	講義	2		○						
	日本語リテラシー	講義		2	○						
キャリア科目	キャリアデザイン論	講義		1	○						
	ボランティア論（教育系）	講義		1	不開講						
	ボランティア論（福祉系）	講義		1	○	○	○	○			16
	インターンシップ実習	実習		1	○	○	○	○			17
	ボランティア実習	実習		1	○	○	○	○			18
情報リテラ	情報リテラシーⅠ	演習		2	○					この3科目の中から、2科目4単位以上選択必修	
	情報リテラシーⅡ	演習		2	○				◎		
	情報リテラシーⅢ	演習		2				○			
外国語科目	英語Ⅰ	演習	1		○					この10科目の中から、2科目2単位以上選択必修	
	英語Ⅱ	演習	1		○						
	英語Ⅲ	演習		1		○			◎		60
	英語Ⅳ	演習		1		○			◎		61
	英語資格認定Ⅰ	実習		1	○	○	○	○			27
	英語資格認定Ⅱ	実習		2	○	○	○	○			28
	ドイツ語Ⅰ	演習		1	○						
	ドイツ語Ⅱ	演習		1	○						
	韓国語Ⅰ	演習		1	○						
	韓国語Ⅱ	演習		1	○						
	中国語Ⅰ	演習		1	○						
中国語Ⅱ	演習		1	○							
スポーツ科目	レクリエーション概論	講義		2	○					この4科目の中から、2科目2単位以上選択必修	
	レクリエーション実技・実習	実習		2	○						
	スポーツ健康講義	講義		1	○				◎		
	スポーツ健康実習	実習		1	○				◎		
単位互換科目	放送大学科目Ⅰ	—	—	—	○	○	○	○		通算して4単位まで卒業要件に含めることができる	39
	放送大学科目Ⅱ	—	—	—	○	○	○	○			39
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅰ	—	—	—	○	○	○	○			40
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅱ	—	—	—	○	○	○	○			40
学科基礎科目	生活福祉論	講義		2	○						
	住まいと福祉	講義		2		○					62
	福祉情報コミュニケーション	演習		2		○					63
	社会の変化と社会福祉Ⅰ	講義		2	○						
	数学の基礎	講義		2		○					64

【卒業要件】必修科目6単位、選択必修科目8単位以上を含めた計30単位以上を修得のこと。

【備考1】教員免許欄の◎印科目=必修科目。

2. 専門教育科目

区分	授 業 科 目	授業 形態	単位数		配当学年				資格		備 考	頁
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉	福祉士		
専門 基幹 科目	現代社会と福祉Ⅰ	講義	2			○				◎	◎	65
	現代社会と福祉Ⅱ	講義		2		○				◎	◎	66
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ	講義	2		○					◎	◎	
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ	講義		2	○					▲	◎	
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義	2				○			▲	◎	
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義	2		○					◎	◎	
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義		2	○					▲	◎	
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ	講義	2			○				◎	◎	67
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ	講義		2		○				▲	◎	68
	介護概論	講義		2	○					◎		
	加齢の理解	講義		2		○				◎		69
	障害の理解	講義		2		○				◎		70
	中山間地福祉のまちづくり	講義		2				○				
	NPO・ボランティア活動論	講義		2		○						71
	安全・安心のまちづくり	講義		2			○					
	地域づくりと環境デザイン(演習)	演習		2		○						72
	地域づくりと住民参加(演習)	演習		2		○						73
地域経済・地域財政からみたまちづくり	講義		2				○					
専門 展 開 科 目	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義		2	○					◎	◎	
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義		2			○			▲	◎	
	社会福祉事業史	講義		2			○					
	社会保障Ⅰ	講義		2		○				◎	◎	74
	社会保障Ⅱ	講義		2		○				◎	◎	75
	福祉行財政と福祉計画	講義		2				○		◎	◎	
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○					◎	◎	
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○					◎	◎	
	相談援助の理論と方法Ⅰ	講義		4		○				▲	◎	76
	相談援助の理論と方法Ⅱ	講義		4			○			▲	◎	
	社会調査の基礎	講義		2			○			▲	◎	
	社会の変化と社会福祉Ⅱ	講義		2	○							
	福祉サービスの組織と経営	講義		2			○			▲	◎	
	権利擁護と成年後見制度	講義		2			○				◎	
	就労支援サービス	講義		1			○			▲	◎	
	更生保護制度	講義		1			○				◎	
	相談援助演習Ⅰ	演習		1		○				◎	◎	77
	相談援助演習Ⅱ	演習		1			○			◎	◎	
	相談援助演習Ⅲ	演習		1			○			◎	◎	
	相談援助演習Ⅳ	演習		1				○		◎	◎	
	相談援助演習Ⅴ	演習		1				○		◎	◎	
	社会福祉体験実習指導	演習		1			○					
	社会福祉体験実習	実習		1			○					
	相談援助実習指導	演習		3				○		◎	◎	
	相談援助実習	実習		4				○		◎	◎	
	介護実習	実習		1			○			◎		
	人体の構造と機能及び疾病	講義		2		○					◎	78
	人体構造及び日常生活行動に関する理解	講義		2		○				◎		79
	リハビリテーション論	講義		2		○				▲		80
	心理学理論と心理的支援	講義		2	○						◎	
	社会理論と社会システム	講義		2		○					◎	81
	医療ソーシャルワーク論	講義		2			○					
保健医療サービス	講義		2			○				◎		
精神保健	講義		2			○						
家庭支援論	講義		2			○						
福祉情報論及び同演習	演習		2		○				▲		82・83	
ウェブリテラシー演習	演習		2		未開講							
福祉のまちづくり基礎演習	演習		2			○						
福祉のまちづくり論	講義		2				○					

区分	授 業 科 目	授業形態	単位数		配当学年				資格		備 考	頁
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉	福祉士		
その他の専門科目	衣生活論	講義		2		未開講						
	食生活論	講義		2		未開講						
	家庭経営学概論	講義		2		未開講						含 家庭経済学
	保育及び家庭看護学	講義		2		未開講						含 保育実習
	教育心理学	講義		2		○				◎		84
	福祉デザイン(衣)論	講義		2		○						85
	福祉デザイン(衣)演習	演習		2		○						86
	情報のユニバーサルデザイン論	講義		2			○					
	パソコン基礎演習	演習		2		○						87
	パソコン演習Ⅰ	演習		2		○						88
	パソコン演習Ⅱ	演習		2			○					
	パソコン実践演習	演習		2			○					
	簿記会計学	講義		2			○					
卒業研究系	特別演習Ⅰ	演習	2			○						
	特別演習Ⅱ	演習		2				○				
	特別演習Ⅲ	演習	1					○				
	卒業研究	演習		4				○				

【卒業要件】 専門基幹科目24単位以上（必修科目10単位含む）、専門展開科目40単位以上（必修科目4単位含む）、卒業研究系3単位以上（必修科目3単位を含む）及びその他の専門科目を含め、94単位以上修得すること。

【備考】 教員免許欄及び福祉士欄の◎印の科目は、必修科目。同じく△印の科目は選択必修科目、▲印は選択科目。

3. 教職に関する科目

授業科目	授業形態	単位数	配当学年				備 考	頁
			1年	2年	3年	4年		
教職論	講義	2		○				89
教育原理	講義	2		○				90
教育経営論	講義	2			○			
教育課程論	講義	2			○			
福祉科教育法	演習	4			○			
特別活動の指導法	講義	2			○			
教育方法・技術論	講義	2				○		
生徒・進路指導論	講義	2				○		
教育相談	講義	2				○		
教職実践演習（高）	演習	2				○		
事前事後指導	実習	1				○		
教育実習	実習	2				○		

【備考】 教員免許取得希望者は、この欄の全科目を修得すること。

【授業の目標及び到達目標】

統計学を基礎から学び、精確な分析能力を培うことを目的とする。調査データ等に関しては、多くの場合、ここで学ぶ知識を応用することで有用な情報を得ることが出来る。また社会福祉士受験指定科目の「社会調査の基礎」を理解するためには必須科目でもある。

【授業の内容及び方法】

統計的な見方、考え方に重点を置いた講義を計画している。

【授業の計画】

- | | |
|---------------|-------------------------------|
| (1) 統計学とは | 統計的な考え方, 見方 |
| (2) データのまとめ方1 | データの図表化: ヒストグラムの作成 |
| (3) データのまとめ方2 | ヒストグラムの作成 (続き) |
| (4) 基礎統計量1 | 分布の中心尺度、分布の拡がり尺度、歪み、尖り尺度 |
| (5) 基礎統計量2 | 標本平均, 標本分散, 標準偏差 |
| (6) 相関分析1 | 相関とは、散布図 |
| (7) 相関分析2 | 相関係数、相関係数の計算 |
| (8) 回帰分析1 | 回帰とは、最小自乗法 |
| (9) 回帰分析2 | 回帰直線、回帰直線を求める |
| (10) まとめ (1) | |
| (11) 確率1 | 確率の公理, 条件付き確率, 事象の独立 |
| (12) 確率2 | 確率変数, 分布関数 |
| (13) 重要な確率分布1 | 二項分布, ポアソン分布 |
| (14) 重要な確率分布2 | 正規分布, t分布, χ^2 分布、数値表の見方 |
| (15) まとめ (2) | |

【授業外の学修 (予習、復習の指示、学修時間など) について】

講義ノートを中心とした復習を毎回欠かさず実践してほしい。自主学習として概ね30時間程度を必要とする。

【履修上の注意・要望等】

- ・講義の中で演習を行うので電卓は必ず持参すること。
- ・講義は順を追って進められるため、一度でも欠席すると次回から講義内容の理解が困難となる。毎回出席することを期待する。

【評価方法・基準】

授業態度・学修意欲(30%), 期末試験(70%)の結果を併せて評価する。

【教 材】

教科書: 別途指示する。

参考書: ・統計学へのステップ (共立出版) ・統計学のはなし (東京図書)
・統計学入門 (裳華房)

【キーワード】

ヒストグラム、平均値、標本分散、標準偏差、相関係数、回帰直線、正規分布

【授業科目】 英語Ⅲ

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 大谷シヨーン (自室番号)

【対象学生】 社会福祉学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

The aim of this course is to improve the students' vocabulary and increase their ability to confidently use English everyday communication.

【授業の内容及び方法】

I tell my students at the beginning of each semester, "The improvement you make during this course will depend entirely on the effort you put in". The student must assume substantial responsibility in the learning process and take an active approach to learning.

【授業の計画】

1. Introductions
2. People
3. Occupations, countries and nationalities
4. Work, rest and play
5. Daily activities, celebrations and festivals
6. Going places
7. Travel preparations and stages
8. Food
9. Food groups, diets
10. Sports
11. Doing, team and individual sports
12. Destinations
13. Travel activities
14. Presentation 1
15. Review

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

Students should expect to do between 10-15 hours of study and preparation outside the classroom. Time will be allocated for working on group presentations during class time.

【履修上の注意・要望等】

No language is easy to learn. English is no exception. To learn English you must use English. So that you can get the most out of this course: take notes and review at home, ask questions whenever you are unsure, use English as much as possible outside of class and most of all, relax and have fun.

【評価方法・基準】

Attendance and participation: 25%

Presentation: 25%

End of semester Examination: 50%

【教 材】

World English 1. Second Edition. ISBN: 9781305089549. (National Geographic Learning/Cengage Learning)

【キーワード】

Vocabulary, confidence, communication, success.

【授業科目】 英語Ⅳ

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 大谷ジョーン (自室番号)

【対象学生】 社会福祉学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

The aim of this course is to improve the students' vocabulary and increase their ability to confidently use English everyday communication.

【授業の内容及び方法】

I tell my students at the beginning of each semester, "The improvement you make during this course will depend entirely on the effort you put in". The student must assume substantial responsibility in the learning process and take an active approach to learning.

【授業の計画】

1. Summer vacation review
2. Communication
3. Electronics, the senses
4. Moving forward
5. Short- and long-term plans, weather
6. Types of clothing
7. Clothing and clothing materials
8. Lifestyles
9. Healthy and unhealthy habits
10. Achievements
11. Chores, personal accomplishments
12. Consequences
13. Personal finance, animal habits
14. Presentation 2
15. Review

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

Students should expect to do between 10-15 hours of study and preparation outside the classroom. Time will be allocated for working on group presentations during class time.

【履修上の注意・要望等】

No language is easy to learn. English is no exception. To learn English you must use English. So that you can get the most out of this course: take notes and review at home, ask questions whenever you are unsure, use English as much as possible outside of class and most of all, relax and have fun.

【評価方法・基準】

Attendance and participation: 25%

Presentation: 25%

End of semester Examination: 50%

【教 材】

World English 1. Second Edition. ISBN: 9781305089549. (National Geographic Learning/Cengage Learning)

【キーワード】

Vocabulary, confidence, communication, success.

【授業科目】 住まいと福祉

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 後藤 光雄

自室番号 ***

【対象学生】 社会福祉学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

- ・本授業の目的は、高齢・障がいの方が住み慣れた住居で安全安心して生活できるよう、心身機能に適した福祉的住環境（安全で住み良い住環境）づくりの相談・支援できる社会福祉士を養成することである。
- ・福祉的住環境についての一般的知識を身に付け、高齢者・障がい者に適した安全で住み良い住環境づくりの改修プランを提案することができる。

【授業の内容及び方法】

- ・高齢者・障がい者（=当事者）の住居の福祉的住環境への改修のため、家屋構造の一般的知識を学ぶ。
- ・福祉的住環境のための家屋改修で基本となる視点・プランニングの知識を学ぶ。
- ・講義を主とするが、片まひ疑似体験、学外授業として高齢者住宅の見学、グループワークを取り入れる。
- ・視覚教材も使用して福祉的住環境整備の方法が理解できるよう授業を行う。

【授業の計画】

- 1, 高齢者・障害者の心身の特徴と障害のとらえ方
- 2, 福祉住環境整備の基礎知識 (1) 建築物の構造・工法の種類
- 3, 福祉住環境整備の基礎知識 (2) 施工の流れと主な部所の名称
- 4, 高齢者・障害者疑似体験 (屋外での体験学習)
- 5, 高齢者・障害者の身体機能と住環境整備への考え方
- 6, 福祉住環境整備の基礎知識 (3) 見取り図の描き方 図面上の記号、簡単な平面図の複写
- 7, 福祉住環境整備の基礎知識 (4) 見取り図の描き方 平面図の読み取り、複写
- 8, 福祉住環境におけるアセスメントの視点・専門職との連携
- 9, 福祉住環境における共通の基本技術 (1) 段差の解消、手すりの取り付け、建具の配慮など。
- 10, 福祉住環境における共通の基本技術 (2) 箇所別住環境整備 玄関アプローチ、玄関、廊下
- 11, 福祉住環境における共通の基本技術 (3) 箇所別住環境整備 トイレ、浴室など。
- 12, 福祉住環境整備の案をプランニングする。(1) 住居を下見し、見取り図を描く (学外授業)
- 13, 福祉住環境整備の案をプランニングする。(2) グループでプランニングする。
- 14, 福祉住環境整備の案をプランニングする。(3) グループ発表と評価を出し合う。
- 15, 福祉住環境整備と介護保険制度・障害者総合支援制度等の住宅改修費制度

【授業外の学修（予習・復習の指示・学修時間など）について】

- ・祖父母の方が暮らしておられる住居は、安全安心・使い勝手の良い家屋構造になっているか調べてみましょう。祖父母の方から不安な箇所は、どこか、どうあったら良いか尋ねまとめておきましょう。
- ・配布資料を基に15時間程度の授業の復習が必要です。

上記の考察・復習を含めてこの授業を履修するにあたって、概ね30時間程度の自主学修が必要です。

【履修上の注意・要望等】

- ・教科書は使用しません。配布資料により学習します。配布資料は、整理して毎回持参して下さい。
- ・身体の片まひ、車いす試乗の模擬体験をします。又、高齢者住宅の現地視察をします。
- ・福祉住環境コーディネーター検定試験2級受験を希望する者への指導に当たります。

【評価方法・基準】

- ・定期試験（90％）体験考察レポート（10％）により総合評価する。

【教 材】

- ・教科書：使用しない。適時資料（プリント）を配布する。
- ・参考文献：「福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト」 東京商工会議所

【キーワード】 福祉住環境整備 バリアフリー ICF

【授業科目】 福祉情報コミュニケーション 【単 位】 2

【学 期】 後 期 【担当教員】 長谷川 勝一 (自室番号 341)

【対象学生】 社会福祉学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

この授業では、福祉分野の実務を支える様々な ICT (情報通信技術) 活用能力の修得を重視し、ICT リテラシーの涵養を図ることを目標とする。到達目標として h、パーソナルコンピュータやタブレットコンピュータにおいて各種クラウドサービスが活用できる。文字や音声、動画による各種情報通信サービス・技術を用いてコミュニケーションを取ることができる。有線・無線・モバイルによるインターネット接続インフラが利用できる。福祉の世界において情報通信機器の活用ができる能力を身に付けることを目指す。

【授業の内容及び方法】

福祉の世界で必要とされる情報コミュニケーション技術等について演習形式で学ぶ。

【授業の計画】

- (1) ガイダンス：オリエンテーションとグループ分け
- (2) Dynabook と情報革命：情報革命が社会福祉に与える影響について考える
- (3) 現在のコミュニケーションツール：電子メール タブレットでの利用
- (4) 現在のコミュニケーションツール：クラウドブックマーキングサービス
- (5) 現在のコミュニケーションツール：ソーシャルブックマーキングサービス
- (6) 現在のコミュニケーションツール：パーソナルデータベース
- (7) 現在のコミュニケーションツール：ソーシャルワープロサービス パソコンでの活用
- (8) 現在のコミュニケーションツール：ソーシャルワープロサービス タブレットでの活用
- (9) 現在のコミュニケーションツール：クラウドオフィススイートとストレージサービス
- (10) 現在のコミュニケーションツール：ソーシャルネットワーキングサービス
- (11) タブレットコンピュータとクラウドコンピューティング：情報社会のこれからを考える
- (12) タブレットコンピュータとクラウドコンピューティング：これからの情報共有のあり方を考える
- (13) 現在のコミュニケーションツール：電子メール パソコンでの利用 POP / IMAP / SMTP
- (14) 現在のコミュニケーションツール：電子メール メールクライアントソフトウェア
- (15) タブレットコンピュータとクラウドコンピューティング：これからの福祉と ICT のあり方を考える

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

毎回の配布物 (実習プリント) を熟読し、実習内容についての概念的な予習・復習を行っておくこと。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね 30 時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

受講を希望する学生は必ず初回のガイダンスに出席をすること。

【評価方法・基準】

レポート課題 50%、普段の学習態度 50%で評価する。

【教 材】

教科書：「情報リテラシー」 noa 出版 参考書：各種マニュアルと配布資料

【キーワード】

情報コミュニケーション技術 タブレットコンピュータ ソーシャルネットワーキング
クラウドコンピューティング キュレーション・サービス メール WAN 接続サービス
アラン・ケイ ダイナブック DoCoMo Vision

【授業科目】 数学の基礎

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 森田 築雄

(自室番号:132)

【対象学生】 社会福祉学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

福祉に関する様々な資料や調査データを、整理分析するための基礎となる数理能力の養成を目指す。これにより基本的なデータ処理の数理的操作が可能となる。2年次後期、3年次前期で履修する統計、社会調査の基礎を学ぶ上で必要となる。

【授業の内容及び方法】

中学、高等学校で学んだ数学の基本事項の確実な理解に主眼を置く。

【授業の計画】

1. 数と式の計算 (I) 整数、分数、小数、繁分数
2. 数と式の計算 (II) 因数分解、平方根
3. 数と式の計算 (III) 分数式の計算、無理式の計算
4. 方程式 (I) 1次方程式
5. 方程式 (II) 1次方程式の利用
6. 方程式 (III) 連立方程式
7. 方程式 (IV) 連立方程式の利用
8. 関数 (I) 関数とは、1次関数、
9. 関数 (II) 2次関数、グラフ
10. 関数 (III) その他関数 (三角関数、対数関数、指数関数)
11. 集合 集合、集合の演算
12. 順列、組み合わせ 順列と組み合わせ
13. 確率 確率の基本性質、条件付き確率
14. 確率分布 期待値、分散と標準偏差
15. まとめ

【授業外の学修 (予習、復習の指示、学修時間など) について】

授業中に課された演習問題で理解不十分なものに関しては復習により確かなものにしておく。

自主学習として概ね 30 時間程度を必要とする

【履修上の注意・要望等】

中学、高校と数学が苦手であった学生や、あるいは数学の基礎を今一度復習し直し、確実なものにしておきたいと考える学生を対象とする。

【評価方法・基準】

授業態度・学修意欲(30%)、期末試験(70%)で評価する。

【教 材】

教科書：使用しない。

参考書：必要に応じて紹介する。

【キーワード】

方程式、関数、集合、確率

【授業科目】 現代社会と福祉 I

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 武田英樹

(自室番号 523)

【対象学生】 社会福祉学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業では現代社会において、個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、様々な社会福祉政策について理解できるよう展開する。

学生は下記の項目についての能力を身につけることを目指す。

- ・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について説明できる。
- ・福祉の歴史的変遷について説明できる。
- ・福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について説明できる。
- ・相談援助活動と福祉政策との関係について説明できる。

【授業の内容及び方法】

現代社会における福祉的ニーズの把握と課題解決に向けた福祉政策の構成要素や展開過程について学びます。講義の中では、各分野に関係するテーマを取り上げ、身近な事例をもとに現代の社会福祉のあり方についてディスカッション・グループ発表を交えながら検討していきます。適宜、DVDなどの映像教材も活用する。

【授業の計画】

1. 福祉国家の成立
2. 日本の社会保障制度の歴史的変遷と現状課題
3. 高齢化・少子化
4. 社会の変化と福祉
5. 福祉と福祉政策
6. 福祉国家思想の展開①：資料収集とグループワーク
7. 福祉国家思想の展開②：グループ研究、発表資料のまとめ
8. 福祉国家思想の展開③：グループ発表
9. 福祉制度の発展過程
10. 少子化時代の福祉政策
11. 福祉政策の理念・主体・手法
12. 福祉政策の関連領域
13. 社会福祉制度の体系
14. 福祉サービスの提供
15. 福祉政策の国際比較

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

・予習として講義内で実施する発表資料の準備（次回講義までに 60 分程度）、講義内での強調した重要項目についての復習（次回講義までに 60 分程度）を行っておいください。

・身近で起こっている社会問題について興味をもち、その問題を解決するためにどのような手段があるかについても調べること。

上記の予習・復習、調べについて自主学修時間概ね 30 時間を使って行うこと。

【履修上の注意・要望等】

主体的参加と協働の意識をもって出席してください。

【評価方法・基準】

試験（90%）、レポート（10%）

【教 材】

教科書：社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 4 現代社会と福祉』中央法規

参考文献：高間満ほか『第 3 版 社会福祉論』久美出版

武川正吾『社会政策の社会学』ミネルヴァ書房

【キーワード】

社会保障制度、社会保険制度、社会福祉制度、社会福祉援助、社会福祉専門職

【授業科目】 現代社会と福祉Ⅱ

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 武田英樹

(自室番号 523)

【対象学生】 社会福祉学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業では現代社会において、個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、様々な社会福祉政策について理解できるよう展開する。加えて、社会福祉士として地域社会の暮らしに対する強い関心や問題意識、目的意識、柔軟な思考力を養えるようにする。

学生は下記の項目についての能力を身につけることを目指す。

- ・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について説明できる。
- ・福祉の原理をめぐる理論と哲学について説明できる。
- ・福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について説明できる。
- ・福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について説明できる。
- ・相談援助活動と福祉政策との関係について説明できる。

【授業の内容及び方法】

現代社会における福祉的ニーズの把握と課題解決に向けた福祉政策の構成要素や展開過程について学びます。講義の中では、各分野に関係するテーマを取り上げ、身近な事例をもとに現代の社会福祉のあり方についてディスカッションを交えながら検討していきます。適宜、DVDなどの映像教材も活用する。

【授業の計画】

1. 福祉の思想と哲学
2. 社会政策と福祉政策
3. 福祉政策の発展過程
4. 福祉政策における必要と資源
5. 福祉政策の論点：効率性と公平性
6. 福祉政策の論点：普遍主義と選別主義
7. 福祉政策の論点：自立と依存
8. 福祉政策の論点：自己決定とパターンリズム
9. 福祉政策の論点：ジェンダー
10. 福祉政策と関連政策
11. 福祉供給の政策過程と実施過程
12. 包摂的福祉政策の展開
13. 福祉サービスと援助活動
14. 福祉政策の課題と展望
15. 現代の社会問題とその取り組み：ゲストスピーカーによる話題提供

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

シラバスの授業計画や講義内で提示された用語について、事前学習（次回講義までに 60 分程度）、講義内での強調した重要項目についての復習（次回講義までに 60 分程度）を行っておいてください。

この授業を履修するにあたって、概ね 30 時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

主体的参加と協働の意識をもって出席してください。

【評価方法・基準】

試験（90%）、レポート（10%）

【教 材】

教科書：社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 4 現代社会と福祉』中央法規

参考文献：高間満ほか編著『第3版 社会福祉論』久美出版

武川正吾『社会政策の社会学』ミネルヴァ書房

【キーワード】

公共政策、社会政策、福祉政策、社会問題、福祉哲学

【授業科目】 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 I 【単 位】 2

【学 期】 前 期 【担当教員】 薬師寺 明子 (自室番号 520)

【対象学生】 社会福祉学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

障害者の生活実態や社会情勢、法体系やサービス等を理解する。そして、障害者の相談援助に必要な制度、サービスを理解したソーシャルワーカーになることをめざす。

【授業の内容及び方法】

身体障害者、知的障害者、精神障害者の諸領域にわたって、障害者理解、障害者福祉理念の学習を基礎として、歴史、関係法と施策、活動、課題などについて講義を通して学ぶ。また、グループで課題に取り組み、発表も行う。

【授業の計画】

1. オリエンテーション・障害者福祉とは
2. 障害者福祉の理念
3. 障害者理解①グループ課題発表1グループ
4. 障害者理解②グループ課題発表 2 グループ
5. 障害者理解③グループ課題発表 3 グループ
6. 身体障害・知的障害・精神障害・発達障害の理解
7. 障害者支援と本人主体（外部講師）
8. 障害者の実態とニーズ・障害の概念
9. 障害者福祉の国際的動向
10. 日本の障害者福祉の動向
11. 障害者の法的定義・手帳制度
12. 障害者福祉施策の法体系①障害者基本法
13. 障害者福祉施策の法体系②障害者基本計画
14. 障害者福祉施策の法体系③身体障害者福祉法等各法
15. 障害者福祉施策の法体系④障害者にかかわるその他の法体系

【授業外の学修（予習・復習の指示・学修時間など）について】

事前にテキストを読んでおくこと。専門用語や制度等については随時確認するとともに受講後 30 時間程度の自主学修を行うこと。

【履修上の注意・要望等】

卒業必修科目・相談援助実習必修科目

【評価方法・基準】

受講態度（20%）・提出課題（10%）・定期試験（70%）

なお、定期試験の成績が 6 割未満の場合は不可となる。

【教 材】

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第 5 版（中央法規出版）・随時配布する資料

【キーワード】

障害者理解・障害者福祉の動向・障害者基本法・障害者総合支援法

【授業の目標及び到達目標】

障害者の生活実態や社会情勢、法体系やサービス等を理解する。そして、障害者の相談援助に必要な制度、サービスを理解したソーシャルワーカーになることをめざす。

【授業の内容及び方法】

身体障害者、知的障害者、精神障害者の諸領域にわたって、障害者理解、障害者福祉理念の学習を基礎として、歴史、関係法と施策、活動、課題などについて講義を通して学ぶ。

【授業の計画】

1. オリエンテーション・I の復習
2. 障害者自立支援制度の経緯①社会福祉基礎構造改革
3. 障害者自立支援制度の経緯②制度改正の背景
4. 障害者総合支援法① 体系
5. 障害者総合支援法② 自立支援給付
6. 障害者総合支援法③ 訓練等給付
7. 障害者総合支援法④ 自立支援医療・補装具・障害福祉計画
8. 障害者総合支援法⑤ 地域生活支援事業他・介護保険との関係
9. 障害者総合支援法⑥ 組織・機関の役割・苦情解決
10. 障害者総合支援法⑦ 専門職の役割と実際
11. 障害者総合支援法⑧ 連携・ネットワーク・自立支援協議会
12. 障害児に対する支援① 法改正の背景
13. 障害児に対する支援② 制度・サービス
14. 教育機関の役割・障害者の雇用・就業
15. 所得保障・経済負担の軽減・まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示・学修時間など）について】

事前にテキストを読んでおくこと。専門用語や制度等については随時確認するとともに受講後 30 時間程度の自主学修を行うこと。

【履修上の注意・要望等】

相談援助実習必修科目

【評価方法・基準】

受講態度 (20%)・提出課題 (10%)・定期試験 (70%)

なお、定期試験の成績が 6 割未満の場合は不可となる。

【教 材】

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第 5 版 (中央法規出版)

随時配布する資料

【キーワード】

障害者総合支援法・障害児福祉・児童福祉法・ネットワーク・特別支援教育・就労支援・所得保障

【授業科目】 加齢の理解

【単 位】 2

【学 期】 後期

【担当教員】 妻藤真彦・堀川涼子

【対象学生】 社会福祉学科 2年

(自室番号) 135 ・ 527

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、発達の観点からの老化の理解、そして老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得することを目標とする。これにより学生が、高齢者を理解して支援できるようになることを目標とする。

【授業の内容及び方法】

特に認知症についてその基礎的な知識、認知症のある人の特性について心理学的、社会的に学ぶ。それを踏まえたうえで本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した支援の視点について学ぶ。授業方法は、講義を主とするが、途中、DVD等の視聴覚教材を使用したり、グループワークを取り入れたりして授業を行う。

【授業の計画】

- 1 認知症高齢者を取り巻く社会的状況、法や制度・サービス【堀川】
- 2 高齢者の健康と介護①認知症の理解（アルツハイマー型認知症等）【堀川】
- 3 高齢者の健康と介護②認知症の理解（脳血管障害・その他の疾患と症状）【堀川】
- 4 老化と心理1：感情（ストレス・不安感情・うつ傾向・グチ・頑固さなど）【妻藤】
- 5 老化と心理2：感情と動機づけ（疑い・孤独感など、動機づけの種類など、性）【妻藤】
- 6 老化と心理3：感覚・知覚（基本法則と発達・高齢者の聴覚など）【妻藤】
- 7 老化と心理4：認知（注意機能と老化、認知症の注意機能障害、メタ認知と認知症の影響など）【妻藤】
- 8 老化と心理5：記憶（記憶・学習能力の分類、レミニッセンス・バンブ・展望的記憶と認知症）【妻藤】
- 9 老化と心理6：記憶（陳述的記憶の年齢による変化と個人差、アルツハイマー病におけるエピソード記憶の変化段階とオリエンテーション失調など、有酸素運動）【妻藤】
- 10 老化と心理7：言語と思考（言語と思考の発達・老化、アルツハイマー病の言語と意味記憶）【妻藤】
- 11 老化と心理8：知能（流動性知能・結晶性知能と加齢による変化など）【妻藤】
- 12 老化と心理9：心理検査（認知症スクリーニング、知能検査、実行機能検査、注意機能検査、記憶機能検査、その他）【妻藤】
- 13 老化と心理10：心理療法まとめ（認知行動療法、行動療法、回想法、音楽療法など）【妻藤】
- 14 老化と心理11：認知症と人間関係（認知症の周辺症状と中核症状、パーソンセンタード・ケア、チャレンジング行動、意思疎通、レスパイトケアなど）【妻藤】
- 15 認知症の人と家族への支援【堀川】

【授業外の学修（予習、復習の指示、学修時間など）について】

日ごろから高齢者に関するニュース等を読んでおくこと。授業後に疑問点等を配布資料で確認しておくこと。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間程度の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

3年または4年次に「高齢者分野」に実習を希望する可能性のある者は必ず履修をすること。

「高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ・Ⅱ」の内容を深めるものなので、卒業必修科目ではないが、社会福祉士国家資格をめざす者は履修すること。

【評価方法・基準】

定期試験（70%）・レポート（20%）・受講態度（10%）により総合的に評価する。

【教 材】

社会福祉士養成講座「高齢者に対する支援と介護保険制度」（中央法規出版）他、適宜指示

【キーワード】

認知症 ライフサイクル 老化現象 知能 学習・記憶能力 心理的援助・家族介護

【授業科目】 障害の理解

【単 位】 2

【学 期】 前 期

○薬師寺 明子（自室番号 520）

安田 純（自室番号 671）・大谷 美佐恵

【対象学生】 社会福祉学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

障害に対する理解や障害のある人々の生活をより深く理解する。そして、障害を考慮し個々に応じた支援ができるソーシャルワーカーをめざす。

【授業の内容及び方法】

運動障害、精神遅滞、てんかん、感覚機能の障害、発達障害、精神障害など、障害全般に渡り、それぞれの特性と障害者の心理について講義を通して学ぶ。また、ゲストスピーカーとして当事者からの話を聴き、より理解を深める。

【授業の計画】

1. オリエンテーション・障害者の権利条約と差別解消法（薬師寺）
2. 障害者虐待防と障害者虐待防止法（薬師寺）
3. 精神遅滞について（安田）
4. 自閉症について（安田）
5. アスペルガー症候群について（安田）
6. 学習障害について（安田）
7. 注意欠陥多動性障害について（安田）
8. 発達障害者（児）への支援について（安田）
9. 重症心身障害者について（大谷）
10. てんかんについて（大谷）
11. 聴覚・言語障害について（大谷）
12. 統合失調症について（大谷）
13. うつ病について（大谷）
14. 当事者理解①ゲストスピーカー（薬師寺）
15. 当事者理解②ゲストスピーカーの話の振り返り・出生前診断（薬師寺）

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

指示のあったテキストやプリント等を事前に読んでおくこと。専門用語等については随時確認するとともに受講後 30 時間程度の自主学修を行うこと。

【履修上の注意・要望等】

4 年次の相談援助実習（障害分野）必修科目

【評価方法・基準】

受講態度（15%）、定期試験（85%）の総合評価とする。

レポート課題は試験（薬師寺分）の点数に含まれる。なお、定期試験の成績が 6 割未満の場合は不可となる。

【教 材】

参考文献：最新 介護福祉全書 11 障害の理解（メヂカルフレンド社） 他

【キーワード】

障害者・障害特性・障害理解・障害受容・障害者（児）の発達

【授業科目】 NPO・ボランティア活動論 【単 位】 2

【学 期】 後 期 【担当教員】 小川孝雄・小坂田稔 (自室番号:521)

【対象学生】 社会福祉学科2年

【授業の目標及び到達目標】

NPO (NPO法人を含む民間非営利団体)・サードセクターの役割を学ぶ。また、ボランティア(活動)の歴史や実際の活動事例を通して、ボランティア(活動)の意味と役割について理解していく。ここでの学びにより、社会活動参加に活かせる知識と実践力を身につけるとともに、ボランティア(活動)への参加やコーディネートができるようにしていく。

【授業の内容及び方法】

NPO (NPO法人を含む民間非営利団体)・サードセクターが地域にどう貢献をしているか。県内の多様な実践者の報告も含めて事例を中心にその理論を学ぶ。ボランティアでは、理論とともに点字や手話の技術講習や災害ボランティアの方法について学び、その方法を修得する。講義を主とするが、グループワークや点字・手話の技術講習を行う。

【授業の計画】

1. NPO概論とサードセクターの果たす役割
2. NPOの活動事例紹介
3. NPOの課題と活動資金
4. NPOと地域コミュニティを含めた協働について
5. 津山のNPOの紹介
6. 活動実践者に学ぶNPOの様々な関わり方
7. NPO活動のまとめ
8. ボランティア(活動)の意味と役割
9. 技術ボランティアの体験①
手話ボランティア活動を体験してみよう
10. 技術ボランティアの体験②
点字ボランティア活動を体験してみよう
11. 災害ボランティア(活動)の役割と課題①・・・理論を学ぶ
12. 災害ボランティア(活動)の役割と課題②・・・具体的実践事例から学ぶ
13. 災害ボランティア(活動)の役割と課題③・・・演習(グループワーク)
14. ボランティア(活動)のコーディネート方法(グループワーク)
15. ボランティア(活動)のまとめ

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

授業後に、授業で配布した資料を再読し、キーワードについて必ず復習し、疑問点をなくすこと。グループワークについては、授業外の作業も含めて主体的に参加すること。

自主学習時間としては、概ね30時間程度を目安として確保すること。

自主的に授業に関係した文献や資料を読んでいくこと。

【履修上の注意・要望等】

対話形式による授業としているので、積極的に発言していく姿勢を持って出席すること。事業での不明点は確認テストの質問欄に積極的に記入すること。実技講習やグループワークには積極的な参加姿勢で臨むこと。

【評価の方法・基準】

確認テスト(20%)、受講態度・グループワーク参加状況・発表内容(30%)、レポート(50%)による総合評価

【教 材】

講義ごとに事例を含む適切な資料を配布する。また、実践事例のパワーポイントを使用する。

参考文献:澤村 明 他(著)『はじめてのNPO論 ― 一緒に役割を考えよう』有斐閣

巡 静一 他(著)『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』大阪ボランティア協会

【キーワード】

NPO サードセクター コミュニティビジネス 住民自治 ボランティア 災害ボランティアセンター
ボランティアコーディネーター

【授業の目標及び到達目標】

私たちにとって住みやすい住環境とは何かを身近なテーマを採りあげ、どうすれば理想の地域、住環境を創造できるかを学習する。さらに理想の住環境創造の障壁となる課題について、その解決の手法を演習し、理解することを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

理想の住環境とは何かを理解し、実現の為に「安全安心・省エネ・福祉」のテーマを取り上げ、講義の他に、防災教育施設、住宅展示場等の校外学習を取入れ、社会生活の中での現状と最新の取組みを学習し、個々の課題について、グループ討論形式の解決手法と方法を演習する。

【授業の計画】

1. 地域、住環境とは 概論1(理想の街、住空間)
2. 地域、住環境とは 概論2(理想の住空間)
3. 理想都市と住環境の事例検証(グループによる事例検証の実務と演習)
4. 地域と住生活(地域と住生活の安全と安心) 防災
5. 社会生活の中での災害への対処と防犯
6. 社会生活の中での地域防災と支えあいの共助、課題:安全安心「防災」 (校外演習)
7. 地球環境と身近な省エネ生活の課題(省エネと災害)
8. 身近な住環境の課題(住生活の中で持続すべきこと)
9. 身近な住環境の実態検証:安全安心・省エネ・UDの最前線(校外演習)
10. 今、日本が考える環境・福祉政策の方向性(ディスカッション形式)
11. 生活、住環境の中での福祉とバリアフリー・UDとは
12. 問題解決手法の演習、身近なテーマの発案(各自課題起案)
13. 各自テーマの実演習作業
14. 各自テーマと提案、創造発表(プレゼンテーション)
15. 総評とまとめ(受講生からの質疑、評価を含む)

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

授業内での質疑や、感想、意見を講座の中で回答し、討議する時間を設けますので、授業外の日常生活の中でも、日頃より問題意識を持ってほしい。この講義の履修にあたり、日常生活の中で講義との関連性と問題点を意識する為、概ね30時間程度の自主学習が必要となります。

【履修上の注意・要望等】

講義を通じて、現状の問題点に気づき、問題解決能力の向上への努力を怠らない姿勢を持続する。

【評価方法・基準】

レポート提出(30%) 課題テーマ発表の内容と取組み態度(40%) 出席数(30%) とし総合評価する。

【教 材】

参考文献:福祉のまちづくり条例(岡山県)、改正省エネルギー法(経済産業省)、建築基準法・同施行令・都市計画法(国土交通省)

教科書:無し(必要の場合、各分野より取寄せ、配布予定。有償の場合事前に連絡します。)

【キーワード】

理想の住環境:安全安心(防災防犯)・環境エコロジー(環境保全と省エネ)・福祉(UD、バリアフリー) 身の回りの住環境に対する問題意識の保持と解決能力の向上の為の演習

【授業科目】 地域づくりと住民参加（演習） 【単 位】 2

【学 期】 前 期 【担当教員】 大土井 亮輔 （自室番号 ）

【対象学生】 社会福祉学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

住みやすい生活地域の中には、家族や、行政の他にどのような環境や、共助の仕組みが必要かを 実例や、現状の課題等を学習し、自らも地域の住民活動への参加を通して、いかにすれば、理想の地域、住環境を創造できるかを学習することを目的とし、住民参加の意義を理解することを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

地域活性化を目的とした様々な地域活動が行われているが、その目的、ノウハウ、人材・資金確保及び地域の高齢少子化問題等の諸問題に取り組む、地域活動の実践講師の講義を取り入れ、地域住民としての参加について講義の中から課題を見つけ、最終的にグループ討論形式で解決手法と方法を演習する。

【授業の計画】

1. 地域づくりとは：安心して住める街とは
2. 住民の為の地域づくりの構造：自助・共助・公助の考え方
3. 地域づくりの種類と目的：街の生活機能の維持、少子高齢化、生活地域年齢人口比
4. 地域活動の実践報告：ゲスト講師（行政街づくり担当部署、地域の特色 PR）
5. 地域における共助の種類と構造：乳幼児～高齢者までにかかわりあう組織について
6. 乳幼児、青少年への地域活動（校外学習）公民館、児童福祉施設
7. 理想のまちへの精神的気概と安心安全とは、（歴史文化等の情操意義と生活必需機能）
8. 街の活性化活動における住民参加活動：ゲスト講師（地域における、食と歴史文化の広報活動組織）
9. 地域活動における人材と資金確保について：ゲスト講師（地域活動のネットワークづくり組織）
10. これからの地域活動の課題と問題点について（地域リーダーに求められるもの）
11. 問題解決手法の演習、身近なテーマの発案
12. 問題解決手法の演習、（グループ討論形式）
13. 各自テーマの実演習作業
14. 各自テーマと提案、解決方法発表（グループによるプレゼンテーション）
15. 総評とまとめ（受講生からの質疑、評価を含む）

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

質疑や、感想・意見を授業の中で回答し、討議する時間を設けますので、授業外の日常生活の中でも、日頃より問題意識を持つ姿勢が重要。この講義の履修にあたり、日常生活の中で 講義との関連性と問題点を意識する為、概ね30時間程度の自主学習が必要となります。

【履修上の注意・要望等】

講義を通じて、街づくりへの住民参加現状の問題点に気づき、理想の地域を目指す気概を培い、問題解決能力の向上への努力を怠らない姿勢を持続する。

【評価方法・基準】

レポート提出（30%）課題テーマ発表の内容と取組み態度（40%）出席数（30%）とし総合評価する。

【教 材】

参考文献：福祉のまちづくり条例（岡山県）、改正省エネルギー法（経済産業省）、各地域の広報誌等
教科書：無し（必要の場合、各分野より取寄せ、配布予定。有償の場合事前に連絡します。）

【キーワード】

理想の地域創造の為の共助活動の意義と理想・住民としての地域活動の自己への還元
今後の地域活動参加への問題意識の保持と解決能力の向上の為の演習

【授業科目】 社会保障 I

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 菅原 明美

(自室番号 213)

【対象学生】 社会福祉学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、社会保障制度の体系について学び、医療保険制度や年金制度等の具体的内容について知識を修得し、社会福祉の援助が円滑に遂行出来る力を身につけることを目的としている。

1. 社会保障の目的について理解することができる。
2. 社会保障制度の体系を理解することができる。
3. 年金保険制度の内容を理解することができる。

【授業の内容及び方法】

本授業では、現行の日本における社会保障制度の基本的な仕組みについて学ぶ。

授業方法は、講義を主とするが、各単元終了時に小テストを実施し、理解度の確認を行う。

【授業の計画】

1. オリエンテーション／私たちの生活と社会保障
2. 生活保障の理念と機能
3. 社会保障の歴史① 欧米における社会保障の歴史的展開
4. 社会保障の歴史② 日本における社会保障の歴史的展開
5. 社会保障の構造① 社会保障制度の体系
6. 社会保障の構造② 年金保健の構造
7. 社会保障の構造③ 社会扶助の構造
8. 社会保障の財源と費用① 社会保障の費用
9. 社会保障の財源と費用② 社会保障の財源
10. 社会保障の財源と費用③ 社会保障と経済
11. 年金保険制度① 年金保険制度の沿革と概要
12. 年金保険制度② 国民年金
13. 年金保険制度③ 厚生年金保険
14. 年金保険制度④ 共済保険／年金保険制度をめぐる最近の動向
15. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

- ・配布された資料を再読すること。
- ・制度改訂が毎年行われるため、日頃よりニュースなどで情報を把握しておくことが必要である。
- ・授業で紹介された文献等を参考に、休日を活用して概ね 30 時間自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

- ・小テストを通して、自分自身の理解度を確認し、自主学修に役立ててください。

【評価方法・基準】

定期試験（80%）、提出課題（10%）、受講態度（10%）

【教 材】

- ・新・社会福祉士養成講座、『社会保障』（中央法規出版株式会社）
- ・参考文献：「はじめての社会保障」有斐閣 「社会保障入門」中央法規
- ・適宜、資料を配布する。

【キーワード】

福祉国家、ベヴァリッジ報告、社会福祉基礎構造改革、社会保障と税の一体改革、社会保険方式
租税方式、社会保障費用統計、所得の再分配

【授業科目】 社会保障 II

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 菅原 明美

(自室番号 213)

【対象学生】 社会福祉学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、社会保障 I で学んだ社会保障・福祉の知識を基盤とし、日本の社会保障が抱える問題や改革の現状と課題について、自らの生活と照らし理解することが出来ることを目的とする。またその解決のための方法を具体的に考えることを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

本授業では、現行の日本における社会保障制度の基本的な仕組みについて学ぶ。

授業方法は、講義を主とするが、各単元終了時に小テストを実施し、理解度の確認を行う。

【授業の計画】

1. 医療保険制度① 医療保険制度の沿革と概要
2. 医療保険制度② 健康保険と共済制度／国民健康保険制度
3. 医療保険制度③ 後期高齢者医療制度
4. 医療保険制度④ 国民医療費と医療をめぐる最近の動向
5. 介護保険制度① 介護保険制度創設の経緯／介護保険制度の概要
6. 介護保険制度② 介護保険制度をめぐる最近の動向
7. 労働保険制度① 労働保険制度の沿革と概要
8. 労働保険制度② 労働者災害補償保険／雇用保険
9. 労働保険制度③ 労働保険制度をめぐる最近の動向
10. 社会福祉制度 社会福祉制度の沿革と概要／生活保護制度
11. 社会保障と民間保険
12. 社会保障が当面する課題
13. 諸外国における社会保障制度①
14. 諸外国における社会保障制度②
15. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

- ・配布された資料を再読すること。
- ・制度改訂が毎年行われるため、日頃よりニュースなどで情報を把握しておくことが必要である。
- ・授業で紹介された文献等を参考に、休日を活用して概ね 30 時間自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

- ・小テストを通して、自分自身の理解度を確認し、自主学修に役立ててください。

【評価方法・基準】

定期試験（80%）、提出課題（10%）、受講態度（10%）

【教 材】

- ・教科書：新・社会福祉士養成講座、『社会保障』（中央法規出版株式会社）
- ・参考文献：「はじめての社会保障」有斐閣 「社会保障入門」中央法規
- ・適宜、資料を配布する。

【キーワード】

全国健康保険協会 後期高齢者医療広域連合 求職者給付基本手当 育児休業給付 日本型雇用慣行
非正規雇用職員

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、相談援助について実践活動の基盤となる考え方や方法を学び、ソーシャルワークの理解と認識を深めることをめざす。

1. 相談援助についての考え方や方法を説明できるようになる。
2. クライアントが直面する問題は諸要因の関係によって生まれ、クライアントの置かれている状況を全体的、総合的に捉えることができるようになる。
3. 学生相互の討議を通して、クライアントのニーズをとらえ相談援助の方法について示すことができるようになる。

【授業の内容及び方法】

本授業は、講義を主に人と環境との相互作用で生じている問題の見方や相談援助の展開過程、面接技術について概説し、途中にグループ・ディスカッションを交えながら様々な考え方を共有できるようにする。また、当事者をゲスト講師に招き、クライアントの置かれている状況を具体的に学び理解を深められるようにする。

【授業の計画】

- | | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1.相談援助とは | 16.相談援助の過程⑧ プランニング（演習） |
| 2.相談援助の構造と機能 | 17.相談援助の過程⑨ 支援の実施とモニタリング |
| 3.人と環境の相互作用① 概論 | 18.相談援助の過程⑩ 再アセスメント、アウトリーチの技術 |
| 4.人と環境の相互作用② 事例をもとに検討 | 19.相談援助の過程⑪アフターケア |
| 5.相談援助の対象① 概念の理解 | 20.効果測定・評価の技術 |
| 6.相談援助の対象② 対象の範囲の理解 | 21.記録の技術 意義と概念 |
| 7.援助関係の形成① 自己覚知 | 22.クライアント理解（外部講師） |
| 8.援助関係の形成② フォーラムの形成 | 23.面接技術① 面接技術の意義・目的 |
| 9.相談援助の過程① 相談援助の展開過程 | 24.面接技術② 面接の技術 |
| 10.相談援助の過程② ケースの発見・インテーク | 25. 面接の実際① 電話相談 ケース発見 |
| 11.相談援助の過程③ 問題把握からニーズの確定 | 26. 面接の実際② インテーク |
| 12.相談援助の過程④ アセスメント | 27. 面接の実際③ アセスメント |
| 13.相談援助の過程⑤ アセスメントの技術 | 28. 面接の実際④ プランニング |
| 14.相談援助の過程⑥ 支援目標の設定 | 29. 面接の実際⑤ 社会資源の活用 |
| 15.相談援助の過程⑦ プランニング 契約の技術 | 30. まとめ |

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

講義前にテキストの該当箇所を読み疑問点をあげておくこと。復習は講義で話した内容を振り返り理解を深め、適宜、指示された課題作成に取り組むこと。これらに加え、試験対策や休日、長期休業期間などを利用して自主学修すること。自主学修時間は通年で概ね60時間とする。

【履修上の注意・要望等】

原則「相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」の履修者を対象とする。社会福祉士になるための必要な科目である。本科目を履修していなければ「相談援助の理論と方法Ⅱ」が履修できないので注意すること。

【評価の方法・基準】

授業の到達度を評価する定期試験(70%)、課題作成・課題レポート(20%)、授業への参加態度(10%)

【教 材】

新・社会福祉士養成講座「相談援助の理論と方法Ⅰ」中央法規

【キーワード】

ソーシャルワーク、システム理論、面接技術、アウトリーチ

【授業科目】 相談援助演習Ⅰ 【単 位】 1

【学 期】 後 期 【担当教員】 ○薬師寺・有岡・石飛・小坂田・（自室番号 520 他）

菅原・武田・永見・堀川

【対象学生】 社会福祉学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

相談援助実習に備え、グループでの演習と体験実習を通して実践現場と当事者への理解を深め、実践力、当事者理解を深める。そして、基礎的な実践力、考察力等を身につけ、次年度以降の相談援助実習に備えられる力を習得する。

【授業の内容及び方法】

障害者支援施設での体験実習に向け、グループ課題及び発表を行う事前学習、レクリエーションの準備等を行う。後半は3年次の実習に向けたオリエンテーション、実習報告聴講、グループ学習等を行う。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 障害者の理解（グループ課題発表）
3. 障害者支援施設の理解（グループ課題発表）
4. 知的障害者に向けたレクリエーション（オリエンテーション）
5. 知的障害者に向けたレクリエーション（上級生からのアドバイス）
6. 知的障害者に向けたレクリエーション（準備）
7. 知的障害者に向けたレクリエーション（リハーサル①前半グループ）
8. 知的障害者に向けたレクリエーション（リハーサル②後半グループ）
9. オリエンテーション（来年度の相談援助実習に向けて）
10. 体験実習（1日）
11. グループスーパービジョン（体験実習を終えて）
12. 上級生による実習体験発表
13. 実習相談会
14. 実習先グループ学習
15. 実習先グループ学習 発表

【授業外の学修（予習・復習の指示・学修時間など）について】

レクリエーションの準備やグループ学習は授業時間以外に（15時間程度）グループメンバーで活動していくことになる。協働して取り組むこと。

【履修上の注意・要望等】

相談援助実習指導Ⅰを受講するには必ず履修が必要。遅刻・欠席は認めない。

【評価方法・基準】

出席が前提。受講態度（50%）、課題（50%）

【教 材】

参考文献：レクリエーションの本等必要に応じて指示

【キーワード】

相談援助演習・社会福祉援助技術・体験実習・グループスーパービジョン・実習事前学習

【授業科目】 人体の構造と機能及び疾病 【単 位】 2

【学 期】 前 期 【担当教員】 貫名 慈見 (自室番号 678)

【対象学生】 社会福祉学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

本授業では 福祉に関係した仕事に関わるものとして必要な医学の基本的知識の理解を目指す。学生は将来必要となる基礎的医学知識を得ることができる。

【授業の内容及び方法】

身体各所の構造と機能、そして一般的な疾患についての概略を学んでいく。社会福祉士養成用につくられた教科書に沿って 板書、プリントを使用して授業を進めていく。

【授業の計画】

1. 身体の成長・発達、精神の成長・発達
2. 老化
3. 身体各器官の構造と機能（1）：水分と脱水、血液成分、心臓と循環器系
4. 身体各器官の構造と機能（2）：腎臓と泌尿器、呼吸器、消化と吸収
5. 身体各器官の構造と機能（3）：脳・神経系、内分泌器官、生殖器、支持運動器官
6. 身体各器官の構造と機能（4）：目・耳・皮膚などの感覚器、自律神経系・免疫系
7. 生活習慣病と未病、悪性腫瘍
8. 脳血管疾患、心疾患、高血圧
9. 糖尿病、および内分泌疾患
10. 呼吸器疾患、消化器疾患
11. 血液疾患、腎・泌尿器系疾患、骨・関節疾患
12. 目・耳の疾患、視覚障害及び聴覚障害
13. 感染症
14. 高齢者に多い疾患、終末医療
15. 健康のとらえ方

【授業外の学修（予習・復習の指示、学習時間など）について】

はじめて学ぶことが多いので毎週 1 時間程度は復習をしっかりとってもらいたい。日常の生活の中で、例えば新聞・書籍などでの医療や福祉に関わる事柄に興味を持ってもらいたい。日々の復習に加え、休日や長期休業期間に概ね 30 時間の自主学修時間が必要。

【履修上の注意・要望等】

福祉は人と直接関わる仕事である。幅広い視野と豊かな人間性の構築に努力してもらいたい。授業では積極的に質問をしてもらいたい。

【評価方法、基準】

定期試験（80%）、受講態度・学習意欲（20%）、により総合評価する。

【教 材】

福祉士養成講座編集委員会編：新・社会福祉士養成講座 1. 『人体の構造と機能及び疾病』——医学一般（中央法規）。

【キーワード】

身体各部の構造と機能、身体各臓器の疾患、加齢と身体機能、健康・福祉。

【授業の目標及び到達目標】

本授業はソーシャルワークに関する基礎的知識と専門的知識として、人体構造と病態ごとの日常生活行動についての理解を促進できるように展開する。

学生は下記の項目についての能力を身につけることを目指す。

1. 介護技術の基本となる人体の構造について説明できる。
2. ころのしくみの基礎的な内容について説明できる。
3. 介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について説明できる。

【授業の内容及び方法】

対象者の状況に応じた適切な介護が実施できるよう、ライフサイクルの心理的側面、からだのしくみ、認知症、終末期のケア、生活行動におけるころとからだのしくみ等の基礎知識について、事例検討も交えながら学びます。

【授業の計画】

1. ガイダンス【若林】
2. 心のしくみの理解1・・・ライフサイクルの心理的側面1（青年中年老年の生活と立場の変化）【妻藤】
3. 心のしくみの理解2・・・ライフサイクルの心理的側面2（結婚・家族・仕事との関係の変化、趣味・友人・地域社会との関係の変化）【妻藤】
4. からだのしくみの理解1・・・呼吸と循環のしくみ【武田】
5. からだのしくみの理解2・・・嚥下機能、食べ物の消化と吸収【武田】
6. からだのしくみの理解3・・・ホメオスタシス、内分泌・自律神経の関わり【武田】
7. からだのしくみの理解4・・・排尿・排便と体液の調節【武田】
8. からだのしくみの理解5・・・睡眠のしくみ【武田】
9. 医学的側面から見た認知症の基礎1・・・認知症による障害、認知症と間違えられやすい症状【武田】
10. 医学的側面から見た認知症の基礎2・・・認知症の原因となる主な病気の症状、若年性認知症、検査及び治療の実際【武田】
11. 認知症に伴う機能の変化と日常生活【武田】
12. 死にゆく人のころとからだのしくみ・・・死の捉え方ところの理解、終末期から危篤・死亡時のからだの理解、医療職との連携【武田】
13. 身じたくに関連したころとからだのしくみ【若林】
14. 排泄に関連したころとからだのしくみ【若林】
15. 入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみ【若林】

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

キーワードに上げた用語とその関連用語について予習（次回講義までに60分程度）しておいてください。ノート・配布資料をきちんと管理し、前回講義内容の復習（次回講義までに60分程度）をして理解を深めてください。上記の予習・復習に加え、課題作成や試験対策について学習した内容を自主学修すること。概ね30時間必要。

【履修上の注意・要望等】

日頃から文献やテレビ、新聞等で医療や介護に関わる事柄に興味を持ち、授業に参加してください。

【評価方法・基準】

終了時試験（60%）、学習態度（40%）の総合評価とする。

【教 材】

教科書：適宜指示

参考文献：社会福祉士養成講座編集委員会編『人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版

【キーワード】

ライフサイクル、日常生活動作、医療、心理、介護、ころとからだのしくみ

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、医療で行われる狭義のリハビリテーションだけではなく、全人間的復権を目指した様々なリハビリテーションの種類や時期を知ることにより、広義のリハビリテーションの意義と目的を理解することを目的とする。

【授業の内容及び方法】

多様なリハビリテーションの場面を実例から学び、さらに歴史・介入時期・支援方法・生活動作の改善住居改善など、様々な視点から学ぶ。

講義形式およびグループワーク等を通じて、授業は実施する。

【授業の計画】

1. リハビリテーションとは①
2. リハビリテーションとは②
3. リハビリテーション支援の領域① (対象・支援別)
4. リハビリテーション支援の領域② (自立支援)
5. リハビリテーション支援の領域③ (介護予防)
6. リハビリテーションの4分野 (医学的リハビリテーションを中心に)
7. 介入時期別リハビリテーション① (予防期・急性期)
8. 介入時期別リハビリテーション② (回復期 日常生活動作の回復を中心に)
9. 介入時期別リハビリテーション③ (回復期 手段的日常生活動作の回復を中心に)
10. 介入時期別リハビリテーション④ (生活期・終末期)
11. 環境とリハビリテーション① (住居改善とは)
12. 環境とリハビリテーション② (住居改善のリハビリテーション支援プロセス)
13. 環境とリハビリテーション③ (身体機能と環境から事例を通してプランを考える①)
14. 環境とリハビリテーション④ (身体機能と環境から事例を通してプランを考える②)
15. 事例発表 授業まとめ

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

この授業を履修するにあたり、概ね30時間の自主学修を必要とする。

次の授業までに行うべき課題を出す場合があります。課題を忘れないよう注意してください。

【履修上の注意・要望等】

私語など他者への授業の妨害行為は厳しく対応します。また遅刻がないようにしてください。

【評価方法・基準】

定期試験・レポート・授業態度を総合して評価。評価の配分は試験 (80%)、レポート (10%)、受講態度 (10%)

【教 材】

特になし

【キーワード】

自立支援 介護予防 急性期 回復期 廃用症候群 日常生活動作 手段的日常生活動作
住居改善

【授業科目】 社会理論と社会システム

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 石飛 猛

(自室番号 526)

【対象学生】 社会福祉学科2年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、社会の仕組みや人々の関係性、生活世界に関心を持ち、社会問題を認識できる社会学的な「社会を見る眼」を養うことをめざす。学生は、社会問題等について自ら説明できるようになる。

【授業の内容及び方法】

社会学理論の概要や現代の社会問題に関する内容を概説し、図表を多用して、学生との対話を重視しながら理解を深める。

【授業の計画】

1. 社会学とは
2. 現代社会の理解 社会システム
3. 現代社会の理解 法と社会システム
4. 現代社会の理解 経済と社会システム
5. 現代社会の理解 社会変動
6. 現代社会の理解 現代社会と人口動態
7. 現代社会の理解 現代の地域社会
8. 人と社会の関係 社会集団と組織
9. 現代社会の理解 現代社会と家族
10. 生活の捉え方
11. 人と社会の関係 社会的行為
12. 人と社会の関係 社会的役割と社会的ジレンマ
13. 人と社会の関係 社会関係
14. 人と社会の関係 社会的排除と社会的孤立
15. 社会問題のとらえ方

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

新聞記事を毎日見るとともに予習・復習（30分以上）を怠らないこと。この授業を履修するにあたり、概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

厚生労働省からの新着情報配信サービスの受信設定を行い、その中から必要な情報パソコンに保存し活用できるようにすること。

【評価方法・基準】

定期試験（50%）、提出課題（30%）、受講態度（20%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：『社会理論と社会システム』2013年 学文社

参考文献：『ブリッジブック社会学』第2版 玉野和志編 2016年 信山社

『テキスト現代社会学』第3版 松田健 2016年 『よい社会の探求』田中拓道 2014年 青弓社

【キーワード】

社会システム、社会変動、家族、社会集団、組織、地域、社会関係、社会的行為、社会的役割、社会問題

【授業科目】 福祉情報論及び同演習 【単 位】 2

【学 期】 通 年 【担当教員】 岡崎 起恵子・長谷川 勝一（自室番号 341）

【対象学生】 社会福祉学科2年

【授業の目標及び到達目標】

この授業では、福祉分野の実務を支える様々な ICT（情報通信技術）活用能力の修得を重視し、ICT リテラシーの涵養を図ることを目標とする。支援技術が必要な視覚障害者向けの情報機器や ICT についての知識を習得し、使用あるいは利用することができる。また、社会福祉の専門家として視覚障害者の支援に役立てることができる。

【授業の内容及び方法】

この講義においては、視覚障害者が情報機器を活用する際に必要なハードウェア／ソフトウェアについてと、視覚障害者のパソコンやインターネットの利用を支援する技術について、演習形式として実際の機器を操作しながら身に付ける。

【授業の計画】

- (1) オリエンテーション①
- (2) オリエンテーション②・視覚障害者の理解・視覚障害者と情報機器・視覚障害者の講師と共に盲導犬や点字についても理解を深める
- (3) Windows の基礎とショートカットキーについて
- (4) 視覚障害者向けソフトウェアの紹介と実習・キーボードによる操作・音声化ソフト・画面拡大ソフト
- (5) 視覚障害者向けソフトウェアの紹介と実習・点字入力ソフト・点字エディタ・音声ブラウザ・メールソフト・自動書籍読み上げソフト
- (6) 視覚障害者の支援技術・支援者の心構えと基本技術・Web 上の視覚障害者向けの各種サービス・パソコン以外の情報機器の紹介
- (7) Web アクセシビリティの理解・視覚障害者に読みやすい Web ページの作成
- (8) スカイプで遠方の人と話す・スカイプでファイルの送受信をする・スマホやタブレット PC などの、ボイスオーバーを用いての体験をする
- (9) まとめ・支援技術の実技テスト（画面を見ないでキーボードで操作をする）・レポート作成（後日提出）

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

この授業を履修するにあたって、課題作成や試験対策、授業に関連する情報を集めるなど、授業で学修した内容を自主学修すること。概ね 10 時間程度の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

- ・ 2 回目以降から、アイマスクを着けてタッチタイピングの練習を行う。
- ・ 巖淵守先生の同科目を履修の上、二科目を持って 2 単位とする。岡崎・巖淵の両先生の講義は、ともに集中講義である。学期始めのガイダンスで、集中講義のスケジュールの説明がある。

【評価方法・基準】

講義内容のレポート（70%）および実技試験（30%）。評価に受講態度も加味する。

【教 材】

教科書：配布資料

参考書：参考書および参考となる Web サイトは随時紹介する。

【キーワード】

視覚障害者のパソコン利用とその支援 スクリーンリーダー 点字プリンター スカイプ

【授業科目】 福祉情報論及び同演習

【単 位】 2

【学 期】 通 年

【担当教員】 巖淵守, 平林ルミ (自室番号 ***)

【対象学生】 社会福祉学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

障害のある人や高齢者の自立を支援する様々なテクノロジーや関連するサービスについての知識を得るという授業目標とともに、それら技術を将来活用できる基礎能力を養うことを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

障害のある人や高齢の人の自立活動やコミュニケーションを支援する技術・技法について、身の周りにあるテクノロジーを利用した方法を中心に解説する。さらに実習における支援機器の操作を通じて理解を深める。

【授業の計画】

1. 障害とテクノロジー
2. 身近にあるテクノロジーを利用した支援
3. 重度障害のある人の残存機能を引き出す技術
4. 支援技術サポート
5. パソコンのアクセシビリティ機能① 肢体不自由の人対応機能
6. パソコンのアクセシビリティ機能② 視覚障害のある人対応機能
7. コンピューターアクセス① ハードウェア
8. コンピューターアクセス② ソフトウェア
9. 携帯電話やタブレット端末のアクセシビリティ機能
10. 学習を支援するテクノロジー
11. 生活を支援するテクノロジー
12. コミュニケーション支援入門
13. コミュニケーション支援テクノロジー
14. コミュニケーション支援実習
15. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業後、新たに学んだ障害や病気についての情報を、概ね 30 時間程度を使って自ら調べてみることを。

【履修上の注意・要望等】

紹介される様々な機器を授業の中で実際に試してみることを。それら機器の実際の利用者が持ちうる疑問や不安について考え、授業の中で話し合う。

【評価の方法・基準】

試験（60%）、レポート（20%）、受講態度（20%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書 : なし

参考文献 : AAC 入門 コミュニケーションに困難を抱える人とのコミュニケーションの技法
(こころリソースブック出版会)

【キーワード】

支援技術, 障害, アクセシビリティ, バリアフリー

【授業科目】 教育心理学

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 安田 純

(自室番号 671)

【対象学生】 社会福祉学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

本講義においては、教職に関する専門的識見を涵養することを目的とする。そして、教育の諸場面における人間の行動の理解を深めるとともに、そこで発生した課題について解決する方策を検討できるようになることを目標とする。

【授業の内容及び方法】

心理学は、人の心や生き方を客観的な手法により探る学問であり、その対象となるのは外に表現された人間の行動である。心理学は、古くからの基礎研究とそれらを用いた応用研究からなっている。本講義においては、心理学と呼ばれる様々な領域の研究と、それらが教育場面において、いかなる意味を持つのかを捉え、講義を主として概説する。

【授業の計画】

1. 教育心理学とは
2. 発達心理学と教育心理学
3. 人間の発達の過程
4. 動機づけと教育
5. 教育に生かす学習理論① 連合理論
6. 教育に生かす学習理論② 認知理論
7. 認知心理学と教育心理学
8. 知能と学力およびそれらの評価
9. 人格の理解
10. 教育現場に見る社会 (集団)
11. 教育現場に見る社会 (コミュニケーション)
12. 学級の心理学
13. 発達障害に対する理解・支援
14. 人間の行動の理解
15. 教育心理学再考

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

この講義を履修するにあたり、概ね 30 時間程度の自主学習を必要とする。配布資料等を再読し、確実に知識を蓄積すること。また、書籍、文献等を参考にし、自身の知識を確かなものにしておくこと。

【履修上の注意・要望等】

積極的な姿勢での参加を望みます。

【評価方法・基準】

定期試験 (50%)、レポート (30%)、受講態度 (20%)

【教 材】

教科書：なし

参考文献：鎌原 雅彦・竹綱 誠一郎「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ

【キーワード】

発達、動機、学習、認知、発達障害

【授業科目】 福祉デザイン（衣）論

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 小山 京子

（自室番号 141）

【対象学生】 社会福祉学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、福祉の専門職を目指している皆さんが、今後の仕事（生活を含む）における衣生活に関する知識の向上を目指す。終了後は、身の回りにいる人の衣服全般に対して、関心が持てるようになる。

【授業の内容及び方法】

デザインの基礎から始め、高齢者や障がい者の状態を把握して、問題点に応じた機能性・ファッション性を具備し、さらには、着用者自身の好みや介護者の意見も反映された衣服のデザインや素材、製作上留意すべき事項について考え、実践に向けて展開する。授業は講義が基本ではあるが、デザインにかかわる多くの資料を提示し、学生の意見や感想、質問を聞き、それに対して解答する。最後は各自デザインの発表を行う。

講義の中間にインターミッションを入れ、皆さんの生き方に対してコメントを与える。

【授業の計画】

1. 被服デザインの基礎 1 オリエンテーション、被服の起源・目的
2. 被服デザインの基礎 2 デザインの基本条件、点・線
3. 被服デザインの基礎 3 面・立体、シルエット、ディテール
4. 被服デザインの基礎 4 色・柄、イメージ、カラーコーディネート
5. 被服デザインの基礎 5 素材
6. 人体と被服 1 高齢者・障がい者の体型
7. 人体と被服 2 高齢者・障がい者の生活行動、動作
8. 人体と被服 3 高齢者・障がい者用衣服デザインの要点
9. 人体と被服 4 高齢者・障がい者用衣服の観察・評価
10. 人体と被服 5 ユニバーサルデザイン
11. 人体と被服 6 ユニバーサルファッション
12. 人体と被服 7 ユニバーサルファッションの発表
13. 人体と被服 8 ユニバーサルファッションの発表
14. 被服のデザイン 1 着衣服の評価、静電気
15. 被服のデザイン 2 日常着のデザイン、まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

予習は、次回講義予定のテキストを読んでおく。講義後は、テキストの内容を再確認するとともに、身の回りの事柄を観察し、学習を深めるなど、自主学修の総時間数は、概ね 30 時間必要。

【履修上の注意・要望等】

この講義でしか聞くことのできない独自の内容を話すので、欠席しないこと。

【評価方法・基準】

レポート（70%）、授業への取り組み（30%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：手作りのテキスト

参考文献：「デザイン」「服装デザイン」「ユニバーサルファッション宣言」他

【キーワード】

被服デザイン、高齢者、障がい者、ユニバーサルデザイン、ユニバーサルファッション

【授業科目】福祉デザイン（衣）演習

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 小山 京子

（自室番号 141）

【対象学生】社会福祉学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

前期履修した福祉デザイン（衣）論を基礎に、高齢者・障がい者それぞれの体型を理解し、使いやすく、着やすい作品をデザインし、製作する。時間数は少ないが、実際に高齢者・障がい者の話を聞き、作品製作ができる。

【授業の内容及び方法】

誰もが着用できる衣服としてパンツを各自デザインし、計測、素材の検討後、製作する。完成したパンツを着用して各自評価の後、グループで評価する。それらを踏まえ、2点目をデザインし、製作（リフォーム）する。完成作品は、着装を依頼してその感想を聞き、今後の課題を考える。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 各自パンツの計測、デザイン、素材の検討
3. パンツ製作1 各自パンツ製図
4. パンツ製作2 布裁断、しるしつけ
5. パンツ製作3 本縫い（ロックミシン、ポケット作り・付け）
6. パンツ製作4 本縫い（脇・股下縫い）
7. パンツ製作5 本縫い（股上前後縫い、ウエスト）
8. パンツ製作6 本縫い（すそ始末、仕上げ）
9. パンツ製作7 着装・評価
10. 自由作品を考える
11. 自由作品1 布裁断、しるしつけ
12. 自由作品2 本縫い1
13. 自由作品3 本縫い2（仕上げ、完成）
14. 自由作品4 着装依頼
15. 感想、反省、まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

各自デザイン、製作方法が異なるので、それぞれの指示に基づき、予習・復習を行う。履修にあたり、自主学修の総時間数は、概ね30時間必要。

【履修上の注意・要望等】

福祉デザイン（衣）論を履修済みであること。

【評価方法・基準7】

作品製作（50%）、レポート（30%）、授業への取り組み（20%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：プリント配布

参考文献：高齢者・障害者の衣服

【キーワード】

パンツ製作、高齢者、障がい者、衣服のリフォーム

【授業科目】 パソコン基礎演習

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 荻野 真介

(自室番号 322)

【対象学生】 社会福祉学科2年

【授業の目標及び到達目標】

どの分野でもよく使われ、習得することが必須となっているエクセルの基礎を、実用的な例題を実際に作りながら学ぶ。この演習により学生は、エクセルによる四則演算・多様なグラフの作成・アンケートの集計や分析などができるようになる。

【授業の内容及び方法】

まず、簡単な表計算・グラフ作成を、家計簿を例にとりて学ぶ。次に、データ集計・分析に威力を発揮する度数分布(ヒストグラム)・ピボットテーブル(クロス集計)を学ぶ。その具体的な応用として実践的なアンケート集計・分析を、卒業研究で実際に使われたアンケートのデータを使って実行する。最後に、多くの場面で使用されている役に立つ関数：IF 関数と VLOOKUP 関数を、実用的なソフトを作りながら学ぶ。

【授業の計画】

- | | |
|---------------|---|
| (1) 入門編 I | エクセルの画面やメニューの説明及び実際の操作 |
| (2) 入門編 II | 表計算, グラフ, データベース(並べ替え・抽出)の操作 |
| (3) 初級編 I | 例題「家計簿1」による表計算・グラフの作成: 円グラフ |
| (4) 初級編 II | 例題「家計簿2」による表計算・グラフの作成: 棒グラフ・折れ線グラフ |
| (5) 初級編 III | 例題「家計簿2」による表計算・高度なグラフの作成: 混合グラフ・第2軸 |
| (6) 中級編 I | 度数分布(ヒストグラム)の基本操作 |
| (7) 中級編 II | ピボットテーブル(クロス集計)1: 基本操作 |
| (8) 中級編 III | ピボットテーブル(クロス集計)2: 具体例(書店の顧客名簿)を使った集計・分析 |
| (9) 中級編 IV | アンケート集計への応用1: リスト入力・単数選択問題と複数選択問題の区別 |
| (10) 中級編 V | アンケート集計への応用2: 度数分布とヒストグラムの作成 |
| (11) 中級編 VI | アンケート集計への応用3: ピボットテーブルによる集計・分析 |
| (12) 中級編 VII | アンケート集計への応用4: 卒業研究で実際に使われたデータの集計・分析 |
| (13) 中級編 VIII | BMI 指数による標準体重の計算とグラフ |
| (14) 中級編 IX | if 関数 |
| (15) 中級編 X | vlookup 関数 |

【授業外の学修(予習・復習等、学習時間など)について】

授業中に習った操作方法は、反復練習しないと身につかないので、必ず自分のノートパソコンなどで復習すること。授業全体で、概ね30時間程度の自主学習が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

初心者想定して授業をするので、初めての人でも安心して受けてください。エクセルは福祉の分野でも非常に役立ちますので全員必ず履修すること。

【評価方法・基準】

演習成果・定期試験(実技)の評価に、通常の演習態度を加味して行う。

定期試験: 80%・課題: 10%・受講態度: 10%

【教 材】

教科書: 自作テキスト

参考文献: 「できるエクセル」など

【キーワード】

エクセル、表計算、グラフ作成、データベース、ピボットテーブル、クロス集計、アンケート集計・分析

【授業科目】 パソコン演習 I

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 荻野 真介

(自室番号 322)

【対象学生】 社会福祉学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

パソコン基礎演習(エクセルの基礎)で学んだ知識の上に、より実用的で高度なエクセルのスキルを習得する。将来、オフィスや福祉施設で必要となるエクセルのソフトを自力で作成できる力を養うのが目的。

【授業の内容及び方法】

様々な分野で実際に使われているエクセルのソフト(以下の授業計画参照)を自力で作ってみる。そのときに必要となるテクニックをしっかりと学ぶと共に、ポイントとなる式などを自分で考え出す練習をする。

【授業の計画】

- (1) カロリー計算 1 : 標準体重・基礎カロリー・必要カロリーの計算
- (2) カロリー計算 2 : IF 関数を使ったエラーメッセージ処理
- (3) 運動消費エネルギーの計算
- (4) 見積書の作成 1 : 商品名・価格などの入力など
- (5) 見積書の作成 2 : 消費税の計算・合計価格の表示・見積有効期限の表示など
- (6) 利子計算(絶対参照の\$に注意する)
- (7) 成績管理: 偏差値・「優・良・可・不可」の評価・自動記録マクロによる並べ替え
- (8) 給与計算 1 : 給与一覧表の作成(基本給・残業手当・税金控除など)
- (9) 給与計算 2 : 給与明細表の作成と印刷
- (10) 給与計算 3 : 印刷のプログラミングによる制御
- (11) コンピュータ注文フォーム 1 : コンボボックスによるグレードの選択
- (12) コンピュータ注文フォーム 2 : チェックボックスによるオプション選択
- (13) 家計簿入力フォーム 1 : 入力画面の作成
- (14) 家計簿入力フォーム 2 : コンボボックスのプログラミングによる制御
- (15) まとめ

【授業外の学修(予習・復習等、学習時間など)について】

授業中に習った操作方法は、反復練習しないと身につかないので、必ず自分のノートパソコンなどで復習すること。授業全体で、概ね 30 時間程度の自主学習が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

2年前期の科目: パソコン基礎演習の知識が必要である。

【評価方法・基準】

筆記試験と日頃の課題の達成度。定期試験: 80%・課題: 10%・受講態度: 10%

【教 材】

教科書: 自作テキスト

参考文献: 「できるエクセル」など

【キーワード】

エクセル、表計算、グラフ、データベース、抽出、ピボットテーブル、ヒストグラム、IF 関数、VLOOKUP 関数、給与計算、マクロ、VBAプログラミング

【授業科目】 教職論

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 野々上 正成

(自室番号 ***)

【対象学生】 社会福祉学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

授業の目標

本授業は教職についての意義並びに教師に課せられた使命・役割について理解を深め、教育への関心と意欲を高めるために行う。

授業の到達目標

- 1 教職について関心を持ち、学校教育の目的や教員の職務内容、服務、研修等の基礎的・基本的内容について、調べ考え理解を深め、表現することができる。
- 2 教師の教育活動を多面的に理解するとともに、教師に求められる資質や能力について考え、自己分析を行い、教職への取り組みや見通しをわかりやすく説明できる。
- 3 教育への関心と意欲を高め、進路選択に資する一助とすることができる。

【授業の内容及び方法】

- 1 教職の意義や教員の役割について概説し、受講者が教職への意欲や適性等について多角的に考察する機会を提供し、進路選択の過程を支援する。
- 2 受講者が、教員の職務内容等について、具体的実践的に理解できるように演習やグループ討議などを行い、当事者としてのイメージを持てるようにする。

【授業の計画】

項 目	内 容	処置・資料・作業
1. オリエンテーション	授業の目標、内容、教育とは	教職の意義、教育とは
2. 様々な教師像 時代の変化と教師	私が出会った先生、 教師像・生きがい	教師の魅力・生きがい 教育をとりまく環境
3. 教職への進路（1）	教員の資格	求められる資質・能力
4. 学校教育と教員の役割	学校教育の目的、教員の使命	教育基本法、学校教育法
5. 学校と教職の歴史	学校教育と教職の歴史	日本の教育史、義務教育の歴史
6. 教職の特性と教職観	教職の特殊性	教師像の変遷、教育公務員
7. 教員の職務	日常・年間業務	職務、教育を担う、学校を担う
8. 教育活動（1）	教育課程の構造、編成	教育課程と学習指導・生徒指導
9. 教育活動（2）	学習と教授、授業づくり	教科指導、指導と評価（PDCA）
10. 教育活動（3）	学級担任	学級集団づくり、健全育成
11. 学校組織と教員	教員と職務	学校運営と学校組織マネジメント
12. 教員の服務と身分	地方公務員法、教育公務員特例法	教員の任免と服務規律、不祥事
13. 教員の資質向上と研修	教員教育、力量形成	力量形成、養成・採用・研修
14. 教職への進路（2）	教員資格の獲得、教員養成	教員養成カリキュラム、免許更新制
15. 教職への進路（3）	教員採用に向けて	いま、求められる教員

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

- 1 新聞や雑誌等において扱われる教育や教員に関する記事などに関心を持ち、収集し、感想等をまとめておく。
- 2 日々の予習・復習、指示された課題や試験対策に積極的に取り組み、加えて休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を概ね30時間程度自主学习すること。

【履修上の注意・要望等】

- 1 人として、当たり前前の行動が当たり前でできること。
- 2 この講座は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。教職について、目的意識を持って真摯に取り組むこと。

【評価方法・基準】

筆記試験（50%） 課題・レポート（20%） 小テスト（20%） 学習態度（10%）

【教 材】

教職論 新井保幸・江口勇治 編著 培風館

【キーワード】

社会人基礎力、資質能力の育成、学校組織マネジメント、教育実践

【授業科目】 教育原理

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 遠藤 健治

(自室番号 673)

【対象学生】 社会福祉学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

本講義は、義務教育制度を主とした現在の教育制度について、その成立までの歴史的経緯をふまえたうえで、制度的特質や思想的、理念的意味を学び、加えて関連、内包する諸課題について考察を深めることをめざす。

これにより、教職を希望する受講者が、これから就くであろう教育現場の成り立ちについて理解し、さらにそこでの現在の諸課題解決への糸口を探ることができることを目標とする。

【授業の内容及び方法】

本講義では、①戦前、日本における義務教育制度成立の経緯と思想的、理念的背景、②戦後教育の原理、およびその思想と理念、③学校の種類、④義務教育制度のしくみ、⑤学校における子ども、⑥学校における教職員を柱として学ぶ。

【授業の計画】

第1回 ガイダンス

第2回 戦前、日本における義務教育制度成立の経緯と思想的、理念的背景

第3回 戦後教育の原理、およびその思想と理念 1

——教育法規をめぐる勅令主義と法令主義——

第4回 戦後教育の原理、およびその思想と理念 2

——学習権の保障と日本国憲法および教育基本法——

第5回 学校の種類 1——義務教育諸学校と学校の設置者——

第6回 学校の種類 2——設置者管理主義と設置者経費負担主義——

第7回 義務教育制度のしくみ 1——義務教育制度と就学義務——

第8回 義務教育制度のしくみ 2——学校設置義務と就学保障義務、避止義務——

第9回 学校における子ども 1——懲戒と体罰、出席停止——

第10回 学校における子ども 2——就学をめぐる諸手続——

第11回 学校における子ども 3——児童虐待防止法と少年法——

第12回 学校における教職員 1——教職員の名称と職務内容——

第13回 学校における教職員 2——教員免許状制度の原則と免許状の種類および効力——

第14回 学校における教職員 3——教育公務員の任免、研修、服務・義務——

第15回 学校における教職員 4——分限処分と懲戒処分——

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

本講義を履修するにあたって、おおむね 30 時間程度の自主学修が必要となる。日々の予習・復習や試験対策に加え、休日や長期休業期間などを利用して、授業で学修した内容を自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

①失格につながる不用意な欠席、遅刻は避ける、②遅刻者、中抜け者の出席は認めない、③指名時に、寝ている者の出席も認めない、④授業態度不良の者は、その場で失格にし、その後の講義への出席は一切認めない。

【評価方法・基準】

試験(80%)、受講態度(20%)により総合的に評価する。

【教 材】

講義に際し、プリントを配付する。参考文献は、田嶋一編著『やさしい教育原理』（有斐閣、2016年）ほか、適宜指示する。

【キーワード】

教職、学校教育、義務教育、教育の目的および理念、教育の歴史

社会福祉学科 3年

1. 教養・基礎教育科目

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年				資格	備考	頁
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉		
導入科目	1年次セミナー	演習	2		○						
共通教養科目	現代生活論	講義		2	○						
	国際社会と日本	講義		2	○						
	地球環境論	講義		2	○						
	人権教育	講義		2	○						
	日本国憲法	講義		2	○				◎		
	調査と統計	講義		2		○					
	心理学概論	講義	2		○						
	日本語リテラシー	講義		2	○						
キャリア科目	キャリアデザイン論	講義		1	○						
	ボランティア論(教育系)	講義		1	不開講						
	ボランティア論(福祉系)	講義		1	○	○	○	○			16
	インターンシップ実習	実習		1	○	○	○	○			17
	ボランティア実習	実習		1	○	○	○	○			18
情報リテラ	情報リテラシーⅠ	演習		2	○					この3科目の中から、2科目4単位以上選択必修	
	情報リテラシーⅡ	演習		2	○				◎		
	情報リテラシーⅢ	演習		2				○			97
外国語科目	英語Ⅰ	演習	1		○					この10科目の中から、2科目2単位以上選択必修	
	英語Ⅱ	演習	1		○						
	英語Ⅲ	演習		1		○			◎		
	英語Ⅳ	演習		1		○			◎		
	英語資格認定Ⅰ	実習		1	○	○	○	○			27
	英語資格認定Ⅱ	実習		2	○	○	○	○			28
	ドイツ語Ⅰ	演習		1	○						
	ドイツ語Ⅱ	演習		1	○						
	韓国語Ⅰ	演習		1	○						
	韓国語Ⅱ	演習		1	○						
	中国語Ⅰ	演習		1	○						
中国語Ⅱ	演習		1	○							
スポーツ科目	レクリエーション概論	講義		2	○					この4科目の中から、2科目2単位以上選択必修	
	レクリエーション実技・実習	実習		2	○						
	スポーツ健康講義	講義		1	○				◎		
	スポーツ健康実習	実習		1	○				◎		
単位互換科目	放送大学科目Ⅰ	—	—	—	○	○	○	○		通算して4単位まで卒業要件に含めることができる	39
	放送大学科目Ⅱ	—	—	—	○	○	○	○			39
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅰ	—	—	—	○	○	○	○			40
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅱ	—	—	—	○	○	○	○			40
学科基礎科目	生活福祉論	講義		2	○						
	住まいと福祉	講義		2		○					
	福祉情報コミュニケーション	演習		2		○					
	社会の変化と社会福祉Ⅰ	講義		2	○						
	数学の基礎	講義		2		○					

【卒業要件】必修科目6単位、選択必修科目8単位以上を含めた計30単位以上を修得のこと。

【備考1】教員免許欄の◎印科目=必修科目。

2. 専門教育科目

区分	授 業 科 目	授業 形態	単位数		配当学年				資格		備 考	頁	
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉	福祉士			
専門 基幹 科目	現代社会と福祉Ⅰ	講義	2			○				◎	◎	必修科目10単位を含め24単位以上 を修得のこと	
	現代社会と福祉Ⅱ	講義		2		○				◎	◎		
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ	講義	2		○					◎	◎		
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ	講義		2	○					▲	◎		
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義	2				○			▲	◎		98
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義	2		○					◎	◎		
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義		2	○					▲	◎		
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ	講義	2			○				◎	◎		
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ	講義		2		○				▲	◎		
	介護概論	講義		2	○					◎			
	加齢の理解	講義		2		○				◎			
	障害の理解	講義		2		○				◎			
	中山間地福祉のまちづくり	講義		2				○					
	NPO・ボランティア活動論	講義		2		○							
	安全・安心のまちづくり	講義		2			○						99
	地域づくりと環境デザイン(演習)	演習		2		○							
	地域づくりと住民参加(演習)	演習		2		○							
地域経済・地域財政からみたまちづくり	講義		2				○						
専門 展 開 科 目	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義		2	○					◎	◎	必修科目4単位を含め40単位以上 を修得のこと	
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義		2			○			▲	◎		100
	社会福祉事業史	講義		2			○						101
	社会保障Ⅰ	講義		2		○				◎	◎		
	社会保障Ⅱ	講義		2		○				◎	◎		
	福祉行財政と福祉計画	講義		2				○		◎	◎		
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○					◎	◎		
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○					◎	◎		
	相談援助の理論と方法Ⅰ	講義		4		○				▲	◎		
	相談援助の理論と方法Ⅱ	講義		4			○			▲	◎		102
	社会調査の基礎	講義		2			○			▲	◎		103
	社会の変化と社会福祉Ⅱ	講義		2	○								
	福祉サービスの組織と経営	講義		2			○			▲	◎		104
	権利擁護と成年後見制度	講義		2			○				◎		105
	就労支援サービス	講義		1			○			▲	◎		106
	更生保護制度	講義		1			○				◎		107
	相談援助演習Ⅰ	演習		1		○				◎	◎		
	相談援助演習Ⅱ	演習		1			○			◎	◎		108
	相談援助演習Ⅲ	演習		1			○			◎	◎		109
	相談援助演習Ⅳ	演習		1				○		◎	◎		
	相談援助演習Ⅴ	演習		1				○		◎	◎		
	相談援助実習指導Ⅰ	演習		1			○			◎	◎		110
	相談援助実習指導Ⅱ	演習		2				○		◎	◎		
	相談援助実習	実習		4				○		◎	◎		
	介護実習	実習		1			○			◎			111
	人体の構造と機能及び疾病	講義		2		○					◎		
	人体構造及び日常生活行動に関する理解	講義		2		○				◎			
	リハビリテーション論	講義		2		○				▲			
	心理学理論と心理的支援	講義		2	○						◎		
	社会理論と社会システム	講義		2		○					◎		
	医療ソーシャルワーク論	講義		2			○						112
	保健医療サービス	講義		2			○				◎		113
精神保健	講義		2			○					114		
家庭支援論	講義		2			○					115		
福祉情報論及び同演習	演習		2		○				▲				
ウェブリテラシー演習	演習		2				未開講						
福祉のまちづくり基礎演習	演習		2			○					116		
福祉のまちづくり論	講義		2				○						

区分	授 業 科 目	授業 形態	単位数		配当学年				資格		備 考	頁
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉	福祉士		
その 他 の 専 門 科 目	衣生活論	講義		2	未開講							
	食生活論	講義		2	未開講							
	家庭経営学概論	講義		2	未開講						含 家庭経済学	
	保育及び家庭看護学	講義		2	未開講						含 保育実習	
	教育心理学	講義		2		○			◎			
	福祉デザイン(衣)論	講義		2		○						
	福祉デザイン(衣)演習	演習		2		○						
	情報のユニバーサルデザイン論	講義		2			○					117
	パソコン基礎演習	演習		2		○						
	パソコン演習Ⅰ	演習		2		○						
	パソコン演習Ⅱ	演習		2	未開講							
	パソコン実践演習	演習		2			○					118
	簿記会計学	講義		2			○					119
卒業 研究 系	特別演習Ⅰ	演習	2			○					120	
	特別演習Ⅱ	演習		2			○					
	特別演習Ⅲ	演習	1				○					
	卒業研究	演習		4				○				

【卒業要件】 専門基幹科目24単位以上（必修科目10単位含む）、専門展開科目40単位以上（必修科目4単位含む）、卒業研究系3単位以上（必修科目3単位を含む）及びその他の専門科目を含め、94単位以上修得すること。

【備考】 教員免許欄及び福祉士欄の◎印の科目は、必修科目。同じく△印の科目は選択必修科目、▲印は選択科目。

3. 教職に関する科目

授業科目	授業 形態	単位数	配当学年				備 考	頁
			1年	2年	3年	4年		
教職論	講義	2		○				
教育原理	講義	2		○				
教育経営論	講義	2			○		121	
教育課程論	講義	2			○		122	
福祉科教育法	演習	4			○			
特別活動の研究	講義	2			○		123	
教育方法・技術論	講義	2				○		
生徒・進路指導論	講義	2				○		
教育相談	講義	2				○		
教職実践演習（高）	演習	2				○		
事前事後指導	実習	1				○		
教育実習	実習	2				○		

【備考】 教員免許取得希望者は、この欄の全科目を修得すること。

【授業科目】 情報リテラシーⅢ 【単 位】 2

【学 期】 後 期 (4 年前期へ変更) 【担当教員】 荻野 真介(自室番号 322)・蜂谷 俊隆(自室番号 677)

【対象学生】 社会福祉学科 3 年

【授業の目標及び到達目標】

卒業論文や研究論文作成のための必要なスキルのうち、検定・アンケート集計・学術論文のまとめ方の 3 つを重点的・実践的に学ぶ。卒業論文を書くつもり学生は必ず履修すること。卒業論文作成だけでなく、将来の研究論文作成にも大いに役に立つので、卒業研究を取る予定のない人も履修するよう強く薦める。

【授業の内容及び方法】 3 つに分かれる。

- 1) エクセルによる検定 (荻野担当)
- 2) 「パソコン基礎演習」(2 年前期・エクセル)のアンケート集計の復習と実践的応用(荻野担当)
- 3) ワードによる学術論文のまとめ方(蜂谷担当)

【授業の計画】

- ①オリエンテーション
- 1) エクセルによる検定
 - ②エクセルの中の検定用ツールの紹介
 - ③検定の基本的な考え方(帰無仮説・対立仮説・確率分布・有意水準・t 分布・P 値など)
 - ④対応のある 2 標本による t 検定 ~研修会の効果の検定~
 - ⑤対応のある 2 標本による t 検定 ~実験前後の平均値の差の検定~
 - ⑥対応のない 2 標本による t 検定 ~2 集団のヘモグロビン量の平均値の差の検定~
 - ⑦福祉介護分野での検定の活用例
 - ⑧総合演習
- 2) パソコン基礎演習(2 年生前期・エクセル)のアンケート集計の復習と実践的応用
 - ⑨ピボットテーブル・ヒストグラム・リスト入力・単数選択と複数選択・クロス集計・グラフ作成など
 - ⑩実際の調査データを使った実践的集計：単数選択の集計とグラフ
 - ⑪実際の調査データを使った実践的集計：複数選択の集計とグラフ
- 3) ワードによる学術論文のまとめ方
 - ⑫ワープロでの差し込み印刷機能を使ったアンケート作成
 - ⑬学術論文をまとめる (1) レイアウト、ページ番号の設定、スタイルの指定、画像の貼り付け
 - ⑭学術論文をまとめる (2) 目次作成、PDF 作成、注釈文設定
 - ⑮学術論文をまとめる (3) 図表番号、参考文献リスト、画像の取り込み

【授業外の学修(予習・復習等、学習時間など)について】

授業中に習った操作方法は、反復練習しないと身につかないので、必ず自分のノートパソコンなどで復習すること。授業全体で、概ね 30 時間程度の自主学習が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

卒業研究だけでなく将来の研究論文作成にも大いに役に立つスキルを学ぶことができるので、卒業研究を取る予定のない人も履修するよう強く薦めます。

【評価方法・基準】

演習成果・定期試験(実技)の評価に、通常の演習態度を加味して行う。

定期試験：80%・課題：10%・受講態度：10%・出席点

【教 材】

- 1) と 2) の教材：自作プリント
- 3) の教材：教科書 卒業研究論文を作成するにあたっての注意事項(学修・学術情報センター)
参考書 学生のための Office 2010&情報モラル(ノア出版)
完全マスター Word2010(ノア出版)

【キーワード】 アンケート集計 社会調査 統計理論 検定 推定 差し込み印刷 目次作成
注釈分作成 スタイルの指定 ページ番号の設定 画像の取り込み・貼付け

【授業科目】 地域福祉の理論と方法 I

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 小坂田 稔 (自室番号:521)

【対象学生】 社会福祉学科 3 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、社会福祉実践に必要となる地域福祉の理論および実践方法について理解を深めていくことをめざす。この学びを基に地域福祉理論と知識、方法を基にした地域福祉実践ができるようにする。

【授業の内容及び方法】

地域福祉の理論を具体的実践事例により学んでいく。講義を主とするが、事例を基にしたグループワークも行う。毎回、授業内容に沿った資料を配布していく。

【授業の計画】

1. 地域福祉とは何か(1)
地域福祉の必要性と基本的な考え方(理論、根拠法など)
2. 地域福祉とは何か(2)
事例を基にコミュニティ・ソーシャルワーク考える
3. 地域福祉の構成要素と予防的福祉活動(3つの壁へのチャレンジ)
4. 予防的福祉サービス(活動)
福祉教育の必要性と取り組み方法・当事者の話から考える
5. ニーズキャッチの必要性和方法
6. ニーズキャッチの仕組み
7. 「組織活動」の必要性和組織活動の種類
8. 「組織活動」の原則と組織活動の方法
事例を基に考える
地区社協の意味と活動内容
9. 実践的地域包括ケアシステムとは何か(1) 必要な背景・目的・意義
10. 実践的地域包括ケアシステムとは何か(2) 内容・機能・国の地域包括ケアシステムとの相違
11. 社会福祉協議会の組織目的・活動内容と活動原則
12. 社会福祉協議会の現状・課題とこれからのあり方
-全国社会福祉協議会「社協・生活支援活動強化方針」が示すこれから
13. 地域福祉と権利擁護-日常生活自立支援事業と成年後見制度、権利擁護支援センター-活動
14. 「地域共生社会」の推進と意味と地域福祉の関係
15. 事例を基に地域福祉実践を考えてみる

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

自主的に授業に関係した文献を読んでいくこと。授業後に配布した資料を再読し、キーワードについて必ず復習し、疑問点をなくすこと。事例については必ず予習し、授業に臨むこと。自主学習時間としては概ね 30 時間程度を目安として確保すること。

【履修上の注意・要望等】

毎回確認テストを配布する。確認テストは、次回の授業までに必ず提出すること。授業での不明点は、このテストの質問欄に記入すること。

【評価方法・基準】

確認テスト(20%)、受講態度・グループワーク内容(20%)、本試験(60%)との総合評価。

但し、本試験の点数が 60 点以上ない場合は不可とする。

【教 材】

教科書：新・社会福祉士養成講座『地域福祉の理論と方法』（中央法規）

その他：社会福祉小六法・毎回の授業時に配布するレジメ資料

【キーワード】 2つの生活けん 3つの壁 4つの力 社会福祉法 実践的地域包括ケアシステム
社会福祉協議会 コミュニティ・ソーシャルワーク 地域共生社会

【授業科目】 安全・安心のまちづくり 【単 位】 2

【学 期】 前期集中 【担当教員】 大西 一嘉 (自室番号 ***)

【対象学生】 社会福祉学科3年

【授業の目標及び到達目標】

地域の安全・安心は、その構成要素である建築や地域空間とそこに居住する人間との関係性に依存します。このような地域の居住環境に必要とされる性能要件として、安全性、保健性、利便性、快適性、持続性などが挙げられますが、中でも安全性は最も基本的な性能とされており、人命、財産および機能の安全を如何に図るかが重視されます。そこで、この授業では安全・安心を脅かす要因としての加害力となる各種の災害事象への理解を深めると共に、被災側の地域空間や地域社会とそこに暮らす人々、とりわけ高齢者や障がい者といった、災害時において特別な配慮や支援を必要とする人々の脆弱性がどのように増大し、危機的な状況に至るかについて構造的に把握することで、地域の安全や安心確保のための理論と手法を実際に即して学ぶものとしています。

到達目標：

- ①地域空間における火災や地震、事故などの災害外力による破壊と被災のメカニズムの理解。
- ②被害を軽減する技術や手法を学び、日常生活の中における具体的行動として説明できる。
- ③地域を巡る様々なリスクやハザードに対処する、社会の防災力向上のための道筋を思い描く事ができる。
- ④危険な状態を回避するための、安全安心のまちづくりにおける各種意思決定の得失を評価できる。

【授業の内容及び方法】

前半は講義を中心に進めます。後半になると災害に関するビデオ教材を視聴した後に、テーマを決めてグループディスカッションを行い、議論の成果を発表するなどのアクティブ・ラーニングも取り入れます。

【授業の計画】

- 1) 都市の成立と安全、2) 災害の定義、3) 福祉のまちづくり、4) 防災と福祉(災害時要援護者)、5) ビル火災、6) 福祉施設の火災安全、7) グループ討論(障がい者の防火対策)、8) 火災図上演習(F I G)、9) 避難と情報、10) 正常化の偏見、11) 災害対応とタイムライン、12) 災害救助、13) 福祉避難所、14) 津波災害、15) グループ討論(何が生死を分けたか)

【授業時間外の学修(予習・復習の指示)について】

本講義専用ノート(B5判)に、講述内容と共に、各自が興味を持ったテーマについて授業後に各種情報を収集してノート内容を充実させて下さい。最後に学修の記録として提出を求めます。

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

本講義専用ノート(B5判)に、講述内容と共に、各自が興味を持ったテーマについて授業後に各種情報を収集してノート内容を充実させて下さい。最後に学修の記録として提出を求めます。この授業を履修するにあたって、概ね30時間程度の学修時間が必要となります。

【履修上の注意・要望等】

復習をしっかりと行い、自ら授業に参画する心構えで、臨んでください。

【評価方法・基準】

講義ノート(70%)、小テスト(20%)、受講態度(10%)により総合的に評価します。評価基準は、以下の諸点です。①講義内容の整理、②内容の理解の正確さ、③聞き取る力、④関連学修の成果、⑤自分の意見や考え方が具体的に示されているか。

【教 材】

教科書：なし 参考文献：①「高齢者福祉施設の夜間火災時の防災・避難マニュアル」、大西一嘉他(日本防火技術者協会)、近代消防社、②「大都市の社会基盤整備」、松澤敏雄編、東京大学出版会、③「建築防災・安全」室崎益輝、鹿島出版会、④「防災学原論」ベンワイズナー他、築地書館

【キーワード】

福祉、災害、安全、リスク、ハザード、災害時要援護者、火災、水害、地震、津波、避難、災害救助法

【授業科目】 地域福祉の理論と方法Ⅱ

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 小坂田 稔 (自室番号:521)

【対象学生】 社会福祉学科3年

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、地域福祉実践事例の学習やグループワークを通して、地域福祉の理論と実践方法について具体的に理解を深めていくことをめざす。地域福祉の理論と知識、方法を基にした地域福祉実践ができるようにする。

【授業の内容及び方法】

地域福祉の理論を具体的実践事例により学んでいく。講義を主とするが、グループワークを加える。毎回、授業内容に沿った資料を配布していく。

【授業の計画】

1. 地域福祉と共同募金
共同募金の歴史・目的・意義・内容
2. 地域福祉と民生委員・児童委員
民生委員・児童委員の歴史・役割・活動内容
3. 地域福祉における福祉施設の役割(施設の地域化の意味・社会福祉法人の地域公益事業の意義)
4. 施設の地域化の考えを基に理想の福祉施設を設計する(1)(グループワーク)
5. 同 上(2)・・・設計施設のプレゼンテーション(グループ発表)
6. 「7人の若者が取り組んだ福祉施設づくりの物語」を通して地域福祉での福祉施設の役割を考える
7. 環境改善活動の必要性和意義、方法
8. 大学内の施設点検活動に取り組んでみる(グループワーク)
点検結果を基に環境改善活動の意味とソーシャルアクションの方法を理解する
9. 地域福祉と福祉委員(福祉委員の役割・活動内容)
10. 地域福祉における社会資源の意味と役割
事例を基に社会資源の必要性和活用方法を考える(グループワーク)
11. 具体的事例を基にコミュニティソーシャルワークの展開を考える(グループワーク)
12. 地域福祉計画の意義・種類、地域福祉推進に果たす役割
13. 地域福祉計画策定の様々な手法
14. 地域福祉の歴史(わが国の地域福祉)
15. 地域福祉の歴史(海外の地域福祉)

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

自主的に授業に関係した文献を読んでいくこと。授業後に配布した資料を必ず再読し、疑問点をなくすこと。グループワークについては、授業外の作業も含めて主体的に参加すること。

自主学習時間としては、グループワークを含めて概ね30時間程度を目安として確保すること。

【履修上の注意・要望等】

毎回確認テストを配布する。確認テストは、次回の授業までに必ず提出すること。授業での不明点は、このテストの質問欄に記入すること。グループワークはメンバー全員で協力して取り組むこと。

【評価方法・基準】

確認テスト(20%)、受講態度及びグループワーク参加状況・発表内容(20%)、本試験(60%)との総合評価。但し、本試験の点数が60点以上ない場合は不可とする。

【教 材】

教科書：新・社会福祉士養成講座『地域福祉の理論と方法』（中央法規）

その他：社会福祉小六法・毎回の授業時に配布するレジメ資料

【キーワード】

共同募金 民生委員児童委員 福祉委員 環境改善活動 社会資源 コミュニティソーシャルワーク
地域福祉計画 社会福祉法人の地域公益事業 第三の道

【授業科目】 社会福祉事業史

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 石飛猛

(自室番号 526)

【対象学生】 社会福祉学科3年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、17世紀以降の社会福祉の制度・実践活動・思想を、資本主義の発展段階と対応させながら理解することを目標とする。学生は、社会保障・社会福祉について説明できるようになる。

【授業の内容及び方法】

17世紀以降の英国の社会福祉の制度・実践活動・思想の歴史を概説し、図表を多用して、学生との対話を重視しながら理解を深める。

【授業の計画】

1. 貧困問題の発生と旧救貧法 英国 1601 年法
2. 産業革命と社会問題
3. 新救貧法の成立 救貧法の人道主義化、産業革命、1834 年原則、J S ミル、
4. 民間部門の役割 慈善、セツルメント、リッチモンドのソーシャルワーク
5. 社会主義の台頭 ユートピア社会主義、マルクス主義、フェビアン社会主義、ドイツの社会国家
6. 救貧法の廃止と擁護をめぐる対立 ビアトリス・ウェブ、平行棒理論・振出理論、少数派報告
7. 社会立法の動き ドイツ社会保険 貧困調査 英国自由改良主義立法、米国ニューディール政策
8. ベヴァリッジ体制の確立 社会保障制度の3つの方法、福祉国家体制
9. ベヴァリッジ体制の展開 福祉国家のゆらぎ、貧困の再発見
10. パーソナルソーシャルサービスの形成と展開 ヤングハブント報告、シーボーム報告、バークレイ報告
11. コミュニティケア改革 サッチャリズム、グリフィス報告、ワグナー報告、福祉多元主義
12. 近年のイギリスにおける福祉改革
13. 第2次大戦前の日本の慈善 社会事業 民間慈善活動、感化救済事業、救護法、方面委員、厚生事業
14. 第2次大戦後の日本の社会福祉 占領期、皆保険・皆年金、福祉6法、社会保障運動、福祉見直し
15. 2000年以降の日本の社会福祉

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

新聞記事を毎日見るとともに予習・復習（30分以上）を怠らないこと。この授業を履修するにあたり、概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

厚生労働省からの新着情報配信サービスの受信設定を行い、その中から必要な情報をパソコンに保存し活用できるようにすること。

【評価方法・基準】

定期試験（50%）、提出課題（30%）、受講態度（20%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：『社会福祉のあゆみ』金子光一著 2005年 有斐閣

参考文献：『福祉の経済思想家たち』増補版 小峯敦編 2012年 ナカニシヤ出版

【キーワード】

産業革命、福祉国家、新自由主義、社会福祉基礎構造改革、社会保障と税の一体改革、ワークフェア、福祉多元主義、コミュニティケア

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、社会福祉士の主要な業務である相談援助について、その援助技術と理論モデルを理解することを目標とする。それにより学生が、ソーシャルワークの知識・価値・技術の習得をめざし、専門職として活用できるようになることを目標とする。

【授業の内容及び方法】

相談援助における人と環境との相互作用、相談援助の展開過程、相談援助のための様々な技術等を学ぶ。授業方法は、講義を主とするが、途中、DVD等の視聴覚教材を使用したり、グループワークを取り入れたりして授業を行う。

【授業の計画】

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------|
| 1. 社会福祉援助活動の概念と定義 | 16. ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル |
| 2. 相談援助の対象 | 17. 実践モデルとアプローチ① |
| 3. グループワークの意義 | 機能的アプローチと心理社会的アプローチ |
| 4. グループワークの展開過程 | 18. 実践モデルとアプローチ② |
| 5. 事例を基にしたグループワーク基礎① | 問題解決アプローチと課題中心アプローチ |
| 6. 事例を基にしたグループワーク応用② | 19. 実践モデルとアプローチ③その他のアプローチ |
| 7. ケアマネジメントの基本 | 20. 実践モデルとアプローチをめぐる課題 |
| 8. ケアマネジメントの展開過程 | 21. スーパービジョンの意義と目的 |
| 9. 事例を基にしたケアマネジメント基礎① | 22. スーパービジョンの方法と留意点 |
| 10. 事例を基にしたケアマネジメント応用② | 23. コンサルテーションの意義と目的 |
| 11. コーディネーションの目的と意義 | 24. ケースカンファレンスの意義と目的 |
| 12. コーディネーションの方法・技術 | 25. ケースカンファレンスの運営と展開過程 |
| 13. ネットワーキングの意義と目的 | 26. 相談援助における個人情報の保護 |
| 14. ソーシャル・サポート・ネットワーク | 27. 相談援助における情報通信技術(IT)の活用 |
| 15. 地域福祉を推進するためのネットワーク
と地域包括ケアシステム | 28. 事例研究・分析①対象者別 |
| | 29. 事例研究・分析②課題別 |
| | 30. 相談援助の実際 |

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業中の事例に出てきた、これまで習った制度サービスについては、その都度、各自予習・復習行うこと。さらに、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して、概ね30時間程度の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

ソーシャルワーカー（社会福祉士）になるための必要不可欠な科目のため、履修すること。

「相談援助の理論と方法Ⅰ」を履修していないと「相談援助の理論と方法Ⅱ」を履修できないため、注意すること。

【評価方法・基準】

試験（80%）・レポート（10%）・受講態度（10%）により総合的に評価する。

【教 材】

社会福祉士養成講座「相談援助の理論と方法Ⅱ」中央法規出版

授業中に配布するプリント

【キーワード】

相談援助 ジェネラリスト・ソーシャルワーク ソーシャルワーク実践モデル

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、社会福祉専門職にとって必要不可欠の理論・技術である社会調査を学ぶ事を目的とする。学生は、地域の生活問題・課題、要擁護者のニーズなどを的確に把握し、分析していくために必要となる社会調査の知識と技術の習得を目指していく。

【授業の内容及び方法】

教科書を学んでいくだけではなく、実際の社会調査の資料を基としてグループ討議を行ったり、地域の社会資源を利用した調査の演習を行う。また、情報処理室を利用して、調査結果の処理・分析を行う。

【授業の計画】

- 1 社会福祉と社会調査
- 2 社会調査の概要 社会調査の意義と目的、対象と方法
- 3 社会福祉調査の基本的性格と種類 平均の意味
- 4 社会福祉調査の基本的性格と種類 分散と標準偏差
- 5 社会福祉調査の基本的性格と種類 t検定と χ 二乗検定
- 6 量的調査とその方法 量的調査の特徴と種類
- 7 量的調査とその方法 調査票の作成方法と留意点データの解析方法
- 8 質的調査とその方法 質的調査の特徴と種類 対象者の選定と調査手続き
- 9 質的調査とその方法 調査方法 質的調査の実施とデータ収集 データの整理と分析
- 10 社会調査における倫理と個人情報保護
- 11 社会調査とIT 様々なITの活用と方法
- 12 社会調査に取り組んでみよう (演習)
- 13 社会調査票を設計してみよう (演習)
- 14 データを整理・分析してみよう (演習)
- 15 社会調査のまとめ

【授業外の学習 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

毎回必ず確認テスト (60分程度) で予習を行うのでしっかりと履修しておくこと。確認テストは、次の授業日に必ず提出すること。授業で不明の点は、このテストの質問欄に記入すること。復習については、レジメ資料などの確認 (60分程度) を授業後に行うこと。(計30時間程度)

【履修上の注意・要望等】

社会福祉援助技術としての社会調査の理解・習得は、ソーシャルワーカーにとっては不可欠である。そのことを理解し、授業に臨むこと。グループ課題もあるので、各自積極的な姿勢で協力していくこと。

【評価方法・基準】

確認テスト (20%) および受講態度 (20%)、定期試験 (60%) 等との総合評価とする。

【教 材】

「新・社会福祉士養成講座『社会調査の基礎』」・中央法規出版 毎回、要点を整理したレジメを配付する。

【参考文献】「フィールドワーク」佐藤郁哉 新曜社

【キーワード】

平均 分散 標準偏差 量的調査 質的調査 相関係数

【授業科目】 福祉サービスの組織と経営

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 有岡 道博 (自室番号 529)

【対象学生】 社会福祉学科 3年

【授業の目標及び到達目標】

社会福祉サービスに関わる組織や団体には様々なものがあり、それぞれ異なる組織内容を持っている。本授業では、社会福祉専門職として必要な知識として、それぞれの組織・団体の定義や役割、運営のやり方を理解する事を目的とする。学生は、社会福祉サービス事業の運営に必要なとされる経営管理の理論と方法の知識の修得を目指す。

【授業の内容及び方法】

教科書を中心として授業を進めていくが、新聞や経済雑誌などの記事、テレビやインターネットの情報をもとにグループ討議を行ったり、シミュレーションゲームを利用した経営体験を行い、経営についてより理解を深める。

【授業の計画】

- 1 福祉サービスにおける組織と経営
- 2 福祉サービスに関わる組織と団体(1) 法人とは
- 3 福祉サービスに関わる組織と団体(2) 社会福祉法人とは
- 4 福祉サービスに関わる組織と団体(3) NPO 法人とは
- 5 福祉サービスに関わる組織と団体(4) 医療法人とは
- 6 福祉サービスに関わる組織と団体(5) 営利法人とは
- 7 福祉サービスに関わる組織と団体(6) 公益法人とは
- 8 福祉サービスに関わる組織と団体(7) 市民団体、協同組合、自治会とは
- 9 福祉サービス組織と経営の基礎(1) 戦略、事業計画
- 10 福祉サービス組織と経営の基礎(2) 組織、管理運営の基礎理論
- 11 サービス管理(1) サービス管理、サービスの質の評価
- 12 サービス管理(2) 苦情対応とリスクマネジメント
- 13 人事管理と労務管理 人事管理と労務管理、人材育成
- 14 会計管理と財務管理
- 15 情報管理

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

毎回必ず確認テスト（30分程度）で予習を行うのでしっかりと履修しておくこと。確認テストは、次の授業日に必ず提出すること。授業で不明の点は、このテストの質問欄に記入すること。復習については、レジメ資料などの確認（30分程度）を授業後に行うこと。（計15時間程度）

【履修上の注意・要望等】

社会福祉援助技術としての福祉サービスの組織と経営の理解・習得は、ソーシャルワーカーにとっては不可欠である。そのことを理解し、授業に臨むこと。グループ課題もあるので、各自積極的な姿勢で協力していくこと。

【評価方法・基準】

確認テスト（20%）および受講態度（20%）、定期試験（60%）等との総合評価とする。

【教 材】

「新・社会福祉士養成講座『福祉サービスの組織と経営』」中央法規出版

毎回、要点を整理したレジメを配付する。

【参考文献】「マネージメント」P. F ドラッカー ダイアモンド社

【キーワード】 経営管理 マネージメント イノベーション 社会福祉法人 事業計画 戦略

【授業科目】 権利擁護と成年後見制度

【単 位】 2

【学 期】 前期

【担当教員】 菅原 明美 (自室番号 213)

【対象学生】 社会福祉学科3年

【授業の目標及び到達目標】

本授業の目的は、社会福祉の基礎となる権利擁護について体系的に学び、成年後見制度の仕組みについて理解することである。特に判断能力が低下した人の生命と財産を守るための制度について深め、福祉専門職として必要な社会的責務を身につけることを目標とする。

1. 福祉専門職として基本的な法的知識を理解し、説明できる。
2. 福祉専門職として権利擁護の仕組みを理解し、説明できる。
3. 成年後見制度の仕組みと課題を理解し、説明できる。

【授業の内容及び方法】

相談援助実践は、人権の基盤の上にあることを理解するために、日本国憲法、民法、行政法に関する知識を獲得するための授業を行う。また、成年後見制度の法的根拠を理解し、実践に生かせる力が獲得できるよう、具体的な事例を用いて学習し、総合的に成年後見制度を理解するための講義とグループワークを行う。

【授業の計画】

1. オリエンテーション、相談援助活動において想定される法律問題
2. 相談援助活動と法の関わり①：日本国憲法と人権
3. 相談援助活動と法の関わり②：行政法の理解
4. 相談援助活動と法の関わり③：民法の理解
5. 成年後見制度についての理解①：成年後見制度の概要
6. 成年後見制度についての理解②：法定後見における類型と特徴
7. 成年後見制度についての理解③：成年後見人の義務と責任
8. 成年後見制度についての理解④：成年後見制度の最近の動向
9. 日常生活自立支援事業、成年後見制度利用支援事業
10. 権利擁護にかかわる組織、団体
11. 権利擁護にかかわる専門職の役割
12. 成年後見活動、権利擁護活動の実際：事例研究「児童虐待」
13. 成年後見活動、権利擁護活動の実際：事例研究「高齢者虐待」
14. 成年後見活動、権利擁護活動の実際：事例研究「多問題重複ケース」
15. 社会福祉士と権利擁護、まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

予習用の資料に目を通し、事前学習を進めること。教科書や配布資料を再読し、理解を深めること。
日々の予習・復習や試験対策に加えて、休日等を利用し概ね30時間の自主学修を要する。

【履修上の注意・要望等】

講義には主体的に参加すること。

【評価方法・基準】

定期試験（80%）、提出課題（10%）、受講態度（10%）

【教 材】教科書：新・社会福祉養成講座『19 権利擁護と成年後見制度』（中央法規出版株式会社）

参考文献：社会福祉小六法

資料等適宜配布

【キーワード】権利擁護、日本国憲法、行政法、民法、成年後見制度、日常生活自立支援事業

【授業科目】 就労支援サービス

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 薬師寺 明子・武田 英樹

【対象学生】 社会福祉学科 3 年

(自室番号 薬師寺 520・武田 523)

【授業の目標及び到達目標】

様々な背景のある「就職困難者」といわれる人々の理解とともに、労働問題、雇用問題を考える。そして、就労支援を理解し、生活と就労をトータルに支援できるソーシャルワーカーをめざす。

【授業の内容及び方法】

雇用・就労の動向を理解するとともに、ソーシャルワークにおいて必要となる各種の就労支援制度、組織、団体、専門職、各関係機関との連携について講義を通して学ぶ。

【授業の計画】

1. オリエンテーション・働くことの意味と社会福祉士の役割 (武田)
2. 低所得者と就労支援① 生活保護受給世帯への就労支援 (武田)
3. 低所得者と就労支援② 生活保護受給世帯等への就労支援と生活福祉資金貸付制度 (武田)
4. 低所得者と就労支援③ 児童扶養手当受給世帯への就労支援 (武田)
5. 障害者と就労支援① 障害者の就労の現状 (薬師寺)
6. 障害者と就労支援② 障害者福祉施策における就労支援 (薬師寺)
7. 障害者と就労支援③ 障害者雇用施策における就労支援 (薬師寺)
8. 障害者と就労支援④ 特別支援学校における就労支援・民間の取り組み (薬師寺)

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

事前にテキストを読んでおくこと。専門用語や制度等については随時確認するとともに受講後 30 時間程度の自主学修を行うこと。

【履修上の注意・要望等】

相談援助実習必修科目・講義回数 8 回、講義日程は掲示にて指示する。各自で確認すること。

【評価方法・基準】

受講態度 (20%)・定期試験 (80%)

なお、定期試験の成績が 6 割未満の場合は不可となる。

【教 材】

就労支援サービス (中央法規出版)

随時配布する資料

【キーワード】

就労支援制度・自立支援プログラム・就労支援プログラム・障害者総合支援法・障害者雇用促進法

【授業科目】 更生保護制度 【単 位】 1

【学 期】 後期 【担当教員】 坂手康祐 (自室番号)

【対象学生】 社会福祉学科 3年

【授業の目標及び到達目標】

刑事政策の一翼を担う更生保護は、その根底に於いて社会福祉政策に包摂されるものであることを理解することを目標とする。将来、その理解を根底に置いて福祉業務に従事することが出来る職業人になることを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

保護観察や更生緊急保護業務に於ける具体的な事例に触れ、更生保護制度の意義や社会福祉分野の中での更生保護の位置及び意義等を学ぶ。授業は、基本的に講義形式で進める。

【授業の計画】

1. 刑事司法手続きと更生保護制度の概要
2. 仮釈放制度と生活環境調整
3. 保護観察総論
4. 保護観察各論
5. 更生緊急保護・犯罪被害者等施策・恩赦・犯罪予防活動
6. 更生保護制度の担い手
7. 精神保健観察
8. まとめ

【授業外の学習（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業で使用する教科書（該当箇所）を必ず一読して授業に臨んでください。出来れば、毎日、新聞を読み、刑事事件記事に目を通すこと。事件の背後に潜む事情や、その後の処遇等について考えてみてください。自主学修時間の目安は概ね 15 時間。

【履修上の注意・要望等】

社会福祉六法（社会福祉小六法は不可）を購入し、必ず授業に持参すること。学習に際しては、必ず該当法律にあたること。

【評価方法】

学習意欲(20%)、受講態度(30%)、課題レポート(50%)により総合評価。

【教 材】

教科書：更生保護入門[第4版]（松本 勝編著 出版社＝成文堂）

参考文献：犯罪白書（法務省）

少年法（川出敏裕著 出版社＝有斐閣）

精神医療と心神喪失者等医療観察法（町野 朔編 出版社＝有斐閣）

【キーワード】

司法福祉 更生保護 保護観察 更生緊急保護 社会内処遇 精神保健観察

【授業科目】 相談援助演習Ⅱ

【単 位】 1

【学 期】 前期

【担当教員】 ○永見芳子・小坂田稔
堀川涼子・菅原明美

(自室番号 528H 他)

【対象学生】 社会福祉学科3年

【授業の目標及び到達目標】

これまで学んできた相談援助について、演習を通して相談援助実践の価値・知識・技術を習得することを目標とする。

1. クライアントやクライアントの環境を理解するための面接ができるようになる。
2. ソーシャルワークの展開過程およびマイクロ、メゾ、マクロのそれぞれの実践レベルを理解し、実践レベルに応じた介入が提示できるようになる。
3. 学生相互の演習を通して、自己を再発見し対人関係上必要なスキルを身につけることができる。

【授業の内容及び方法】

4 グループに分かれ、それぞれのテーマを担当する教員により、ロールプレイやグループ・ディスカッション、マッピング技法を通して実践力を養えられるようにする。その際、相談援助事例を用いて総合的かつ包括的な援助について検討し、多様な考え方を共有できるようにする。場合によって2コマ連続になることがある。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 基本的なコミュニケーションと面接の基礎
3. 面接を展開する技法（ロールプレイ）
4. ケースワークの展開過程（インテーク）の演習①（事例によるグループ・ディスカッション）
5. ケースワークの展開過程（インテーク）の演習②（演習①をもとにしたロールプレイ）
6. ケースワークの展開過程（アセスメント）の演習（ロールプレイ）
7. ケースワークの展開過程（プランニング）の演習（グループディスカッション）
8. ケースワークのまとめ プランニングの発表
9. グループワークの基本構想の設定
10. グループワークの展開過程（準備期：波長合わせ）の演習
11. グループワークの展開過程（開始期：メンバーとの援助関係の形成）の演習
12. グループワークの展開過程（作業期：グループづくりへの始動）の演習
13. グループワークの展開過程（作業期：相互援助システムの形成）の演習
14. グループワークの展開過程（作業期：相互援助システムの活用）の演習
15. グループワークの展開過程（終結・移行期：グループワークの評価）の演習

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業内で出された課題に個人やグループで調べ、取り組むこと。また、講義後は配布された資料を熟読し、休日や長期休業期間などを利用して自主学修すること。その時間は概ね30時間とする。

【履修上の注意・要望等】

グループ討議や体験学習を主とするため積極的に参加すること。前期Ⅱ・後期Ⅲは連動しており基本的に両方を受講し、グループによってテーマ（前期Ⅱ・後期Ⅲ）の中で順番が変更するため注意すること。+ 遅刻・欠席のないようにすること。

【評価方法・基準】

授業への参加態度(50%)、課題レポート等の提出物(50%)による総合評価

【教 材】

特になし 毎回プリント等を用意する

【キーワード】

面接技術、ケースワーク、グループワーク

【授業科目】 相談援助演習Ⅲ

【単 位】 1

【学 期】 後期

【担当教員】 ○永見芳子・小坂田稔
堀川涼子・菅原明美 (自室番号 528H 他)

【対象学生】 社会福祉学科3年

【授業の目標及び到達目標】

これまで学んできた相談援助について、演習を通して相談援助実践の価値・知識・技術を習得することを目標とする。

1. クライアントやクライアントの環境を理解するための面接ができるようになる。
2. ソーシャルワークの展開過程およびマイクロ、メゾ、マクロのそれぞれの実践レベルを理解し、実践レベルに応じた介入が提示できるようになる。
3. 学生相互の演習を通して、自己を再発見し対人関係上必要なスキルを身につけることができる。

【授業の内容及び方法】

4 グループに分かれ、それぞれのテーマを担当する教員により、ロールプレイやグループ・ディスカッション、マッピング技法を通して実践力を養えられるようにする。その際、相談援助事例を用いて総合的かつ包括的な援助について検討し、多様な考え方を共有できるようにする。場合によっては2コマ連続になることがある。

【授業の計画】

1. ケアマネジメントの目的と意義・展開過程
2. ケアマネジメントの理解① インテーク面接（ロールプレイ）
3. ケアマネジメントの理解② アセスメント面接（ロールプレイ）
4. ケアプランの作成① ケアプランについて講義・演習
5. ケアプランの作成② 事例をもとにグループ演習
6. ケアカンファレンスの理解 講義と事例をもとに演習
7. ケアカンファレンスの実際（ロールプレイ）
8. コミュニティワークの目的と意義
9. コミュニティワークの展開過程
10. コミュニティワークの理解・事例を通して① 個別支援の検討
11. コミュニティワークの理解・事例を通して② 社会資源の活用と開発
12. コミュニティワークの理解・事例を通して③ 福祉教育の具体的展開
13. 事例研究① 障害者の事例を基に考える
14. 事例研究② 高齢者の事例を基に考える
15. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業内で出された課題に個人やグループで調べ、取り組むこと。また、講義後は配布された資料を熟読し、休日や長期休業期間などを利用して自主学修すること。その時間は概ね30時間とする。

【履修上の注意・要望等】

グループ討議や体験学習を主とするため積極的に参加すること。前期Ⅱ・後期Ⅲは連動しており基本的に両方を受講し、グループによってテーマ（前期Ⅱ・後期Ⅲ）の中で順番が変更するため注意すること。遅刻・欠席のないようにすること。

【評価方法・基準】

授業への参加態度(50%)、課題レポート等の提出物(50%)による総合評価

【教 材】

特になし 毎回プリント等を用意する

【キーワード】

面接技術、ケアマネジメント、コミュニティワーク

【授業科目】 相談援助実習指導Ⅰ

【単 位】 1

【学 期】 通 年

【担当教員】 ○有岡（自室番号 529）

小坂田 石飛 菅原 武田 堀川 薬師寺

【対象学生】 社会福祉学科3年

【授業の目標及び到達目標】

社会福祉士の主要技術である相談援助を身に付けるため、相談援助実習に際し、実習事前オリエンテーションおよび実習事後スーパービジョンを行うものである。

①社会福祉施設・機関における相談援助業務を理解する。②ソーシャルワークの本質（専門的価値・知識・技術の学習等）を学習する③将来専門職者としての資質を培えるよう専門職者としての倫理観を学ぶ、これらの事前学習により、実習の現場でより実践を通してより深められることを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

実習の事前及び事後に、ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティの確立に向けてのスーパービジョン（個別・グループ）を行う。また、実習記録の作成・ケース記録の作成、社会資源の活用、社会福祉現場における情報機器の活用、バリアフリー等についても学習する。

【授業の計画】

1. 実習に際してのオリエンテーション
2. 実習施設・機関の制度理解①
3. 実習施設・機関の制度理解②
4. 実習施設・機関の利用者理解
5. 実習施設・機関の職員・職場理解
6. 実習目的と目標設定
7. 実習直前オリエンテーション
8. 実習事後スーパービジョン 実習の報告①（P P作成）
9. 実習事後スーパービジョン 実習の報告②（P P作成）
10. 実習事後スーパービジョン 実習の課題について①（実習記録を基に）
11. 実習事後スーパービジョン 実習の課題について②（実習記録を基に）
12. 実習事後スーパービジョン 実習での自己覚知について①（グループ討議を基に）
13. 実習事後スーパービジョン 実習での自己覚知について②（グループ討議を基に）
14. 実習事後スーパービジョン 実習報告書の作成について
15. 相談援助実習まとめ

【授業外の学習（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業前後の予習・復習は必ず行うこと。（各30分程度 計15時間程度）

【履修上の注意・要望等】

実習指導Ⅰは、相談援助実習(体験実習)と連動して単位認定する。

実習にかかわる科目については、原則として遅刻・欠席は認めない。

【評価方法・基準】

受講態度（50%）・記録（25%）・報告（25%）等で総合評価する。

【教 材】

本学科作成「相談援助実習の手引き」、学生の課題レポート、実習報告・記録を教材とする
資料等は必要に応じてその都度、配布する。

【キーワード】

相談援助実習 社会福祉援助技術 スーパービジョン

【授業科目】 介護実習

【単 位】 1

【学 期】 後期集中

【担当教員】 武田英樹

(自室番号 523)

【対象学生】 社会福祉学科3年(原則 教職志望者)

【授業の目標及び到達目標】

本授業は福祉分野の現場体験を重視し、副詞専門職に必要な現場対応力、実践力を修得できる展開とする。

学生は下記の項目についての能力を身につけることを目指す。

1. 福祉施設・機関の種類、役割やその施設・機関の利用者対象者について説明できる。
2. 実際の介護現場での体験から、介護現場の置かれている現状や課題を分析できる。

【授業の内容及び方法】

福祉教育に必要な介護現場の知識について、具体的な事例を交えながら学習していきます。また、基本的な介護技術も習得していきます。

【授業の計画】

1. 実習事前学習 ①介護実習オリエンテーション
2. 実習事前学習 ②実習施設の機能と役割
3. 実習事前学習 ③実習施設の利用者理解
4. 実習事前学習 ④介護実技
5. 学外での介護実習 5日間(7時間×5日間=35時間)
6. 実習事後スーパービジョン

(学外実習 35 時間を含む計 45 時間)

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

講義前に事前学習(次回講義までに30分程度)として提示するテーマについて事前学習をしておくこと。講義中に重要項目として強調した部分の復習のレポート(次回講義までに30分程度)を提出すること。また、実習前後・実習中は自主学修の時間を利用して、事前準備やまとめなどを行うこと。必要な自主学修時間は15時間程度。

【履修上の注意・要望等】

履修対象は原則、教職希望者。遅刻・欠席のないようにしてください。

【評価方法・基準】

実習事前レポート(50%)・

実習事後レポート(50%)等で総合評価する。

【教 材】

適宜、資料を配布する。

参考文献：上原千寿子・池田明子編『新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習』中央法規出版

【キーワード】

ケアワーク 介護等体験 社会福祉施設 利用者理解

【授業科目】 医療ソーシャルワーク論 【単 位】 2

【学 期】 後 期 【担当教員】 永見 芳子 (自室番号 528H)

【対象学生】 社会福祉学科 3 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、保健医療領域のソーシャルワーク実践に必要な支援観・知識・技術を修得することをめざす。

1. 患者や家族にとって非日常的な闘病世界を感じられるようになる。
2. 患者や家族を当事者の視点で捉えることができるようになる。
3. 保健医療の中で営まれる支援関係がイメージでき、その中で社会福祉専門職に求められる役割について、学生相互の討議を通して示すことができるようになる。

【授業の内容及び方法】

本授業は、支援者側からの見方だけではなく患者や家族など当事者側からの見方を身につけられるよう、そのために必要な知識や技術を概説する。また、グループ・ディスカッションと ICT を活用したプレゼンテーションを通じて学生が主体的に活動し、相互に協力・協働して課題に取り組めるよう工夫する。さらにゲストを招き、現場で起こっている状況や支援について具体的に学び理解が深められるようにする。

【授業の計画】

1. 医療福祉とソーシャルワーク
2. 患者の理解① 病気の社会的・心理的影響
3. 患者の理解② 事例から考える
4. 家族の理解 事例から考える
5. 保健医療におけるソーシャルワークの倫理① 総論
6. 保健医療におけるソーシャルワークの倫理② 事例から考える
7. 医療ソーシャルワーカーとしてのアドボカシー (ゲスト講師)
8. 医療ソーシャルワークの視点と援助過程① がん患者の支援事例 アセスメント
9. 医療ソーシャルワークの視点と援助過程② がん患者の支援事例 プランニング
10. 医療ソーシャルワークの視点と援助過程③ 脳血管障害の患者の支援事例 アセスメント
11. 医療ソーシャルワークの視点と援助過程④ 脳血管障害の患者の支援事例 プランニング
12. 医療ソーシャルワークの視点と援助過程⑤ HIV 陽性者の支援事例 アセスメント
13. 医療ソーシャルワークの視点と援助過程⑥ HIV 陽性者の支援事例 プランニング
14. 医療ソーシャルワークの視点と援助過程⑦ 多職種連携
15. まとめ

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

新聞のコラム等で患者の闘病記があれば読んでおくこと。配布した資料を再読し復習すること。また休日、長期休業期間などを利用して自主学修し、その時間は概ね 30 時間とする。

【履修上の注意・要望等】

グループ・ディスカッションやロールプレイに積極的に参加すること。

【評価の方法・基準】

授業の到達度を評価する定期試験(60%)、課題レポート(20%)、授業への参加態度(20%)

【教 材】

必要に応じて資料を配布する。

参考文献：安井豊子『CVA 保健医療ソーシャルワークと人権』2016 風詠社

小西加保留『HIV/AIDS ソーシャルワーク：実践と理論への展望』2017 中央法規

【キーワード】

患者理解、家族システム、意思決定支援、多職種連携、倫理綱領、アドボカシー

【授業科目】 保健医療サービス

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 永見 芳子

(自室番号 528H)

【対象学生】 社会福祉学科3年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、保健医療サービスの体系を学ぶとともに、社会福祉と保健医療の統合の原理や多職種連携について理論と実践方法を学び、保健医療サービス領域における社会福祉専門職の役割を理解することをめざす。

1. 保健医療をめぐる社会環境やサービスの体系、またそれらに関する基本的な課題を理解し説明できるようになる。
2. 医療福祉に関する制度・政策について理解し説明できるようになる。
3. 社会福祉の価値に基づいたソーシャルワーカーと保健医療職の対比や連携について学び、学生相互の討議を通じてソーシャルワーカーの基本的な考え方や取り組む姿勢について説明できるようになる。

【授業の内容及び方法】

本授業は、講義を主に、医療ソーシャルワーク実践に必要な価値・知識・技術を概説する。また、医療機関内だけでなく地域にまで展開する医療と福祉の連携についてソーシャルワークの方法論も概説する。適宜、グループ・ディスカッションを交えながら様々な考え方が共有できるようにする。また、現場のソーシャルワーカーをゲストに招き、具体的なソーシャルワーク実践を知り理解が深められるよう工夫する。

【授業の計画】

1. 保健医療をめぐる社会環境の変化① 医療の概況
2. 保健医療をめぐる社会環境の変化② 医療制度の体系
3. 保健医療サービスの基本的構成
4. 医療法改正にみる保健医療サービスの今日的課題① 医療計画による医療機能の分化・連携
5. 医療法改正にみる保健医療サービスの今日的課題② 在宅医療の推進
6. 保健医療サービスを提供する施設とシステム① 医療法による医療施設の機能・類型
7. 保健医療サービスを提供する施設とシステム② 保健医療政策による医療施設の機能・類型
8. 保健医療サービスを提供する施設とシステム③ 診療報酬における医療施設の機能・類型
9. 保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割 MSWの歴史と業務の枠組み
10. 保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割 業務内容
11. 保健医療サービスの専門職の役割
12. 医療福祉に関わる医療保障制度① 医療保険制度 公費負担医療制度
13. 医療福祉に関わる医療保障制度② 診療報酬制度
14. 保健医療サービスにおける専門職の連携と実践
15. 保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

この講義を履修するにあたって、概ね30時間の自主学修が必要となる。日々の新聞やニュース等に目を通し、医療や福祉に関する記事があれば読んで情報を得ることを期待する。講義後は、テキストや配布された資料を見直し理解を深めること。

【履修上の注意・要望等】

講義には主体的に参加すること。

【評価の方法・基準】

授業の到達度を評価する定期試験(80%)、授業への参加態度(20%)

【教 材】

教科書：新・社会福祉士養成講座「保健医療サービス」中央法規

参考文献：二木立『地域包括ケアと福祉改革』2017 勁草書房

岩渕豊『日本の医療』2015 中央法規

【キーワード】

医療ソーシャルワーク、倫理、医療提供体制、医療保険制度、診療報酬、連携

【授業科目】 精神保健

【単 位】 2

【学 期】 後期

【担当教員】 菅原 明美

(自室番号 213)

【対象学生】 社会福祉学科 3年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、我が国の精神保健の現状を知り、福祉専門職に必要な精神保健に関する基本的視点と知識を修得し、支援に活用できることを目的としている。

1. 精神保健福祉活動が必要な領域について理解できる。
2. 精神障害を持つ人の直面しやすい困難とその回復について理解できる。
3. 福祉専門職に従事する者として、必要な援助や支援体制について考察できる。

【授業の内容及び方法】

本授業では、精神保健に関する基礎知識を学習し、身近な話題を取り上げて、その対策について学ぶ。講座を中心に、適宜グループワークを取り入れる。

【授業の計画】

1. オリエンテーション、精神保健の概要と課題①精神保健の概要
2. 精神保健の概要と課題②精神保健の歴史、精神保健の課題
3. 社会構造の変化と新しい健康観
4. ライフサイクルと精神の健康①出生前～学童期
5. ライフサイクルと精神の健康②思春期～老年期
6. ストレスと精神の健康
7. 精神の健康への関与と支援
8. 精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ①結婚生活、育児をめぐる精神保健
9. 精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ②社会的ひきこもり、病気療養と介護、高齢者
10. 精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ①うつ病、飲酒やギャンブル
11. 精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ②心身症と生活習慣病、相談機関
12. 精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ
13. 地域精神保健に関する諸活動
14. 自分自身のメンタルヘルスの保持・増進について考える
15. 授業のまとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

- ・配布された資料を再読すること。
- ・授業で紹介された文献等を参考に、休日を活用して概ね30時間自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

- ・相談援助職に必要な知識を学ぶとともに、自らのメンタルヘルスの保持・増進に役立ちます。

【評価方法・基準】

定期試験（80%）、提出課題（10%）、受講態度（10%）

【教 材】

- ・適宜、資料を配布する。
- ・参考文献：新・精神保健福祉士養成講座『精神保健の課題と支援』（中央法規出版株式会社）
社会福祉士シリーズ ソーシャルワーク6『相談援助の基盤と専門職』（株式会社 弘文堂）

【キーワード】

精神保健、危機と危機介入、メンタルヘルス、リカバリー、家族支援、地域精神保健

【授業科目】 家庭支援論

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 若林 美佐子 (自室番号 142)

【対象学生】 社会福祉学科3年

【授業の目標】 本授業は、ソーシャルワークに必要な「家庭の理解」に関する基礎知識と専門的知識、さらにこれらに基づく社会福祉援助についての理解を目的とする

【授業の到達目標】 現代の家庭の状況から家庭支援が必要になっている背景を学ぶ。さらにクライアントを含む家庭の構造が理解できるようになる

【授業の内容及び方法】

支援の対象としての家庭について理解し、援助ができるよう、家庭の機能やその歴史の変遷、家族の発達段階や課題について学ぶ。また事例から、実際の家族の構造を理解し、支援の方法について学ぶ

【授業の計画】

1. 家庭の意義
2. 家庭の機能と歴史の変遷
3. 家庭の発達段階とその課題
4. 家族構造① (境界)
5. 家族構造② (サブシステム)
6. 家族構造③ (パワー)
7. 現代の家庭の諸相 (母子密着)
8. 現代の家庭の諸相 (DV)
9. 家庭支援の方法
10. さまざまな家庭への支援①無戸籍児
11. さまざまな家庭への支援②児童虐待
12. 家庭支援のための社会資源
13. さまざまな家庭への支援③ステップファミリー
14. さまざまな家庭への支援④老親の介護
15. まとめ

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

予習： 单元ごとに概念やそれに関する社会的出来事を調べておくこと

復習： 配布資料を次の時間までに再読し、身の回りの出来事と照らし合わせて家庭理解を深めること

- ・ この授業を履修するにあたって、おおむね30時間程度の自主学修が必要となる。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間など利用して施設ボランティア活動等を通して、授業で学修した内容を自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

支援の対象としての家庭と自分自身がこれまで育ってきた家庭、これから築くかもしれない家庭、以上の3つの視点で、縦横無尽に行き交いながら学習してください。

【評価方法・基準】

レポート(80%) 受講態度(20%)の総合評価とする。

【教 材】

- ・ 授業内容ごとに資料を提示
- ・ 参考文献：「児童の福祉を支える家庭支援論」 吉田真理 萌文書林
「家庭支援論 家族の発達に目を向けて」 松村和子ほか編著 建帛社
「家族理解入門」 団士郎 中央法規出版

【キーワード】 家族構造理論 家族の発達段階 ライフサイクル ライフイベント

【授業科目】 福祉のまちづくり基礎演習

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 岸田 かおる (自室番号)

【対象学生】 社会福祉学科3年

【授業の目標及び到達目標】

①目標：本授業は、地域福祉の推進（社会福祉法第4条）の理念である「福祉『で』まちづくり」の基礎的な実践力を総合的に養うために、地域情報紙(コミュニティペーパー)の作成を行う。情報紙製作を通じて、様々な世代の方や生き方を知り、地域振興に貢献できる人材づくりをめざす。

②到達目標：取材のために、ふだん話をする機会がない世代の異なる人と打ち解けて会話をすることで、コミュニケーション能力が向上する。チームで1つの情報紙というプロジェクトを遂行するという、社会に出る前の練習ができる。チラシなど情報発信ツールを作るノウハウが得られる。様々な地域の問題や資源を発見することで、地域振興に関心が高まる。

【授業の内容及び方法】

(1) 講義 (2) 取材 (3) 製作の流れで行う。(1) 講義①地域情報紙(コミュニティペーパー)を地域住民の一員として製作する意義や基本的な考え方の説明。②テーマ：シニア世代を生き活きと活動している人を中心に津山の情報を発信すること。③取材対象：人物取材(シニア世代を元気に生き活きと豊かに楽しく活動している人)、および、ソーシャルキャピタル(商店街周辺の社会資本)。④取材エリア：津山の中心市街地(商店街)周辺。(2) グループごとに事前に情報を集め、アポをとり取材をする。(3) 教室内でパソコン(パソコン数台、スキャナを使用)による執筆(人物は全員が取材記事を書き、読み手の立場に立って精査する)・レイアウト・校正・学内での印刷作業を経て8ページの情報紙を完成させる。

【授業の計画】

- 1 (1) 「地域づくりと情報紙の役割」講義と情報紙のテーマや製作方法等のオリエンテーション。
- 2,3 (1) 「地域づくりと情報紙の役割」の講義説明。グループディスカッションと取材先の検討。
- 4,5 (2) 学外取材(人物、ソーシャルキャピタル数か所) ※1 事前に取材先を確定しておくこと。
- 6,7 (2) 学外取材(人物、ソーシャルキャピタル数か所)
- 8,9 (2) 学外取材(人物、ソーシャルキャピタル数か所)
- 10,11 (3) 製作 パソコン操作
- 12,13 (3) 製作 パソコン操作
- 14,15 (3) 製作・印刷・合評・配布計画 ※2 出来上がった情報紙を取材先等に配布すること。

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

- ・※1 取材の授業までに、必ずテーマに沿った取材先の人物を探しアポ取りをしておくこと。
- ・※2 出来上がった情報紙は、授業終了後、取材先や商店街等に配布すること。
- ・授業の前後で情報収集やアポ取り、取材、原稿の修正など、自主的活動として6時間程度、自主学修として30時間程度は必要。

【履修上の注意・要望等】

- ・取材や製作のスケジュールは、実際の進捗状況に応じて対応する。

【評価方法・基準】

- 1 ふりかえりシートの提出(50%) (記録や感想やアイデアなど自由記述。)
- 2 出席・授業態度(50%) : グループで話し合い協力して作業ができたか。積極的にアイデアを出し行動できたか。建設的な意見を出し議論ができたか。地域の人と円滑にコミュニケーションができたか。

【教 材】

地域福祉の源流と創造(中央法規)、既存のコミュニティペーパー(檀原市、津山市)

【キーワード】

地域福祉、ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーション、地域づくり、コミュニティソーシャルワーク、ソーシャルビジネス

【授業科目】 情報のユニバーサルデザイン論 【単 位】 2

【学 期】 前 期 【担当教員】 関根 千佳 (自室番号 ***)

【対象学生】 社会福祉学科3年

【授業の目標及び到達目標】

学生が福祉職として仕事をする上で必要不可欠な考え方であるユニバーサルデザインと、その基礎である学問であるジェロントロジー（高齢学）について学び、周囲にこの概念について説明できるようになる。

【授業の内容及び方法】

基本的に講義形式であるが、少人数でのグループディスカッションや、その結果を発表するプレゼンテーションなどアクティブラーニング形式で行う。障害者の社会参加や高齢社会に関する映像を見て、課題や解決策を話し合う場合もある。なお受講者の関心により、シラバスの内容や順番は変更されることがある。

【授業の計画】

- 1、自己紹介とアイスブレイク「私の考えるユニバーサルデザイン」
- 2、ユニバーサルデザインの考え方はなぜ必要か
- 3、まちのユニバーサルデザイン
- 4、もののユニバーサルデザイン
- 5、サービスやスポーツのユニバーサルデザイン
- 6、情報やICTのユニバーサルデザイン
- 7、テレワークとワークライフバランス
- 8、障害のある学生の就学と就労
- 9、ジェロントロジーの基礎概念
- 10、アクティブシニアのライフスタイル
- 11、高齢者の社会参加、就労、学び
- 12、若者の介護離職をどう防ぐか
- 13、高齢者とのコミュニケーション方法
- 14、よく生きて、よく死ぬための死生学入門
- 15、人生を完成させるためのデザイン

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

テキストは開講前に購入し、必ず授業には持参すること。身近なユニバーサルデザインについて第一回目に発表してもらうので、事前にテキストを読んで自分で考えをまとめておくこと。

【履修上の注意・要望等】

携帯電話やPCは、授業中に検索やサイトを参照するよう指示された場合以外は、使わないことが望ましい。授業中は、議論に積極的に参加し、時間内に必ず一度は発言すること。

【評価方法・基準】

出席点 40% 授業中の議論への参加と発表 30% 最終レポート 30%

レポートのコピペ等の不正行為は、当学期の単位を全て無効とし、氏名を公表する。

【教 材】

テキスト「ユニバーサルデザインのちから」生産性出版 2010年 関根千佳著

参考書「東大が作った高齢社会の教科書」東京大学出版会 2017年

【キーワード】

ユニバーサルデザイン、ジェロントロジー（高齢学）、ワークライフバランス、障害者、高齢者、死生学

【授業科目】 パソコン実践演習

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 荻野 真介

(自室番号 322)

【対象学生】 社会福祉学科3年

【授業の目標及び到達目標】

本授業の目標は、今までに習ったエクセル[パソコン基礎演習(2年前期)]の復習をしながら、まだ習っていない実用的で役に立つエクセルのテクニックや機能を身に付けることにある。そのために MOS(Microsoft Office Specialist)検定試験用の教科書を使い、就職した後のオフィスや福祉施設で必要になるエクセルの様々な実践的な知識を身に付け、さらなるスキルアップを目指す。

【授業の内容及び方法】

MOS 検定試験用の教科書の例題や問題を解くことにより、新しいテクニックや機能を身に付けていく。例題を解くことにより新しいスキルを学び、練習問題を繰り返し多く解くことによりスキルを自分のものとする。

【授業の計画】 扱う主な機能・テクニックは以下の通り(これ以外にも多数ある)

- (1) テキストファイルのインポート
- (2) ファイルの互換性
- (3) 印刷範囲の調整(余白・改ページ・拡大縮小など)
- (4) 条件付き書式を設定する
- (5) スパークラインを作成する
- (6) 名前付き範囲を作成する
- (7) アウトラインを作成する
- (8) 小計を挿入する
- (9) テーブルの作成・変更・抽出・ソート
- (10) COUNT 関数・COUNTBLANK 関数を使用する
- (11) SUMIF 関数・AVERAGEIF 関数・COUNTIF 関数を使用する
- (12) UPPER 関数・LOWER 関数・RIGHT 関数・LEFT 関数・MID 関数を使用する
- (13) TRIM 関数・CONCATENATE 関数を使用する
- (14) SmartArt グラフィックの挿入・編集
- (15) ファイルのアクセシビリティを高める

【授業外の学修(予習・復習等、学習時間など)について】

授業中に習った操作方法は、反復練習しないと身につかないので、必ず自分のノートパソコンなどで復習すること。授業全体で、概ね30時間程度の自主学習が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

MOS 検定試験の受験対策も兼ねている。受験方法・準備なども指導する。合格するためには、かなりの練習を必要である。パソコン基礎演習(2年前期)の知識は必要であるが、パソコン演習 I(2年後期)の知識は前提としない。

【評価方法・基準】

日頃の課題の達成度。定期試験：80%・課題：10%・受講態度：10%

【教 材】

教科書：「よくわかる MOS EXCEL 2010」 FOM 出版

参考文献：自作プリントなど

【キーワード】

エクセル、MOS 検定、Microsoft Office Specialist 検定、表計算、グラフ、データベース、抽出

【授業科目】 簿記会計学

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 黒田 善宏

(自室番号 ***)

【対象学生】 社会福祉学科3年

【授業の目標及び到達目標】

本授業の目的は社会福祉法人会計簿記の基本を学ぶことである。パソコンでの会計処理を前提として、どのような仕組みで財務諸表が出来上がるのかを理解し、財務諸表を見ることができる力をつける。

【授業の内容及び方法】

社会福祉法人会計の財務諸表を作成するための複式簿記の基礎を学ぶ講義を主とする。問題演習や課題を通じてインプットとアウトプットを繰り返す。

【授業の計画】

1. 簿記の基礎① 社会福祉法人と簿記の流れ
2. 簿記の基礎② 支払資金と減価償却の考え方
3. 簿記の基礎③ 計算書類の見方と財務管理
4. 支払資金の取引① 資産・負債勘定
5. 支払資金の取引② 収益・費用勘定
6. 精算表 試算表の構造と精算表
7. 資産の会計処理 固定資産と減価償却
8. 負債の会計処理 固定負債と引当金
9. 純資産の会計処理 基本金・国庫補助金等
10. 決算① 決算の意義と決算手続
11. 決算② 決算修正事項と計算書類の作成
12. 税務 法人税、所得税、消費税、印紙税の知識
13. 財務管理 財務諸表をどう使うか
14. まとめ① 貸借対照表
15. まとめ② 事業活動計算書と資金収支計算書

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

配布資料の再読などの復習と課題の取り組みが重要となる。概ね30時間程度の自主学習を必要とする。

【履修上の注意・要望等】

簿記の予備知識はなくてもよいが、並行して日商簿記3級程度の自学をしていただくのが望ましい。

【評価方法・基準】

定期試験（40%）、提出課題（30%）、受講態度（30%）により総合的に評価する。

【教 材】

<テキスト>プリント・資料配布

<参考図書>社会福祉法人会計簿記テキスト（入門編・初級編）、（中級編）（一財）総合福祉研究会
新社会福祉法人会計基準の実務 会計処理（社福）全国社会福祉協議会

【キーワード】

社会福祉法人会計簿記 社会福祉法人会計基準 社会福祉法人モデル経理規程細則

【授業科目】 特別演習 I

【単 位】 2

【学 期】 後期

【担当教員】 学科スタッフ

各研究室

【対象学生】 社会福祉学科 3 年

【授業の目標及び到達目標】

生活者の立場や地域住民の視点から、いきいきとした暮らしの実現に向けてさまざまなテーマで研究を行い、諸課題の解決をめざし、社会福祉、地域社会づくりに貢献できる実践力を身につけることを目標とする。

【授業の内容及び方法】

学科教員がそれぞれの専門分野を活かして実施する少人数のゼミナールである。担当教員別に実施テーマ、内容が示され、学生の希望と担当教員の受け入れ条件などにより学生の研究室の配属が決定される。実施テーマ・内容は担当教員によって異なるが、学科のディプロマポリシーにそって組み立てられる。研究室の配属については、オリエンテーションを行い詳しく説明を行う。研究室ごとに、課題文献の輪読や各自課題発表、グループワークなどを中心にゼミナール形式で学習する。

【授業の計画】

- 1 オリエンテーション 研究室配属に関する説明を行う
- 2～15 配属が決定後、各担当教員が授業計画については別途提示する

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

課題発表、グループ討議が中心となるので、各自、各グループで予習（授業準備）を怠らないこと。残った課題は復習を行うこと。おおむね 30 時間程度の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

卒業必修科目のため、全員が受講すること。

それぞれの教員のテーマや研究室への配属の手続きについては、ガイダンスを行うので必ず参加すること。少人数のゼミナール形式なので、一人ひとりが追求したい課題と積極性を持って参加していくことが重要。

【評価方法・基準】

担当教員は、授業への取り組み（30%）、受講態度（30%）、研究レポート等（40%）により総合的に評価する。

【教 材】

担当教員がそれぞれ指示をする。

【キーワード】

福祉理念 人権尊重 地域社会 社会貢献 生活課題 ICT

【授業科目】 教育経営論

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 芦田 愛五

(自室番号:640-2)

【対象学生】 社会福祉学科3年

【授業の目標及び到達目標】

- ・本授業は、教育経営の理念や組織・運営について基礎的事項を取り上げ、学校経営を中心とした基本的な知識の習得をめざす。
- ・学校教育における現状と課題、展望を理解し、必要とされる自らのキャリア設計を描くことができる。

【授業の内容及び方法】

- ・学校経営を中心とした基本的な知識の習得を図るために、学校経営における学校組織マネジメント、開かれた学校づくり、危機管理、学校評価など系統的に学ぶ。

【授業の計画】

- (1) 教育経営の意義・・・考え方、定義を学ぶ
- (2) 教育経営の展開と開かれた学校
- (3) 国・地方公共団体における教育経営
- (4) 家庭、学校、地域社会の協働と教育経営
- (5) 学校経営と組織マネジメント・・・PDCAサイクル、SWOT分析
- (6) 保護者、地域に開かれた学校組織マネジメント
- (7) 学級経営と学級教育目標
- (8) 教師の職務と制度
- (9) 学校教育目標達成のためのカリキュラムマネジメント
- (10) 学校の危機管理 その1・・・危機管理とは
- (11) 学校の危機管理 その2・・・学校における事故の事例から学ぶ
- (12) 学校評価 その1・・・法的根拠から学ぶ
- (13) 学校評価 その2・・・取り組みの実際を学ぶ
- (14) 教育経営・制度の課題・・・学校、家庭、地域との連携（学校支援ボランティア、課題の把握と考察）
- (15) 総括・まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

- ・理解を深めるために、配布した資料を参考に「予習・復習」を概ね30時間必ずすること。
- ・日頃より教育関係の記事、ニュース等に関心を持ち、人間性を高められるようにすること。

【履修上の注意・要望等】

- ・当講義は、教育職員免許状一種高等学校家庭科（又は福祉科）・中学校家庭科ならびに栄養教諭免許状取得希望者は教職に関する科目において必修科目である。

【評価方法】

講義への学習態度（20%）各回の感想および質問（20%） レポート・期末試験（60%）

【教 材】

テキスト：プリント配布によってかえる。

参考文献：高階玲治編集『学校の組織マネジメント』／岡東壽隆監修『教育経営学の視点から教師・組織・実践を考える子どものための教育の創造』／佐々木正治他編著『新教育経営・制度論』他

【キーワード】

教育経営／学校組織マネジメント／PDCA サイクル／研究と修養／教職の専門職性

【授業科目】 教育課程論

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 岡村 健太

(自室番号 679)

【対象学生】 社会福祉学科3年

【授業の目標及び到達目標】

教員として必要な教育課程に関する実践的知識を理解することを目標とする。その為に学習指導要領をはじめとする基礎知識を用い、適切な教育課程の編成のあり方について論じられる様になることを目指す。

【授業の内容及び方法】

「基礎編」では教育課程に関する理論・歴史について、「実用編」では学習指導要領について、「発展編」では教育課程を取り巻く問題について学ぶ。特に「実用編」と「発展編」に関しては、ディスカッション等を交えながら主体的な理解を深める。

【授業の計画】

- 基礎編 1. 教育課程とは何か①：教育課程の領域と構造
2. 教育課程とは何か②：カリキュラムの6つの型と経験主義・系統主義
3. 教育課程の歴史①：明治～昭和戦前期
4. 教育課程の歴史②：学習指導要領の変遷
- 実用編 5. 学習指導要領改訂の流れ
6. 2017年の学習指導要領改訂の要点
7. 学習指導要領の法的根拠
8. 教育環境と教科書
9. 教育課程の評価
10. 取得予定免許状と教科カリキュラムの連携
11. 取得予定免許状と教科外カリキュラムの連携
- 発展編 12. 学習指導案の意義
13. 教育課程と学力
14. 諸外国の教育課程
15. これからの教育課程とは：教育課程研究の動向と総括

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

講義の前に、各講義回に関連する学習指導要領の該当箇所を読むこと。また講義後、もう一度該当箇所を読み、理解を深めること。尚、この授業を履修するにあたって、概ね30時間程度の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

授業時間内で理解を終えようとするのではなく、授業を基に予習復習を行い、理解を深めていくこと。

【評価方法・基準】

期末試験（70%）、受講態度（30%）により総合的に評価する。

【教 材】

テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房、2018年

文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』東山書房、2017年

参考文献：田中耕治編『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009年

【キーワード】

教育課程 学習指導要領 教育評価 教育環境 学力

【授業科目】 特別活動の研究

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 土居 道宏

(自室番号 ***)

【対象学生】 社会福祉学科3年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、学習指導要領の特別活動についての基本的事項と具体的指導を理解することを通して、特別活動の実践力の基礎を養うことをめざす。特別活動の目標・特質・内容を理解し、その教育的意義を説明できる。また、学級活動の指導の在り方の基礎を習得して、学級活動指導案を作成し模擬授業を実施できる。

【授業の内容及び方法】

学習指導要領の特別活動の基本的考え方、目標及び各内容、学級活動の具体的指導についての基礎的事項を講義と演習を通して学ぶ。

【授業の計画】

1 特別活動とは何か	特別活動に期待されるもの
2 特別活動の目標と内容	特別活動の目標の特質と内容の概略
3 特別活動の意義	特別活動の基本的性格と教育的意義
4 特別活動の指導	特別活動の指導原理
5 学級活動	学級・ホームルーム活動の目標と内容
6 学習指導案作成の方法	学級活動の学習過程と学習指導案作成の方法
7 指導案作成演習	学級活動の指導案作成演習
8 模擬授業①	学級活動(2)、(3)の内容から作成した指導案①で実施
9 模擬授業②	学級活動(2)、(3)の内容から作成した指導案②で実施
10 模擬授業③	学級活動(2)、(3)の内容から作成した指導案③で実施
11 学校行事	学校行事の目標と内容
12 生徒会活動	生徒会活動の目標と内容
13 クラブ活動と評価	クラブ活動の目標と内容、学習評価
14 特別活動の充実	各教科等との関連
15 特別活動のまとめ	特別活動のまとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

概ね30時間程度の自主学修が必要となる。講義の前に、教科書・参考文献の該当箇所を読んでおくこと。また、講義時にプリントを配布するので、講義終了後に再度プリント・解説・教科書を熟読し理解を深めること。

【履修上の注意・要望等】

教員としての知識理解と実践力を身に付けるという目的意識をもって授業に臨むこと。

【評価方法・基準】

試験成績（50%）、受講態度（30%）、模擬授業（20%）を総合して行う。

【教 材】

テキスト：中学校学習指導要領解説 特別活動編（文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 特別活動編（文部科学省）

参考文献：小学校学習指導要領解説 特別活動編（文部科学省）、特別活動研究 第三版（教育出版）

【キーワード】

学級活動の授業づくり、生徒会活動、学校行事、特別活動と自己指導能力の育成、特別活動と学級経営

社会福祉学科 4年

1. 教養・基礎教育科目

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年				資格	備考	頁	
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉			
導入科目	1年次セミナー	演習	2		○							
共通教養科目	現代生活論	講義		2	○							
	国際社会と日本	講義		2	○							
	地球環境論	講義		2	○							
	人権教育	講義		2	○							
	日本国憲法	講義		2	○				◎			
	調査と統計	講義		2		○						
	心理学概論	講義	2		○							
	日本語リテラシー	講義		2	○							
キャリア科目	キャリアデザイン論	講義		1	○							
	ボランティア論（教育系）	講義		1	不開講							
	ボランティア論（福祉系）	講義		1	○	○	○	○			16	
	インターンシップ実習	実習		1	○	○	○	○			17	
	ボランティア実習	実習		1	○	○	○	○			18	
情報リテラ	情報リテラシーⅠ	演習		2	○					この3科目の中から、2科目4単位以上選択必修		
	情報リテラシーⅡ	演習		2	○				◎			
	情報リテラシーⅢ	演習		2			○					
外国語科目	英語Ⅰ	演習	1		○					この10科目の中から、2科目2単位以上選択必修		
	英語Ⅱ	演習	1		○							
	英語Ⅲ	演習		1		○			◎			
	英語Ⅳ	演習		1		○			◎			
	英語資格認定Ⅰ	実習		1	○	○	○	○				27
	英語資格認定Ⅱ	実習		2	○	○	○	○				28
	ドイツ語Ⅰ	演習		1	○							
	ドイツ語Ⅱ	演習		1	○							
	韓国語Ⅰ	演習		1	○							
	韓国語Ⅱ	演習		1	○							
	中国語Ⅰ	演習		1	○							
	中国語Ⅱ	演習		1	○							
スポーツ科目	レクリエーション概論	講義		2	○					この4科目の中から、2科目2単位以上選択必修		
	レクリエーション実技・実習	実習		2	○							
	スポーツ健康講義	講義		1	○				◎			
	スポーツ健康実習	実習		1	○				◎			
単位互換科目	放送大学科目Ⅰ	—	—	—	○	○	○	○		通算して4単位まで卒業要件に含めることができる	39	
	放送大学科目Ⅱ	—	—	—	○	○	○	○			39	
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅰ	—	—	—	○	○	○	○			40	
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅱ	—	—	—	○	○	○	○			40	
学科基礎科目	生活福祉論	講義		2	○							
	住まいと福祉	講義		2		○						
	福祉情報コミュニケーション	演習		2		○						
	社会の変化と社会福祉Ⅰ	講義		2	○							
	数学の基礎	講義		2		○						

【卒業要件】必修科目6単位、選択必修科目8単位以上を含めた計30単位以上を修得のこと。

【備考1】教員免許欄の◎印科目=必修科目。

2. 専門教育科目

区分	授 業 科 目	授業形態	単位数		配当学年				資格		備 考	頁	
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉	福祉士			
専門 基幹 科目	現代社会と福祉Ⅰ	講義	2			○				◎	◎	必修科目10単位を含め24単位 以上を修得のこと	
	現代社会と福祉Ⅱ	講義		2		○				◎	◎		
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ	講義	2		○					◎	◎		
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ	講義		2	○					▲	◎		
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義	2				○			▲	◎		
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義	2		○					◎	◎		
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義		2	○					▲	◎		
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ	講義	2			○				◎	◎		
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ	講義		2		○				▲	◎		
	介護概論	講義		2	○					◎			
	加齢の理解	講義		2		○				◎			
	障害の理解	講義		2		○				◎			
	中山間地福祉のまちづくり	講義		2				○					131
	NPO・ボランティア活動論	講義		2		○							
	安全・安心のまちづくり	講義		2			○						
	地域づくりと環境デザイン(演習)	演習		2		○							
	地域づくりと住民参加(演習)	演習		2		○							
地域経済・地域財政からみたまちづくり	講義		2				○				132		
専門 展 開 科 目	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義		2	○					◎	◎	必修科目4単位を含め40単位以 上を修得のこと	
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義		2			○			▲	◎		
	社会福祉事業史	講義		2			○						
	社会保障Ⅰ	講義		2		○				◎	◎		
	社会保障Ⅱ	講義		2		○				◎	◎		
	福祉行財政と福祉計画	講義		2				○		◎	◎		133
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○					◎	◎		
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○					◎	◎		
	相談援助の理論と方法Ⅰ	講義		4		○				▲	◎		
	相談援助の理論と方法Ⅱ	講義		4			○			▲	◎		
	社会調査の基礎	講義		2			○			▲	◎		
	社会の変化と社会福祉Ⅱ	講義		2	○								
	福祉サービスの組織と経営	講義		2			○			▲	◎		
	権利擁護と成年後見制度	講義		2			○				◎		
	就労支援サービス	講義		1			○			▲	◎		
	更生保護制度	講義		1			○				◎		
	相談援助演習Ⅰ	演習		1		○				◎	◎		
	相談援助演習Ⅱ	演習		1			○			◎	◎		
	相談援助演習Ⅲ	演習		1			○			◎	◎		
	相談援助演習Ⅳ	演習		1				○		◎	◎		134
	相談援助演習Ⅴ	演習		1				○		◎	◎		135
	相談援助実習指導Ⅰ	演習		1			○			◎	◎		
	相談援助実習指導Ⅱ	演習		2				○		◎	◎		136
	相談援助実習	実習		4				○		◎	◎		137
	介護実習	実習		1			○			◎			
	人体の構造と機能及び疾病	講義		2		○					◎		
	人体構造及び日常生活行動に関する理解	講義		2		○				◎			
	リハビリテーション論	講義		2		○				▲			
	心理学理論と心理的支援	講義		2	○						◎		
	社会理論と社会システム	講義		2		○					◎		
	医療ソーシャルワーク論	講義		2			○						
	保健医療サービス	講義		2			○				◎		
	精神保健	講義		2			○						
家庭支援論 (H29未開講)	講義		2			○							
福祉情報論及び同演習	演習		2		○				▲				
ウェブリテラシー演習	演習		2				未開講						
福祉のまちづくり基礎演習	演習		2			○							
福祉のまちづくり論	講義		2				○				138		

区分	授 業 科 目	授 業 形 態	単位数		配当学年				資格		備 考	頁
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉	福祉士		
その他の専門科目	衣生活論	講義		2		未開講						
	食生活論	講義		2		未開講						
	家庭経営学概論	講義		2		未開講						含 家庭経済学
	保育及び家庭看護学	講義		2		未開講						含 保育実習
	教育心理学	講義		2		○				◎		
	福祉デザイン(衣)論	講義		2		○						
	福祉デザイン(衣)演習	演習		2		○						
	情報のユニバーサルデザイン論	講義		2			○					
	パソコン演習Ⅰ	演習		2		○						
	パソコン演習Ⅱ	演習		2		未開講						
	パソコン基礎演習	演習		2		○						
	パソコン実践演習	演習		2			○					
	簿記会計学	講義		2			○					
卒業研究系	特別演習Ⅰ	演習	2			○						
	特別演習Ⅱ	演習		2				○				139
	特別演習Ⅲ	演習	1					○				140
	卒業研究	演習		4				○				

【卒業要件】専門基幹科目24単位以上（必修科目10単位含む）、専門展開科目40単位以上（必修科目4単位含む）、卒業研究系2単位以上（必修科目2単位を含む）及びその他の専門科目を含め、94単位以上修得すること。

【備考】教員免許欄及び福祉士欄の◎印の科目は、必修科目。同じく△印の科目は選択必修科目、▲印は選択科目。

3. 教職に関する科目

授業科目	授業形態	単位数	配当学年				備 考	頁
			1年	2年	3年	4年		
教職論	講義	2		○				
教育原理	講義	2		○				
教育経営論	講義	2			○			
教育課程論	講義	2			○			
福祉科教育法	演習	4			○			
特別活動の研究	講義	2			○			
教育方法・技術論	講義	2				○		141
生徒・進路指導論	講義	2				○		142
教育相談	講義	2				○		143
教職実践演習（高）	演習	2				○		144
事前事後指導	実習	1				○		145
教育実習	実習	2				○		146

【備考】教員免許取得希望者は、この欄の全科目を修得すること。

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、我が国において普遍的に広がる中山間地域に関する一般的な理解を深めるとともに、中山間地域における福祉の実態と役割を把握し、福祉を中心とした諸課題に対し主体的に解決しようとする態度を育成するために行う。

本授業を受講することにより、中山間地域の実態を数値データなどで的確に理解できるようになるとともに、自らが主体的に地域課題を見だし、その解決策について受講生相互の議論を通して提示できるスキルの取得を目指す。

【授業の内容及び方法】

本授業は、3つのセクションに分けて行う。1日目の「中山間地域の現状」では、中山間地域や集落に関する統計データ等を参照しながら、中山間地域の実態を客観的に把握することを目指す。授業中にはワークショップを行いながら、地域課題を立体的に把握することを試みる。

2日目の「福祉・まちづくりの実際」においては、兵庫県佐用町に出かけていき、地域づくりの実態を現場で把握するフィールドワークを行う。フィールドワークを通して地域住民の方々と直接対話することにより、現地調査の技法やコミュニケーションの方法について体験的に学習する。

3日目の「中山間地域の可能性」においては、フィールドワークで学んだ人々の生き様を振り返りながら、これからの中山間地域がどうあるべきかについて検討する。その際、福祉の役割を吟味し、その可能性と課題を見いだす。3日目にはグループディスカッションやパネルディスカッションを取り入れることにより、多様な考え方を相互に共有できるよう工夫する。

【授業の計画】

1. 中山間地域の現状 1 中山間地域と集落
2. 中山間地域の現状 2 集落の機能と実態
3. 中山間地域の現状 3 中山間地域の人口変動
4. 中山間地域の現状 4 中山間地域におけるイノベーションの可能性 (ワークショップ)
5. 中山間地域の現状 5 中山間地域の可能性 (報告会)
6. 福祉・まちづくりの実際 (フィールドワーク) 1 地域実態の把握手法
7. 福祉・まちづくりの実際 (フィールドワーク) 2 地域づくりの実態把握
8. 福祉・まちづくりの実際 (フィールドワーク) 3 ヒアリングの手法
9. 福祉・まちづくりの実際 (フィールドワーク) 4 意見交換の手法
10. 福祉・まちづくりの実際 (フィールドワーク) 5 生活の実態把握
11. 中山間地域の可能性 1 中山間地域におけるまちづくり
12. 中山間地域の可能性 2 中山間地域における地域福祉
13. 中山間地域の可能性 3 中山間地域における課題解決手法の検討 (グループディスカッション)
14. 中山間地域の可能性 4 福祉のまちづくりが目指す未来像 (パネルディスカッション)
15. 中山間地域の可能性 5 まとめ (授業全体の振り返りと残された課題)

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

■学修上のアドバイス

・開講までに以下の書籍を読んでおくこと。

藻谷浩介・NHK 広島取材班 (2013) : 『里山資本主義』角川書店, 781 円 (税別)

山崎史郎著 (2017) : 『人口減少と社会保障』中公新書, 880 円 (税別)

・授業終了後に、以下の書籍を読んで、授業を振り返ること。

小田切徳美 (2014) : 『農山村は消滅しない』岩波書店, 780 円 (税別)

増田寛也編著 (2014) : 『地方消滅』中公新書, 820 円 (税別)

指出一正 (2016) : 『ぼくらは地方で幸せを見つける』ポプラ社, 800 円 (税別)

■授業外の学修時間

この授業を履修するにあたって、「学修上のアドバイス」を記した書籍を読むことにより、概ね 30 時間程度の自主学習は自ずと必要となる。具体的には、授業受講前に 2 冊の書籍を読むことで 15 時間程度、授業受講後に 3 冊の書籍を読むことで 15 時間程度の時間が必要になると思われる。

これらの書籍を読むためには、ある程度まとまった時間を必要とするため、休日や長期休業期間などを利用して時間を確保すること。

【履修上の注意・要望等】

・遅刻をしないこと

・実習準備、試験受験等で 1 日単位、1 コマ単位で授業を欠席せざるを得ない者については代替措置を講ずるので、事前ないしは授業時に相談すること

・フィールドワークを意識した授業を展開するのでその心づもりでいること

なお、フィールドワークの実施日は、集中講義期間 (3 日間) 中の 2 日目である

・授業間に課題を課すこともあるので、授業期間中の日程には余裕をもって臨むこと

・デジタルカメラ・スマートフォン等、画像の記録媒体を持参の方が好ましい

【評価方法・基準】・授業に出席した上での学習態度 (簡易レポートの提出状況も含める) (30%)

・フィールドワークやワークショップの参加態度 (30%) ・授業の到達度を評価する最終レポート (40%)

【教 材】・教科書：使用しない (授業開始時にオリジナルの資料集を配布する)

・参考文献：国立社会保障・人口問題研究所編 (2013) : 『地域包括ケアシステム』慶應義塾大学出版会。

中国新聞取材班 (2016) : 『中国山地過疎 50 年』未来社。

【キーワード】人口減少社会、中山間地域 地域福祉 まちづくり 地域づくり 集落

【授業科目】地域経済・地域財政からみたまちづくり 【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 河野 茂夫 (自室番号 ***)

【対象学生】 社会福祉学科 4年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、津山市第5次総合計画に基づき、地方自治のあり方や津山市行政の現状や課題を把握し、今後のまちづくりや社会生活において基礎知識を身につけることを目標とします。

本授業を受講することにより学生は、人口の流入・流出、若い世代の結婚・出産・子育て、時代に合った地域づくりなどを学び、地域の活性化とその好循環の維持を実現していくため、「自分にできることは何か」を常に考えることができるようになる、まちづくりの基礎講義としていきます。

【授業の内容及び方法】

講義及びグループ討議、フィールドワークを組み合わせて進めます。

【授業の計画】

- | | | |
|----------------|---------------------------|---------------|
| 1. 津山市の姿 | 総合計画からみる津山市 | (総合企画部 政策調整室) |
| 2. 津山市の産業経済① | 若者の移住・定住促進 | (産業経済部) |
| 3. 津山市の産業経済② | つやま産業支援センターによる地域産業の振興 | (産業経済部) |
| 4. 津山市の福祉施策① | 生活保護の現状と課題 今後の動向 | (環境福祉部 生活福祉課) |
| 5. 津山市の福祉施策② | 高齢者の権利擁護について | (環境福祉部 高齢介護課) |
| 6. 協働のまちづくり① | 津山市の中山間地域の課題と取り組み① | (地域振興部 協働推進室) |
| 7. 協働のまちづくり② | 津山市の中山間地域の課題と取り組み② | (地域振興部 協働推進室) |
| 8. 執行機関と議決機関 | 市長と議会の関係 法律と条例・規則 | (総務部 総務課) |
| 9. 津山市議会 傍聴 | 6月定例会 一般質問傍聴(市役所) | (総合企画部 政策調整室) |
| 10. 津山市の公共施設 | 公民連携による新しい公共施設と公共サービスのかたち | (財政部 財政課) |
| 11. 津山市の都市建設① | 津山市のまちづくり① | (都市建設部) |
| 12. 津山市の都市建設② | 津山市のまちづくり② | (都市建設部) |
| 13. 津山市の健康施策 | 津山市の健康施策 | (こども保健部) |
| 14. 津山市の子ども施策 | 津山市の子ども施策 | (こども保健部) |
| 15. 元気のあるまちづくり | まとめ | (総合企画部 政策調整室) |

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

この科目を履修するにあたって概ね30時間の自主学修が必要です。

第5次総合計画や毎月発行の「広報津山」の精読、津山市HP及びFaceBook等の閲覧など、津山市の最新情報の収集を行い、履修に備えてください。

【履修上の注意・要望等】

講義を聴く姿勢(傾聴力)を意識して出席してください。特に、フィールドワークでは現場の人の声や目に映るものをしっかりと把握し、自分なりの「気づき」や「発見」を大切に履修してください。

【評価方法・基準】

学習態度(60%)・レポート(40%)により総合的に評価します。

【教 材】

必要に応じてプリントを配布します。

【キーワード】

幸福感 人口減少時代 総合戦略 持続可能なまちづくり 公共施設マネジメント
協働 ものづくり 定住自立圏 ブランド化 児童虐待(子ども虐待)、子どもの育ちのニーズ

【授業科目】 福祉行財政と福祉計画 【単 位】 2

【学 期】 後 期 【担当教員】 石飛猛 (自室番号 526)

【対象学生】 社会福祉学科4年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、福祉行政、福祉財政の実施体制や福祉計画の意義、目的、主体、方法等について理解することを目標とする。学生は、社会保障・社会福祉について自ら説明できるようになる。

【授業の内容及び方法】

福祉計画を含む福祉行財政における国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職に関する内容とし、図表を多用して、学生との対話を重視しながら理解を深める。

【授業の計画】

1. 戦後福祉国家の形成と変化
2. 福祉行政の動向と制度改革
3. 国と地方の関係（地方分権の推進）
4. 国の役割・都道府県の役割・市町村の役割
5. 福祉の財源・国の財源と社会支出・社会保障給費の概要
6. 福祉行政の組織及び団体の役割
7. 福祉行政における専門職の役割
8. 福祉行財政の動向-2000年以前
9. 福祉行財政の動向-2000年以後
10. 福祉計画の目的と意義
11. 福祉計画の理論と技法
12. 福祉計画の策定過程
13. 福祉計画の策定方法と留意点
14. 福祉計画の評価方法
15. 福祉計画の実際

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

新聞記事を毎日見るとともに予習・復習（30分以上）を怠らないこと。この授業を履修するにあたり、概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

厚生労働省からの新着情報配信サービスの受信設定を行い、その中から必要な情報をパソコンに保存し活用できるようにすること。

【評価方法・基準】

定期試験（50%）、提出課題（30%）、受講態度（20%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：『福祉行財政と福祉計画』第5版 中央法規

参考文献：『社会福祉政策』第3版 坂田周一著 2014年 有斐閣

『福祉行財政と福祉計画』第2版 杉岡直人編著 2016年 みらい

【キーワード】

地方分権、国と地方の関係、福祉行政、福祉財政、社会保障給付費、社会支出、福祉計画

【授業科目】 相談援助演習Ⅳ

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】○堀川涼子・有岡道博
石飛猛・小坂田稔・菅原明美・（自室番号 527 他）
武田英樹・永見芳子・薬師寺明子

【対象学生】 社会福祉学科4年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、相談援助にかかる知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得することを目標とする。これにより学生は、ソーシャルワーク実践力を身につけ、専門職として活用できることを目標とする。

【授業の内容および方法】

相談援助実習において必要な知識・技術を、実習前に理解し習得できるよう具体的な事例を用いて学んだり、学生が各自、地域課題を調べて発表するなどの演習を行う。

【授業の計画】

- 1、オリエンテーション
- 2、相談援助実習に必要とされる援助技術①ミクロ・ソーシャルワーク
- 3、相談援助実習に必要とされる援助技術②メゾ・マクロ・ソーシャルワーク
- 4、自己覚知①講義
- 5、自己覚知②演習
- 6、基本的なコミュニケーションの技術習得①講義
- 7、基本的なコミュニケーションの技術習得②演習
- 8、基本的な面接技術の修得①講義
- 9、基本的な面接技術の修得②演習
- 10、社会福祉士の倫理①講義
- 11、社会福祉士の倫理②演習
- 12、具体的な課題別相談援助事例の総合的・包括的理解①講義
- 13、具体的な課題別相談援助事例の総合的・包括的理解②演習
- 14、事例を題材とした相談援助の各過程における実技指導
- 15、地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例を題材とした援助技術の実技指導

【授業外の学修（予習、復習の指示、学修時間など）について】

課題発表、グループ討議が中心となるので、各自、各グループで予習（授業準備）を怠らないこと。残った課題は復習を行うこと。おおむね15時間程度の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

相談援助実習・実習指導と連動する。実習を履修しない学生はこの科目は履修できない。演習にかかわる科目については、原則として遅刻・欠席は認めない。

【評価方法・基準】

レポート（50%）・課題への取り組み態度（50%）により総合評価する。

【教 材】

実習の事前学習の資料等
その他、適宜、資料を配布

【キーワード】

面接技術 ケースワーク グループワーク ケアマネジメント コミュニティワーク

【授業科目】 相談援助演習V

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 ○堀川涼子・有岡道博
石飛猛・小坂田稔・菅原明美 (自室番号 527 他)
武田英樹・永見芳子・薬師寺明子

【対象学生】 社会福祉学科4年

【授業の目標及び到達目標】

相談援助にかかる知識と技術について、相談援助実習における個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得することを目標とする。これにより学生は、ソーシャルワーク実践力を身につけ、専門職として活用できることを目標とする。

【授業の内容及び方法】

相談援助実習における学生の個別的な体験等を基にして、事例発表やグループワークを行い、実践と理論、制度サービス等を結びつけられるように振り返りを行う。

【授業の計画】

- 1、相談援助実習で体験した実践的知識と技術・倫理の振り返りと習得
- 2、相談援助実習で体験した実践的知識の振り返りと習得① (人を理解する)
- 3、相談援助実習で体験した実践的知識の振り返りと習得② (地域を理解する)
- 4、相談援助実習で体験した実践的知識の振り返りと習得③ (組織・機関を理解する)
- 5、相談援助実習で体験した実践的知識の振り返りと習得④ (制度・サービスを理解する)
- 6、相談援助実習で体験した実践的技術の振り返りと習得① (自己覚知)
- 7、相談援助実習で体験した実践的技術の振り返りと習得② (援助過程)
- 8、相談援助実習で体験した実践的技術の振り返りと習得③ (面接技術)
- 9、相談援助実習で体験した実践的技術の振り返りと習得④ (個別支援計画)
- 10、相談援助実習で体験した実践的技術の振り返りと習得⑤ (記録・プレゼンテーション)
- 11、相談援助実習で体験した実践的場面での価値と倫理の振り返りと習得① (自己決定支援)
- 12、相談援助実習で体験した実践的場面での価値と倫理の振り返りと習得② (倫理綱領)
- 13、個別的体験の意味づけと理解① 各自発表
- 14、個別的体験の意味づけと理解② 評価
- 15、まとめ

【授業外の学修（予習、復習の指示、学修時間など）について】

課題発表、グループ討議が中心となるので、各自、各グループで予習（授業準備）を怠らないこと。残った課題は復習を行うこと。おおむね15時間程度の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

相談援助実習・実習指導と連動する。実習を履修しない学生はこの科目は履修できない。

演習にかかわる科目については、原則として遅刻・欠席は認めない。

【評価方法・基準】

レポート（50%）・課題への取り組み態度（50%）により総合評価する。

【教 材】

実習の事前・事後学習の資料、実習日誌。

その他、適宜、資料を配布する。

【キーワード】

面接技術 ケースワーク グループワーク ケアマネジメント コミュニティワーク 社会保障制度

【授業科目】 相談援助実習指導Ⅱ

【単 位】 2

【学 期】 通 年

【担当教員】 ○堀川・有岡・石飛・
小坂田・菅原・武田・永見・薬師寺 (自室番号 527) 他

【対象学生】 社会福祉学科 4 年

【授業の目標及び到達目標】

社会福祉士指定科目としての相談援助実習における、実習事前オリエンテーションおよび実習事後スーパービジョンを受けるための授業であり、社会福祉専門職としての価値・知識・技術を習得することを目標とする。これにより学生は、相談援助実習を充実したものとし、ソーシャルワーク専門職としての実践力を身につけられるようになることを目標とする。

【授業の内容及び方法】

実習の事前学習と事後の振り返りにより①社会福祉施設・機関等における相談援助業務を理解する、②ソーシャルワークの本質（専門的価値・知識・技術の学習等）を学習する、③将来専門職者としての資質を培えるよう専門職者としての倫理観を学ぶ、これらを実践と理論として結びつける。

実習においては、ソーシャルワーク実践の他、実習記録の作成・ケース記録の作成、社会資源の活用、社会福祉現場における情報機器の活用、バリアフリー等についても学習する。

大学において、実習の事前及び事後に、スーパービジョン（個別・グループ）を行い、各自が調べ発表したり、グループワークを行ったりしながら、ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティの確立に向けて学習する。

【授業の計画】

1. 実習に際してのオリエンテーション
2. 実習施設・機関の根拠法理解
3. 実習施設・機関の制度理解
4. 実習施設・機関の利用者理解
5. 実習施設・機関の職員・職場理解
6. 実習目的と目標設定
7. 実習直前オリエンテーション

8. 実習事後スーパービジョン① クライアント理解
9. 実習事後スーパービジョン② 組織・機関の理解
10. 実習事後スーパービジョン③ 制度・サービスの理解
11. 実習事後スーパービジョン④ 相談援助技術の理解
12. 実習事後スーパービジョン⑤ 相談援助展開過程の理解
13. 実習事後スーパービジョン⑥ 自己覚知
14. 実習事後スーパービジョン⑦ 現代社会や福祉現場の抱える課題への理解
15. 相談援助実習まとめ (実習体験発表会・報告書作成等の指導を含む)

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

課題発表、グループ討議が中心となるので、各自、各グループで予習（授業準備）を怠らないこと。残った課題は復習を行うこと。おおむね 30 時間程度の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

相談援助実習と連動して単位認定を行う。遅刻・欠席は認めない。積極的な態度で臨むこと。

【評価方法・基準】

課題の作成・発表（30%）、受講態度（40%）、記録・報告（30%）により総合的に評価する。

【教 材】

「相談援助実習の手引き」本学科作成
学生の課題レポート、実習報告・記録を教材とする
資料等は必要に応じてその都度、配布する。

【キーワード】

相談援助実習 相談援助技術 スーパービジョン

【授業科目】 相談援助実習

【単 位】 4

【学 期】 通 年

【担当教員】 ○堀川・有岡・石飛
小坂田・菅原・武田・永見・薬師寺 (自室番号 527) 他

【対象学生】 社会福祉学科4年

【授業の目標及び到達目標】

現場実習においては、①社会福祉施設・機関等における日常業務を通しての福祉実践を体験する②社会福祉現場で行われているソーシャルワーク実践を通して、生活に根ざしたソーシャルワークの本質（専門的価値・知識・技術の学習等）を理解する③将来専門職者としての資質を培えるよう専門職者としての倫理観を実践から学ぶことを目標とする。これにより学生が、ソーシャルワーカーとしての実践力を身につけられるようになることを目標とする。

【授業の内容及び方法】

実習においては、ソーシャルワーク実践の他、実習記録の作成・ケース記録の作成、社会資源の活用、社会福祉現場における情報機器の活用、バリアフリー等についても実践しながら学習する。実習時間は180時間以上とする。大学においては、実習の事前及び事後に、スーパービジョン（個別・グループ）を行い、ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティの確立に向けて学習する。実習体験発表会・実習報告書の作成等一連の課題を提出し、すべての実習・実習指導の修了とする。

【授業の計画】

「相談援助実習」（社会福祉士国家試験受験資格指定・全180時間以上）を実習指定施設・機関等において行う。夏季休暇中を利用して、それぞれ担当教員の下、前期に事前学習をした内容及びこれまでの講義・演習を踏まえて、専門職としての自覚と知識・技術を高める。

実習体験発表会・実習報告書の作成等一連の課題を行うことで、福祉実践力を身につける。

- 1、実習施設・機関の理解
- 2、利用者やその家族等の理解
- 3、職員・関係者の理解
- 4、制度・サービスの理解
- 5、施設・機関運営の理解
- 6、利用者・家族等、職員や地域住民等との円滑な人間関係の形成
- 7、利用者・家族等との援助関係の形成
- 8、利用者やその家族等への権利擁護及び支援
- 9、多職種連携をはじめとするチームアプローチの実践
- 10、社会福祉士としての職業倫理および実習施設・機関における就業規則とへの理解
- 11、地域社会の中での実習施設・機関の役割
- 12、地域への働きかけ（アウトリーチによる支援）
- 13、地域への働きかけ（ネットワークの理解）
- 14、地域への働きかけ（社会資源の活用・改善・開発）
- 15、実習体験発表会・実習報告書の作成

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

実習に向けて各自、必要な自主学修を行い実習準備について怠らない。実習日誌は日々作成すること。

【履修上の注意・要望等】

概ね60時間程度の自主学修を必要とする。

相談援助実習指導Ⅱと連動して単位認定を行う。遅刻・欠席は認めない。積極的な態度で臨むこと。

【評価方法・基準】

課題の作成・発表（30%）、実習態度（40%）、記録・報告（30%）により総合的に評価する。

【教 材】

「相談援助実習の手引き」本学科作成。資料等は必要に応じてその都度、配布する。

学生の課題レポート、実習報告・記録を教材とする。

【キーワード】

相談援助技術・相談援助実習・相談援助実習指導・相談援助実習指定施設・機関等

【授業科目】 福祉のまちづくり論

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 岸田 かおる (自室番号)

【対象学生】 社会福祉学科4年

【授業の目標及び到達目標】

①目標：本授業は、福祉のまちづくりについて、基本理念となる社会福祉法第4条「地域福祉の推進」を基に、社会情勢や現場実践等を交え、地域における福祉専門職としての総合的な資質を養うために行う。

②到達目標：「地域福祉の推進」に基づいた地域住民によるまちづくり（ノーマライゼーションとする住民自治）に、専門職として使命感を持ち、どう役割を果たし、行動を起こせるか等、自分なりの考えを持つこと。広く様々な社会問題への関心を持つこと。

【授業の内容及び方法】

2000年社会福祉法に「地域福祉の推進」という新たな理念が加わり、暮らしに関わる全ての課題の解決（まちづくり・地域づくり）を、すべての人の参加で作りに変った意義を詳しく解説する。新たな社会福祉法の改正、関連する法制度や、実践するための具体的な段階的な方策等も含めて講義する。

【授業の計画】

1. 地域福祉とは 新しい福祉の理念と法制度の変革①
2. 地域福祉とは 新しい福祉の理念と法制度の変革②
3. 参加民主主義について
4. 新しい働き方について①
5. 新しい働き方について②
6. 新しい市民社会像 ノーマライゼーションとする住民自治
7. 地域福祉計画策定の実際① 行政職員・社協職員・地域住民の意識改革
8. 地域福祉計画策定の実際② 人材養成のための“福祉でまちづくりワークショップ”
9. 地域福祉計画策定の実際③ 地域福祉推進の単位である校区ごとの計画策定の実際
10. 地域福祉計画推進の実際① 校区ごとの組織づくり
11. 地域福祉計画推進の実際② 障害者の意識改革
12. 地域福祉計画推進の実際③ 情報の共有とこれからの課題
13. 住民自治の実現に関するわが国法・制度の新しい動き①
14. 住民自治の実現に関するわが国法・制度の新しい動き②
15. 福祉国家の未来像を考える

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】・毎回、前回の授業のレポート(振り返りシート)を提出する。・新聞記事やニュースで最新の情報をストックする。・自主的学修として30時間程度は必要。

【履修上の注意・要望等】毎回のレポート(振り返りシート)が必須。欠席でも講義資料を読んで提出が可能。

【評価方法・基準】

- 1 ふりかえりシートの提出(50%) (記録や感想やアイデアなどレポートとして記述する。)
- 2 出席・授業態度(50%) (社会に出る前の年齢で常識ある態度で授業を受けること。)毎回のレポート(振り返りシート)が必須。欠席でも資料を読んだ提出が可能。レポートと出席態度(私語がないか、等)を元に総合的に評価する。

【教 材】「福祉でまちづくりの実践」報告書(岸田かおる)

地域福祉の源流と創造(三浦文夫・右田紀久恵・大橋謙策) 地域福祉の源流と創造(中央法規)、

【キーワード】地域福祉計画 ソーシャルインクルージョン ウェルビーイング ノーマライゼーション 住民自治 参加民主主義 地方自治の本旨 住民自治 まちづくり NPO 社会福祉協議会 コミュニティソーシャルワーク ワークショップ コミュニティペーパー ソーシャルビジネス

【授業科目】 特別演習Ⅱ

【単 位】 2

【学 期】 前期

【担当教員】 学科スタッフ

各研究室

【対象学生】 社会福祉学科4年

【授業の目標及び到達目標】

特別演習Ⅰをさらに発展させ、生活者の立場や地域住民の視点から、いきいきとした暮らしの実現に向けてさまざまなテーマで研究を行い、諸課題の解決をめざし、社会福祉、地域社会づくりに貢献できる応用的な実践力を身につけることを目標とする。

【授業の内容及び方法】

学科教員がそれぞれの専門分野を活かして実施する少人数のゼミナールである。担当教員別に実施テーマ、内容が示され、学生の希望と担当教員の受け入れ条件などにより学生の研究室の配属が決定される。実施テーマ・内容は担当教員によって異なるが、学科のディプロマポリシーにそって組み立てられる。研究室の配属については、オリエンテーションを行い詳しく説明を行う。研究室ごとに、課題文献の輪読や各自課題発表、グループワークなどを中心にゼミナール形式で学習する。

【授業の計画】

- 1 オリエンテーション 研究室配属に関する説明を行う
- 2～15 配属が決定後、各担当教員が授業計画については別途提示する

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

課題発表、グループ討議が中心となるので、各自、各グループで予習（授業準備）を怠らないこと。残った課題は復習を行うこと。おおむね30時間程度の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

それぞれの教員のテーマや研究室への配属の手続きについては、ガイダンスを行うので必ず参加すること。特別演習Ⅰ、特別演習Ⅲ、卒業研究等と連動する場合があるため、注意すること。少人数のゼミナール形式なので、一人ひとりが追求したい課題と積極性を持って参加していくことが重要。

【評価方法・基準】

担当教員は、授業への取り組み（30%）、受講態度（30%）、研究レポート等（40%）により総合的に評価する。

【教 材】

担当教員がそれぞれ指示をする。

【キーワード】

福祉理念 人権尊重 地域社会 社会貢献 生活課題 ICT

【授業科目】 特別演習Ⅲ

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】小坂田 荻野 石飛 ○有岡（自室番号 529）
桐生 後藤 小山 武田 長谷川 堀川 永見 小山 菅原

【対象学生】 社会福祉学科4年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、少人数教育と集団教育を行なう事により、社会で求められる幅広い知識を、個々に合った形で学ぶことを目的とする。学生は、福祉人としてのみならず社会人として期待される資質と知識を身に付けることを目指す。

【授業の内容及び方法】

学科教員が、それぞれの専門分野を生かして実施する少人数ゼミナールと、全員を対象に行うオムニバス形式の授業を行う。担当教員別に実施テーマ・内容が示され、学生の希望と担当教員の受け入れ条件などにより、学生の研究室への配属が決定される。実施テーマ・内容は、資格試験指導・専門科目補充・自主課題ゼミナール・発展的実習など担当教員により異なる。教員によって、特別演習Ⅱの履修を前提とする場合があるので要注意。

【授業の計画】

1. 科目の内容・実施に関するオリエンテーション
2. 演習1（集団授業）日本語検定
3. 演習2 演習のテーマを探す①(個別の演習は、担当教員により異なる)
4. 演習3 演習のテーマを探す②
5. 演習4（集団授業）社会人としての必要な知識
6. 演習5 テーマに沿って情報収集、文献など①
7. 演習6 テーマに沿って情報収集、文献など②
8. 演習7（集団授業）ゼミ活動の発表①
9. 演習8 テーマに沿った活動の展開①
10. 演習9 テーマに沿った活動の展開②
11. 演習10（集団授業）ゼミ活動の発表②
12. 演習11 テーマに沿った活動の展開③
13. 演習12 活動の終了とまとめ
14. 演習13（集団授業）卒後セミナー
15. 演習14 演習の反省とまとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

福祉職員の根幹に関わる学習であるので、授業の事前学習（予習 60分程度）はもとより、事後の復習（60分程度）をきちんと行い、演習の内容をきちんと身に付ける。（計 30時間程度）

【履修上の注意・要望等】

それぞれの教員のテーマや研究室への配属の手続きなどについては、ガイダンスを行うので必ず参加すること。少人数のグループ学習活動（ゼミナール形式）なので、一人一人が追求したい課題と積極性をもって参加していくことが重要。

【評価方法・基準】

担当教員は、学生の学習意欲（30%）、受講態度（30%）、事前・事後のレポート（40%）を基に評価を行う。

【教 材】

担当教員それぞれが指定する。

【キーワード】

福祉、接遇、社会情勢の把握、グループ討議、就職

【授業科目】 教育方法・技術論

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 中野 和光

(自室番号 ***)

【対象学生】 社会福祉学科 4 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識、技能を身に付けることを目標とする。

教育方法の歴史、理論、視聴覚教材・情報機器活用の歴史と理論、今日の授業方法の課題、授業の準備、計画、実施、評価の技術を理解し、説明できる。教材を制作できる。

【授業の内容及び方法】

教育方法の歴史、理論、視聴覚教材・情報機器活用の歴史と理論、今日の授業方法の課題、授業の準備、計画、実施、評価の技術について講義をし、教材の制作を行う。

【授業の計画】

- 第 1 回 教育の方法・技術とは何か
- 第 2 回 教育方法の歴史的発展 (1) —西洋—
- 第 3 回 教育方法の歴史的発展 (2) —日本—
- 第 4 回 授業の理論とモデル
- 第 5 回 視聴覚教育の歴史と理論
- 第 6 回 情報機器活用の歴史と理論
- 第 7 回 今日の授業方法の課題 (1) —求められる資質・能力—
- 第 8 回 今日の授業方法の課題 (2) —主体的で対話的で深い学び—
- 第 9 回 授業の方法と技術 (1) —授業の準備—
- 第 10 回 授業の方法と技術 (2) —授業の計画—
- 第 11 回 授業の方法と技術 (3) —授業の実施—
- 第 12 回 授業の方法と技術 (4) —授業評価と学習評価—
- 第 13 回 教材の制作 (1) —パワーポイントを使って教材制作—
- 第 14 回 教材の制作 (2) —パワーポイントを使って教材制作—
- 第 15 回 教材の発表—iPad とプロジェクターを使って発表—

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

授業内容に関する文献リストを配布するので、それを読んで授業に臨むこと。授業後に、それを基にさらに関連する文献を読んで自主的に学修すること。概ね 30 時間。

【履修上の注意・要望等】

制作した教材は、授業の中で発表する。

【評価方法・基準】

試験 (70%)、教材制作 (30%)

【教 材】

小学校学習指導要領 (平成 29 年 3 月告示、文部科学省)、日本教育方法学会編『教育方法学研究ハンドブック』学文社 平成 26 年、ヴァン・マーネン著、岡崎美智子・大池美也子・中野和光訳『教育のトーン』ゆみる出版 平成 15 年、中野和光編著『教科の充実で学力を育てる』ぎょうせい 平成 16 年

【キーワード】

教育方法、視聴覚教育、情報機器、教育方法学、教育方法史、授業理論、授業方法、授業の準備・計画・実施・評価、授業評価、学習評価、教材づくり

【授業科目】 生徒・進路指導論

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 渡邊 淳一

(自室番号 672)

【対象学生】 食物学科4年

【授業の目標及び到達目標】

①授業の目標：教員として組織的に生徒指導及び進路指導を推進するために必要な知識や素養を身に付けることを目標とする。②授業の到達目標：生徒指導・進路指導の意義及び原理、生徒指導・進路指導の進め方、個別の課題を抱える児童生徒への指導の在り方、学校内外の連携の在り方等について理解できる。

【授業の内容及び方法】

生徒指導・進路指導に関する理論及び実際の指導方法について講義を通して学ぶ。学習内容について相互にプレゼンテーションを行い、ディスカッションする。

【授業の計画】

1. 生徒指導の意義と原理
2. 教育課程と生徒指導
3. 児童期・青年期の心理と発達
4. 学校における生徒指導体制
5. 学校における教育相談体制
6. 生徒指導の進め方 —自己指導能力をはぐくむ指導—
7. 生徒指導の進め方 —規範意識をはぐくむ指導—
8. 生徒指導の進め方 —心理・発達面の課題を抱える児童生徒への指導—
9. 生徒指導の進め方 —福祉面の課題を抱える児童生徒への指導—
10. 学校と家庭・地域・関係機関との連携、チーム学校
11. 生徒指導に関する法制度等
12. 進路指導・キャリア教育の意義及び理論
13. 進路指導・キャリア教育で育成すべき能力
14. ガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育
15. キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方及び実践方法

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

文部科学省『生徒指導提要』『中学校キャリア教育の手引き』等を用いて理解を深めること。この授業を履修するにあたって、概ね30時間程度の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

教材の内容について予習し、一人最低1回のプレゼンテーションを行う。

【評価方法・基準】

筆記試験（80%）、プレゼンテーション（10%）、受講態度（10%）により総合的に評価する。

【教 材】

文部科学省 『生徒指導提要』 教育図書 2011

文部科学省 『中学校キャリア教育の手引き』 教育出版 2011

【キーワード】

生徒指導、自己指導能力、進路指導、キャリア教育

【授業科目】 教育相談

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 渡邊 淳一

(自室番号 672)

【対象学生】 社会福祉学科4年

【授業の目標及び到達目標】

①授業の目標：教員として適切に教育相談を実践するための基礎的知識（カウンセリングの意義、理論及び技法に関する基礎的知識を含む。）及び技能を身に付けることを目標とする。②授業の到達目標：幼児児童生徒の発達上の課題や問題及び保護者の心情、並びに教育相談の特徴について理解し、教育相談を実施できる。教育相談という相互行為を的確に省察できる。

【授業の内容及び方法】

学校心理学・学校教育相談学・ソーシャルワークの視座から教育相談の意義・方法等について学ぶ。また、省察に関する理論と方法を学び、自己の実践について省察する。講義を主とするが演習も行う。

【授業の計画】

1. 受講生の経験に基づく教育相談観、ディスカッション
2. 教育相談の基礎となる諸心理学理論
3. 生徒指導と教育相談
4. 学校における教育相談の特質
5. 教育相談体制の構築
6. 傾聴と Intersubjectivity
7. T. E. T. における ACTIVE LISTENING
8. 学級担任による教育相談の進め方
9. 個別教育相談の実際
10. リフレクション・ワーク
11. プロセスレコードによる省察
12. 保護者との教育相談的かかわり
13. 教育相談の新たな展開
14. SC・SSW・専門機関等との連携
15. 幼児児童生徒・教員のためのストレスマネジメント・アンガーマネジメント

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

文部科学省『生徒指導提要』第5章「教育相談」を熟読すること。対話という相互行為について日常的に省察しようとする。この授業を履修するにあたって、概ね30時間程度の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

他者の話を共感的・受容的に傾聴することができること。

【評価方法・基準】

試験（90%）、シャトルカード・受講態度（10%）により総合的に評価する。

【教 材】

文部科学省 『生徒指導提要』 教育図書 2011 他は授業中に適宜指示する。

【キーワード】

リフレクション、プロセスレコード、カウンセリング、学校教育相談、心理教育

【授業科目】 教職実践演習（高）

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 ○薬師寺 明子（自室番号 520）

【対象学生】 社会福祉学科4年

植月 洋子（自室番号 211）・船田 京子（自室番号 661）

【授業の目標及び到達目標】

大学4年間で学んだ学習知と教育実習等で習得した教科指導力、生徒指導力、コミュニケーション力、コーディネート力やマネジメント力といった実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力と研究心を有した教員としての資質・能力の向上を目指す。

【授業の内容及び方法】

学習内容では、教員としての資質・能力の向上に関する自己課題を明確にした上で、現職教員等の講話や学校教育現場の見学、グループ討議、ロールプレイング、模擬授業、発表等の取り組みを通して、(1)学校・家庭・地域の連携のあり方、(2)生徒理解と学級経営、(3)実践的態度の育成を目指した授業設計について、学校教育現場の視点からこれまでの教職に関する学びの総合化を図る。

【授業の計画】

1. 自らの教員としての能力・資質の向上に関する課題（教育実習の振り返り）
2. 教職の意義、教員の役割、職務内容と生徒に対する責任等についてグループ討議
3. 地域・家庭・学校の連携①：「子どもの成長と地域福祉」に関する講話
4. 地域・家庭・学校の連携②：調査・グループ討議
5. 生徒理解と学級経営①：「今日の教育課題」に関する講話
6. 生徒理解と学級経営②：グループ討議・ロールプレイング
7. 授業設計と模擬授業①：研究題材の設定と教育目標の検討
8. 授業設計と模擬授業②：授業展開の構想
9. 学校教育現場の見学①
10. 学校教育現場の見学②
11. 学校教育現場の見学③
12. 授業設計と模擬授業③：効果的な学習方略の検討
13. 授業設計と模擬授業④：模擬授業
14. 授業設計と模擬授業⑤：模擬授業、研究成果のまとめ
15. 高校教職の意義と自己課題：まとめ・発表

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間等）について】

この授業を履修するにあたり、30時間程度の自主学修が必要となる。課題等の事前準備を怠らないこと。

【履修上の注意・要望等】

グループ討議、課題発表が中心となるため、欠席しないよう受講すること。

【評価方法・基準】

受講態度（20％）模擬授業・レポート・プレゼンテーション 等（80％）

【教 材】

教科書： 特に定めない

参考文献： 必要に応じて指示

【キーワード】

福祉科教員・福祉科教育・教育実習

【授業の目標及び到達目標】

①授業の目標

本授業の目的は、教員としての能力を養い、認識を深めるために、教育実習生としての心構え、態度を学ぶことである。

②到達目標

教科の授業実習は勿論、特別活動や部活動も含めた教育活動全般を通して教職についての認識を深め、教員としての責務を理解し、行動できるようにする。

また、教育実習後は、自身の教員としての資質・能力・適正を判断する。

【授業の内容及び方法】

教育実習が円滑に進行しその成果が上がるよう、事前・事後の指導をする。

教育実習前・・・実習協力校の正常な教育活動に支障をきたすことのないよう授業準備、服装、心得等、教育実習に臨む姿勢を整える。

教育実習後・・・教育実習の反省をふまえて、実習記録冊子作りをする。

【授業の計画】

- 1, 教育実習の意義と目標
- 2, 校務運営の実際
- 3, 教育実習の心得① ・生活全般に関すること
- 4, 教育実習の心得② ・指導・研究に関すること
- 5, 学習指導案の作成
- 6, 模擬授業の実践① ・資料集めの方法
- 7, 模擬授業の実践② ・教科指導
- 8, 模擬授業の実践③ ・生徒指導の実際
- 9, 模擬授業の実践④ ・教材研究
- 10, 模擬授業の実践⑤ ・黒板の使い方
- 11, 教育実習 ① (1週)
- 12, 教育実習 ② (2週)
- 13, 事後指導 ① ・実習ノートの完成、礼状の発送
- 14, 事後指導 ② ・実習記録冊子作りの準備
- 15, 教育実習のまとめ・ 反省

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

予習・・・実習校との連絡を密にし、授業での取り組みを考える。

復習・・・自分の認識は正しいかどうかの判断をして、次回の授業に臨む。

この授業を履修するにあたって、概ね15時間程度の自主学修が必要となる。

日々の予習・復習・指導案作成に加えて、休日や放課後を利用して授業で学修した内容を自主学修すること

【履修上の注意・要望等】

教育実習生としての本分を十分理解し、意欲をもって取り組む。

実習協力校との連絡、大学への報告、相談は、密にとり、正しい判断で行動すること。

【評価方法・基準】

・教育実習に対する意欲、取り組み、授業態度（50%）・教育実習の報告書等（50%）

【教 材】

教科書： 高等学校 学習指導要領（文部科学省）

参考文献： よくわかる 学びの技法（ミネルヴァ書房）

【キーワード】

・教育実習の意義・目的・心得・実習ノートの書き方

【授業科目】 教育実習

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 植月 洋子

(自室番号 211)

【対象学生】 社会福祉学科4年

【授業の目標及び到達目標】

①授業の目標

本授業（教育実習）は、諸理論（これまでに学んできたこと）を実習校において実践（実際に教えること）することであり、教科の内容を正確に生徒に伝える技術を体得し、教育者としての資質について学び、教育現場の厳しさと楽しさを体験する。そのことにより自らの教職への適性・資質・能力を考える機会にする。

②到達目標

教職を目指し、学習してきたことを実際の学校現場で実習・体験することにより、自身の教員としての指導力、学校・生徒への対応などの実践力を高める。

【授業の内容及び方法】

教育活動全般（教科の授業・学級運営・特別活動・部活動）を教育実習生として実践する。

実習協力校の正常な教育活動に支障をきたすことのないよう、指導教官の指導のもと行動する。

【授業の計画】

高等学校教諭一種普通免許状（福祉）の取得希望者は、高等学校での教育実習に臨む。

期間・・・2週間（概ね6月の第1週ごろからであるが実習校の都合による）

内容・・・教育実習事前事後指導の授業に基づいて実習の準備を行うが、実習中は、実習校の指導教官の指示に従う。

- ・授業参観 ・授業実習 ・学級経営 ・クラブ活動 ・特別活動 ・学校行事
- ・生徒指導 ・研究授業 等を体験する。

それらを 実習日誌に記入し指導教官の指導を仰ぐ。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

予習・・・実習校（指導教官）との連絡を密にする。指導案・教材研究の準備をととのえる。

復習・・・1日の実習の反省をし、次の日の実習に備える。

日々の予習・復習に加えて、休日や長期休業中などを利用して実習で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

教育実習生としての本分を十分理解し、意欲をもって取り組む。

【評価方法・基準】

実習校の指導教官による評価（50%）、本学学科規定による評価（50%）

【教 材】

実習校使用の教科書・指導書

教育実習の手引き・よくわかる学びの技法（ミネルヴァ書房）

【キーワード】

- ・教育実習の＜意義＞＜目的＞＜心得＞＜実習ノート＞の書き方

社会福祉学科 3年(編入)

1. 教養・基礎教育科目

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年			備考	貢
			必修	選択	3年	4年	福祉士		
導入科目	1年次セミナー	演習	2		○				153
共通教養科目	現代生活論	講義		2					
	国際社会と日本	講義		2					
	地球環境論	講義		2					
	人権教育	講義		2					
	日本国憲法	講義		2					
	調査と統計	講義		2					
	心理学概論	講義	2		○				154
	日本語リテラシー	講義		2					
キャリア科目	キャリアデザイン論	講義		1					
	ボランティア論（教育系）	講義		1					
	ボランティア論（福祉系）	講義		1	○	○			16
	インターンシップ実習	実習		1	○	○			17
	ボランティア実習	実習		1	○	○			18
情報リテラ	情報リテラシーⅠ	演習		2	○			この3科目の中から、2科目4単位以上選択必修	155
	情報リテラシーⅡ	演習		2	○				156
	情報リテラシーⅢ	演習		2		○			157
外国語科目	英語Ⅰ	演習	1		○			この10科目の中から、2科目2単位以上選択必修	158～160
	英語Ⅱ	演習	1		○				161～163
	英語Ⅲ	演習		1					
	英語Ⅳ	演習		1					
	英語資格認定Ⅰ	実習		1	○	○			27
	英語資格認定Ⅱ	実習		2	○	○			28
	ドイツ語Ⅰ	演習		1					
	ドイツ語Ⅱ	演習		1					
	韓国語Ⅰ	演習		1					
	韓国語Ⅱ	演習		1					
スポーツ科目	レクリエーション概論	講義		2				この4科目の中から、2科目2単位以上選択必修	
	レクリエーション実技・実習	実習		2					
	スポーツ健康講義	講義		1					
	スポーツ健康実習	実習		1					
単位互換科目	放送大学科目Ⅰ	—	—	—	○	○		通算して4単位まで卒業要件に含めることができる	39
	放送大学科目Ⅱ	—	—	—	○	○			39
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅰ	—	—	—	○	○			40
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅱ	—	—	—	○	○			40
学科基礎科目	生活福祉論	講義		2					
	住まいと福祉	講義		2					
	3Dコンピュータグラフィックス	演習		2					
	社会の変化と社会福祉Ⅰ	講義		2	○				164
	数理基礎	講義		2					

【卒業要件】必修科目6単位、選択必修科目8単位以上を含めた計30単位以上を修得のこと。

2. 専門教育科目

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年			備考	貢
			必修	選択	3年	4年	福祉士		
専門 基幹 科目	現代社会と福祉Ⅰ	講義	2		○		◎	必修科目10単位を含め24単位以上を修得のこと	165
	現代社会と福祉Ⅱ	講義		2	○		◎		166
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ	講義	2		○		◎		167
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ	講義		2	○		◎		168
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義	2		○		◎		169
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義	2				◎		
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義		2			◎		
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ	講義	2		○		◎		170
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ	講義		2	○		◎		171
	介護概論	講義		2					
	加齢の理解	講義		2					
	障害の理解	講義		2					
	福祉のまちづくり概論	講義		2					
	中山間地福祉のまちづくり	講義		2					
	NPO・ボランティア活動論	講義		2					
	安全・安心のまちづくり	講義		2					
	地域づくりと環境デザイン(演習)	演習		2					
	地域づくりと住民参加(演習)	演習		2					
	地域経済・地域財政からみたまちづくり	講義		2					
専門 展開 科目	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義		2	○		◎	必修科目4単位を含め40単位以上を修得のこと	172
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義		2	○		◎		173
	社会福祉事業史	講義		2	○				174
	社会保障Ⅰ	講義		2	○		◎		175
	社会保障Ⅱ	講義		2	○		◎		176
	福祉行財政と福祉計画	講義		2		○	◎		
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○		◎		177
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○		◎		178
	相談援助の理論と方法Ⅰ	講義		4	○		◎		179
	相談援助の理論と方法Ⅱ	講義		4		○	◎		
	社会調査の基礎	講義		2	○		◎		180
	社会の変化と社会福祉Ⅱ	講義		2	○				181
	福祉サービスの組織と経営	講義		2	○		◎		182
	権利擁護と成年後見制度	講義		2	○		◎		183
	就労支援サービス	講義		1	○		◎		184
	更生保護制度	講義		1	○		◎		185
	相談援助演習Ⅰ	演習		1	○		◎		186
	相談援助演習Ⅱ	演習		1	○		◎		187
	相談援助演習Ⅲ	演習		1	○		◎		188
	相談援助演習Ⅳ	演習		1		○	◎		
	相談援助演習Ⅴ	演習		1		○	◎		
	相談援助実習指導Ⅰ	演習		1	○		◎		189
	相談援助実習指導Ⅱ	演習		2		○	◎		
	相談援助実習	実習		4	○	○	◎		
	介護実習	実習		1					
	人体の構造と機能及び疾病	講義		2			◎		
	人体構造及び日常生活行動に関する理解	講義		2					
	リハビリテーション論	講義		2					
	心理学理論と心理的支援	講義		2	○		◎		190
	社会理論と社会システム	講義		2	○		◎		191
	医療ソーシャルワーク論	講義		2	○				192
	保健医療サービス	講義		2	○		◎		193
精神保健	講義		2	○			194		
家庭支援論	講義		2	○			195		
福祉情報論及び同演習	演習		2						
ウェブリテラシー演習	演習		2		未開講				
福祉のまちづくり演習	演習		2						

区分	授 業 科 目	授業 形態	単位数		配当学年			備 考	貢
			必修	選択	3年	4年	福祉士		
その他の 専門科目	衣生活論	講義		2				自由選択科目	
	食生活論	講義		2					
	家庭経営学概論	講義		2					含 家庭経済学
	保育及び家庭看護学	講義		2					含 保育実習
	教育心理学	講義		2					
	福祉デザイン(衣)論	講義		2	○				
	福祉デザイン(衣)演習	演習		2	○				
	情報のユニバーサルデザイン論	講義		2					
	パソコン演習Ⅰ	演習		2					
	パソコン演習Ⅱ	演習		2		未開講			
	簿記会計学	講義		2					
卒業 研究系	特別演習Ⅰ	演習	2		○				198
	特別演習Ⅱ	演習		2		○			
	特別演習Ⅲ	演習	1			○			
	卒業研究	演習		4		○			

【授業科目】 1年次セミナー

【単 位】 2

【学 期】 通 年

【担当教員】 担当教員 他

【対象学生】 社会福祉学科編入3年

【授業の目標及び到達目標】

この授業の目標は、学生生活への円滑な適応ならびに大学における学修の仕方を学び、基礎学力の形成と充実を目指すものである。学生は、この授業を通して本学が示す教育目標と教育内容を理解し、それらと関連づけて在学期間全体を通して主体的に学びうるよう、1年次において「大学での学び」に関わる基礎的知識や技術などを習得する。

【授業の内容及び方法】

- 全学必修の通年科目である。(本学の専任教員全員がこの科目を分け持って担当する。)
- 全学科合同で行う合同セミナー(6回)と、各学科での10人程度のグループによる個別セミナー(ゼミ形式の授業)からなる。個別セミナーの授業内容および回数は、内規に基づき、各グループの担当教員によって決定される。グループによっては、学外での授業も計画されている。
- 授業の内容は次の通りである。
 - ①学生の日常生活における心身の健康と安全への備え
 - ②学科の教育目的・教育目標等の認知
 - ③「読むこと」「書くこと」「発表すること」「議論すること」の力の養成
 - ④学科に即した内容での基礎学力の向上

【授業の計画】

- 合同セミナーは、次の6回である。このうち②～⑤の4回の授業は、外部講師による講演を企画している。
 - ①ガイダンス
 - ②学生の食生活について
 - ③自分の身を守る(心と身体)
 - ④自分の身を守る(防犯面)
 - ⑤悪徳商法等への対処
 - ⑥特別講演

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

- 各グループの担当教員から指示された予習・復習の課題については積極的に取り組むこと。授業外の学修時間については各グループでの取り組みによるが、演習科目として0～15時間程度を目安とする。

【履修上の注意・要望等】

全授業回数は、各グループによって異なるので、担当の教員に確認すること。

【評価方法・基準】

1年次セミナーは、他の科目と異なり、認定単位の科目である。セミナー内で課される課題をこなし、かつ、必要な出席時間数が足りている場合に限り、所定の単位が認められる。

【教 材】

1年次セミナー -学びのために- (美作大学・美作大学短期大学部)

【キーワード】

大学生としてのマナー 大学での学び キャリアデザイン タイムマネジメント

【授業の目標及び到達目標】個人や家族、地域社会の様々な問題に関心と問題意識を持ち、また人格の形成と教養を身につけることの1つの側面として、心理学一般の基礎的内容習得が目標。基礎知識の習得と、様々な人間関係に一部でも応用できることを目指す。また社会福祉専門職（ソーシャルワーカー）に関連する心理学面の基礎知識を説明できるようになること。

【授業の内容及び方法】心理学系専門科目の関連書籍・文献を読むのに必要な用語や理論的概念を解説する。応用のために具体例での説明も行う。ただし性格その他の研究分野は後期の心理学理論と心理的支援で扱う（ただし発達は以下の各テーマの中で各々触れる場合がある）。授業方法は、講義を主とするが、小テストによる理解度確認なども行う。

【授業の計画】

1. 感情1 [基礎理論, 原因帰属, 複合感情, 日常的事例 (恋愛, 痛み, 罪悪感など)]
2. 感情2 [実験的研究と事例の続き]
3. 感情3 [情動の発生と維持 (情動が強く維持される条件, 失恋後の感情など)]
4. 感情4 [情動の強化と2者関係 (恋愛と夫婦間の感情の違い, 家族同士が持つ感情と家族心理療法)]
5. 感情5 [情動とストレスの理論]
6. 感情6 [ストレスへの対処]
7. 原因帰属1 [学習性無気力など]
8. 原因帰属2 [楽観的・悲観的原因帰属 (学力, 人間関係などへの影響)]
9. 原因帰属3 [自尊心, 自己愛と帰属スタイル]
10. 感覚・知覚 [感覚様相・形や色と空間など]
11. 認知の歪み1 [不適応を導く認知の歪みと認知・行動療法: 過度の一般化・2分割思考など]
12. 認知の歪み2 [続き: べきである思考・情緒的理由づけなど]
13. 言語と思考 [言語の構造と発達・問題解決と創造的思考]
14. 思考と信念1 [信じ込みを引き起こす要因: ランダム性の認知・代表性など]
15. 思考と信念2 [続き: 少ない事実からの推論など]

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】 日々の予習・復習、試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間程度の自主学修が必要。単元が数回に渡るときは、各回の復習をしておかないと、次回の内容が理解しにくくなる。

【履修上の注意・要望等】大学の講義に慣れるという意図もあって、黒板を写すだけでなく、話を聞きながら適宜要約しつつ、ノートを取る練習もして欲しい。

【評価方法・基準】

定期試験 (90%) と受講態度 (10%)

【教 材】

板書と配布資料。

また〈参考図書〉は、新・社会福祉士養成講座 (2) 心理学理論と心理的支援 社会福祉士養成講座編集委員会編, 中央法規出版

【キーワード】

心理学基礎, 感情, 知覚・認知, 言語・思考, 信念, ストレス, 無気力感, 不適応

【授業科目】 情報リテラシー I

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 長谷川 勝一

(自室番号 341)

【対象学生】 社会福祉学科編入3年

【授業の目標及び到達目標】

この授業では、福祉分野の実務を支える様々な ICT (情報通信技術) 活用能力の修得を重視し、ICT リテラシーの涵養を図ることを目標とする。到達目標として、大学が提供している各種情報サービスを活用できる。大学教育および福祉現場に必要な情報リテラシーと情報倫理を身に付け、日本語 (ローマ字入力) を 180 文字/分 (正誤率 90%以上) の速度で入力できることを目指す。

【授業の内容及び方法】

この授業では、インターネット・リテラシー、タイピングおよびオフィスツールの基本的機能の習熟に重点をおき、4年間の学生生活において必要な情報収集/活用能力の基礎を演習形式で学ぶ。同時に、本学での情報処理教育施設を利用するにあたっての基本的な活用方法を学修する。

【授業の計画】

- (1) ガイダンスおよびタッチ・タイピングと文字入力：ホーム・ポジション、漢字変換
- (2) パソコン操作の基本：パソコン操作上の注意、基本ソフト(OS)の扱い方など
- (3) 情報検索：インターネットを用いて情報を集める
- (4) 基礎編：Word チラシ作成：書式、表の作成、ワードアート、図の挿入、印刷
- (5) メールの使い方：マナー、送受信
- (6) メールの使い方：署名、CC と BCC
- (7) メールの使い方：添付ファイル付きメール、転送、アドレス帳、メールの管理
- (8) 基礎編：Word レポート作成：ページ設定、ヘッダー・フッター、脚注、参考文献、スタイル
- (9) 活用編：Word アンケート結果のレポート作成 段組、図表の挿入、図表番号、文末脚注
- (10) 活用編：Word アウトライン作成
- (11) 基礎編：PowerPoint スライド作成：箇条書き、表の編集
- (12) 活用編：PowerPoint：アンケート結果のスライド作成、効果、ノート作成、スライド印刷
- (13) 情報モラル：情報社会の問題点
- (14) 情報モラル：著作権、個人情報保護
- (15) 情報モラル：セキュリティ、コンピュータウイルス、パスワード管理、不正アクセス防止

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

この講義外の時間にも、予習・復習としてタイピングの練習や各種ソフトの操作、課題の作成を積極的に行い、日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね 30 時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

継続的な課題作成があるため、欠席をしないこと。

【評価方法・基準】

定期試験 30%、演習問題・文書作成レポートの提出 30%、タイピング練習評価 20%、学習態度 20%

【教 材】

「Office 基礎と情報モラル Office 2016 対応」「情報倫理ハンドブック 2018 年版」noa 出版

【キーワード】

情報リテラシー 情報検索 著作権 個人情報 ファイル管理 文書表現 セキュリティ対策
インターネットコミュニケーション ソーシャルネットワーク 情報社会の光と影 情報モラル

【授業の目標及び到達目標】

パワーポイントによるプレゼンテーションを学ぶ。レポート・研究・製品紹介などの内容をパワーポイントの画面(文章・イラスト・写真を含む)にまとめ、多人数を相手にわかりやすく発表(プレゼンテーション)できるようになるのが目標。

【授業の内容及び方法】

パワーポイントの基本操作を簡単な例題を作りながら学ぶ。次にやや高度な操作を、具体例(以下の計画を参照)を作成する中で学ぶ。最後に、自分でテーマを決め、それに関する情報をネットや文献などから収集・編集して作った作品を3分間で発表する。

【授業の計画】

<基本編>

- ①プレゼンテーション＝スライドショーの紹介(先輩の作品のデモ)
- ②基本操作:パワーポイントの起動・画面の説明・新しいスライドの作り方
- ③基本操作:スライドへの文字の入力, イラスト・写真・表の挿入
- ④基本操作:スライド背景の選択, 表の挿入・編集など
- ⑤基本操作:スライドショーの保存・削除・挿入・コピー・移動など
- ⑥基本操作:アウトライン, テキストのレベル, テキストボックス

<応用編>

- ⑦具体例1):アロマテラピー製品の紹介
タイトルスライド, 全体像の作成(アウトライン), 商品の仕様, 全スライド一覧表示, キャッチコピーの入力, まとめのスライドなど
- ⑧具体例2):具体例1)の改良
図を描く(オートシェイプ), 背景に写真を挿入, アニメーションの活用など
- ⑨グラフ・組織図の挿入, 写真・イラスト・ビデオなどの挿入
- ⑩インターネットからの画像・グラフ・表などのダウンロードする方法, 著作権についての注意

<オリジナル作品の作成>

- ⑪オリジナルプレゼンテーションの作成(テーマを決める)
- ⑫オリジナルプレゼンテーションの作成(ネットなどから情報・資料・データを集める)
- ⑬オリジナルプレゼンテーションの作成(まず自力で作っていく)
- ⑭オリジナルプレゼンテーションの作成(教員のアドバイスによって改良する)
- ⑮オリジナルプレゼンテーションの発表

【授業外の学修(予習・復習等、学習時間など)について】

授業中に習った操作方法は、反復練習しないと身につかないので、必ず自分のノートパソコンなどで復習すること。授業全体で、概ね30時間程度の自主学習が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

パワーポイントによるプレゼンテーションは、将来、必ず必要となるスキルなので全員履修すること。

【評価方法・基準】

規定課題・自由課題の達成度。オリジナルのプレゼンテーションの発表のレベル。
オリジナルプレゼンテーション発表(定期試験の代わり):80%・課題:10%・受講態度:10%

【教 材】

教科書:自作プリント

参考文献:「できるパワーポイント」など

【キーワード】

パワーポイント、プレゼンテーション、スライドショー、卒業研究、研究発表

【対象学生】 社会福祉学科編入3年

【授業の目標及び到達目標】

卒業論文や研究論文作成のための必要なスキルのうち、検定・アンケート集計・学术论文のまとめ方の3つを重点的・実践的に学ぶ。卒業論文を書くつもりのある学生は必ず履修すること。卒業論文作成だけでなく、将来の研究論文作成にも大いに役に立つので、卒業研究を取る予定のない人も履修するよう強く薦める。

【授業の内容及び方法】 3つに分かれる。

- 1) エクセルによる検定 (荻野担当)
- 2) 「パソコン基礎演習」(2年前期・エクセル)のアンケート集計の復習と実践的応用(荻野担当)
- 3) ワードによる学术论文のまとめ方(蜂谷担当)

【授業の計画】

①オリエンテーション

- 1) エクセルによる検定
 - ②エクセルの中の検定用ツールの紹介
 - ③検定の基本的な考え方(帰無仮説・対立仮説・確率分布・有意水準・t分布・P値など)
 - ④対応のある2標本によるt検定 ~研修会の効果の検定~
 - ⑤対応のある2標本によるt検定 ~実験前後の平均値の差の検定~
 - ⑥対応のない2標本によるt検定 ~2集団のヘモグロビン量の平均値の差の検定~
 - ⑦福祉介護分野での検定の活用例
 - ⑧総合演習
- 2) パソコン基礎演習(2年生前期・エクセル)のアンケート集計の復習と実践的応用
 - ⑨ピボットテーブル・ヒストグラム・リスト入力・単数選択と複数選択・クロス集計・グラフ作成など
 - ⑩実際の調査データを使った実践的集計：単数選択の集計とグラフ
 - ⑪実際の調査データを使った実践的集計：複数選択の集計とグラフ
- 3) ワードによる学术论文のまとめ方
 - ⑫ワープロでの差し込み印刷機能を使ったアンケート作成
 - ⑬学术论文をまとめる(1)レイアウト、ページ番号の設定、スタイルの指定、画像の貼り付け
 - ⑭学术论文をまとめる(2)目次作成、PDF作成、注釈文設定
 - ⑮学术论文をまとめる(3)図表番号、参考文献リスト、画像の取り込み

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

授業中に習った操作方法は、反復練習しないと身につかないので、必ず自分のノートパソコンなどで復習すること。授業全体で、概ね30時間程度の自主学習が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

卒業論文を書くつもりのある学生は必ず履修すること。卒業研究だけでなく将来の研究論文作成にも大いに役に立つスキルを学ぶことができるので、卒業研究を取る予定のない人も履修するよう強く薦める。

【評価方法・基準】

演習成果・定期試験(実技)の評価に、通常の演習態度を加味して行う。

定期試験：80%・課題：10%・受講態度：10%・出席点

【教 材】

- 1) と 2) の教材：自作プリント
- 3) の教材：教科書 卒業研究論文を作成するにあたっての注意事項(学修・学術情報センター)
参考書 学生のための Office 2010&情報モラル(ノア出版)
完全マスター Word2010(ノア出版)

【キーワード】 アンケート集計 社会調査 統計理論 検定 推定 差し込み印刷 目次作成
注釈分作成 スタイルの指定 ページ番号の設定 画像の取り込み・貼付け

【授業科目】 英語 I

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 桐生 和幸

(自室番号 136)

【対象学生】 社会福祉学科 3 年(編入)

【授業の目標及び到達目標】

この授業では、高校までの英語力をさらに確実なものとし、実用的な場面での英語運用能力を高めることを目標とする。この授業では、①英語の到達レベルを TOEIC で 300 点から 350 点、②実用的な表現を使ってコミュニケーションができる、③英文の構造を正しく理解して読める、という到達目標を設定する。

【授業の内容及び方法】

各課は 2 つのサイクルから構成され、サイクル 1 では、英文法を基礎から復習を行い、語彙演習、英作文を通じて定着を図る。サイクル 2 では、リスニング演習、読解演習を行いながら、総合的な英語力を高めていく。

【授業の計画】

1. この授業についてのオリエンテーションと英語ブラッシュアップ演習
2. Unit 1 サイクル 1 : From My Heart To Yours (代名詞) の文法、語彙、英作文演習
3. Unit 1 サイクル 2 : From My Heart To Yours (代名詞) のリスニング、読解演習
4. Unit 2 サイクル 1 : To Be Or Not To Be (be 動詞) の文法、語彙、英作文演習
5. Unit 2 サイクル 2 : To Be Or Not To Be (be 動詞) のリスニング、読解演習
6. Unit 3 サイクル 1 : Too Many Calorie? (名詞) の文法、語彙、英作文演習
7. Unit 3 サイクル 2 : Too Many Calorie? (名詞) のリスニング、読解演習
8. Unit 4 サイクル 1 : Life With A Roommate (冠詞と限定詞) の文法、語彙、英作文演習
9. Unit 4 サイクル 2 : Life With A Roommate (冠詞と限定詞) のリスニング、読解演習
10. Unit 5 サイクル 1 : I'll Take A Vacation! (一般動詞) の文法、語彙、英作文演習
11. Unit 5 サイクル 2 : I'll Take A Vacation! (一般動詞) のリスニング、読解演習
12. Unit 6 サイクル 1 : How Is The Weather? (疑問文) の文法、語彙、英作文演習
13. Unit 6 サイクル 2 : How Is The Weather? (疑問文) のリスニング、読解演習
14. Unit 7 サイクル 1 : Did You Do the Dishes? (過去形) の文法、語彙、英作文演習
15. Unit 7 サイクル 2 : Did You Do the Dishes? (過去形) のリスニング、読解演習

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

この授業を履修するにあたって、概ね 3 0 時間程度の自主学修が必要となる。具体的には以下の通り。

サイクル 1 では、最初に Quizlet で提示する単語の小テストを行うので、Quizlet での学習を行っておくこと。また、文法問題は事前に行っておき、授業において答えを確認する。以上の準備に 1 時間程度の課外学習が必要である。サイクル 2 では、Webclass の教材を参照しながら、読解問題の全文訳を作成し、内容把握問題を解答しておくこと。授業内での確認を行う。課外学習に 1 時間程度の時間が必要である。

【履修上の注意・要望等】

予習は必ず行うこと。また、電子辞書や高校のときに使用した文法の解説書などを授業に持参すること。

【評価方法・基準】

小テスト (30%)、オンライン学習 (10%)、授業内活動 (20%)、定期試験 (40%)

【教 材】

- ・ English Insight: An Integrated Approach to Language Learning, CENGAGE Learning, 2000 円+税
- ・ オンライン単語学習アプリ Quizlet
- ・ Webclass 上の学習教材

【キーワード】

英文法、英会話、英文読解、リスニング、英作文

【授業科目】 英語 I

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 多田 昌美

(自室番号 342)

【対象学生】 社会福祉学科 3 年編入生

【授業の目標及び到達目標】

文章全体の構造を意識しながら英文を読み、内容を読みとることができるようになることを目的とする。英語の基本的な表現や文法の知識に基づいて、平易な英語を理解することができる。

【授業の内容及び方法】

基本的な読解スキルに焦点を当てたテキストを用い、文章構造を確認しながら読解と問題演習を行い、英語力の向上を目指す。

【授業の計画】

1. 開講にあたって/ Unit 1: To Drive or to Ride? Pre-reading tasks/Reading
2. Unit 1: To Drive or to Ride? Reading/Post-reading Tasks
3. Unit 2: Help Yourself Pre-reading tasks/Reading
4. Unit 2: Help Yourself Reading/Post-reading Tasks
5. Unit 3: What I Learned from Fay Pre-reading tasks/Reading
6. Unit 3: What I Learned from Fay Reading/Post-reading Tasks
7. ここまでのまとめ
8. Unit 4: Ways to Help Others Pre-reading tasks/Reading
9. Unit 4: Ways to Help Others r Reading/Post-reading Tasks
10. Unit 5: Can Fish Fall from the Sky?! Pre-reading tasks/Reading
11. Unit 5: Can Fish Fall from the Sky?! Reading/Post-reading Tasks
12. Unit 6: How to Prepare a Presentation Pre-reading tasks/Reading
13. Unit 6: How to Prepare a Presentation Reading/Post-reading Tasks
14. Unit 7: International Date Line Pre-reading tasks/Reading
15. Unit 7: International Date Line Reading/Post-reading Tasks

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

指示された箇所について必ず予習をしてから授業に出席する、復習として Unit の要点を確認しながら文章の音読などを行って定着をはかるなど、概ね 15 時間の自主学修を必要とする。

【履修上の注意・要望等】

授業時には必ず英和辞典を持参すること。なお授業の進行状況によっては、各時間で取り上げる Unit が若干前後する場合や Unit の一部を省略する場合がある。

【評価方法・基準】

2 回の筆記試験の平均 (70%)、毎時間の mini exam (20%)・受講態度 (10%) により総合的に評価する。

【教 材】

竹内理、他『Reading Stream: Elementary』(金星堂)

参考文献は必要に応じて指示する。

【キーワード】

英語、英語コミュニケーション

【授業科目】 英語 I

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 ランボー典子

(自室番号 ***)

【対象学生】 社会福祉学科 3 年(編入)

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、基本的な英語の読み、書き、聞き取り、会話ができるようになることを目標とする。基本的な文法を理解し、英文を組み立てることができるようになる。また、基本的な英会話を聞きとることや、100ワード程度の英文を読んで理解することができるようになる。

【授業の内容及び方法】

教科書に沿って行う。単語の発音練習、会話の聞き取り練習、文法のドリル、英文読解、英作文、会話練習などさまざまな活動を行う。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. Unit1 : be 動詞 Listening and Reading
3. Unit1 : be 動詞 Writing and Speaking
4. Unit2 : 名詞 Listening and Reading
5. Unit2 : 名詞 Writing and Speaking
6. Unit3 : 一般動詞 Listening and Reading
7. Unit3 : 一般動詞 Writing and Speaking
8. Unit4 : 代名詞 Listening and Reading
9. Unit4 : 代名詞 Writing and Speaking
10. Unit5 : 一般動詞 (過去時制) Listening and Reading
11. Unit5 : 一般動詞 (過去時制) Writing and Speaking
12. Unit6 : 進行形 Listening and Reading
13. Unit6 : 進行形 Writing and Speaking
14. Unit7 : be going to / will Listening and Reading
15. Unit7 : be going to / will Writing and Speaking

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

授業前に指示されている該当箇所を予習してくること。授業後は、必ず復習をし、小テストに備えること。

日々の予習・復習、課題や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学んだ内容を自主学修すること。概ね 15 時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

課題を済ませてから授業に臨むこと。

【評価の方法・基準】

小テストと期末テスト (50%) 提出物と受講態度 (50%) により総合的に評価する。

【教 材】

教科書 : We Love L.A. ! L.A. イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ大学基礎英語～ (金星堂)

【キーワード】

英語、英文法、英会話

【授業科目】 英語Ⅱ

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 桐生 和幸

(自室番号 136)

【対象学生】 社会福祉学科3年(編入)

【授業の目標及び到達目標】

この授業では、前期の英語Ⅰに引き続き、高校までの英語力をさらに確実なものとし、実用的な場面での英語運用能力を高めることを目標とする。この授業では、①英語の到達レベルをTOEICで350点から400点、②実用的な表現を使ってコミュニケーションができる、③英文の構造を正しく理解して読める、という到達目標を設定する。

【授業の内容及び方法】

各課は2つのサイクルから構成され、サイクル1では、英文法を基礎から復習を行い、語彙演習、英作文を通じて定着を図る。サイクル2では、リスニング演習、読解演習を行いながら、総合的な英語力を高めていく。

【授業の計画】

1. Unit 8 サイクル1 : I'm Going To College (進行形) の文法、語彙、英作文演習
2. Unit 8 サイクル2 : I'm Going To College (進行形) のリスニング、読解演習
3. Unit 9 サイクル1 : Have You Ever Had A Job? (現在完了形) の文法、語彙、英作文演習
4. Unit 9 サイクル2 : Have You Ever Had A Job? (現在完了形) のリスニング、読解演習
5. Unit 10 サイクル1 : She Had Been Great! (過去完了形) の文法、語彙、英作文演習
6. Unit 10 サイクル2 : She Had Been Great! (過去完了形) のリスニング、読解演習
7. Unit 11 サイクル1 : How Is Christmas Celebrated? (受動態) の文法、語彙、英作文演習
8. Unit 11 サイクル2 : How Is Christmas Celebrated? (受動態) のリスニング、読解演習
9. Unit 12 サイクル1 : Do You Want To Take Some Time Off? (不定詞) の文法、語彙、英作文演習
10. Unit 12 サイクル2 : Do You Want To Take Some Time Off? (不定詞) のリスニング、読解演習
11. Special Activity
12. Unit 13 サイクル1 : I Can Drive! (助動詞 can, will) の文法、語彙、英作文演習
13. Unit 13 サイクル2 : I Can Drive! (助動詞 can, will) のリスニング、読解演習
14. Unit 14 サイクル1 : Where Would You Like To Go? (助動詞 could, would) の文法、語彙、英作文演習
15. Unit 14 サイクル2 : Where Would You Like To Go? (助動詞 could, would) のリスニング、読解演習

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

この授業を履修するにあたって、概ね30時間程度の自主学修が必要となる。具体的には以下の通り。
サイクル1では、最初にQuizletで提示する単語の小テストを行うので、Quizletでの学習を行っておくこと。また、文法問題は事前に行っておき、授業において答えを確認する。以上の準備に1時間程度の課外学習が必要である。サイクル2では、Webclassの教材を参照しながら、読解問題の全文訳を作成し、内容把握問題を解答しておくこと。授業内での確認を行う。課外学習に1時間程度の時間が必要である。

【履修上の注意・要望等】

予習は必ず行うこと。また、電子辞書や高校のときに使用した文法の解説書などを授業に持参すること。

【評価方法・基準】

小テスト(30%)、オンライン学習(10%)、授業内活動(20%)、定期試験(40%)

【教 材】

- ・English Insight: An Integrated Approach to Language Learning, CENGAGE Learning, 2000円+税
- ・オンライン単語学習アプリ Quizlet
- ・Webclass 上の学習教材

【キーワード】

英文法、英会話、英文読解、リスニング、英作文

【授業科目】 英語 II

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 多田 昌美

(自室番号 342)

【対象学生】 社会福祉学科 3 年編入

【授業の目標及び到達目標】

英語 I に引き続き、文章全体の構造を意識しながら英文を読み、内容を読みとることができるようになることを目的とする。英語の基本的な表現や文法の知識に基づいて、平易な英語を理解することができる。

【授業の内容及び方法】

基本的な読解スキルに焦点を当てたテキストを用い、文章構造を確認しながら読解と問題演習を行い、英語力の向上を目指す。

【授業の計画】

1. Unit 8: What Is Friendship? Pre-reading tasks/Reading
2. Unit 8: What Is Friendship? Reading/Post-reading Tasks
3. Unit 9: Entering a Photo Contest Pre-reading tasks/Reading
4. Unit 9: Entering a Photo Contest Post-reading Tasks Unit 10: Getting Money for a Big Project
Pre-reading tasks/Reading
5. Unit 10: Getting Money for a Big Project Reading/Post-reading Tasks
6. Unit 11: Accepting the “Salesperson of the Year” Award Pre-reading tasks/Reading
7. Unit 11: Accepting the “Salesperson of the Year” Award Reading/Post-reading Tasks
8. ここまでのまとめ
9. Unit 12: Written Art Pre-reading tasks/Reading
10. Unit 12: Written Art Reading/Post-reading Tasks Unit 13: Life Advice Q&A with Dr. Joyce Green
Pre-reading tasks
11. Unit 13: Life Advice Q&A with Dr. Joyce Green Reading/Post-reading Tasks
12. Unit 14: Stronger Yen Threatens Japanese Economy Pre-reading tasks/Reading
13. Unit 14: Stronger Yen Threatens Japanese Economy Reading/Post-reading Tasks
14. Unit 15: Not Hearing a Gorilla Pre-reading tasks/Reading
15. Unit 15: Not Hearing a Gorilla Reading/Post-reading Tasks

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

指示された箇所について必ず予習をしてから授業に出席する、復習として Unit の要点を確認しながら文章の音読などを行って定着をはかるなど、概ね 15 時間の自主学修を必要とする。

【履修上の注意・要望等】

授業時には必ず英和辞典を持参すること。なお授業の進行状況によっては、各時間で取り上げる Unit が若干前後する場合や Unit の一部を省略する場合がある。

【評価方法・基準】

2 回の筆記試験の平均 (70%)、毎時間の mini exam (20%)・受講態度 (10%) により総合的に評価する。

【教 材】

竹内理、他『Reading Stream: Elementary』（金星堂）

参考文献は必要に応じて指示する。

【キーワード】

英語、英語コミュニケーション

【授業科目】 英語Ⅱ

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 ランボー典子

(自室番号 ***)

【対象学生】 社会福祉学科3年(編入)

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、基本的な英語の読み、書き、聞き取り、会話ができるようになることを目標とする。基本的な文法を理解し、英文を組み立てることができるようになる。また、基本的な英会話を聞きとることや、100ワード程度の英文を読んで理解することができるようになる。

【授業の内容及び方法】

前期に引き続き、教科書に沿って行う。単語の発音練習、会話の聞き取り練習、文法のドリル、英文読解、英作文、会話練習などさまざまな活動を行う。

【授業の計画】

1. Unit 8 : 助動詞 Listening and Reading
2. Unit 8 : 助動詞 Writing and Speaking
3. Unit 9 : 前置詞 Listening and Reading
4. Unit 9 : 前置詞 Writing and Speaking
5. Unit 10 : 現在完了 Listening and Reading
6. Unit 10 : 現在完了 Writing and Speaking
7. Unit 11 : 比較 Listening and Reading
8. Unit 11 : 比較 Writing and Speaking
9. Unit 12 : WH 疑問文 Listening and Reading
10. Unit 12 : WH 疑問文 Writing and Speaking
11. Unit 13 : 動名詞/不定詞 Listening and Reading
12. Unit 13 : 動名詞/不定詞 Writing and Speaking
13. Unit 14 : 接続詞 Listening and Reading
14. Unit 14 : 接続詞 Writing and Speaking
15. Unit 15 : 受動態

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業前に指示されている該当箇所を予習してこること。授業後は、必ず復習をし、小テストに備えること。

日々の予習・復習、課題や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学んだ内容を自主学修すること。概ね15時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

課題を済ませてから授業に臨むこと。

【評価の方法・基準】

小テストと期末テスト（50%）提出物と受講態度（50%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書： We Love L.A. ! L.A. イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ大学基礎英語～（金星堂）

【キーワード】

英語、英文法、英会話

【授業科目】 社会の変化と社会福祉Ⅰ 【単 位】 2

【学 期】 前 期 【担当教員】 石飛 猛 石塚直人 (自室番号 526)

【対象学生】 社会福祉学科3年編入

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、社会保障、社会福祉の歴史・考え方・制度としての概要などの基礎を理解することをめざす。学生は、社会政策・社会福祉・社会福祉士等について自ら説明できるようになる。

【授業の内容及び方法】

社会保障、社会福祉の基礎に関する内容を概説し、図表を多用して、学生との対話を重視しながら理解を深める。

【授業の計画】

1. 病気になったら関係する制度・組織（病院・医師・看護師、医療費、保険証、窓口負担）
2. 健康保険、年金保険、労働保険、介護保険法、民間保険
3. 医療供給 医療法、医療計画、診療報酬、支払い基金、国保連合会
4. 社会福祉法と福祉6法
5. 少子化・高齢化 法律、条例、社会支出統計、財政統計
6. 社会福祉士とは 社会福祉士法、社会福祉士会、専門職
7. 福祉国家思想①スミス、グリーン、ウェッブ、エンゲルス、マルクス
8. 福祉国家思想②ドイツにおける社会国家
9. 福祉国家思想③二十世紀イギリスにおける展開
10. 第二次大戦後の社会の変化と社会保険・社会福祉制度の変化 戦後復興期から高度成長期（～1973）
11. 第二次大戦後の社会の変化と社会保険・社会福祉制度の変化 高度成長期から安定成長期（1974～90）
12. 第二次大戦後の社会の変化と社会保険・社会福祉制度の変化 低成長期から現在（1991～）
13. 福祉国家再編の方向①コミュニティケアの動向
14. 福祉国家再編の方向②福祉多元主義の動向
15. 福祉国家再編の方向③ワークフェアの動向

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

新聞記事を毎日見るとともに、予習・復習（30分以上）を怠らないこと。この授業を履修するにあたり、概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

厚生労働省からの新着情報配信サービスの情報をパソコンに保存し活用できるようにすること。

【評価方法・基準】

定期試験（50%）、提出課題（30%）、受講態度（20%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：『社会福祉政策』坂田周一 2014年 有斐閣

参考文献：『はじめての社会保障』椋野・田中 2016年 有斐閣

【キーワード】

高齢化、少子化、社会保険、社会福祉、社会福祉士、社会福祉法、専門職、社会科学、社会政策、福祉多元主義、コミュニティケア、ワークフェア

【授業科目】 現代社会と福祉 I

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 武田英樹

(自室番号 523)

【対象学生】 社会福祉学科 3 年編入生

【授業の目標及び到達目標】

本授業では現代社会において、個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、様々な社会福祉政策について理解できるよう展開する。

学生は下記の項目についての能力を身につけることを目指す。

- ・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について説明できる。
- ・福祉の歴史的変遷について説明できる。
- ・福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について説明できる。
- ・相談援助活動と福祉政策との関係について説明できる。

【授業の内容及び方法】

現代社会における福祉的ニーズの把握と課題解決に向けた福祉政策の構成要素や展開過程について学びます。講義の中では、各分野に関係するテーマを取り上げ、身近な事例をもとに現代の社会福祉のあり方についてディスカッション・グループ発表を交えながら検討していきます。適宜、DVD などの映像教材も活用する。

【授業の計画】

1. 福祉国家の成立
2. 日本の社会保障制度の歴史的変遷と現状課題
3. 高齢化・少子化
4. 社会の変化と福祉
5. 福祉と福祉政策
6. 福祉国家思想の展開①：資料収集とグループワーク
7. 福祉国家思想の展開②：グループ研究、発表資料のまとめ
8. 福祉国家思想の展開③：グループ発表
9. 福祉制度の発展過程
10. 少子化時代の福祉政策
11. 福祉政策の理念・主体・手法
12. 福祉政策の関連領域
13. 社会福祉制度の体系
14. 福祉サービスの提供
15. 福祉政策の国際比較

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

・予習として講義内で実施する発表資料の準備（次回講義までに 60 分程度）、講義内での強調した重要項目についての復習（次回講義までに 60 分程度）を行っておいてください。

・身近で起こっている社会問題について興味をもち、その問題を解決するためにどのような手段があるかについても調べること。

上記の予習・復習、調べについて自主学修時間概ね 30 時間を使って行うこと。

【履修上の注意・要望等】

主体的参加と協働の意識をもって出席してください。

【評価方法・基準】

試験（90%）、レポート（10%）

【教 材】

教科書：社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 4 現代社会と福祉』中央法規

参考文献：高間満ほか『第 3 版 社会福祉論』久美出版

武川正吾『社会政策の社会学』ミネルヴァ書房

【キーワード】

社会保障制度、社会保険制度、社会福祉制度、社会福祉援助、社会福祉専門職

【授業科目】 現代社会と福祉Ⅱ

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 武田英樹

(自室番号 523)

【対象学生】 社会福祉学科3年編入生

【授業の目標及び到達目標】

本授業では現代社会において、個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、様々な社会福祉政策について理解できるよう展開する。加えて、社会福祉士として地域社会の暮らしに対する強い関心や問題意識、目的意識、柔軟な思考力を養えるようにする。

学生は下記の項目についての能力を身につけることを目指す。

- ・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について説明できる。
- ・福祉の原理をめぐる理論と哲学について説明できる。
- ・福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について説明できる。
- ・福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について説明できる。
- ・相談援助活動と福祉政策との関係について説明できる。

【授業の内容及び方法】

現代社会における福祉的ニーズの把握と課題解決に向けた福祉政策の構成要素や展開過程について学びます。講義の中では、各分野に関係するテーマを取り上げ、身近な事例をもとに現代の社会福祉のあり方についてディスカッションを交えながら検討していきます。適宜、DVDなどの映像教材も活用する。

【授業の計画】

1. 福祉の思想と哲学
2. 社会政策と福祉政策
3. 福祉政策の発展過程
4. 福祉政策における必要と資源
5. 福祉政策の論点：効率性と公平性
6. 福祉政策の論点：普遍主義と選別主義
7. 福祉政策の論点：自立と依存
8. 福祉政策の論点：自己決定とパターンリズム
9. 福祉政策の論点：ジェンダー
10. 福祉政策と関連政策
11. 福祉供給の政策過程と実施過程
12. 包摂的福祉政策の展開
13. 福祉サービスと援助活動
14. 福祉政策の課題と展望
15. 現代の社会問題とその取り組み：ゲストスピーカーによる話題提供

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

シラバスの授業計画や講義内で提示された用語について、事前学習（次回講義までに60分程度）、講義内での強調した重要項目についての復習（次回講義までに60分程度）を行っておいてください。

この授業を履修するにあたって、概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

主体的参加と協働の意識をもって出席してください。

【評価方法・基準】

試験（90%）、レポート（10%）

【教 材】

教科書：社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座4 現代社会と福祉』中央法規

参考文献：高間満ほか編著『第3版 社会福祉論』久美出版

武川正吾『社会政策の社会学』ミネルヴェア書房

【キーワード】

公共政策、社会政策、福祉政策、社会問題、福祉哲学

【授業科目】 児童や家庭に対する支援と
児童・家庭福祉制度 I

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 有岡 道博 (自室番号 529)

【対象学生】 社会福祉学科 3 年編入

【授業の目標及び到達目標】

現在、我が国では、少子・高齢化が急速に進み、児童を取り巻く環境は大きく変化してきている。本授業ではこうした中、今子ども達が置かれている生活実態や問題について理解していくとともに、現在取り組まれている児童福祉施策についての理解を深めることを目的とする。学生はこれらの施策についての知識修得をめざす。

【授業の内容及び方法】

教科書を中心として、子ども達の生活を支える支援と制度を学んでいく。そして、新聞、テレビ、インターネットなどの様々な分野から題材を選び、グループ討議を利用して学習をより深めていく。

【授業の計画】

- 1 少子高齢社会と次世代育成支援
- 2 現代社会と子ども家庭の問題
- 3 子どもの育ちと子育てのニーズ
- 4 子どものための福祉の原理
- 5 子ども家庭福祉の理念
- 6 子どもと家庭の権利保障
- 7 子ども福祉の発展
- 8 子ども家庭福祉の法律体系
- 9 子ども家庭福祉の実施体制
- 10 子ども家庭福祉の財政
- 11 子ども家庭福祉の専門職
- 12 苦情解決と権利擁護
- 13 子どもの権利条約
- 14 事例を基に援助対策を考える I (グループ討議)
- 15 事例を基に援助対策を考える II (グループ討議)

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

毎回必ず確認テスト (60 分程度) で予習を行うのでしっかりと履修しておくこと。確認テストは、次回の授業日に必ず提出すること。授業で不明の点は、このテストの質問欄に記入すること。復習については、レジメ資料などの確認 (60 分程度) を授業後に行うこと。(計 30 時間程度)

【履修上の注意・要望等】

児童福祉の根底である「子どもの権利条約」を理解し、授業に臨むこと。グループ課題もあるので、各自積極的な姿勢で協力していくこと。

【評価方法・基準】

確認テスト (20%) および受講態度 (20%)、定期試験 (60%) 等との総合評価とする。

【教 材】

「新・社会福祉士養成講座『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』(中央法規出版)。新聞記事やビデオ教材などを使用するとともに、具体的な事例を紹介し、考えていくこととする。

毎回要点を整理したプリント (レジメ) を配付する。

【参考文献】「歴史の中の子どもたち」森良和 学文社

【キーワード】

少子高齢社会 子ども権利条約 児童相談所 虐待 児童福祉施設 ソーシャルワーカー

【授業科目】 児童や家庭に対する支援と
児童・家庭福祉制度Ⅱ

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 有岡 道博 (自室番号 529)

【対象学生】 社会福祉学科3年編入

【授業の目標及び到達目標】

現在、我が国では、少子・高齢化が急速に進み、児童を取り巻く環境は大きく変化してきている。本授業ではこうした中、今子ども達が置かれている生活実態や問題について理解していくとともに、現在取り組まれている児童福祉施策についての理解を深めることを目的とする。学生はこれらの施策についての知識修得をめざす。

【授業の内容及び方法】

教科書を中心として、子ども達の生活を支える支援と制度を学んでいく。そして、新聞、テレビ、インターネットなどの様々な分野から題材を選び、グループ討議を利用して学習をより深めていく。

【授業の計画】

- 1 母子保健
- 2 障害・難病のある子どもと家族への支援
- 3 児童健全育成
- 4 保育
- 5 子育て支援
- 6 ひとり親家庭の福祉
- 7 児童の社会的養護サービス
- 8 非行児童・情緒障害児への支援
- 9 児童虐待対策
- 10 子どもと家庭にかかわる女性福祉
- 11 子ども家庭への相談援助
- 12 施設ケアと子ども家庭福祉援助活動
- 13 地域援助活動とネットワーク
- 14 事例を基に援助対策を考えるⅠ (グループ討議)
- 15 事例を基に援助対策を考えるⅡ (グループ討議)

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

毎回必ず確認テスト (60分程度) で予習を行うのでしっかりと履修しておくこと。確認テストは、次回の授業日に必ず提出すること。授業で不明の点は、このテストの質問欄に記入すること。復習については、レジメ資料などの確認 (60分程度) を授業後に行うこと。(計 30 時間程度)

【履修上の注意・要望等】

児童福祉の根底である「子どもの権利条約」を理解し、授業に臨むこと。グループ課題もあるので、各自積極的な姿勢で協力していくこと。

【評価方法・基準】

確認テスト (20%) および受講態度 (20%)、定期試験 (60%) 等との総合評価とする。

【教 材】

「新・社会福祉士養成講座『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』(中央法規出版)。新聞記事やビデオ教材などを使用するとともに、具体的な事例を紹介し、考えていくこととする。

毎回要点を整理したプリント (レジメ) を配付する。

【参考文献】「歴史の中の子どもたち」森良和 学文社

【キーワード】

少子高齢社会 子ども権利条約 児童相談所 虐待 児童福祉施設 ソーシャルワーカー

【授業科目】 地域福祉の理論と方法 I

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 小坂田 稔 (自室番号:521)

【対象学生】 社会福祉学科 3 年編入

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、社会福祉実践に必要となる地域福祉の理論および実践方法について理解を深めていくことをめざす。この学びを基に地域福祉理論と知識、方法を基にした地域福祉実践ができるようにする。

【授業の内容及び方法】

地域福祉の理論を具体的実践事例により学んでいく。講義を主とするが、事例を基にしたグループワークも行う。毎回、授業内容に沿った資料を配布していく。

【授業の計画】

1. 地域福祉とは何か(1)
地域福祉の必要性と基本的な考え方(理論、根拠法など)
2. 地域福祉とは何か(2)
事例を基にコミュニティ・ソーシャルワーク考える
3. 地域福祉の構成要素と予防的福祉活動(3つの壁へのチャレンジ)
4. 予防的福祉サービス(活動)
福祉教育の必要性と取り組み方法・当事者の話から考える
5. ニーズキャッチの必要性和方法
6. ニーズキャッチの仕組み
7. 「組織活動」の必要性和組織活動の種類
8. 「組織活動」の原則と組織活動の方法
事例を基に考える
地区社協の意味と活動内容
9. 実践的地域包括ケアシステムとは何か(1) 必要な背景・目的・意義
10. 実践的地域包括ケアシステムとは何か(2) 内容・機能・国の地域包括ケアシステムとの相違
11. 社会福祉協議会の組織目的・活動内容と活動原則
12. 社会福祉協議会の現状・課題とこれからのあり方
-全国社会福祉協議会「社協・生活支援活動強化方針」が示すこれから
13. 地域福祉と権利擁護-日常生活自立支援事業と成年後見制度、権利擁護支援センター-活動
14. 「地域共生社会」の推進と意味と地域福祉の関係
15. 事例を基に地域福祉実践を考えてみる

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

自主的に授業に関係した文献を読んでいくこと。授業後に配布した資料を再読し、キーワードについて必ず復習し、疑問点をなくすこと。事例については必ず予習し、授業に臨むこと。自主学習時間としては概ね 30 時間程度を目安として確保すること。

【履修上の注意・要望等】

毎回確認テストを配布する。確認テストは、次回の授業までに必ず提出すること。授業での不明点は、このテストの質問欄に記入すること。

【評価方法・基準】

確認テスト(20%)、受講態度・グループワーク内容(20%)、本試験(60%)との総合評価。

但し、本試験の点数が 60 点以上ない場合は不可とする。

【教 材】

教科書：新・社会福祉士養成講座『地域福祉の理論と方法』（中央法規）

その他：社会福祉小六法・毎回の授業時に配布するレジメ資料

【キーワード】 2つの生活けん 3つの壁 4つの力 社会福祉法 実践的地域包括ケアシステム
社会福祉協議会 コミュニティ・ソーシャルワーク 地域共生社会

【授業科目】 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 I 【単 位】 2

【学 期】 前 期 【担当教員】 薬師寺 明子 (自室番号 520)

【対象学生】 社会福祉学科 3 年編入

【授業の目標及び到達目標】

障害者の生活実態や社会情勢、法体系やサービス等を理解する。そして、障害者の相談援助に必要な制度、サービスを理解したソーシャルワーカーになることをめざす。

【授業の内容及び方法】

身体障害者、知的障害者、精神障害者の諸領域にわたって、障害者理解、障害者福祉理念の学習を基礎として、歴史、関係法と施策、活動、課題などについて講義を通して学ぶ。また、グループで課題に取り組み、発表も行う。

【授業の計画】

1. オリエンテーション・障害者福祉とは
2. 障害者福祉の理念
3. 障害者理解①グループ課題発表1グループ
4. 障害者理解②グループ課題発表 2 グループ
5. 障害者理解③グループ課題発表 3 グループ
6. 身体障害・知的障害・精神障害・発達障害の理解
7. 障害者支援と本人主体（外部講師）
8. 障害者の実態とニーズ・障害の概念
9. 障害者福祉の国際的動向
10. 日本の障害者福祉の動向
11. 障害者の法的定義・手帳制度
12. 障害者福祉施策の法体系①障害者基本法
13. 障害者福祉施策の法体系②障害者基本計画
14. 障害者福祉施策の法体系③身体障害者福祉法等各法
15. 障害者福祉施策の法体系④障害者にかかわるその他の法体系

【授業外の学修（予習・復習の指示・学修時間など）について】

事前にテキストを読んでおくこと。専門用語や制度等については随時確認するとともに受講後 30 時間程度の自主学修を行うこと。

【履修上の注意・要望等】

卒業必修科目・相談援助実習必修科目

【評価方法・基準】

受講態度（20%）・提出課題（10%）・定期試験（70%）

なお、定期試験の成績が 6 割未満の場合は不可となる。

【教 材】

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第 5 版（中央法規出版）・随時配布する資料

【キーワード】

障害者理解・障害者福祉の動向・障害者基本法・障害者総合支援法

【授業の目標及び到達目標】

障害者の生活実態や社会情勢、法体系やサービス等を理解する。そして、障害者の相談援助に必要な制度、サービスを理解したソーシャルワーカーになることをめざす。

【授業の内容及び方法】

身体障害者、知的障害者、精神障害者の諸領域にわたって、障害者理解、障害者福祉理念の学習を基礎として、歴史、関係法と施策、活動、課題などについて講義を通して学ぶ。

【授業の計画】

1. オリエンテーション・Iの復習
2. 障害者自立支援制度の経緯①社会福祉基礎構造改革
3. 障害者自立支援制度の経緯②制度改正の背景
4. 障害者総合支援法① 体系
5. 障害者総合支援法② 自立支援給付
6. 障害者総合支援法③ 訓練等給付
7. 障害者総合支援法④ 自立支援医療・補装具・障害福祉計画
8. 障害者総合支援法⑤ 地域生活支援事業他・介護保険との関係
9. 障害者総合支援法⑥ 組織・機関の役割・苦情解決
10. 障害者総合支援法⑦ 専門職の役割と実際
11. 障害者総合支援法⑧ 連携・ネットワーク・自立支援協議会
12. 障害児に対する支援① 法改正の背景
13. 障害児に対する支援② 制度・サービス
14. 教育機関の役割・障害者の雇用・就業
15. 所得保障・経済負担の軽減・まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示・学修時間など）について】

事前にテキストを読んでおくこと。専門用語や制度等については随時確認するとともに受講後30時間程度の自主学修を行うこと。

【履修上の注意・要望等】

相談援助実習必修科目

【評価方法・基準】

受講態度（20%）・提出課題（10%）・定期試験（70%）

なお、定期試験の成績が6割未満の場合は不可となる。

【教 材】

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第5版（中央法規出版）

随時配布する資料

【キーワード】

障害者総合支援法・障害児福祉・児童福祉法・ネットワーク・特別支援教育・就労支援・所得保障

【授業の目標及び到達目標】

本授業では生活保護制度を柱にしながら、低所得者に対する制度や政策を学んでいくことを目標としている。授業の中では低所得者や生活困窮者のさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、社会福祉政策について理解できるように行う。

学生は下記の項目についての能力を身につけることを目指す。

1. 貧困とは何かについての説明ができる。
2. 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解できる。
3. 相談援助活動において必要となる生活保護制度の仕組みについて説明できる。
4. 生活保護制度以外の低所得者支援に関する制度について説明できる。

【授業の内容及び方法】

貧困に関係する身近な社会問題を取り上げながら、公的扶助の全体像を理解するとともに、相談援助活動における生活保護制度やその他の低所得者対策の具体的な活用方法について、ディスカッションや事例検討を交えながら学んでいきます。適宜、DVD などによる映像教材も活用する。

【授業の計画】

1. 公的扶助とは何か：概念・範囲・意義・役割
2. 貧困問題を取り巻く動向：何が問題で、どんなことが議論されているのか
3. 貧困と社会的排除
4. 公的扶助の歴史：日本と諸外国
5. 生活保護制度の原理・原則
6. 生活保護制度の種類と内容
7. 生活保護制度における保護基準
8. 被保護者の権利と義務
9. 保護施設の種別と目的
10. 生活保護の実施体制
11. 生活保護における自立支援プログラム
12. 低所得者対策：生活福祉資金貸付制度、社会手当ほか
13. 生活困窮者対策：生活困窮者自立支援制度
14. 朝日訴訟を学ぶ
15. 事例検討：ゲストスピーカーにより近年の社会問題から事例提供。

テーマ例：ワーキングプア、無縁社会、こどもの貧困

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

講義内で実施する確認テスト範囲の予習（次回講義までに60分程度）、講義内での強調した重要項目についての復習（次回講義までに60分程度）を行っておいてください。その他休日や長期休業期間などを利用して復習や課題作成をすること。自主学修時間は概ね30時間必要。

【履修上の注意・要望等】

授業には主体的参加と協働の意識をもって出席してください。

【評価方法・基準】

期末試験 90% レポート 10%

【教 材】

教科書：新社会福祉士養成講座『低所得者に対する支援と生活保護制度』中央法規出版

参考文献：成清美治ほか編『低所得者に対する支援と生活保護制度』学文社

生活保護制度研究会編『保護のてびき』第一法規

生田武志『釜ヶ崎から…貧困と野宿の日本…』ちくま文庫

【キーワード】

生活保護 貧困 低所得 生存権 自立

【授業科目】 地域福祉の理論と方法Ⅱ

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 小坂田 稔 (自室番号:521)

【対象学生】 社会福祉学科3年編入生

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、地域福祉実践事例の学習やグループワークを通して、地域福祉の理論と実践方法について具体的に理解を深めていくことをめざす。地域福祉の理論と知識、方法を基にした地域福祉実践ができるようにする。

【授業の内容及び方法】

地域福祉の理論を具体的実践事例により学んでいく。講義を主とするが、グループワークを加える。毎回、授業内容に沿った資料を配布していく。

【授業の計画】

1. 地域福祉と共同募金
共同募金の歴史・目的・意義・内容
2. 地域福祉と民生委員・児童委員
民生委員・児童委員の歴史・役割・活動内容
3. 地域福祉における福祉施設の役割(施設の地域化の意味・社会福祉法人の地域公益事業の意義)
4. 施設の地域化の考えを基に理想の福祉施設を設計する(1)(グループワーク)
5. 同 上(2)・・・設計施設のプレゼンテーション(グループ発表)
6. 「7人の若者が取り組んだ福祉施設づくりの物語」を通して地域福祉での福祉施設の役割を考える
7. 環境改善活動の必要性和意義、方法
8. 大学内の施設点検活動に取り組んでみる(グループワーク)
点検結果を基に環境改善活動の意味とソーシャルアクションの方法を理解する
9. 地域福祉と福祉委員(福祉委員の役割・活動内容)
10. 地域福祉における社会資源の意味と役割
事例を基に社会資源の必要性和活用方法を考える(グループワーク)
11. 具体的事例を基にコミュニティソーシャルワークの展開を考える(グループワーク)
12. 地域福祉計画の意義・種類、地域福祉推進に果たす役割
13. 地域福祉計画策定の様々な手法
14. 地域福祉の歴史(わが国の地域福祉)
15. 地域福祉の歴史(海外の地域福祉)

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

自主的に授業に関係した文献を読んでいくこと。授業後に配布した資料を必ず再読し、疑問点をなくすこと。グループワークについては、授業外の作業も含めて主体的に参加すること。

自主学習時間としては、グループワークを含めて概ね30時間程度を目安として確保すること。

【履修上の注意・要望等】

毎回確認テストを配布する。確認テストは、次の授業までに必ず提出すること。授業での不明点は、このテストの質問欄に記入すること。グループワークはメンバー全員で協力して取り組むこと。

【評価方法・基準】

確認テスト(20%)、受講態度及びグループワーク参加状況・発表内容(20%)、本試験(60%)との総合評価。但し、本試験の点数が60点以上ない場合は不可とする。

【教 材】

教科書：新・社会福祉士養成講座『地域福祉の理論と方法』(中央法規)

その他：社会福祉小六法・毎回の授業時に配布するレジメ資料

【キーワード】

共同募金 民生委員児童委員 福祉委員 環境改善活動 社会資源 コミュニティソーシャルワーク
地域福祉計画 社会福祉法人の地域公益事業 第三の道

【授業科目】 社会福祉事業史

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 石飛猛

(自室番号 526)

【対象学生】 社会福祉学科3年編入

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、17世紀以降の社会福祉の制度・実践活動・思想を、資本主義の発展段階と対応させながら理解することを目標とする。学生は、社会保障・社会福祉について説明できるようになる。

【授業の内容及び方法】

17世紀以降の英国の社会福祉の制度・実践活動・思想の歴史を概説し、図表を多用して、学生との対話を重視しながら理解を深める。

【授業の計画】

1. 貧困問題の発生と旧救貧法 英国 1601 年法
2. 産業革命と社会問題
3. 新救貧法の成立 救貧法の人道主義化、産業革命、1834 年原則、J S ミル、
4. 民間部門の役割 慈善、セツルメント、リッチモンドのソーシャルワーク
5. 社会主義の台頭 ユートピア社会主義、マルクス主義、フェビアン社会主義、ドイツの社会国家
6. 救貧法の廃止と擁護をめぐる対立 ビアトリス・ウェブ、平行棒理論・振出理論、少数派報告
7. 社会立法の動き ドイツ社会保険 貧困調査 英国自由改良主義立法、米国ニューディール政策
8. ベヴァリッジ体制の確立 社会保障制度の3つの方法、福祉国家体制
9. ベヴァリッジ体制の展開 福祉国家のゆらぎ、貧困の再発見
10. パーソナルソーシャルサービスの形成と展開 ヤングハズバンド報告、シーボーム報告、バークレイ報告
11. コミュニティケア改革 サッチャリズム、グリフィス報告、ワグナー報告、福祉多元主義
12. 近年のイギリスにおける福祉改革
13. 第2次大戦前の日本の慈善 社会事業 民間慈善活動、感化救済事業、救護法、方面委員、厚生事業
14. 第2次大戦後の日本の社会福祉 占領期、皆保険・皆年金、福祉6法、社会保障運動、福祉見直し
15. 2000年以降の日本の社会福祉

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

新聞記事を毎日見るとともに予習・復習（30分以上）を怠らないこと。この授業を履修するにあたり、概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

厚生労働省からの新着情報配信サービスの受信設定を行い、その中から必要な情報をパソコンに保存し活用できるようにすること。

【評価方法・基準】

定期試験（50%）、提出課題（30%）、受講態度（20%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：『社会福祉のあゆみ』金子光一著 2005年 有斐閣

参考文献：『福祉の経済思想家たち』増補版 小峯敦編 2012年 ナカニシヤ出版

【キーワード】

産業革命、福祉国家、新自由主義、社会福祉基礎構造改革、社会保障と税の一体改革、ワークフェア、福祉多元主義、コミュニティケア

【授業科目】 社会保障 I

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 菅原 明美

(自室番号 213)

【対象学生】 社会福祉学科3年編入

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、社会保障制度の体系について学び、医療保険制度や年金制度等の具体的内容について知識を修得し、社会福祉の援助が円滑に遂行出来る力を身につけることを目的としている。

1. 社会保障の目的について理解することができる。
2. 社会保障制度の体系を理解することができる。
3. 年金保険制度の内容を理解することができる。

【授業の内容及び方法】

本授業では、現行の日本における社会保障制度の基本的な仕組みについて学ぶ。

授業方法は、講義を主とするが、各単元終了時に小テストを実施し、理解度の確認を行う。

【授業の計画】

1. オリエンテーション／私たちの生活と社会保障
2. 生活保障の理念と機能
3. 社会保障の歴史① 欧米における社会保障の歴史的展開
4. 社会保障の歴史② 日本における社会保障の歴史的展開
5. 社会保障の構造① 社会保障制度の体系
6. 社会保障の構造② 年金保健の構造
7. 社会保障の構造③ 社会扶助の構造
8. 社会保障の財源と費用① 社会保障の費用
9. 社会保障の財源と費用② 社会保障の財源
10. 社会保障の財源と費用③ 社会保障と経済
11. 年金保険制度① 年金保険制度の沿革と概要
12. 年金保険制度② 国民年金
13. 年金保険制度③ 厚生年金保険
14. 年金保険制度④ 共済保険／年金保険制度をめぐる最近の動向
15. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

- ・配布された資料を再読すること。
- ・制度改訂が毎年行われるため、日頃よりニュースなどで情報を把握しておくことが必要である。
- ・授業で紹介された文献等を参考に、休日を活用して概ね30時間自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

- ・小テストを通して、自分自身の理解度を確認し、自主学修に役立ててください。

【評価方法・基準】

定期試験（80%）、提出課題（10%）、受講態度（10%）

【教 材】

- ・新・社会福祉士養成講座、『社会保障』（中央法規出版株式会社）
- ・参考文献：「はじめての社会保障」有斐閣 「社会保障入門」中央法規
- ・適宜、資料を配布する。

【キーワード】

福祉国家、ベヴァリッジ報告、社会福祉基礎構造改革、社会保障と税の一体改革、社会保険方式
租税方式、社会保障費用統計、所得の再分配

【授業科目】 社会保障 II

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 菅原 明美

(自室番号 213)

【対象学生】 社会福祉学科 3年編入

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、社会保障 I で学んだ社会保障・福祉の知識を基盤とし、日本の社会保障が抱える問題や改革の現状と課題について、自らの生活と照らし理解することが出来ることを目的とする。またその解決のための方法を具体的に考えることを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

本授業では、現行の日本における社会保障制度の基本的な仕組みについて学ぶ。

授業方法は、講義を主とするが、各単元終了時に小テストを実施し、理解度の確認を行う。

【授業の計画】

1. 医療保険制度① 医療保険制度の沿革と概要
2. 医療保険制度② 健康保険と共済制度／国民健康保険制度
3. 医療保険制度③ 後期高齢者医療制度
4. 医療保険制度④ 国民医療費と医療をめぐる最近の動向
5. 介護保険制度① 介護保険制度創設の経緯／介護保険制度の概要
6. 介護保険制度② 介護保険制度をめぐる最近の動向
7. 労働保険制度① 労働保険制度の沿革と概要
8. 労働保険制度② 労働者災害補償保険／雇用保険
9. 労働保険制度③ 労働保険制度をめぐる最近の動向
10. 社会福祉制度 社会福祉制度の沿革と概要／生活保護制度
11. 社会保障と民間保険
12. 社会保障が当面する課題
13. 諸外国における社会保障制度①
14. 諸外国における社会保障制度②
15. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

- ・配布された資料を再読すること。
- ・制度改訂が毎年行われるため、日頃よりニュースなどで情報を把握しておくことが必要である。
- ・授業で紹介された文献等を参考に、休日を活用して概ね 30 時間自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

- ・小テストを通して、自分自身の理解度を確認し、自主学修に役立ててください。

【評価方法・基準】

定期試験（80%）、提出課題（10%）、受講態度（10%）

【教 材】

- ・教科書：新・社会福祉士養成講座、『社会保障』（中央法規出版株式会社）
- ・参考文献：「はじめての社会保障」有斐閣 「社会保障入門」中央法規
- ・適宜、資料を配布する。

【キーワード】

全国健康保険協会 後期高齢者医療広域連合 求職者給付基本手当 育児休業給付 日本型雇用慣行
非正規雇用職員

いりょう

【授業科目】 相談援助の基盤と専門職Ⅰ 【単 位】 2

【学 期】 前 期 【担当教員】 薬師寺 明子 (自室番号 520)

【対象学生】 社会福祉学科3年編入

【授業の目標及び到達目標】

地域生活上の課題は、多様化・深刻化・潜在化の様相を呈している。本授業は、地域における生活課題を地域で解決するための仕組みづくりを学ぶことを目標とする。そして、「総合的かつ包括的な相談援助」の担い手となれるよう援助技術の基礎的部分を学び理解する。

【授業の内容及び方法】

相談援助業務を遂行できるようになるため、ソーシャルワークの基礎を学ぶ。ソーシャルワークの概念や意義、理念、価値、倫理等について講義及び演習を通して学ぶ。

【授業の計画】

1. オリエンテーション・社会福祉士とは
2. 社会福祉士の役割と意義
3. 現代社会と地域生活
4. 専門的な援助関係とコミュニケーション
5. ソーシャルワークの定義
6. ソーシャルワークの概念
7. ソーシャルワークの構成要素
8. ソーシャルワークの理念①価値
9. ソーシャルワークの理念②実践と価値
10. ソーシャルワークの構成要素④知識・技術
11. ソーシャルワークの構成要素⑤社会資源
12. クライエントの尊厳と自己決定
13. ノーマライゼーション
14. ソーシャルワーク実践と権利擁護
15. 専門職倫理と倫理的ジレンマ

【授業外の学修（予習・復習の指示・学修時間など）について】

事前にテキストを読んでおくこと。専門用語や制度等については随時確認するとともに受講後30時間程度の自主学修を行うこと。

【履修上の注意・要望等】

卒業必修科目・演習を取り入れた内容もある。積極的に参加すること。

【評価方法・基準】

受講態度（20%）・提出課題（10%）・定期試験（70%）

なお、定期試験の成績が6割未満の場合は不可となる。

【教 材】

相談援助の基盤と専門職 第3版（中央法規出版）・随時配布する資料

【キーワード】

社会福祉士・相談援助・社会福祉援助技術・ソーシャルワークの構成要素

【授業科目】 相談援助の基盤と専門職Ⅱ 【単 位】 2

【学 期】 後 期 【担当教員】 薬師寺 明子 (自室番号 520)

【対象学生】 社会福祉学科3年編入

【授業の目標及び到達目標】

地域生活上の課題は、多様化・深刻化・潜在化の様相を呈している。本授業は、地域における生活課題を地域で解決するための仕組みづくりを学ぶことを目標とする。そして、「総合的かつ包括的な相談援助」の担い手となるよう援助技術の基礎的部分を学び理解する。

【授業の内容及び方法】

相談援助業務を遂行できるようになるため、ソーシャルワークの基礎を学ぶ。ソーシャルワークの概念や意義、理念、価値、倫理等について講義及び演習を通して学ぶ。

【授業の計画】

1. オリエンテーション・ジェノグラムとエコマップ
2. 演習 (ジェノグラムとエコマップ)・ライフストーリー
3. 演習 (ライフストーリー)
4. 社会福祉援助技術の体系と構成内容①直接援助技術
5. 社会福祉援助技術の体系と構成内容②間接援助技術・関連援助技術
6. 相談援助の形成過程①個別援助技術
7. 相談援助の形成過程②集団援助技術・地域援助技術
8. 日本におけるソーシャルワークの展開
9. 個別援助技術の意義・定義
10. 集団援助技術の意義・定義
11. 専門職倫理
12. 社会福祉士の倫理綱領
13. ケースワークの原則① (バーステックの7原則・原則1～原則4)
14. ケースワークの原則② (バーステックの7原則・原則5～原則7)
15. 総合的かつ包括的な相談援助

【授業外の学修 (予習・復習の指示・学修時間など) について】

事前にテキストを読んでおくこと。専門用語や制度等については随時確認するとともに受講後30時間程度の自主学修を行うこと。

【履修上の注意・要望等】

卒業必修科目・演習を取り入れた内容もある。積極的に参加すること。

【評価方法・基準】

受講態度 (20%)・提出課題 (10%)・定期試験 (70%)

なお、定期試験の成績が6割未満の場合は不可となる。

【教 材】

相談援助の基盤と専門職 第3版 (中央法規出版)・随時配布する資料

【キーワード】

社会福祉援助技術・相談援助技術の体系・相談援助技術の構成内容・社会福祉士の倫理綱領

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、相談援助について実践活動の基盤となる考え方や方法を学び、ソーシャルワークの理解と認識を深めることをめざす。

1. 相談援助についての考え方や方法を説明できるようになる。
2. クライアントが直面する問題は諸要因の関係によって生まれ、クライアントの置かれている状況を全体的、総合的に捉えることができるようになる。
3. 学生相互の討議を通して、クライアントのニーズをとらえ相談援助の方法について示すことができるようになる。

【授業の内容及び方法】

本授業は、講義を主に人と環境との相互作用で生じている問題の見方や相談援助の展開過程、面接技術について概説し、途中にグループ・ディスカッションを交えながら様々な考え方を共有できるようにする。また、当事者をゲスト講師に招き、クライアントの置かれている状況を具体的に学び理解を深められるようにする。

【授業の計画】

- | | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1.相談援助とは | 16.相談援助の過程⑧ プランニング（演習） |
| 2.相談援助の構造と機能 | 17.相談援助の過程⑨ 支援の実施とモニタリング |
| 3.人と環境の相互作用① 概論 | 18.相談援助の過程⑩ 再アセスメント、アウトリーチの技術 |
| 4.人と環境の相互作用② 事例をもとに検討 | 19.相談援助の過程⑪アフターケア |
| 5.相談援助の対象① 概念の理解 | 20.効果測定・評価の技術 |
| 6.相談援助の対象② 対象の範囲の理解 | 21.記録の技術 意義と概念 |
| 7.援助関係の形成① 自己覚知 | 22.クライアント理解（外部講師） |
| 8.援助関係の形成② フォーラムの形成 | 23.面接技術① 面接技術の意義・目的 |
| 9.相談援助の過程① 相談援助の展開過程 | 24.面接技術② 面接の技術 |
| 10.相談援助の過程② ケースの発見・インテーク | 25. 面接の実際① 電話相談 ケース発見 |
| 11.相談援助の過程③ 問題把握からニーズの確定 | 26. 面接の実際② インテーク |
| 12.相談援助の過程④ アセスメント | 27. 面接の実際③ アセスメント |
| 13.相談援助の過程⑤ アセスメントの技術 | 28. 面接の実際④ プランニング |
| 14.相談援助の過程⑥ 支援目標の設定 | 29. 面接の実際⑤ 社会資源の活用 |
| 15.相談援助の過程⑦ プランニング 契約の技術 | 30. まとめ |

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

講義前にテキストの該当箇所を読み疑問点をあげておくこと。復習は講義で話した内容を振り返り理解を深め、適宜、指示された課題作成に取り組むこと。これらに加え、試験対策や休日、長期休業期間などを利用して自主学修すること。自主学修時間は通年で概ね60時間とする。

【履修上の注意・要望等】

原則「相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」の履修者を対象とする。社会福祉士になるための必要な科目である。本科目を履修していなければ「相談援助の理論と方法Ⅱ」が履修できないので注意すること。

【評価の方法・基準】

授業の到達度を評価する定期試験(70%)、課題作成・課題レポート(20%)、授業への参加態度(10%)

【教 材】

新・社会福祉士養成講座「相談援助の理論と方法Ⅰ」中央法規

【キーワード】

ソーシャルワーク、システム理論、面接技術、アウトリーチ

【授業の目標および到達目標】

本授業では、社会福祉専門職にとって必要不可欠の理論・技術である社会調査を学ぶ事を目的とする。学生は、地域の生活問題・課題、要擁護者のニーズなどを的確に把握し、分析していくために必要となる社会調査の知識と技術の習得を目指していく。

【授業の内容および方法】

教科書を学んでいくだけではなく、実際の社会調査の資料を基としてグループ討議を行ったり、地域の社会資源を利用した調査の演習を行う。また、情報処理室を利用して、調査結果の処理・分析を行う。

【授業の計画】

- 1 社会福祉と社会調査
- 2 社会調査の概要 社会調査の意義と目的、対象と方法
- 3 社会福祉調査の基本的性格と種類 平均の意味
- 4 社会福祉調査の基本的性格と種類 分散と標準偏差
- 5 社会福祉調査の基本的性格と種類 t 検定と χ 二乗検定
- 6 量的調査とその方法 量的調査の特徴と種類
- 7 量的調査とその方法 調査票の作成方法と留意点データの解析方法
- 8 質的調査とその方法 質的調査の特徴と種類 対象者の選定と調査手続き
- 9 質的調査とその方法 調査方法 質的調査の実施とデータ収集 データの整理と分析
- 10 社会調査における倫理と個人情報保護
- 11 社会調査と IT 様々な IT の活用と方法
- 12 社会調査に取り組んでみよう (演習)
- 13 社会調査票を設計してみよう (演習)
- 14 データを整理・分析してみよう (演習)
- 15 社会調査のまとめ

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

毎回必ず確認テスト (30 分程度) で予習を行うのでしっかりと履修しておくこと。確認テストは、次の授業日に必ず提出すること。授業で不明の点は、このテストの質問欄に記入すること。復習については、レジメ資料などの確認 (30 分程度) を授業後に行うこと。(計 15 時間程度)

【履修上の注意・要望等】

社会福祉援助技術としての社会調査の理解・習得は、ソーシャルワーカーにとっては不可欠である。そのことを理解し、授業に臨むこと。グループ課題もあるので、各自積極的な姿勢で協力していくこと。

【評価方法・基準】

確認テスト (20%) および受講態度 (20%)、定期試験 (60%) 等との総合評価とする。

【教 材】

「新・社会福祉士養成講座『社会調査の基礎』」・中央法規出版 毎回、要点を整理したレジメを配付する。

【参考文献】「フィールドワーク」佐藤郁哉 新曜社

【キーワード】

平均 分散 標準偏差 量的調査 質的調査 相関係数

【授業科目】 社会の変化と社会福祉Ⅱ 【単 位】 2

【学 期】 後 期 【担当教員】 石飛 猛 (自室番号 526)

【対象学生】 社会福祉学科3年編入

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、社会の近代化に伴って発生した社会問題とその対策について、哲学、政治学、経済学、社会学等の視点から概要を理解することを目標とする。学生は、福祉国家について自ら説明できるようになる。

【授業の内容及び方法】

社会政策論および福祉国家論への導入を概説し、図表を多用して、学生との対話を重視しながら理解を深める。

【授業の計画】

1. 社会契約説 ホブズ、ロック、ルソー
2. 産業革命
3. 社会契約説批判 スミス (スコットランド啓蒙)
4. 国家と社会 (社会的なもの)
5. 経済学と貧困—スミス、ベンサム、マルサス、リカード、J.S.ミル
6. 社会の発見 (福田徳三「社会の発見」『社会政策と階級闘争』第1章)
7. 社会問題の発見①エンゲルス、マルクス、ブース、ラウントリー
8. 社会問題の発見②デュルケーム、ヴェーバー
9. 福祉国家の形成①ヘーゲル、シュモラー、ブレンターノ、福田徳三、河上肇
10. 福祉国家の形成②グリーン、ウェッブ夫妻、ビスマルク、ロイド-ジョージ
11. 福祉国家の形成③ベヴァリッジ、ケインズ、産業化論・権力資源論・国家論アプローチ
12. 福祉国家の再編①マーシャル、ティトマス、ウィレンスキー、エスピン-アンデルセン
13. 福祉国家の再編②福祉多元主義、コミュニティケア、ワークフェア
14. 福祉国家の論点①—目標、必要、供給
15. 福祉国家の論点②—社会的排除、社会的包摂

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

新聞記事を毎日見るとともに予習・復習 (30分以上) を怠らないこと。この授業を履修するにあたり、概ね 30 時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

厚生労働省からの新着情報配信サービスの情報をパソコンに保存し活用できるようにすること。

【評価方法・基準】

定期試験 (50%)、提出課題 (30%)、受講態度 (20%) により総合的に評価する。

【教 材】

教科書 : 『社会福祉政策』第3版 坂田周一 2014年有斐閣

参考文献 : 『社会福祉思想の革新』山脇直司 2005年 かわさき市民アカデミー講座ブックレット

『社会政策の視点』坏洋一ほか編 2011年 法律文化社

『福祉国家』坏洋一 2012年 法律文化社

【キーワード】

社会政策、福祉国家、福祉社会、社会保険、社会福祉、社会的排除、社会的包摂、福祉多元主義、コミュニティケア、ワークフェア

【授業科目】 福祉サービスの組織と経営

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 有岡 道博 (自室番号 529)

【対象学生】 社会福祉学科3年編入

【授業の目標及び到達目標】

社会福祉サービスに関わる組織や団体には様々なものがあり、それぞれ異なる組織内容を持っている。本授業では、社会福祉専門職として必要な知識として、それぞれの組織・団体の定義や役割、運営のやり方を理解する事を目的とする。学生は、社会福祉サービス事業の運営に必要なとされる経営管理の理論と方法の知識の修得を目指す。

【授業の内容及び方法】

教科書を中心として授業を進めていくが、新聞や経済雑誌などの記事、テレビやインターネットの情報をもとにグループ討議を行ったり、シミュレーションゲームを利用した経営体験を行い、経営についてより理解を深める。

【授業の計画】

- 1 福祉サービスにおける組織と経営
- 2 福祉サービスに関わる組織と団体(1) 法人とは
- 3 福祉サービスに関わる組織と団体(2) 社会福祉法人とは
- 4 福祉サービスに関わる組織と団体(3) NPO 法人とは
- 5 福祉サービスに関わる組織と団体(4) 医療法人とは
- 6 福祉サービスに関わる組織と団体(5) 営利法人とは
- 7 福祉サービスに関わる組織と団体(6) 公益法人とは
- 8 福祉サービスに関わる組織と団体(7) 市民団体、協同組合、自治会とは
- 9 福祉サービス組織と経営の基礎(1) 戦略、事業計画
- 10 福祉サービス組織と経営の基礎(2) 組織、管理運営の基礎理論
- 11 サービス管理(1) サービス管理、サービスの質の評価
- 12 サービス管理(2) 苦情対応とリスクマネジメント
- 13 人事管理と労務管理 人事管理と労務管理、人材育成
- 14 会計管理と財務管理
- 15 情報管理

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

毎回必ず確認テスト（30分程度）で予習を行うのでしっかりと履修しておくこと。確認テストは、次回の授業日に必ず提出すること。授業で不明の点は、このテストの質問欄に記入すること。復習については、レジメ資料などの確認（30分程度）を授業後に行うこと。（計15時間程度）

【履修上の注意・要望等】

社会福祉援助技術としての福祉サービスの組織と経営の理解・習得は、ソーシャルワーカーにとっては不可欠である。そのことを理解し、授業に臨むこと。グループ課題もあるので、各自積極的な姿勢で協力していくこと。

【評価方法・基準】

確認テスト（20%）および受講態度（20%）、定期試験（60%）等との総合評価とする。

【教 材】

「新・社会福祉士養成講座『福祉サービスの組織と経営』」中央法規出版

毎回、要点を整理したレジメを配付する。

【参考文献】「マネージメント」P. F ドラッカー ダイアモンド社

【キーワード】 経営管理 マネージメント イノベーション 社会福祉法人 事業計画 戦略

【授業科目】 権利擁護と成年後見制度

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 菅原 明美 (自室番号 213)

【対象学生】 社会福祉学科3年編入

【授業の目標及び到達目標】

本授業の目的は、社会福祉の基礎となる権利擁護について体系的に学び、成年後見制度の仕組みについて理解することである。特に判断能力が低下した人の生命と財産を守るための制度について深め、福祉専門職として必要な社会的責務を身につけることを目標とする。

1. 福祉専門職として基本的な法的知識を理解し、説明できる。
2. 福祉専門職として権利擁護の仕組みを理解し、説明できる。
3. 成年後見制度の仕組みと課題を理解し、説明できる。

【授業の内容及び方法】

相談援助実践は、人権の基盤の上にあることを理解するために、日本国憲法、民法、行政法に関する知識を獲得するための授業を行う。また、成年後見制度の法的根拠を理解し、実践に生かせる力が獲得できるよう、具体的な事例を用いて学習し、総合的に成年後見制度を理解するための講義とグループワークを行う。

【授業の計画】

1. オリエンテーション、相談援助活動において想定される法律問題
2. 相談援助活動と法の関わり①：日本国憲法と人権
3. 相談援助活動と法の関わり②：行政法の理解
4. 相談援助活動と法の関わり③：民法の理解
5. 成年後見制度についての理解①：成年後見制度の概要
6. 成年後見制度についての理解②：法定後見における類型と特徴
7. 成年後見制度についての理解③：成年後見人の義務と責任
8. 成年後見制度についての理解④：成年後見制度の最近の動向
9. 日常生活自立支援事業、成年後見制度利用支援事業
10. 権利擁護にかかわる組織、団体
11. 権利擁護にかかわる専門職の役割
12. 成年後見活動、権利擁護活動の実際：事例研究「児童虐待」
13. 成年後見活動、権利擁護活動の実際：事例研究「高齢者虐待」
14. 成年後見活動、権利擁護活動の実際：事例研究「多問題重複ケース」
15. 社会福祉士と権利擁護、まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

予習用の資料に目を通し、事前学習を進めること。教科書や配布資料を再読し、理解を深めること。

日々の予習・復習や試験対策に加えて、休日等を利用し概ね30時間の自主学修を要する。

【履修上の注意・要望等】

講義には主体的に参加すること。

【評価方法・基準】

定期試験（80%）、提出課題（10%）、受講態度（10%）

【教 材】教科書：新・社会福祉養成講座『19 権利擁護と成年後見制度』（中央法規出版株式会社）

参考文献：社会福祉小六法

資料等適宜配布

【キーワード】権利擁護、日本国憲法、行政法、民法、成年後見制度、日常生活自立支援事業

【授業科目】 就労支援サービス

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 薬師寺 明子・武田 英樹

【対象学生】 社会福祉学科 3 年編入

(自室番号 薬師寺 520・武田 523)

【授業の目標及び到達目標】

様々な背景のある「就職困難者」といわれる人々の理解とともに、労働問題、雇用問題を考える。そして、就労支援を理解し、生活と就労をトータルに支援できるソーシャルワーカーをめざす。

【授業の内容及び方法】

雇用・就労の動向を理解するとともに、ソーシャルワークにおいて必要となる各種の就労支援制度、組織、団体、専門職、各関係機関との連携について講義を通して学ぶ。

【授業の計画】

1. オリエンテーション・働くことの意味と社会福祉士の役割 (武田)
2. 低所得者と就労支援① 生活保護受給世帯への就労支援 (武田)
3. 低所得者と就労支援② 生活保護受給世帯等への就労支援と生活福祉資金貸付制度 (武田)
4. 低所得者と就労支援③ 児童扶養手当受給世帯への就労支援 (武田)
5. 障害者と就労支援① 障害者の就労の現状 (薬師寺)
6. 障害者と就労支援② 障害者福祉施策における就労支援 (薬師寺)
7. 障害者と就労支援③ 障害者雇用施策における就労支援 (薬師寺)
8. 障害者と就労支援④ 特別支援学校における就労支援・民間の取り組み (薬師寺)

【授業外の学修（予習・復習の指示・学修時間など）について】

事前にテキストを読んでおくこと。専門用語や制度等については随時確認するとともに受講後 30 時間程度の自主学修を行うこと。

【履修上の注意・要望等】

相談援助実習必修科目・講義回数 8 回、講義日程は掲示にて指示する。各自で確認すること。

【評価方法・基準】

受講態度 (20%)・定期試験 (80%)

なお、定期試験の成績が 6 割未満の場合は不可となる。

【教 材】

就労支援サービス (中央法規出版)

随時配布する資料

【キーワード】

就労支援制度・自立支援プログラム・就労支援プログラム・障害者総合支援法・障害者雇用促進法

【授業科目】 更生保護制度 【単 位】 1

【学 期】 後期 【担当教員】 坂手康祐 (自室番号)

【対象学生】 社会福祉学科 3 年編入

【授業の目標及び到達目標】

刑事政策の一翼を担う更生保護は、その根底に於いて社会福祉政策に包摂されるものであることを理解することを目標とする。将来、その理解を根底に置いて福祉業務に従事することが出来る職業人になることを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

保護観察や更生緊急保護業務に於ける具体的な事例に触れ、更生保護制度の意義や社会福祉分野の中での更生保護の位置及び意義等を学ぶ。授業は、基本的に講義形式で進める。

【授業の計画】

1. 刑事司法手続きと更生保護制度の概要
2. 仮釈放制度と生活環境調整
3. 保護観察総論
4. 保護観察各論
5. 更生緊急保護・犯罪被害者等施策・恩赦・犯罪予防活動
6. 更生保護制度の担い手
7. 精神保健観察
8. まとめ

【授業外の学習（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業で使用する教科書（該当箇所）を必ず一読して授業に臨んでください。出来れば、毎日、新聞を読み、刑事事件記事に目を通すこと。事件の背後に潜む事情や、その後の処遇等について考えてみてください。自主学修時間の目安は概ね 15 時間。

【履修上の注意・要望等】

社会福祉六法（社会福祉小六法は不可）を購入し、必ず授業に持参すること。学習に際しては、必ず該当法律にあたること。

【評価方法】

学習意欲(20%)、受講態度(30%)、課題レポート(50%)により総合評価。

【教 材】

教科書：更生保護入門[第 4 版]（松本 勝編著 出版社＝成文堂）

参考文献：犯罪白書（法務省）

少年法（川出敏裕著 出版社＝有斐閣）

精神医療と心神喪失者等医療観察法（町野 朔編 出版社＝有斐閣）

【キーワード】

司法福祉 更生保護 保護観察 更生緊急保護 社会内処遇 精神保健観察

【授業科目】 相談援助演習Ⅰ 【単 位】 1

【学 期】 後 期 【担当教員】 ○薬師寺・有岡・石飛・小坂田・（自室番号 520 他）

菅原・武田・永見・堀川

【対象学生】 社会福祉学科 3年編入

【授業の目標及び到達目標】

相談援助実習に備え、グループでの演習と体験実習を通して実践現場と当事者への理解を深め、実践力、当事者理解を深める。そして、基礎的な実践力、考察力等を身につけ、次年度以降の相談援助実習に備えられる力を習得する。

【授業の内容及び方法】

障害者支援施設での体験実習に向け、グループ課題及び発表を行う事前学習、レクリエーションの準備等を行う。後半は3年次の実習に向けたオリエンテーション、実習報告聴講、グループ学習等を行う。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 障害者の理解（グループ課題発表）
3. 障害者支援施設の理解（グループ課題発表）
4. 知的障害者に向けたレクリエーション（オリエンテーション）
5. 知的障害者に向けたレクリエーション（上級生からのアドバイス）
6. 知的障害者に向けたレクリエーション（準備）
7. 知的障害者に向けたレクリエーション（リハーサル①前半グループ）
8. 知的障害者に向けたレクリエーション（リハーサル②後半グループ）
9. オリエンテーション（来年度の相談援助実習に向けて）
10. 体験実習（1日）
11. グループスーパービジョン（体験実習を終えて）
12. 上級生による実習体験発表
13. 実習相談会
14. 実習先グループ学習
15. 実習先グループ学習 発表

【授業外の学修（予習・復習の指示・学修時間など）について】

レクリエーションの準備やグループ学習は授業時間以外に（15時間程度）グループメンバーで活動していくことになる。協働して取り組むこと。

【履修上の注意・要望等】

相談援助実習指導Ⅰを受講するには必ず履修が必要。遅刻・欠席は認めない。

【評価方法・基準】

出席が前提。受講態度（50%）、課題（50%）

【教 材】

参考文献：レクリエーションの本等必要に応じて指示

【キーワード】

相談援助演習・社会福祉援助技術・体験実習・グループスーパービジョン・実習事前学習

【授業科目】 相談援助演習Ⅱ

【単 位】 1

【学 期】 前期

【担当教員】 ○永見芳子・小坂田稔
堀川涼子・菅原明美 (自室番号 528H 他)

【対象学生】 社会福祉学科 3 年編入

【授業の目標及び到達目標】

これまで学んできた相談援助について、演習を通して相談援助実践の価値・知識・技術を習得することを目標とする。

1. クライアントやクライアントの環境を理解するための面接ができるようになる。
2. ソーシャルワークの展開過程およびマイクロ、メゾ、マクロのそれぞれの実践レベルを理解し、実践レベルに応じた介入が提示できるようになる。
3. 学生相互の演習を通して、自己を再発見し対人関係上必要なスキルを身につけることができる。

【授業の内容及び方法】

4 グループに分かれ、それぞれのテーマを担当する教員により、ロールプレイやグループ・ディスカッション、マッピング技法を通して実践力を養えられるようにする。その際、相談援助事例を用いて総合的かつ包括的な援助について検討し、多様な考え方を共有できるようにする。場合によって 2 コマ連続になることがある。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 基本的なコミュニケーションと面接の基礎
3. 面接を展開する技法（ロールプレイ）
4. ケースワークの展開過程（インテーク）の演習①（事例によるグループ・ディスカッション）
5. ケースワークの展開過程（インテーク）の演習②（演習①をもとにしたロールプレイ）
6. ケースワークの展開過程（アセスメント）の演習（ロールプレイ）
7. ケースワークの展開過程（プランニング）の演習（グループディスカッション）
8. ケースワークのまとめ プランニングの発表
9. グループワークの基本構想の設定
10. グループワークの展開過程（準備期：波長合わせ）の演習
11. グループワークの展開過程（開始期：メンバーとの援助関係の形成）の演習
12. グループワークの展開過程（作業期：グループづくりへの始動）の演習
13. グループワークの展開過程（作業期：相互援助システムの形成）の演習
14. グループワークの展開過程（作業期：相互援助システムの活用）の演習
15. グループワークの展開過程（終結・移行期：グループワークの評価）の演習

【授業外の学修（予習、復習の指示、学修時間など）について】

授業内で出された課題に個人やグループで調べ、取り組むこと。また、講義後は配布された資料を熟読し、休日や長期休業期間などを利用して自主学修すること。その時間は概ね 30 時間とする。

【履修上の注意・要望等】

グループ討議や体験学習を主とするため積極的に参加すること。前期Ⅱ・後期Ⅲは連動しており基本的に両方を受講し、グループによってテーマ（前期Ⅱ・後期Ⅲ）の中で順番が変更するため注意すること。+ 遅刻・欠席のないようにすること。

【評価方法】

授業への参加態度(50%)、課題レポート等の提出物(50%)による総合評価

【教 材】

特になし 毎回プリント等を用意する

【キーワード】

面接技術、ケースワーク、グループワーク

【授業科目】 相談援助演習Ⅲ

【単 位】 1

【学 期】 後期

【担当教員】 ○永見芳子・小坂田稔
堀川涼子・菅原明美 (自室番号 528H 他)

【対象学生】 社会福祉学科 3 年編入

【授業の目標及び到達目標】

これまで学んできた相談援助について、演習を通して相談援助実践の価値・知識・技術を習得することを目標とする。

1. クライエントやクライエントの環境を理解するための面接ができるようになる。
2. ソーシャルワークの展開過程およびマイクロ、メゾ、マクロのそれぞれの実践レベルを理解し、実践レベルに応じた介入が提示できるようになる。
3. 学生相互の演習を通して、自己を再発見し対人関係上必要なスキルを身につけることができる。

【授業の内容及び方法】

4 グループに分かれ、それぞれのテーマを担当する教員により、ロールプレイやグループ・ディスカッション、マッピング技法を通して実践力を養えられるようにする。その際、相談援助事例を用いて総合的かつ包括的な援助について検討し、多様な考え方を共有できるようにする。場合によって 2 コマ連続になることがある。

【授業の計画】

1. ケアマネジメントの目的と意義・展開過程
2. ケアマネジメントの理解① インテーク面接（ロールプレイ）
3. ケアマネジメントの理解② アセスメント面接（ロールプレイ）
4. ケアプランの作成① ケアプランについて講義・演習
5. ケアプランの作成② 事例をもとにグループ演習
6. ケアカンファレンスの理解 講義と事例をもとに演習
7. ケアカンファレンスの実際（ロールプレイ）
8. コミュニティワークの目的と意義
9. コミュニティワークの展開過程
10. コミュニティワークの理解・事例を通して① 個別支援の検討
11. コミュニティワークの理解・事例を通して② 社会資源の活用と開発
12. コミュニティワークの理解・事例を通して③ 福祉教育の具体的展開
13. 事例研究① 障害者の事例を基に考える
14. 事例研究② 高齢者の事例を基に考える
15. まとめ

【授業外の学修（予習、復習の指示、学修時間など）について】

授業内で出された課題に個人やグループで調べ、取り組むこと。また、講義後は配布された資料を熟読し、休日や長期休業期間などを利用して自主学修すること。その時間は概ね 30 時間とする。

【履修上の注意・要望等】

グループ討議や体験学習を主とするため積極的に参加すること。前期Ⅱ・後期Ⅲは連動しており基本的に両方を受講し、グループによってテーマ（前期Ⅱ・後期Ⅲ）の中で順番が変更するため注意すること。遅刻・欠席のないようにすること。

【評価方法】

授業への参加態度(50%)、課題レポート等の提出物(50%)による総合評価

【教 材】

特になし 毎回プリント等を用意する

【キーワード】

面接技術、ケアマネジメント、コミュニティワーク

【授業科目】 相談援助実習指導Ⅰ

【単 位】 1

【学 期】 通 年

【担当教員】 堀川・石飛・薬師寺
小坂田・○有岡・後藤・武田

(自室番号 529)

【対象学生】 社会福祉学科3年編入

【授業の目標及び到達目標】

社会福祉士の主要技術である相談援助を身に付けるため、相談援助実習に際し、実習事前オリエンテーションおよび実習事後スーパービジョンを行うものである。

①社会福祉施設・機関における相談援助業務を理解する。②ソーシャルワークの本質（専門的価値・知識・技術の学習等）を学習する③将来専門職者としての資質を培えるよう専門職者としての倫理観を学ぶ、これらの事前学習により、実習の現場でより実践を通してより深められることを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

実習の事前及び事後に、ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティの確立に向けてのスーパービジョン（個別・グループ）を行う。また、実習記録の作成・ケース記録の作成、社会資源の活用、社会福祉現場における情報機器の活用、バリアフリー等についても学習する。

【授業の計画】

1. 実習に際してのオリエンテーション
2. 実習施設・機関の制度理解①
3. 実習施設・機関の制度理解②
4. 実習施設・機関の利用者理解
5. 実習施設・機関の職員・職場理解
6. 実習目的と目標設定
7. 実習直前オリエンテーション
8. 実習事後スーパービジョン 実習の報告①（PP作成）
9. 実習事後スーパービジョン 実習の報告②（PP作成）
10. 実習事後スーパービジョン 実習の課題について①（実習記録を基に）
11. 実習事後スーパービジョン 実習の課題について②（実習記録を基に）
12. 実習事後スーパービジョン 実習での自己覚知について①（グループ討議を基に）
13. 実習事後スーパービジョン 実習での自己覚知について②（グループ討議を基に）
14. 実習事後スーパービジョン 実習報告書の作成について
15. 相談援助実習まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業前後の予習・復習は必ず行うこと。（各30分程度 計15時間程度）

【履修上の注意・要望等】

実習指導Ⅰは、相談援助実習(体験実習)と連動して単位認定する。
実習にかかわる科目については、原則として遅刻・欠席は認めない。

【評価方法・基準】

受講態度（50%）・記録（25%）・報告（25%）等で総合評価する。

【教 材】

本学科作成「相談援助実習の手引き」、学生の課題レポート、実習報告・記録を教材とする
資料等は必要に応じてその都度、配布する。

【キーワード】

相談援助実習 社会福祉援助技術 スーパービジョン

【授業の目標及び到達目標】個人や家族、地域社会の様々な問題に関心と問題意識を持ち、その解決に向けて取り組むことの1つの側面として、心理学概論からさらに進んだ内容の習得が目標。基礎知識の習得と、様々な人間関係や心理的問題の支援に一部でも応用できることを目指す。また社会福祉専門職（ソーシャルワーカー）に必要な心理学面の基礎知識を説明できるようになること。

【授業の内容及び方法】心理的な問題の支援や解決法として実践的に使われる行動変容法の理論的基礎にあたる内容や性格心理学・心理療法に関係する理論や知見を解説する。応用のために具体例での説明も行う。授業方法は、講義を主とするが、小テストによる理解度確認なども行う。

【授業の計画】

1. 学習と記憶 1 [エピソード記憶・意味記憶・習慣とスキル・情動条件付け・骨格筋反射条件付け]
2. 学習と記憶 2 [習慣行動の形成 (オペラント条件付け)]
3. 認知と記憶 [注意機能・ワーキングメモリ・メタ認知, 記憶の変容・虚記憶など]
4. 動機付け [ホメオスタシス性・非ホメオスタシス性動因と, それらの心理的側面など]
5. 個人差 1 [基本的感情・発動性パターン: 乳幼児の気質研究など]
6. 個人差 2 [基本的感情・発動性パターン: 古典的理論]
7. 個人差 3 [クロニンジャーとグレイの気質説・ロスバート&ポスナーの気質説]
8. 個人差 4 [性格の 5 要因説]
9. 個人差 5 [5 要因説続き: 各因子の説明など]
10. 発達 [人の一生の変化]
11. 特定学派 1 [精神分析など]
12. 特定学派 2 [防衛機制・来談者中心療法など]
13. 心理療法 [認知行動療法・回想法・音楽療法]
14. 社会的要因 1 [返報性ルールなど]
15. 社会的要因 2 [認知的不協和 (説得, セールス, マインドコントロール) など]

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】 日々の予習・復習、試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね 30 時間程度の自主学修が必要。単元が数回に渡るときは、各回の復習をしておかないと、次回の内容が理解しにくくなる。

【履修上の注意・要望等】大学の講義に慣れるという意図もあって、黒板を写すだけでなく、話を聞きながら適宜要約しつつ、ノートを取る練習もして欲しい。

【評価方法・基準】

定期試験 (90%) と受講態度 (10%)

【教 材】

板書と配布資料。

また〈参考図書〉は、新・社会福祉士養成講座 (2) 心理学理論と心理的支援 社会福祉士養成講座
編集委員会編, 中央法規出版

【キーワード】

学習, 記憶, 動機付け, 性格 (人格), 発達, 気質, 防衛機制, 認知的不協和

【授業科目】 社会理論と社会システム

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 石飛 猛

(自室番号 526)

【対象学生】 社会福祉学科3年編入

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、社会の仕組みや人々の関係性、生活世界に関心を持ち、社会問題を認識できる社会学的な「社会を見る眼」を養うことをめざす。学生は、社会問題等について自ら説明できるようになる。

【授業の内容及び方法】

社会学理論の概要や現代の社会問題に関する内容を概説し、図表を多用して、学生との対話を重視しながら理解を深める。

【授業の計画】

1. 社会学とは
2. 現代社会の理解 社会システム
3. 現代社会の理解 法と社会システム
4. 現代社会の理解 経済と社会システム
5. 現代社会の理解 社会変動
6. 現代社会の理解 現代社会と人口動態
7. 現代社会の理解 現代の地域社会
8. 人と社会の関係 社会集団と組織
9. 現代社会の理解 現代社会と家族
10. 生活の捉え方
11. 人と社会の関係 社会的行為
12. 人と社会の関係 社会的役割と社会的ジレンマ
13. 人と社会の関係 社会関係
14. 人と社会の関係 社会的排除と社会的孤立
15. 社会問題のとらえ方

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

新聞記事を毎日見るとともに予習・復習（30分以上）を怠らないこと。この授業を履修するにあたり、概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

厚生労働省からの新着情報配信サービスの受信設定を行い、その中から必要な情報パソコンに保存し活用できるようにすること。

【評価方法・基準】

定期試験（50%）、提出課題（30%）、受講態度（20%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：『社会理論と社会システム』2013年 学文社

参考文献：『ブリッジブック社会学』第2版 玉野和志編 2016年 信山社

『テキスト現代社会学』第3版 松田健 2016年 『よい社会の探求』田中拓道 2014年 青弓社

【キーワード】

社会システム、社会変動、家族、社会集団、組織、地域、社会関係、社会的行為、社会的役割、社会問題

【授業科目】 医療ソーシャルワーク論 【単 位】 2

【学 期】 後 期 【担当教員】 永見 芳子 (自室番号 528H)

【対象学生】 社会福祉学科 3 年編入生

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、保健医療領域のソーシャルワーク実践に必要な支援観・知識・技術を修得することをめざす。

1. 患者や家族にとって非日常的な闘病世界を感じられるようになる。
2. 患者や家族を当事者の視点で捉えることができるようになる。
3. 保健医療の中で営まれる支援関係がイメージでき、その中で社会福祉専門職に求められる役割について、学生相互の討議を通して示すことができるようになる。

【授業の内容及び方法】

本授業は、支援者側からの見方だけではなく患者や家族など当事者側からの見方を身につけられるよう、そのために必要な知識や技術を概説する。また、グループ・ディスカッションと ICT を活用したプレゼンテーションを通じて学生が主体的に活動し、相互に協力・協働して課題に取り組めるよう工夫する。さらにゲストを招き、現場で起こっている状況や支援について具体的に学び理解が深められるようにする。

【授業の計画】

1. 医療福祉とソーシャルワーク
2. 患者の理解① 病気の社会的・心理的影響
3. 患者の理解② 事例から考える
4. 家族の理解 事例から考える
5. 保健医療におけるソーシャルワークの倫理① 総論
6. 保健医療におけるソーシャルワークの倫理② 事例から考える
7. 医療ソーシャルワーカーとしてのアドボカシー (ゲスト講師)
8. 医療ソーシャルワークの視点と援助過程① がん患者の支援事例 アセスメント
9. 医療ソーシャルワークの視点と援助過程② がん患者の支援事例 プランニング
10. 医療ソーシャルワークの視点と援助過程③ 脳血管障害の患者の支援事例 アセスメント
11. 医療ソーシャルワークの視点と援助過程④ 脳血管障害の患者の支援事例 プランニング
12. 医療ソーシャルワークの視点と援助過程⑤ HIV 陽性者の支援事例 アセスメント
13. 医療ソーシャルワークの視点と援助過程⑥ HIV 陽性者の支援事例 プランニング
14. 医療ソーシャルワークの視点と援助過程⑦ 多職種連携
15. まとめ

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

新聞のコラム等で患者の闘病記があれば読んでおくこと。配布した資料を再読し復習すること。また休日、長期休業期間などを利用して自主学修し、その時間は概ね 30 時間とする。

【履修上の注意・要望等】

グループ・ディスカッションやロールプレイに積極的に参加すること。

【評価の方法・基準】

授業の到達度を評価する定期試験(60%)、課題レポート(20%)、授業への参加態度(20%)

【教 材】

必要に応じて資料を配布する。

参考文献：安井豊子『CVA 保健医療ソーシャルワークと人権』2016 風詠社

小西加保留『HIV/AIDS ソーシャルワーク：実践と理論への展望』2017 中央法規

【キーワード】

患者理解、家族システム、意思決定支援、多職種連携、倫理綱領、アドボカシー

【授業科目】 保健医療サービス

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 永見 芳子

(自室番号 528H)

【対象学生】 社会福祉学科3年編入生

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、保健医療サービスの体系を学ぶとともに、社会福祉と保健医療の統合の原理や多職種連携について理論と実践方法を学び、保健医療サービス領域における社会福祉専門職の役割を理解することをめざす。

1. 保健医療をめぐる社会環境やサービスの体系、またそれらに関する基本的な課題を理解し説明できるようになる。
2. 医療福祉に関する制度・政策について理解し説明できるようになる。
3. 社会福祉の価値に基づいたソーシャルワーカーと保健医療職の対比や連携について学び、学生相互の討議を通じてソーシャルワーカーの基本的な考え方や取り組む姿勢について説明できるようになる。

【授業の内容及び方法】

本授業は、講義を主に、医療ソーシャルワーク実践に必要な価値・知識・技術を概説する。また、医療機関内だけでなく地域にまで展開する医療と福祉の連携についてソーシャルワークの方法論も概説する。適宜、グループ・ディスカッションを交えながら様々な考え方が共有できるようにする。また、現場のソーシャルワーカーをゲストに招き、具体的なソーシャルワーク実践を知り理解が深められるよう工夫する。

【授業の計画】

1. 保健医療をめぐる社会環境の変化① 医療の概況
2. 保健医療をめぐる社会環境の変化② 医療制度の体系
3. 保健医療サービスの基本的構成
4. 医療法改正にみる保健医療サービスの今日的課題① 医療計画による医療機能の分化・連携
5. 医療法改正にみる保健医療サービスの今日的課題② 在宅医療の推進
6. 保健医療サービスを提供する施設とシステム① 医療法による医療施設の機能・類型
7. 保健医療サービスを提供する施設とシステム② 保健医療政策による医療施設の機能・類型
8. 保健医療サービスを提供する施設とシステム③ 診療報酬における医療施設の機能・類型
9. 保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割 MSW の歴史と業務の枠組み
10. 保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割 業務内容
11. 保健医療サービスの専門職の役割
12. 医療福祉に関わる医療保障制度① 医療保険制度 公費負担医療制度
13. 医療福祉に関わる医療保障制度② 診療報酬制度
14. 保健医療サービスにおける専門職の連携と実践
15. 保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

この講義を履修するにあたって、概ね30時間の自主学修が必要となる。日々の新聞やニュース等に目を通し、医療や福祉に関する記事があれば読んで情報を得ることを期待する。講義後は、テキストや配布された資料を見直し理解を深めること。

【履修上の注意・要望等】

講義には主体的に参加すること。

【評価の方法・基準】

授業の到達度を評価する定期試験(80%)、授業への参加態度(20%)

【教 材】

教科書：新・社会福祉士養成講座「保健医療サービス」中央法規

参考文献：二木立『地域包括ケアと福祉改革』2017 勁草書房

岩淵豊『日本の医療』2015 中央法規

【キーワード】

医療ソーシャルワーク、倫理、医療提供体制、医療保険制度、診療報酬、連携

【授業科目】 精神保健

【単 位】 2

【学 期】 後期

【担当教員】 菅原 明美

(自室番号 213)

【対象学生】 社会福祉学科 3 年編入

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、我が国の精神保健の現状を知り、福祉専門職に必要な精神保健に関する基本的視点と知識を修得し、支援に活用できることを目的としている。

1. 精神保健福祉活動が必要な領域について理解できる。
2. 精神障害を持つ人の直面しやすい困難とその回復について理解できる。
3. 福祉専門職に従事する者として、必要な援助や支援体制について考察できる。

【授業の内容及び方法】

本授業では、精神保健に関する基礎知識を学習し、身近な話題を取り上げて、その対策について学ぶ。講座を中心に、適宜グループワークを取り入れる。

【授業の計画】

1. オリエンテーション、精神保健の概要と課題①精神保健の概要
2. 精神保健の概要と課題②精神保健の歴史、精神保健の課題
3. 社会構造の変化と新しい健康観
4. ライフサイクルと精神の健康①出生前～学童期
5. ライフサイクルと精神の健康②思春期～老年期
6. ストレスと精神の健康
7. 精神の健康への関与と支援
8. 精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ①結婚生活、育児をめぐる精神保健
9. 精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ②社会的ひきこもり、病気療養と介護、高齢者
10. 精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ①うつ病、飲酒やギャンブル
11. 精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ②心身症と生活習慣病、相談機関
12. 精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ
13. 地域精神保健に関する諸活動
14. 自分自身のメンタルヘルスの保持・増進について考える
15. 授業のまとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

- ・配布された資料を再読すること。
- ・授業で紹介された文献等を参考に、休日を活用して概ね 30 時間自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

- ・相談援助職に必要な知識を学ぶとともに、自らのメンタルヘルスの保持・増進に役立ちます。

【評価方法・基準】

定期試験（80%）、提出課題（10%）、受講態度（10%）

【教 材】

- ・適宜、資料を配布する。
- ・参考文献：新・精神保健福祉士養成講座『精神保健の課題と支援』（中央法規出版株式会社）
社会福祉士シリーズ ソーシャルワーク 6 『相談援助の基盤と専門職』（株式会社 弘文堂）

【キーワード】

精神保健、危機と危機介入、メンタルヘルス、リカバリー、家族支援、地域精神保健

【授業科目】 家庭支援論

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 若林 美佐子

(自室番号 142)

【対象学生】 社会福祉学科3年編入

【授業の目標】 本授業は、ソーシャルワークに必要な「家庭の理解」に関する基礎知識と専門的知識、さらにこれらに基づく社会福祉援助についての理解を目的とする

【授業の到達目標】 現代の家庭の状況から家庭支援が必要になっている背景を学ぶ。さらにクライアントを含む家庭の構造が理解できるようになる

【授業の内容及び方法】

支援の対象としての家庭について理解し、援助ができるよう、家庭の機能やその歴史の変遷、家族の発達段階や課題について学ぶ。また事例から、実際の家族の構造を理解し、支援の方法について学ぶ

【授業の計画】

1. 家庭の意義
2. 家庭の機能と歴史の変遷
3. 家庭の発達段階とその課題
4. 家族構造①(境界)
5. 家族構造②(サブシステム)
6. 家族構造③(パワー)
7. 現代の家庭の諸相(母子密着)
8. 現代の家庭の諸相(DV)
9. 家庭支援の方法
10. さまざまな家庭への支援①無戸籍児
11. さまざまな家庭への支援②児童虐待
12. 家庭支援のための社会資源
13. さまざまな家庭への支援③ステップファミリー
14. さまざまな家庭への支援④老親の介護
15. まとめ

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

予習: 单元ごとに概念やそれに関する社会的出来事を調べておくこと

復習: 配布資料を次の時間までに再読し、身の回りの出来事と照らし合わせて家庭理解を深めること

- ・この授業を履修するにあたって、おおむね30時間程度の自主学修が必要となる。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間など利用して施設ボランティア活動等を通して、授業で学修した内容を自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

支援の対象としての家庭と自分自身がこれまで育ってきた家庭、これから築くかもしれない家庭、以上の3つの視点で、縦横無尽に行き交いながら学習してください。

【評価方法・基準】

レポート(80%) 受講態度(20%)の総合評価とする。

【教 材】

- ・授業内容ごとに資料を提示
- ・参考文献: 「児童の福祉を支える家庭支援論」 吉田真理 萌文書林
「家庭支援論 家族の発達に目を向けて」 松村和子ほか編著 建帛社
「家族理解入門」 団士郎 中央法規出版

【キーワード】 家族構造理論 家族の発達段階 ライフサイクル ライフイベント

【授業科目】 福祉デザイン（衣）論

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 小山 京子

（自室番号 141）

【対象学生】 社会福祉学科（編入生）3 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、福祉の専門職を目指している皆さんが、今後の仕事（生活を含む）における衣生活に関する知識の向上を目指す。終了後は、身の回りにいる人の衣服全般に対して、関心が持てるようになる。

【授業の内容及び方法】

デザインの基礎から始め、高齢者や障がい者の状態を把握して、問題点に応じた機能性・ファッション性を具備し、さらには、着用者自身の好みや介護者の意見も反映された衣服のデザインや素材、製作上留意すべき事項について考え、実践に向けて展開する。授業は講義が基本ではあるが、デザインにかかわる多くの資料を提示し、学生の意見や感想、質問を聞き、それに対して解答する。最後は各自デザインの発表を行う。

講義の中間にインターミッションを入れ、皆さんの生き方に対してコメントを与える。

【授業の計画】

1. 被服デザインの基礎 1 オリエンテーション、被服の起源・目的
2. 被服デザインの基礎 2 デザインの基本条件、点・線
3. 被服デザインの基礎 3 面・立体、シルエット、ディテール
4. 被服デザインの基礎 4 色・柄、イメージ、カラーコーディネート
5. 被服デザインの基礎 5 素材
6. 人体と被服 1 高齢者・障がい者の体型
7. 人体と被服 2 高齢者・障がい者の生活行動、動作
8. 人体と被服 3 高齢者・障がい者用衣服デザインの要点
9. 人体と被服 4 高齢者・障がい者用衣服の観察・評価
10. 人体と被服 5 ユニバーサルデザイン
11. 人体と被服 6 ユニバーサルファッション
12. 人体と被服 7 ユニバーサルファッションの発表
13. 人体と被服 8 ユニバーサルファッションの発表
14. 被服のデザイン 1 着衣の評価、静電気
15. 被服のデザイン 2 日常着のデザイン、まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

予習は、次回講義予定のテキストを読んでおく。講義後は、テキストの内容を再確認するとともに、身の回りの事柄を観察し、学習を深めるなど、自主学修の総時間数は、概ね 30 時間必要。

【履修上の注意・要望等】

この講義でしか聞くことのできない独自の内容を話すので、欠席しないこと。

【評価方法・基準】

レポート（70%）、授業への取り組み（30%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：手作りのテキスト

参考文献：「デザイン」「服装デザイン」「ユニバーサルファッション宣言」他

【キーワード】

被服デザイン、高齢者、障がい者、ユニバーサルデザイン、ユニバーサルファッション

【授業科目】福祉デザイン（衣）演習

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 小山 京子

（自室番号 141）

【対象学生】 社会福祉学科（編入生）3年

【授業の目標及び到達目標】

前期履修した福祉デザイン（衣）論を基礎に、高齢者・障がい者それぞれの体型を理解し、使いやすく、着やすい作品をデザインし、製作する。時間数は少ないが、実際に高齢者・障がい者の話を聞き、作品製作ができる。

【授業の内容及び方法】

誰もが着用できる衣服としてパンツを各自デザインし、計測、素材の検討後、製作する。完成したパンツを着用して各自評価の後、グループで評価する。それらを踏まえ、2点目をデザインし、製作（リフォーム）する。完成作品は、着装を依頼してその感想を聞き、今後の課題を考える。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 各自パンツの計測、デザイン、素材の検討
3. パンツ製作1 各自パンツ製図
4. パンツ製作2 布裁断、しるしつけ
5. パンツ製作3 本縫い（ロックミシン、ポケット作り・付け）
6. パンツ製作4 本縫い（脇・股下縫い）
7. パンツ製作5 本縫い（股上前後縫い、ウエスト）
8. パンツ製作6 本縫い（すそ始末、仕上げ）
9. パンツ製作7 着装・評価
10. 自由作品を考える
11. 自由作品1 布裁断、しるしつけ
12. 自由作品2 本縫い1
13. 自由作品3 本縫い2（仕上げ、完成）
14. 自由作品4 着装依頼
15. 感想、反省、まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

各自デザイン、製作方法が異なるので、それぞれの指示に基づき、予習・復習を行う。履修にあたり、自主学修の総時間数は、概ね30時間必要。

【履修上の注意・要望等】

福祉デザイン（衣）論を履修済みであること。

【評価方法・基準7】

作品製作（50%）、レポート（30%）、授業への取り組み（20%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：プリント配布

参考文献：高齢者・障害者の衣服

【キーワード】

パンツ製作、高齢者、障がい者、衣服のリフォーム

【授業科目】 特別演習 I

【単 位】 2

【学 期】 後期

【担当教員】 学科スタッフ

各研究室

【対象学生】 社会福祉学科 3 年編入生

【授業の目標及び到達目標】

生活者の立場や地域住民の視点から、いきいきとした暮らしの実現に向けてさまざまなテーマで研究を行い、諸課題の解決をめざし、社会福祉、地域社会づくりに貢献できる実践力を身につけることを目標とする。

【授業の内容及び方法】

学科教員がそれぞれの専門分野を活かして実施する少人数のゼミナールである。担当教員別に実施テーマ、内容が示され、学生の希望と担当教員の受け入れ条件などにより学生の研究室の配属が決定される。実施テーマ・内容は担当教員によって異なるが、学科のディプロマポリシーにそって組み立てられる。研究室の配属については、オリエンテーションを行い詳しく説明を行う。研究室ごとに、課題文献の輪読や各自課題発表、グループワークなどを中心にゼミナール形式で学習する。

【授業の計画】

- 1 オリエンテーション 研究室配属に関する説明を行う
- 2～15 配属が決定後、各担当教員が授業計画については別途提示する

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

課題発表、グループ討議が中心となるので、各自、各グループで予習（授業準備）を怠らないこと。残った課題は復習を行うこと。おおむね 30 時間程度の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

卒業必修科目のため、全員が受講すること。
それぞれの教員のテーマや研究室への配属の手続きについては、ガイダンスを行うので必ず参加すること。少人数のゼミナール形式なので、一人ひとりが追求したい課題と積極性を持って参加していくことが重要。

【評価方法・基準】

担当教員は、授業への取り組み（30%）、受講態度（30%）、研究レポート等（40%）により総合的に評価する。

【教 材】

担当教員がそれぞれ指示をする。

【キーワード】

福祉理念 人権尊重 地域社会 社会貢献 生活課題 ICT

社会福祉学科 4年(編入)

1. 教養・基礎教育科目

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年			備考	貢
			必修	選択	3年	4年	福祉士		
導入科目	1年次セミナー	演習	2		○				
共通教養科目	現代生活論	講義		2					
	国際社会と日本	講義		2					
	地球環境論	講義		2					
	人権教育	講義		2					
	日本国憲法	講義		2					
	調査と統計	講義		2					
	心理学概論	講義	2		○				
	日本語リテラシー	講義		2					
キャリア科目	キャリアデザイン論	講義		1					
	ボランティア論(教育系)	講義		1					
	ボランティア論(福祉系)	講義		1	○	○		16	
	インターンシップ実習	実習		1	○	○		17	
	ボランティア実習	実習		1	○	○		18	
情報リテラ	情報リテラシーⅠ	演習		2	○		この3科目の中から、2科目4単位以上選択必修		
	情報リテラシーⅡ	演習		2	○				
	情報リテラシーⅢ	演習		2	○				
外国語科目	英語Ⅰ	演習	1		○		この10科目の中から、2科目2単位以上選択必修		
	英語Ⅱ	演習	1		○				
	英語Ⅲ	演習		1					
	英語Ⅳ	演習		1					
	英語資格認定Ⅰ	実習		1	○	○			27
	英語資格認定Ⅱ	実習		2	○	○			28
	ドイツ語Ⅰ	演習		1					
	ドイツ語Ⅱ	演習		1					
	韓国語Ⅰ	演習		1					
	韓国語Ⅱ	演習		1					
スポーツ科目	レクリエーション概論	講義		2			この4科目の中から、2科目2単位以上選択必修		
	レクリエーション実技・実習	実習		2					
	スポーツ健康講義	講義		1					
	スポーツ健康実習	実習		1					
単位互換科目	放送大学科目Ⅰ	—	—	—	○	○	通算して4単位まで卒業要件に含めることができる	39	
	放送大学科目Ⅱ	—	—	—	○	○		39	
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅰ	—	—	—	○	○		40	
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅱ	—	—	—	○	○		40	
学科基礎科目	生活福祉論	講義		2					
	住まいと福祉	講義		2					
	3Dコンピュータグラフィックス	演習		2					
	社会の変化と社会福祉Ⅰ	講義		2	○				
	数理基礎	講義		2					

【卒業要件】必修科目6単位、選択必修科目8単位以上を含めた計30単位以上を修得のこと。

2. 専門教育科目

区分	授 業 科 目	授業形態	単位数		配当学年			備考	貢
			必修	選択	3年	4年	福祉士		
専門 基幹 科目	現代社会と福祉Ⅰ	講義	2		○		◎	必修科目10単位を含め24単位以上を修得のこと	
	現代社会と福祉Ⅱ	講義		2	○		◎		
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ	講義	2		○		◎		
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ	講義		2	○		◎		
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義	2		○		◎		
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義	2				◎		
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義		2			◎		
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ	講義	2		○		◎		
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ	講義		2	○		◎		
	介護概論	講義		2					
	加齢の理解	講義		2					
	障害の理解	講義		2					
	福祉のまちづくり概論	講義		2					
	中山間地福祉のまちづくり	講義		2					
	NPO・ボランティア活動論	講義		2					
	安全・安心のまちづくり	講義		2					
	地域づくりと環境デザイン(演習)	演習		2					
	地域づくりと住民参加(演習)	演習		2					
地域経済・地域財政からみたまちづくり	講義		2						
専門 展 開 科 目	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義		2	○		◎	必修科目4単位を含め40単位以上を修得のこと	
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義		2	○		◎		
	社会福祉事業史	講義		2	○				
	社会保障Ⅰ	講義		2	○		◎		
	社会保障Ⅱ	講義		2	○		◎		
	福祉行財政と福祉計画	講義		2		○	◎		205
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○		◎		
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○		◎		
	相談援助の理論と方法Ⅰ	講義		4	○		◎		
	相談援助の理論と方法Ⅱ	講義		4		○	◎		206
	社会調査の基礎	講義		2	○		◎		
	社会の変化と社会福祉Ⅱ	講義		2	○				
	福祉サービスの組織と経営	講義		2	○		◎		
	権利擁護と成年後見制度	講義		2	○		◎		
	就労支援サービス	講義		1	○		◎		
	更生保護制度	講義		1	○		◎		
	相談援助演習Ⅰ	演習		1	○		◎		
	相談援助演習Ⅱ	演習		1	○		◎		
	相談援助演習Ⅲ	演習		1	○		◎		
	相談援助演習Ⅳ	演習		1		○	◎		207
	相談援助演習Ⅴ	演習		1		○	◎		208
	相談援助実習指導Ⅰ	演習		1	○		◎		
	相談援助実習指導Ⅱ	演習		2		○	◎		209
	相談援助実習	実習		4	○	○	◎		210
	介護実習	実習		1					
	人体の構造と機能及び疾病	講義		2			◎		
	人体構造及び日常生活行動に関する理解	講義		2					
	リハビリテーション論	講義		2					
	心理学理論と心理的支援	講義		2	○		◎		
	社会理論と社会システム	講義		2	○		◎		
医療ソーシャルワーク論	講義		2	○					
保健医療サービス	講義		2	○		◎			
精神保健	講義		2	○					
家庭支援論 (H29未開講)	講義		2	○					
福祉情報論及び同演習	演習		2						
ウェブリテラシー演習	演習		2		未開講				
福祉のまちづくり演習	演習		2						

区分	授 業 科 目	授業 形態	単位数		配当学年			備 考	貢
			必修	選択	3年	4年	福祉士		
その 他 の 専 門 科 目	衣生活論	講義		2				自由選択科目	
	食生活論	講義		2					
	家庭経営学概論	講義		2					含 家庭経済学
	保育及び家庭看護学	講義		2					含 保育実習
	教育心理学	講義		2					
	福祉デザイン(衣)論	講義		2	○				
	福祉デザイン(衣)演習	演習		2	○				
	情報のユニバーサルデザイン論	講義		2					
	パソコン演習Ⅰ	演習		2					
	パソコン演習Ⅱ	演習		2		未開講			
	簿記会計学	講義		2					
卒 業 研 究 系	特別演習Ⅰ	演習	2		○				
	特別演習Ⅱ	演習		2		○		211	
	特別演習Ⅲ	演習	1			○		212	
	卒業研究	演習		4		○			

【授業科目】 福祉行財政と福祉計画 【単 位】 2

【学 期】 後 期 【担当教員】 石飛猛 (自室番号 526)

【対象学生】 社会福祉学科4年編入

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、福祉行政、福祉財政の実施体制や福祉計画の意義、目的、主体、方法等について理解することを目標とする。学生は、社会保障・社会福祉について自ら説明できるようになる。

【授業の内容及び方法】

福祉計画を含む福祉行財政における国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職に関する内容とし、図表を多用して、学生との対話を重視しながら理解を深める。

【授業の計画】

1. 戦後福祉国家の形成と変化
2. 福祉行政の動向と制度改革
3. 国と地方の関係（地方分権の推進）
4. 国の役割・都道府県の役割・市町村の役割
5. 福祉の財源・国の財源と社会支出・社会保障給費の概要
6. 福祉行政の組織及び団体の役割
7. 福祉行政における専門職の役割
8. 福祉行財政の動向-2000年以前
9. 福祉行財政の動向-2000年以後
10. 福祉計画の目的と意義
11. 福祉計画の理論と技法
12. 福祉計画の策定過程
13. 福祉計画の策定方法と留意点
14. 福祉計画の評価方法
15. 福祉計画の実際

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

新聞記事を毎日見るとともに予習・復習（30分以上）を怠らないこと。この授業を履修するにあたり、概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

厚生労働省からの新着情報配信サービスの受信設定を行い、その中から必要な情報をパソコンに保存し活用できるようにすること。

【評価方法・基準】

定期試験（50%）、提出課題（30%）、受講態度（20%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：『福祉行財政と福祉計画』第5版 中央法規

参考文献：『社会福祉政策』第3版 坂田周一著 2014年 有斐閣

『福祉行財政と福祉計画』第2版 杉岡直人編著 2016年 みらい

【キーワード】

地方分権、国と地方の関係、福祉行政、福祉財政、社会保障給付費、社会支出、福祉計画

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、社会福祉士の主要な業務である相談援助について、その援助技術と理論モデルを理解することを目標とする。それにより学生が、ソーシャルワークの知識・価値・技術の習得をめざし、専門職として活用できるようになることを目標とする。

【授業の内容及び方法】

相談援助における人と環境との相互作用、相談援助の展開過程、相談援助のための様々な技術等を学ぶ。授業方法は、講義を主とするが、途中、DVD等の視聴覚教材を使用したり、グループワークを取り入れたりして授業を行う。

【授業の計画】

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------|
| 1. 社会福祉援助活動の概念と定義 | 16. ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル |
| 2. 相談援助の対象 | 17. 実践モデルとアプローチ① |
| 3. グループワークの意義 | 機能的アプローチと心理社会的アプローチ |
| 4. グループワークの展開過程 | 18. 実践モデルとアプローチ② |
| 5. 事例を基にしたグループワーク基礎① | 問題解決アプローチと課題中心アプローチ |
| 6. 事例を基にしたグループワーク応用② | 19. 実践モデルとアプローチ③その他のアプローチ |
| 7. ケアマネジメントの基本 | 20. 実践モデルとアプローチをめぐる課題 |
| 8. ケアマネジメントの展開過程 | 21. スーパービジョンの意義と目的 |
| 9. 事例を基にしたケアマネジメント基礎① | 22. スーパービジョンの方法と留意点 |
| 10. 事例を基にしたケアマネジメント応用② | 23. コンサルテーションの意義と目的 |
| 11. コーディネーションの目的と意義 | 24. ケースカンファレンスの意義と目的 |
| 12. コーディネーションの方法・技術 | 25. ケースカンファレンスの運営と展開過程 |
| 13. ネットワーキングの意義と目的 | 26. 相談援助における個人情報の保護 |
| 14. ソーシャル・サポート・ネットワーク | 27. 相談援助における情報通信技術(IT)の活用 |
| 15. 地域福祉を推進するためのネットワーク
と地域包括ケアシステム | 28. 事例研究・分析①対象者別 |
| | 29. 事例研究・分析②課題別 |
| | 30. 相談援助の実際 |

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業中の事例に出てきた、これまで習った制度サービスについては、その都度、各自予習・復習行うこと。さらに、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して、概ね30時間程度の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

ソーシャルワーカー（社会福祉士）になるための必要不可欠な科目のため、履修すること。

「相談援助の理論と方法Ⅰ」を履修していないと「相談援助の理論と方法Ⅱ」を履修できないため、注意すること。

【評価方法・基準】

試験（80%）・レポート（10%）・受講態度（10%）により総合的に評価する。

【教 材】

社会福祉士養成講座「相談援助の理論と方法Ⅱ」中央法規出版

授業中に配布するプリント

【キーワード】

相談援助 ジェネラリスト・ソーシャルワーク ソーシャルワーク実践モデル

【授業科目】 相談援助演習Ⅳ

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】○堀川涼子・有岡道博
石飛猛・小坂田稔・菅原明美・（自室番号 527 他）
武田英樹・永見芳子・薬師寺明子

【対象学生】 社会福祉学科4年編入

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、相談援助にかかる知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得することを目標とする。これにより学生は、ソーシャルワーク実践力を身につけ、専門職として活用できることを目標とする。

【授業の内容および方法】

相談援助実習において必要な知識・技術を、実習前に理解し習得できるよう具体的な事例を用いて学んだり、学生が各自、地域課題を調べて発表するなどの演習を行う。

【授業の計画】

- 1、オリエンテーション
- 2、相談援助実習に必要とされる援助技術①マイクロ・ソーシャルワーク
- 3、相談援助実習に必要とされる援助技術②メゾ・マクロ・ソーシャルワーク
- 4、自己覚知①講義
- 5、自己覚知②演習
- 6、基本的なコミュニケーションの技術習得①講義
- 7、基本的なコミュニケーションの技術習得②演習
- 8、基本的な面接技術の修得①講義
- 9、基本的な面接技術の修得②演習
- 10、社会福祉士の倫理①講義
- 11、社会福祉士の倫理②演習
- 12、具体的な課題別相談援助事例の総合的・包括的理解①講義
- 13、具体的な課題別相談援助事例の総合的・包括的理解②演習
- 14、事例を題材とした相談援助の各過程における実技指導
- 15、地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例を題材とした援助技術の実技指導

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

課題発表、グループ討議が中心となるので、各自、各グループで予習（授業準備）を怠らないこと。残った課題は復習を行うこと。おおむね15時間程度の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

相談援助実習・実習指導と連動する。実習を履修しない学生はこの科目は履修できない。演習にかかわる科目については、原則として遅刻・欠席は認めない。

【評価方法・基準】

レポート（50%）・課題への取り組み態度（50%）により総合評価する。

【教 材】

実習の事前学習の資料等
その他、適宜、資料を配布

【キーワード】

面接技術 ケースワーク グループワーク ケアマネジメント コミュニティワーク

【授業科目】 相談援助演習V

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 ○堀川涼子・有岡道博
石飛猛・小坂田稔・菅原明美 (自室番号 527 他)
武田英樹・永見芳子・薬師寺明子

【対象学生】 社会福祉学科4年編入

【授業の目標及び到達目標】

相談援助にかかる知識と技術について、相談援助実習における個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得することを目標とする。これにより学生は、ソーシャルワーク実践力を身につけ、専門職として活用できることを目標とする。

【授業の内容及び方法】

相談援助実習における学生の個別的な体験等を基にして、事例発表やグループワークを行い、実践と理論、制度サービス等を結びつけられるように振り返りを行う。

【授業の計画】

- 1、相談援助実習で体験した実践的知識と技術・倫理の振り返りと習得
- 2、相談援助実習で体験した実践的知識の振り返りと習得① (人を理解する)
- 3、相談援助実習で体験した実践的知識の振り返りと習得② (地域を理解する)
- 4、相談援助実習で体験した実践的知識の振り返りと習得③ (組織・機関を理解する)
- 5、相談援助実習で体験した実践的知識の振り返りと習得④ (制度・サービスを理解する)
- 6、相談援助実習で体験した実践的技術の振り返りと習得① (自己覚知)
- 7、相談援助実習で体験した実践的技術の振り返りと習得② (援助過程)
- 8、相談援助実習で体験した実践的技術の振り返りと習得③ (面接技術)
- 9、相談援助実習で体験した実践的技術の振り返りと習得④ (個別支援計画)
- 10、相談援助実習で体験した実践的技術の振り返りと習得⑤ (記録・プレゼンテーション)
- 11、相談援助実習で体験した実践的場面での価値と倫理の振り返りと習得① (自己決定支援)
- 12、相談援助実習で体験した実践的場面での価値と倫理の振り返りと習得② (倫理綱領)
- 13、個別的体験の意味づけと理解① 各自発表
- 14、個別的体験の意味づけと理解② 評価
- 15、まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

課題発表、グループ討議が中心となるので、各自、各グループで予習（授業準備）を怠らないこと。残った課題は復習を行うこと。おおむね15時間程度の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

相談援助実習・実習指導と連動する。実習を履修しない学生はこの科目は履修できない。

演習にかかわる科目については、原則として遅刻・欠席は認めない。

【評価方法・基準】

レポート（50%）・課題への取り組み態度（50%）により総合評価する。

【教 材】

実習の事前・事後学習の資料、実習日誌。

その他、適宜、資料を配布する。

【キーワード】

面接技術 ケースワーク グループワーク ケアマネジメント コミュニティワーク 社会保障制度

【授業科目】 相談援助実習指導Ⅱ

【単 位】 2

【学 期】 通 年

【担当教員】 ○堀川・有岡・石飛・
小坂田・菅原・武田・永見・薬師寺 (自室番号 527) 他

【対象学生】 社会福祉学科4年編入

【授業の目標及び到達目標】

社会福祉士指定科目としての相談援助実習における、実習事前オリエンテーションおよび実習事後スーパービジョンを受けるための授業であり、社会福祉専門職としての価値・知識・技術を習得することを目標とする。これにより学生は、相談援助実習を充実したものとし、ソーシャルワーク専門職としての実践力を身につけられるようになることを目標とする。

【授業の内容及び方法】

実習の事前学習と事後の振り返りにより①社会福祉施設・機関等における相談援助業務を理解する、②ソーシャルワークの本質（専門的価値・知識・技術の学習等）を学習する、③将来専門職者としての資質を培えるよう専門職者としての倫理観を学ぶ、これらを実践と理論として結びつける。

実習においては、ソーシャルワーク実践の他、実習記録の作成・ケース記録の作成、社会資源の活用、社会福祉現場における情報機器の活用、バリアフリー等についても学習する。

大学において、実習の事前及び事後に、スーパービジョン（個別・グループ）を行い、各自が調べ発表したり、グループワークを行ったりしながら、ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティの確立に向けて学習する。

【授業の計画】

1. 実習に際してのオリエンテーション
2. 実習施設・機関の根拠法理解
3. 実習施設・機関の制度理解
4. 実習施設・機関の利用者理解
5. 実習施設・機関の職員・職場理解
6. 実習目的と目標設定
7. 実習直前オリエンテーション

8. 実習事後スーパービジョン① クライアント理解
9. 実習事後スーパービジョン② 組織・機関の理解
10. 実習事後スーパービジョン③ 制度・サービスの理解
11. 実習事後スーパービジョン④ 相談援助技術の理解
12. 実習事後スーパービジョン⑤ 相談援助展開過程の理解
13. 実習事後スーパービジョン⑥ 自己覚知
14. 実習事後スーパービジョン⑦ 現代社会や福祉現場の抱える課題への理解
15. 相談援助実習まとめ（実習体験発表会・報告書作成等の指導を含む）

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

課題発表、グループ討議が中心となるので、各自、各グループで予習（授業準備）を怠らないこと。残った課題は復習を行うこと。おおむね30時間程度の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

相談援助実習と連動して単位認定を行う。遅刻・欠席は認めない。積極的な態度で臨むこと。

【評価方法・基準】

課題の作成・発表（30%）、受講態度（40%）、記録・報告（30%）により総合的に評価する。

【教 材】

「相談援助実習の手引き」本学科作成

学生の課題レポート、実習報告・記録を教材とする

資料等は必要に応じてその都度、配布する。

【キーワード】

相談援助実習 相談援助技術 スーパービジョン

【授業科目】 相談援助実習

【単 位】 4

【学 期】 通 年

【担当教員】 ○堀川・有岡・石飛
小坂田・菅原・武田・永見・薬師寺 (自室番号 527) 他

【対象学生】 社会福祉学科4年編入

【授業の目標及び到達目標】

現場実習においては、①社会福祉施設・機関等における日常業務を通しての福祉実践を体験する②社会福祉現場で行われているソーシャルワーク実践を通して、生活に根ざしたソーシャルワークの本質（専門的価値・知識・技術の学習等）を理解する③将来専門職者としての資質を培えるよう専門職者としての倫理観を実践から学ぶことを目標とする。これにより学生が、ソーシャルワーカーとしての実践力を身につけられるようになることを目標とする。

【授業の内容及び方法】

実習においては、ソーシャルワーク実践の他、実習記録の作成・ケース記録の作成、社会資源の活用、社会福祉現場における情報機器の活用、バリアフリー等についても実践しながら学習する。実習時間は180時間以上とする。大学においては、実習の事前及び事後に、スーパービジョン（個別・グループ）を行い、ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティの確立に向けて学習する。実習体験発表会・実習報告書の作成等一連の課題を提出し、すべての実習・実習指導の修了とする。

【授業の計画】

「相談援助実習」（社会福祉士国家試験受験資格指定・全180時間以上）を実習指定施設・機関等において行う。夏季休暇中を利用して、それぞれ担当教員の下、前期に事前学習をした内容及びこれまでの講義・演習を踏まえて、専門職としての自覚と知識・技術を高める。

実習体験発表会・実習報告書の作成等一連の課題を行うことで、福祉実践力を身につける。

- 1、実習施設・機関の理解
- 2、利用者やその家族等の理解
- 3、職員・関係者の理解
- 4、制度・サービスの理解
- 5、施設・機関運営の理解
- 6、利用者・家族等、職員や地域住民等との円滑な人間関係の形成
- 7、利用者・家族等との援助関係の形成
- 8、利用者やその家族等への権利擁護及び支援
- 9、多職種連携をはじめとするチームアプローチの実践
- 10、社会福祉士としての職業倫理および実習施設・機関における就業規則とへの理解
- 11、地域社会の中での実習施設・機関の役割
- 12、地域への働きかけ（アウトリーチによる支援）
- 13、地域への働きかけ（ネットワークの理解）
- 14、地域への働きかけ（社会資源の活用・改善・開発）
- 15、実習体験発表会・実習報告書の作成

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

実習に向けて各自、必要な自主学修を行い実習準備について怠らない。実習日誌は日々作成すること。

【履修上の注意・要望等】

概ね60時間程度の自主学修を必要とする。

相談援助実習指導Ⅱと連動して単位認定を行う。遅刻・欠席は認めない。積極的な態度で臨むこと。

【評価方法・基準】

課題の作成・発表（30%）、実習態度（40%）、記録・報告（30%）により総合的に評価する。

【教 材】

「相談援助実習の手引き」本学科作成。資料等は必要に応じてその都度、配布する。

学生の課題レポート、実習報告・記録を教材とする。

【キーワード】

相談援助技術・相談援助実習・相談援助実習指導・相談援助実習指定施設・機関等

【授業科目】 特別演習Ⅱ

【単 位】 2

【学 期】 前期

【担当教員】 学科スタッフ

各研究室

【対象学生】 社会福祉学科4年編入生

【授業の目標及び到達目標】

特別演習Ⅰをさらに発展させ、生活者の立場や地域住民の視点から、いきいきとした暮らしの実現に向けてさまざまなテーマで研究を行い、諸課題の解決をめざし、社会福祉、地域社会づくりに貢献できる応用的な実践力を身につけることを目標とする。

【授業の内容及び方法】

学科教員がそれぞれの専門分野を活かして実施する少人数のゼミナールである。担当教員別に実施テーマ、内容が示され、学生の希望と担当教員の受け入れ条件などにより学生の研究室の配属が決定される。実施テーマ・内容は担当教員によって異なるが、学科のディプロマポリシーにそって組み立てられる。研究室の配属については、オリエンテーションを行い詳しく説明を行う。研究室ごとに、課題文献の輪読や各自課題発表、グループワークなどを中心にゼミナール形式で学習する。

【授業の計画】

- 1 オリエンテーション 研究室配属に関する説明を行う
- 2～15 配属が決定後、各担当教員が授業計画については別途提示する

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

課題発表、グループ討議が中心となるので、各自、各グループで予習（授業準備）を怠らないこと。残った課題は復習を行うこと。おおむね30時間程度の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

それぞれの教員のテーマや研究室への配属の手続きについては、ガイダンスを行うので必ず参加すること。特別演習Ⅰ、特別演習Ⅲ、卒業研究等と連動する場合があるため、注意すること。少人数のゼミナール形式なので、一人ひとりが追求したい課題と積極性を持って参加していくことが重要。

【評価方法・基準】

担当教員は、授業への取り組み（30%）、受講態度（30%）、研究レポート等（40%）により総合的に評価する。

【教 材】

担当教員がそれぞれ指示をする。

【キーワード】

福祉理念 人権尊重 地域社会 社会貢献 生活課題 ICT

【授業科目】 特別演習Ⅲ

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】小坂田 荻野 石飛 ○有岡（自室番号 529）
桐生 後藤 小山 武田 長谷川 堀川 永見 小山 菅原

【対象学生】 社会福祉学科4年編入生

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、少人数教育と集団教育を行なう事により、社会で求められる幅広い知識を、個々に合った形で学ぶことを目的とする。学生は、福祉人としてのみならず社会人として期待される資質と知識を身に付けることを目指す。

【授業の内容及び方法】

学科教員が、それぞれの専門分野を生かして実施する少人数ゼミナールと、全員を対象に行うオムニバス形式の授業を行う。担当教員別に実施テーマ・内容が示され、学生の希望と担当教員の受け入れ条件などにより、学生の研究室への配属が決定される。実施テーマ・内容は、資格試験指導・専門科目補充・自主課題ゼミナール・発展的実習など担当教員により異なる。教員によって、特別演習Ⅱの履修を前提とする場合があるので要注意。

【授業の計画】

1. 科目の内容・実施に関するオリエンテーション
2. 演習1（集団授業）日本語検定
3. 演習2 演習のテーマを探す①（個別の演習は、担当教員により異なる）
4. 演習3 演習のテーマを探す②
5. 演習4（集団授業）社会人としての必要な知識
6. 演習5 テーマに沿って情報収集、文献など①
7. 演習6 テーマに沿って情報収集、文献など②
8. 演習7（集団授業）ゼミ活動の発表①
9. 演習8 テーマに沿った活動の展開①
10. 演習9 テーマに沿った活動の展開②
11. 演習10（集団授業）ゼミ活動の発表②
12. 演習11 テーマに沿った活動の展開③
13. 演習12 活動の終了とまとめ
14. 演習13（集団授業）卒後セミナー
15. 演習14 演習の反省とまとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

福祉職員の根幹に関わる学習であるので、授業の事前学習（予習 60分程度）はもとより、事後の復習（60分程度）をきちんと行い、演習の内容をきちんと身に付ける。（計 30時間程度）

【履修上の注意・要望等】

それぞれの教員のテーマや研究室への配属の手続きなどについては、ガイダンスを行うので必ず参加すること。少人数のグループ学習活動（ゼミナール形式）なので、一人一人が追求したい課題と積極性をもって参加していくことが重要。

【評価方法・基準】

担当教員は、学生の学習意欲（30%）、受講態度（30%）、事前・事後のレポート（40%）を基に評価を行う。

【教 材】

担当教員それぞれが指定する。

【キーワード】

福祉、接遇、社会情勢の把握、グループ討議、就職